

2026 年度

教 育 要 項
(シラバス)

第 3 学年

岩手医科大学歯学部

目 次

教育要項の利用の仕方	4
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	5
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	7
教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	8
評価方針（アセスメント・ポリシー）	9
岩手医科大学歯学部卒業時コンピテンス・コンピテンシー	11
2026 年度歯学部カリキュラム×コンピテンス・コンピテンシーマトリックス表	14
2026 年度履修系統図	16
2026 年度第 3 学年カリキュラム	17
2026 年度第 3 学年授業時間割	18
歯学部歯学科教育課程ナンバリング表	20
2026 年度第 3 学年カリキュラム履修科目一覧	22
矢巾キャンパス教場平面図	23
歯学部教場平面図	29

授業科目

微生物学・免疫学Ⅱ	35
歯科理工学Ⅱ	47
薬理学Ⅱ	62
口腔病理学	71
予防歯科学	81
保存修復学	86
補綴学総論	100
歯科放射線学	109
医科学（3年）	120
歯周病学	132
臨床薬理学	146
社会と歯学	154
歯内療法学	160
全部床義歯補綴学（Ⅰ）	173
冠橋義歯学	182
基礎科学演習	195
医療リベラルアーツ	200
歯科総合演習（3年）	205
チーム医療リテラシー	218

事由科目

海外英語演習	229
地域医療課題解決演習	231

学則・試験規程・その他

岩手医科大学学則	235
岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程	253
岩手医科大学歯学部における人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程	255
学生心得	257
岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程	264
岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領	265
岩手医科大学歯学部試験規程	266
岩手医科大学歯学部試験規程の取扱内規	269
進級・卒業に関する申し合わせ事項	271
成績評価に対する異議申し立てに関する内規	272
岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程	276
歯学部歯学科カリキュラムマップ	280
GPA・CAP 制度	281
大学における単位の考え方と授業外学修について	282
岩手医科大学生命倫理規範	283
岩手医科大学における人体標本取扱指針	284
教育成果物の利用に関して	284
学生健康診断規程	285
2026 年度学生健康診断等実施要領	287
オフィスアワー	289

教育要項（シラバス）の利用の仕方

この教育要項は、本学歯学部での授業を受ける学生諸君に、各教育科目とそれぞれの授業計画および授業内容を知らせるためのものです。

学生諸君が本学における歯学教育の内容を把握するとともに、充実した履修を行うために本要項を有意義に活用されることを希望します。

具体的な利用の仕方について以下に示します。

授業計画、授業内容について

科目ごとに 学修方針、教育成果*¹、到達目標*² を掲げています。

*1 教育成果 —— 学習の成果であり、学習された知識・技能・態度が将来どのように利用されるかが分かります。

*2 到達目標 —— 行動目標ともいわれ、学習者がこの授業で学んだことにより、具体的に何ができるようになるかを記したものです。

また、授業ごとに 内容、到達目標 を記載してありますので、各回の授業で何を理解し、何ができるようになるかを予め確認し、日々の予習復習に役立ててください。

教科書（教）・参考図書（参）・推薦図書（推）について

授業科目ごとに、教科書（教）または、学習に必要な参考図書（参）・推薦図書（推）を掲げています。図書館にもありますから、積極的に利用してください。

なお、教科書として指定された図書については各自購入してください。

成績評価方法について

授業科目毎に、学習者の成績を評価するための基準を明示していますから、あらかじめ理解したうえで授業に臨んでください。

なお、試験に関する全体的なことについては、「歯学部試験規程」および「同取扱内規」によります。

オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。

学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

（方 式）

1. 時 間 あらかじめ特定の時間帯を示す。
2. 面談方式 オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

スモールグループチュートリアル（SG）について

スモールグループチュートリアル（SG）は、チューター1 人が 5～10 名の学生を担当し、随時、学生と接することにより学生の学業・生活面などについて把握し、その長所を伸ばすとともに問題点を改善する方策などをアドバイスするものです。

歯学部教務委員会

岩手医科大学 歯学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、「医療人たる前に、誠の人間たれ」という建学の精神のもとに、地域医療に貢献する医療人育成を使命として設立されました。学則には、「まず人間としての教養を高め、十分な知識と技術とを習得し、更に進んでは専門の学理を極め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献する」ことが掲げられています。歯学教育・教養教育を通して、優れた資質と深い人間愛を有する医療人、研究者、人格的に成長できる人材の育成が、本学の目指すところです。

歯学部では、次のような人材を求めています。

1. 全人的な立場で周囲と交流できる協調性のある人
2. 明確な目的意識を持って、積極的に社会貢献のできる人
3. 科学的な思考のもとに周囲の現象を捉えることができる人
4. 医学や歯学を生涯学習の対象として捉え、意欲的に勉学のできる人
5. 国際社会における医療や研究活動に、積極的に参加する意欲のある人

多様な人材を募るために、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、医学部入学試験利用選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜、編入学選抜により、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性などを多面的・総合的に評価し、入学者を選抜します。

一般選抜、医学部入学試験利用選抜では、高等学校で履修する3教科（理科、数学、英語）についての筆記試験と面接試験により、入学後の修学に必要な学力を有しているかを確認します。筆記試験では、歯科医学を修得するために必要とされる生命現象を理論的に捉える力を評価するため、理科の試験を課します。また、歯科医療の現場で必要とされる医療統計の理解に必要な基礎学力や、国際的コミュニケーション能力の修得に資する基礎学力を確認するために、「数学」、「英語」の試験を課します。面接試験では歯科医師を志す熱意、必要とされる一般常識、社会性（協調性）などを確かめるとともに、高等学校在籍時における学修態度、課外活動等については調査書をもとに評価します。

大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの結果をもとに、「外国語（英語）」、「国語、数学のいずれか1科目」、「理科、地歴公民、情報のいずれか1科目」について、基本的な学力を有するかを判定します。面接試験では歯科医師を志す熱意、必要とされる一般常識、社会性（協調性）などを確認するとともに、高等学校在籍時における学修態度、課外活動等については調査書をもとに評価します。

これらの試験を通して、歯科医師にふさわしい資質とバランスの取れた人格とを備えているかの総合的な判断をおこないます。

学校推薦型選抜では、志望理由書や調査書に基づいて学修に必要な基礎知識を有しているかを確認するとともに、歯科医療の實踐に必要とされる問題発見力とその問題解決に必要な思考力を有しているかを小論文にて評価します。面接試験では、歯科医療の現場で必要とされる自己の考えを人にわかりやすく説明する力や人の意見を聞きそれについて議論する力を評価するとともに、高校在籍時における学修態度、課外活動などを調査書により評価します。

総合型選抜では、志望理由書や調査書に基づき、学修に必要な基礎知識を有しているかを確認するとともに、模擬授業で得た知識をもとに思考・表現する力を、理解度確認テストによって評価します。また、自己推薦書では、本学の建学の精神や教育理念に対する理解、地域医療への貢献意欲、多職種との協働姿勢などを確認し、面接と併せて、歯科医師としての適性・意欲・学力を多面的に評価します。

編入学者選抜は、高い目的意識をもつ他分野の履修者や社会経験者を受け入れ、それまでの経験を生かしながら歯科医師としての知識・態度・技能を修得することを目的に実施しています。選抜は小論文と面接とでおこない、歯科医師を志す熱意に加え、基礎知識や一般常識を確認し、学修に必要な資質を備えているかを総合的に判断します。

なお、入学者の受け入れにあたっては、民族、宗教、国籍、年齢、性別、家庭環境、居住地域および性的指向などを問わず、多様な人材を募集します。

岩手医科大学 歯学部学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得し、チーム医療や地域社会において活躍できる歯科医師として以下の各資質を身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して学士（歯学）の学位を授与します。

1. 歯科医師として患者や地域住民の健康と生命を守るという責務を理解し、高度な専門性と豊かな人間性と倫理観を有すること。（プロフェッショナリズム）
2. 患者・家族や他職種と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を備えること。加えて ICT <Information and Communication Technology> を利用したコミュニケーションを図るためのスキルを身につけていること。（コミュニケーション能力）
3. 医療チームの一員として、相手の立場を尊重しお互いの協力のもとに医療を円滑に実践すること。（チーム医療の実践能力）
4. 科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践すること。（包括的歯科医療の実践能力）
5. 地域の保健、医療、福祉、介護の現状や問題点を把握して、地域医療の向上に取り組む態度・技能が備わっていること。（地域保健・医療の実践能力）
6. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で修得していること。（高水準の診療能力）
7. 国際的な保健・医療活動に貢献するための態度と基本的な語学能力を有すること。（国際貢献への資質）
8. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究を遂行するために必要な知識と技能を有すること。（研究マインドの保持）
9. 生涯にわたり歯科医療に対する自己研鑽を続ける態度が備わっていること。生涯学習のための ICT スキルを含む情報リテラシーを有していること。（生涯学習の実践）

以上の教育成果を達成することができるように六年一貫でカリキュラムが構成されています。本学のすべてのカリキュラムを完遂し、年次ごとの科目を着実に修得することが必要です。そのため、学則第2条に定める期間を在学し、かつ第6条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得しなければなりません。その上で、各学年および卒業時に定められた成果評価試験（筆記式の試験、客観的臨床技能試験、態度評価）に合格したものを卒業とし、学士（歯学）の学位を授与します。

岩手医科大学歯学部教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

学士（歯学）の学位授与の方針を実現するために、汎用的な共通教育科目と、幅広い分野にわたる基礎専門科目、より専門的な臨床専門科目による教育課程を整備し、体系的な歯学の履修を可能にします。

1. 歯科医師の社会的責任を自覚し、初年時から継続的なプロフェッショナリズム教育を行います。（プロフェッショナリズムの育成）
2. 患者やその家族および他職種とのコミュニケーション能力を高めるため、医療面接を理解し体験する科目、チーム医療に関する科目を設置します。それらの科目のなかで、ICT <Information and Communication Technology> を利用したコミュニケーションを図るためのスキルについても学修します。（コミュニケーション能力の向上）
3. 地域の医療施設ならびに居宅、福祉施設等で多職種と協働して適切な保健・医療を提供するためには地域保健・医療の問題点の疫学的把握方法、職種間の相互理解と円滑なコミュニケーションが必要です。そのために社会歯科学系科目に加え、演習によるシミュレーション、現場実習等を行う科目を初年次から6年次までに設置します。（地域保健・医療、チーム医療の実践能力の育成）
4. 科学的根拠に基づいた診断と歯科診療の計画立案ならびに実践のために、基礎、臨床科目を統合した、包括的臨床科目教育を実施します。（包括的臨床歯科医学教育）
5. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で獲得するために、スチューデントクリニシャンシステムを導入し、自験を充実させた診療参加型実習を行います。（高水準の基本的診療能力の獲得）
6. 国際的な歯科医療活動に参加するための基本的な英語能力を身につけるために、歯科医療に関連する英単語から英会話を学修する歯科専門英語の科目を設置します。さらに培った語学力を実践する国際的体験コースを設置します（選択制）。（国際貢献の資質の育成）
7. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究マインドを涵養するために実際に課題に対する研究を行う科目を設置します。（研究マインドの涵養）
8. 生涯にわたる自己研鑽を継続するために必要な問題発見・解決能力を身につけるため、プレゼンテーション、PBLなどの能動的学修機会を各科目に設けます。これらの中で生涯学習に必要な ICT スキルを含む情報リテラシーを学修する機会を設けます。（能動的学修の習慣化）

歯学部における評価方針（アセスメント・ポリシー）

【大学】

本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで、医療人として必要な資質を備えているかを、多面的な評価方法で判定します。

【歯学部】

本学歯学部は、医療人として備えるべき資質を学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定め、歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得するためのカリキュラムを構成しています。「誠の人間を育成する」との大学・学部の理念に立脚し、以下の指針に則って学年ごとあるいは科目ごとに、認知領域、精神運動領域並びに情意領域を多面的に評価します。

1. 講義・演習のみの科目では、知識とその応用を査定します。実習を伴う科目では、技能、態度、コミュニケーション能力も評価します。臨床現場での実習科目では更に倫理・遵法精神と利他精神を評価対象にします。
2. 知識とその応用に関しては筆記試験や口頭試問、技能は実技試験、その他の能力は実習現場評価（レポート、スケッチ、段階的スキル・行動表と業務現場評価法、および自己進捗度表等を取りまとめたポートフォリオ）で査定します。
3. 筆記試験、口頭試問、実技試験は数値化して達成度を査定します。実習現場評価では、可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を査定します。
4. 評価方法の選定と合否基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、担当委員会にて定期的に見直しを行い、次年度開始時に被評価者と評価者にシラバスで呈示します。
5. 歯学教育における順次性を考慮し、原則的に年度ごとの統括評価（進級判定あるいは卒業判定）を行います。
6. 科目合否判定や進級あるいはまた卒業時の判定に用いる統括評価に加え、形成的評価を随時行うことで到達目標に至る道程を明らかにします。
7. 卒業に拘わる試験を除く各学年での統括試験では、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を行います。また、何らかの事情で試験を受験できなかった場合は、追試験を行うことがあります（獲得した点数の9割に減じられたのが、最終評価になります）。
8. 第5学年次で臨床実習を行うことができる知識・技能・態度が備わっているか否かは、共用試験（CBT と OSCE）と統括試験で判定します。
9. 科目履修は出席することが前提です。各学年次の講義・演習・実習を1/3以上欠席した場合、第5学年次の臨床実習を1/5以上欠席または学外連携プログラムを欠席した場合は、原則として評価対象から外れます。統括評価に出席状況は加えられません。
10. 各学年の進級・卒業要件と各科目の合否基準の詳細は、シラバスに明示するとともに、学年当初に被評価者に確認をとります。

11. 各科目の査定をもとに Grade Point Average; GPA を算出し、進路に対する助言をします。
12. 被評価者からの照会に応じる体制を整備します (統括試験問題と正答あるいは判定基準の保管、照会時の答案開示、等)。

注

- 大学入学者選抜時のアセスメント・ポリシーは、アドミッション・ポリシーに含めます。
- 本学学生としての資質に欠けると思われる行動をとった場合は、他に定める処罰規定によって、処分します。
- やむを得ない事由で欠席した場合の取り扱いに関しては、進級・卒業要件に記します。

用語説明

- 判定；可否で表すものとして用いる、査定；連続変数で表すものに用いる、評価；判定・査定を包括した用語
- 段階的技能・行動表；ルーブリック、業務現場評価法；ワーク・プレイス・アセスメント WBA と言われるもので、代表的なものは Mini-CEX (mini-clinical evaluation exercise)

岩手医科大学歯学部卒業時コンピテンス・コンピテンシー

I プロフェッショナリズム

関連コンピテンシー

1. 医療倫理

医療は個人の尊厳・福利のためのものであることを理解し、歯科医療を行う上で、常に個人の尊厳が冒されるようなことのない方法を選択できる。

2. 研究倫理

基礎医学研究、疫学研究、人を対象とした研究の計画において、倫理的かつ道義的な問題点を指摘することができる。

3. 法と制度に則った歯科医療の提供

歯科医療に係わる法ならびに社会保障制度を理解し、法と制度に則った適正な歯科保健・医療サービスについて概説することができる。

4. 情報リテラシー

医学情報の適切な収集と理解および利用に関し高度な情報リテラシーを有し、患者情報の保護を実践できる。

II コミュニケーション能力

関連コンピテンシー

1. 医療面接

歯科保健医療の提供のため、医学的に必要な情報を患者・家族から得ることができる。

2. インフォームドコンセント

検査を含む全ての診療行為の前に患者からの同意を得る態度が身についており、必要に応じて書面でのインフォームドコンセントを取得するための説明を行うことができる。

3. コミュニケーションスキル

基本的なコミュニケーションスキルを医療面接において適用できる。

4. プレゼンテーション能力

患者・家族や他職種に歯科専門職からの情報提供を行うための適切な説明またはプレゼンテーションを行うことができる。

5. ICT スキル

ICT を用いた遠隔コミュニケーションを円滑に行うことが出来る。

III チーム医療

関連コンピテンシー

1. 他職種への理解

歯科保健医療に係わる職種を列挙し、チーム医療におけるそれらの役割を説明することができる。

2. コンサルテーション能力

他職種または専門医、上級医の専門性を理解し、コンサルテーションが必要な時機とコンサルテーション相手を判断することができる。

3. 人間関係の構築

チーム医療を行うための良好な人間関係を構築するのに適切な態度をとることができる。

4. 地域包括ケアシステムへの理解

地域包括ケアシステムの制度、構造と実践でのチーム医療の重要性を理解し、歯科医師としてシステム内で機能するための方法を列挙できる。

IV 包括的・継続的歯科医療

関連コンピテンシー

1. 歯科医学的知識

疾患の病因、病態、治療法などを基礎歯科医学的知識に基づいて説明することができる。

2. 歯科医学的診断能力

診察結果や検査値または画像検査結果から疾病の診断ならびにリスクの把握をすることができる。

3. EBM の実践能力

診療ガイドライン等による最新の根拠を参照し、適切かつ効率的な診療・予防計画策定を立案しようと努め、患者等の価値観を考慮した計画を策定することができる。

4. 包括的・継続的歯科保健医療計画

歯科保健医療の包括性と継続性の重要性を説明でき、患者等の QOL の維持・向上のための予防、リハビリテーションを含めた長期的視点に立った歯科保健医療計画を策定することができる。

5. ライフステージに応じた歯科保健医療の提供

周術期ケア、終末期の食支援等を含めた様々なライフステージに応じた歯科保健医療を提案することができる。

6. 健康教育

保健・医療への患者等の積極的参加の重要性を理解し、適切な行動変容を生じさせるための基本的行動科学理論を概説できる。

7. 患者等への配慮

全ての局面で患者・家族等の苦痛や不安に配慮した診療を行うことができる。

V 地域保健・医療

関連コンピテンシー

1. 健康課題の疫学的把握

集団、地域の健康課題を把握するための統計指標を列举し、与えられた資料から、集団、地域の健康課題を統計学的に分析することができる。

2. 健康課題への公衆衛生的介入

集団、地域に認められる健康課題に対して公衆衛生的介入方法を提案することができる。

3. 健康課題の変化への対応

地域、時代によって変化する健康課題を把握することができる。

4. 医療連携

医療施設の種類を列举し、それぞれの役割と連携方法を概説できる。

5. 訪問歯科診療

訪問歯科診療の特殊性を理解し、生活の場における歯科医療の現場に参加できる。

VI 高水準の基本的診療能力の獲得

関連コンピテンシー

1. 基本的治療の習得

高頻度に接する代表的歯科疾患（う蝕、歯周病など）、外傷（打撲、裂傷など）に対する検査、診断、基本的治療ができる。

2. 高度技能習得への準備

高度な知識、技能を要する検査、治療の原理と手順を理解してそれらに対する介助ができる。

3. 医療安全

歯科診療に必要な医療安全管理、感染対策を講じることができる。

VII 歯科医師としての可能性の追究

関連コンピテンシー

1. 国際貢献

国際的な歯科保健・医療・研究活動に参加するための基本的な英会話ができる。また、国際社会の一員として文化、社会的背景の差違を考慮した国際交流を行うことができる。

2. 研究（リサーチ）マインド

歯科医学に関わる疑問点に対する最新の情報を収集し、その内容を説明することができる。また、自ら研究計画を立案し、その研究を行うために必要な研究環境について説明できる。

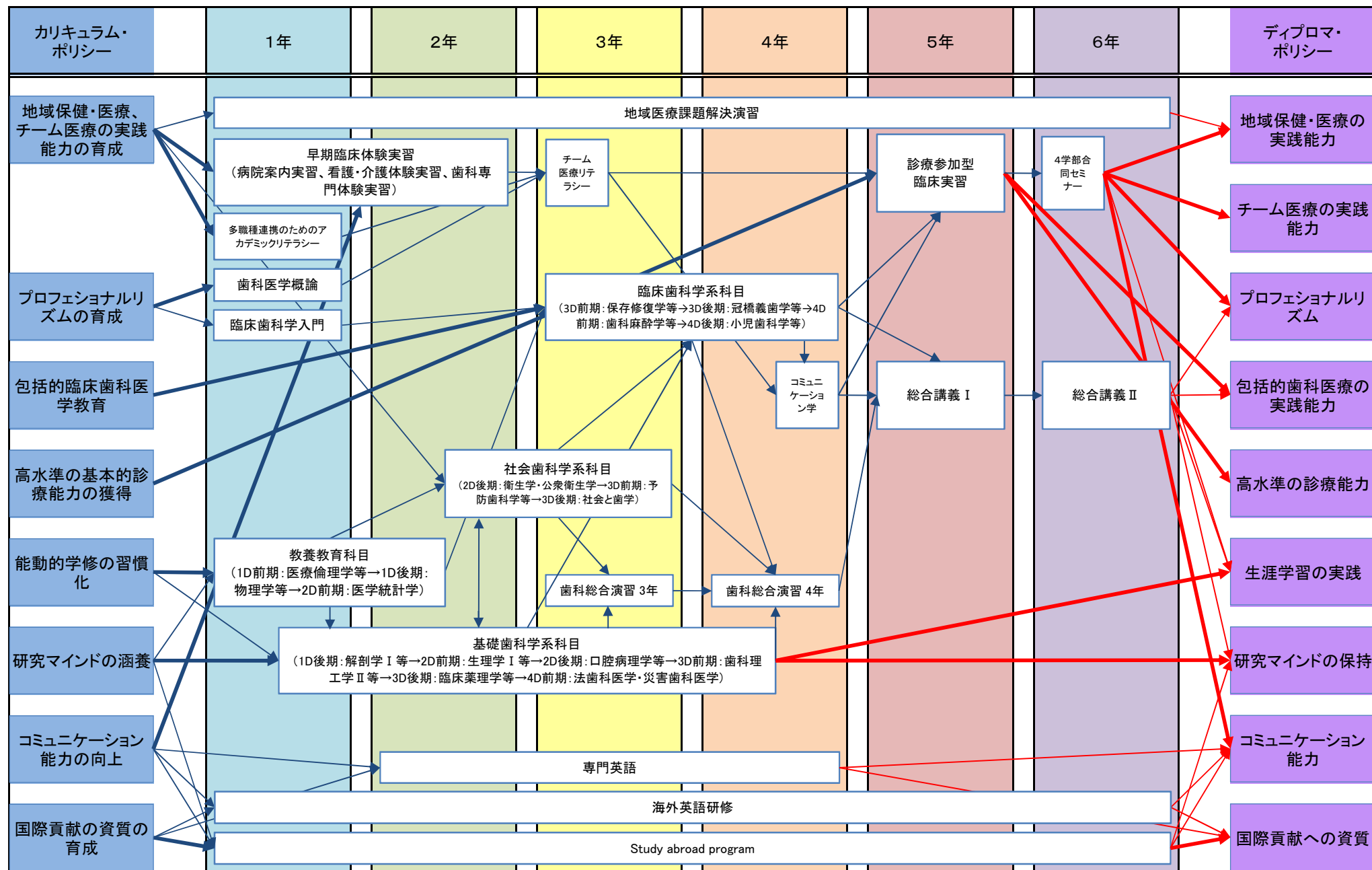
3. 生涯学習

生涯にわたる自己研鑽を継続するために自己の問題を発見することができ、問題解決のための方略を策定することができる。

公開準備中

[illegible]

カリキュラム・ポリシー、カリキュラム、ディプロマ・ポリシーの関連(2026年度)



2026年度 第3学年 カリキュラム

学期区分	期 間	週 数
オリエンテーション	2026年 4月 1日（水）	
前期授業①	4月 2日（木）～ 7月24日（金）	16週
夏期休業	7月25日（土）～ 8月17日（月）	4週
前期授業②	8月18日（火）～ 8月25日（火）	1週
前期試験	8月26日（水）～ 9月 4日（金） 微生物学・免疫学Ⅱ、歯科理工学Ⅱ、薬理学Ⅱ、口腔病理学、 予防歯科学、歯科放射線学、医科学（3年）、保存修復学、 歯科総合演習（3年）（全9科目）	2週
後期授業①	9月 9日（水）～ 12月24日（木）	16週
冬期休業	12月25日（金）～ 2027年 1月 4日（月）	2週
後期授業②	1月 5日（火）～ 1月15日（金）	2週
後期試験	1月18日（月）～ 1月27日（水） 歯科放射線学、医科学（3年）、歯周病学、臨床薬理学、 社会と歯学、歯内療法学、全部床義歯補綴学（Ⅰ）、 冠橋義歯学、歯科総合演習（3年）（全9科目）	2週
一次判定	2月 3日（水）	
再試験	2月16日（火）～ 2月25日（木）	2週
進級判定	3月 3日（水）	
春期休業	2月27日（土）～ 3月25日（木） 予定	4週
備 考		授業35週 試験6週 休み10週

2026年度 第3学年 前期 授業時間割

月					火					水					木					金										
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5						
8:50 ~ 10:20	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:40 ~ 16:10	16:20 ~ 17:50	8:50 ~ 10:20	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:40 ~ 16:10	16:20 ~ 17:50	8:50 ~ 10:20	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:40 ~ 16:10	16:20 ~ 17:50	8:50 ~ 10:20	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:40 ~ 16:10	16:20 ~ 17:50	8:50 ~ 10:20	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:40 ~ 16:10	16:20 ~ 17:50						
3/30					3/31					4/1					4/2					4/3										
春季休業					春季休業					オリエンテーション					病理	病理	理工	理工	基礎実習 オリエ					LA	*					
4/6					4/7					4/8					4/9					4/10										
*	理工	微生	微生		薬理	修復	修復	修復		*	医科	放射	補総		入学式					*	*	LA	予防							
4/13					4/14					4/15					4/16					4/17										
*	理工	微生	微生		薬理	修復	修復	修復		*	医科	放射	*		病理	病理	理工	理工		*	*	LA	予防							
4/20					4/21					4/22					4/23					4/24										
*	理工	微生	微生		薬理	修復	修復	修復		病理	医科	放射	補総		健康診断	理工	理工			*	基科	LA	予防							
4/27					4/28					4/29					4/30					5/1										
*	*	微生	微生		修復	修復	修復	修復		昭和の日					病理	病理	理工	理工		基科	基科	病理	予防							
5/4					5/5					5/6					5/7					5/8										
みどりの日					こどもの日					振替休日					GW休暇					GW休暇										
5/11					5/12					5/13					5/14					5/15										
*	*	微生	微生		薬理	修復	チムリテ			病理	医科	放射	*		病理	病理	理工	*		基科	基科	LA	予防							
5/18					5/19					5/20					5/21					5/22										
*	理工	微生	微生		薬理	修復	チムリテ			病理	医科	放射	補総		病理	病理	理工	理工		基科	基科	LA	予防							
5/25					5/26					5/27					5/28					5/29										
*	理工	微生	*		薬理	修復	チムリテ			病理	医科	放射	*		病理	病理	理工	理工		基科	基科	LA	予防							
6/1					6/2					6/3					6/4					6/5										
*	理工	微生	微生		薬理	修復	チムリテ			病理	医科	放射	*		病理	病理	*	*		基科	基科	病理	予防							
6/8					6/9					6/10					6/11					6/12										
歯周	理工	微生	微生		薬理	修復	修復	修復		*	修復	修復	修復		病理	病理	理工	理工		基科	基科	*	予防							
6/15					6/16					6/17					6/18					6/19										
歯周	理工	微生	微生		薬理	修復	修復	修復	医科	*	医科	放射	補総		病理	病理	理工	理工		基科	基科	病理	予防							
6/22					6/23					6/24					6/25					6/26										
歯周	理工	微生	微生		薬理	修復	修復	修復		病理	*	放射	*		病理	病理	理工	*		基科	基科	*	*							
6/29					6/30					7/1					7/2					7/3										
歯周	理工	微生	微生		薬理	修復	修復	修復		病理	医科	放射	*		病理	病理	病理	*		生化	生化	予防	予防							
7/6					7/7					7/8					7/9					7/10										
歯周	理工	微生	*		薬理	*	薬理	薬理		病理	医科	放射	補総		病理	病理	理工	*		組織	組織	予防	予防							
7/13					7/14					7/15					7/16					7/17										
歯周	理工	微生	微生		修復	修復	修復	修復		病理	医科	放射	*		病理	病理	薬理	*		生理	生理	実習機材販売								
7/20					7/21					7/22					7/23					7/24										
海の日					*	修復	修復	修復		病理	医科	放射	補総		病理	病理	理工	理工		解剖	解剖	微生	*							
7/27					7/28					7/29					7/30					7/31										
夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業										
8/3					8/4					8/5					8/6					8/7										
夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業										
8/10					8/11					8/12					8/13					8/14										
夏季休業/山の日					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業										
8/17					8/18					8/19					8/20					8/21										
夏季休業					*	修復	修復	修復		病理	医科	放射	補総		理工	理工	*	*		衛生	*	*	*	*						
8/24					8/25					8/26					8/27					8/28										
理工	歯周	微生	微生		*	*	*	*		前期試験(8日間)					前期試験(8日間)					前期試験(8日間)										
8/31					9/1					9/2					9/3					9/4										
前期試験(8日間)					前期試験(8日間)					前期試験(8日間)					前期試験(8日間)					★前期総合試験★										
9/7					9/8																									
前期試験等予備日(2日間)					前期試験等予備日(2日間)																									

→ 歯科総合演習(3年)

→ 医科学(3年)

黒文字 → 講義/演習

赤文字 → 実習

2026年度 第3学年 後期 授業時間割

月					火					水					木					金								
1 8:50 ～ 10:20	2 10:30 ～ 12:00	3 13:00 ～ 14:30	4 14:40 ～ 16:10	5 16:20 ～ 17:50	1 8:50 ～ 10:20	2 10:30 ～ 12:00	3 13:00 ～ 14:30	4 14:40 ～ 16:10	5 16:20 ～ 17:50	1 8:50 ～ 10:20	2 10:30 ～ 12:00	3 13:00 ～ 14:30	4 14:40 ～ 16:10	5 16:20 ～ 17:50	1 8:50 ～ 10:20	2 10:30 ～ 12:00	3 13:00 ～ 14:30	4 14:40 ～ 16:10	5 16:20 ～ 17:50	1 8:50 ～ 10:20	2 10:30 ～ 12:00	3 13:00 ～ 14:30	4 14:40 ～ 16:10	5 16:20 ～ 17:50				
										9/9					9/10					9/11								
										歯内	歯内	歯内	歯内		*	社歯	英語	*		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
9/14					9/15					9/16					9/17					9/18								
*	微生物	歯周	歯周		薬理	医科	*	*		歯内	歯内	歯内	歯内		*	社歯	*	*		*	*	*	*					
9/21					9/22					9/23					9/24					9/25								
敬老の日					国民の休日					秋分の日					*					社歯	全Ⅰ	*		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋	医科
9/28					9/29					9/30					10/1					10/2								
生化	生化	歯周	歯周		薬理	*	放射	*		歯内	歯内	歯内	歯内		*	社歯	全Ⅰ	*		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
10/5					10/6					10/7					10/8					10/9								
組織	組織	歯周	歯周		薬理	医科	放射	*		歯内	歯内	歯内	歯内		*	社歯	全Ⅰ	全Ⅰ		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
10/12					10/13					10/14					10/15					10/16								
スポーツの日					薬理	医科	医科	*		歯内	歯内	歯内	英語		*	社歯	全Ⅰ	全Ⅰ		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
10/19					10/20					10/21					10/22					10/23								
生理	生理	歯周	歯周		薬理	医科	放射	*		歯内	歯内	歯内	インフル 予防接種		*	社歯	全Ⅰ	全Ⅰ		冠橋	冠橋	*	*					
10/26					10/27					10/28					10/29					10/30								
修復	修復	歯周	歯周		薬理	*	放射	*		歯周	歯周	歯周	歯周		*	社歯	全Ⅰ	全Ⅰ		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
11/2					11/3					11/4					11/5					11/6								
解剖	衛生 予防	歯周	歯周		文化の日					歯内	歯内	歯内	歯内		*	社歯	*	*		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
11/9					11/10					11/11					11/12					11/13								
歯周	歯周	歯周	歯周		薬理	医科	放射	*		歯内	歯内	歯内	歯内		*	社歯	全Ⅰ	全Ⅰ		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
11/16					11/17					11/18					11/19					11/20								
歯周	歯周	歯周	歯周		薬理	医科	放射	*		歯内	歯内	歯内	*		*	社歯	*	*		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
11/23					11/24					11/25					11/26					11/27								
勤労感謝の日					薬理	医科	放射	*		歯周	歯周	歯周	歯周		微生物	社歯	全Ⅰ	*		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
11/30					12/1					12/2					12/3					12/4								
薬理	衛生 予防	歯周	英語		薬理	薬理	医科	医科		歯内	歯内	歯内	歯内		*	社歯	全Ⅰ	*		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
12/7					12/8					12/9					12/10					12/11								
*	理工	歯周	歯周		薬理	医科	放射	*		歯内	歯内	歯内	歯内		衛生 予防	社歯	補総	補総		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
12/14					12/15					12/16					12/17					12/18								
*	解剖	歯周	歯周		*	医科	薬理	薬理		歯内	歯内	歯内	歯内		病理	補総	補総	補総		冠橋	冠橋	冠橋	冠橋					
12/21					12/22					12/23					12/24					12/25								
*	薬理	歯周	歯周		放射	放射	放射	放射		歯内	歯内	歯内	歯内	医科	病理	英語	補総	補総		冬季休業								
12/28					12/29					12/30					12/31					1/1								
冬季休業					冬季休業					冬季休業					冬季休業					冬季休業								
1/4					1/5					1/6					1/7					1/8								
冬季休業					*	*	放射	放射		*	*	*	*		理工	*	*	*	*		冠橋	冠橋	*	*				
1/11					1/12					1/13					1/14					1/15								
成人の日					*	*	英語	*		*	*	*	*		*	*	*	*		*	*	*	*					
1/18					1/19					1/20					1/21					1/22								
後期試験(8日間)					後期試験(8日間)					後期試験(8日間)					★後期総合試験★					後期試験(8日間)								
1/25					1/26					1/27					1/28					1/29								
後期試験(8日間)					後期試験(8日間)					後期試験(8日間)					後期試験等予備日(2日間)					後期試験等予備日(2日間)								
2/1					2/2					2/3					2/4					2/5								
										進級判定Ⅰ																		
2/8					2/9					2/10					2/11					2/12								
															建国記念の日													
2/15					2/16					2/17					2/18					2/19								
					再試験(7日間)					再試験(7日間)					再試験(7日間)					再試験(7日間)								
2/22					2/23					2/24					2/25					2/26								
★総合試験再試験★					天皇誕生日					再試験(7日間)					再試験(7日間)					再試験予備日								
3/1					3/2					3/3					3/4					3/5								
										進級判定Ⅱ										卒業式								
3/8					3/9					3/10					3/11					3/12								
春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定								
3/15					3/16					3/17					3/18					3/19								
春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定								
3/22					3/23					3/24					3/25													
春季休業予定/振替休日					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定													

歯学部歯学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名
D:歯学部	1:1年次 (入門/導入レベル)	L:教養	1:必修	A:IPE	01	D1-L1-A01	多職種連携のためのアカデミックリテラシー
				Z:教養	01	D1-L1-Z01	医療倫理学
					02	D1-L1-Z02	法学
					03	D1-L1-Z03	心理学
					04	D1-L1-Z04	医療における社会・行動科学
					05	D1-L1-Z05	医療面接の基礎
					06	D1-L1-Z06	データサイエンス
					07	D1-L1-Z07	情報リテラシー
					08	D1-L1-Z08	物理学
					09	D1-L1-Z09	物理学実習
					10	D1-L1-Z10	専門課程への化学
					11	D1-L1-Z11	化学実習
					12	D1-L1-Z12	エッセンシャル生物
					13	D1-L1-Z13	専門課程への生物学
					14	D1-L1-Z14	生物学実習
					15	D1-L1-Z15	English Reading & Writing I
					16	D1-L1-Z16	English Reading & Writing II
					17	D1-L1-Z17	English Speaking & Listening I
					18	D1-L1-Z18	English Speaking & Listening II
			19	D1-L1-Z19	健康運動科学		
			2:選択必修	Z:教養	20	D1-L2-Z20	ベーシック生物
					21	D1-L2-Z21	スタンダード生物
					22	D1-L2-Z22	アドバンスト生物
					23	D1-L2-Z23	自然・文化人類学
					24	D1-L2-Z24	ベーシック化学
					25	D1-L2-Z25	ベーシック物理
					26	D1-L2-Z26	解析学入門
					27	D1-L2-Z27	医療とスポーツ
					28	D1-L2-Z28	医療とコミュニケーション
					29	D1-L2-Z29	道徳のしくみ
					30	D1-L2-Z30	ベーシック数学
					31	D1-L2-Z31	アドバンスト数学
					32	D1-L2-Z32	アドバンスト化学
					33	D1-L2-Z33	文学の世界
					34	D1-L2-Z34	実践英語
					35	D1-L2-Z35	医療と福祉
		36			D1-L2-Z36	科学英語	
		37			D1-L2-Z37	医療と物語	
		38			D1-L2-Z38	人間関係論	
		39			D1-L2-Z39	パーソナリティ心理学	
		40			D1-L2-Z40	哲学の世界	
		41			D1-L2-Z41	医療と法律	
		S:専門			1:必修	B:プロフェッショナルリズム	01
			C:基礎歯科医学	01		D1-S1-C01	解剖学Ⅰ
				02		D1-S1-C02	組織学基礎
				03		D1-S1-C03	生理学Ⅰ
				04		D1-S1-C04	生化学Ⅰ
			B:プロフェッショナルリズム	02		D1-S1-B02	臨床歯科学入門
	2:2年次 (基礎レベル)	L:教養	1:必修	Z:教養	42	D2-L1-Z42	医学統計学
		S:専門		C:基礎歯科医学	06	D2-S1-C06	解剖学Ⅱ
					07	D2-S1-C07	組織学・発生学
					08	D2-S1-C08	生理学Ⅱ
					09	D2-S1-C09	生化学Ⅱ
					10	D2-S1-C10	微生物学・免疫学Ⅰ
					11	D2-S1-C11	歯科理工学Ⅰ
					12	D2-S1-C12	薬理学Ⅰ
					13	D2-S1-C13	病理学総論
				D:社会歯科医学	01	D2-S1-D01	衛生学・公衆衛生学
				B:プロフェッショナルリズム	03	D2-S1-B03	歯科専門体験実習
				C:基礎歯科医学	14	D2-S1-C14	専門英語(2年)
	3:3年次 (応用/発展レベル)	S:専門	1:必修	C:基礎歯科医学	15	D3-S1-C15	微生物学・免疫学Ⅱ
					16	D3-S1-C16	歯科理工学Ⅱ
					17	D3-S1-C17	薬理学Ⅱ
					18	D3-S1-C18	口腔病理学
				E:臨床歯科医学	01	D3-S1-E01	予防歯科学
					02	D3-S1-E02	保存修復学
					03	D3-S1-E03	補綴学総論
					04	D3-S1-E04	歯科放射線学
					05	D3-S1-E05	医科学(3年)
					06	D3-S1-E06	歯周病学
				C:基礎歯科医学	19	D3-S1-C19	臨床薬理学
				D:社会歯科医学	02	D3-S1-D02	社会と歯学
				E:臨床歯科医学	07	D3-S1-E07	歯内療法学
					08	D3-S1-E08	全部床義歯補綴学(Ⅰ)
					09	D3-S1-E09	冠橋義歯学
				C:基礎歯科医学	20	D3-S1-C20	基礎科学演習
				D:社会歯科医学	03	D3-S1-D03	医療リベラルアーツ
				F:総合歯科医学(基礎・社会・臨床)	01	D3-S1-F01	歯科総合演習(3年)
				A:IPE	02	D3-S1-A02	チーム医療リテラシー

歯学部歯学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名
D:歯学部	4:4年次 (高度レベル)	S:専門	1:必修		11	D4-S1-E11	全部床義歯補綴学(Ⅱ)
					12	D4-S1-E12	部分床義歯補綴学
					14	D4-S1-E14	歯科麻酔学
				C:基礎歯科医学	21	D4-S1-C21	法歯科医学・災害歯科医学
				E:臨床歯科医学	15	D4-S1-E15	医科学(4年)
					16	D4-S1-E16	口腔外科学
					17	D4-S1-E17	口腔インプラント学
					18	D4-S1-E18	歯科矯正学
					19	D4-S1-E19	小児歯科学
					20	D4-S1-E20	障害者歯科学
					21	D4-S1-E21	専門英語(4年)
					22	D4-S1-E22	高齢者歯科医学
				F:総合歯科医学(基礎・社会・臨床)	02	D4-S1-F02	歯科総合演習(4年)
				E:臨床歯科医学	23	D4-S1-E23	コミュニケーション学
	5:5年次配当レベル	S:専門	1:必修	F:総合歯科医学(基礎・社会・臨床)	03	D5-S1-F03	総合講義(Ⅰ)
				G:臨床実習	01	D5-S1-G01	臨床実習(Ⅰ・Ⅱ)
	6:6年次配当レベル	S:専門	1:必修	F:総合歯科医学(基礎・社会・臨床)	04	D6-S1-F04	総合講義(Ⅱ)
				A:IPE	03	D6-S1-A03	4学部合同セミナー
	1:1年次 (入門/導入レベル)	L:教養	3:自由	Z:教養	43	D1-L3-Z43	海外英語演習
		S:専門		A:IPE	04	D1-S3-A04	地域医療課題解決演習

D1-S1-A1
①②-③④-⑤⑥

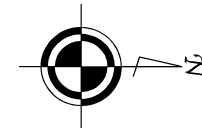
①学部	②レベル	③科目種別	④科目区分	⑤中分類	⑥小分類
M:医学部	1:1年次配当レベル(または入門/導入レベル)	L:教養	1:必修	A:IPE	通し番号(2桁)
D:歯学部	2:2年次配当レベル(または基礎レベル)	S:専門	2:選択必修	B:プロフェッショナリズム	
P:薬学部	3:3年次配当レベル(または応用/発展レベル)		3:自由	C:基礎歯科医学	
N:看護学部	4:4年次配当レベル(または高度レベル)			D:社会歯科医学	
	5:5年次配当レベル			E:臨床歯科医学	
	6:6年次配当レベル			F:総合歯科医学(基礎・社会・臨床)	
	※学年跨ぎ、自由科目については、1～4のレベルで振り分ける。			G:臨床実習	
				Z:教養	

2026年度 第3学年カリキュラム 履修科目一覧

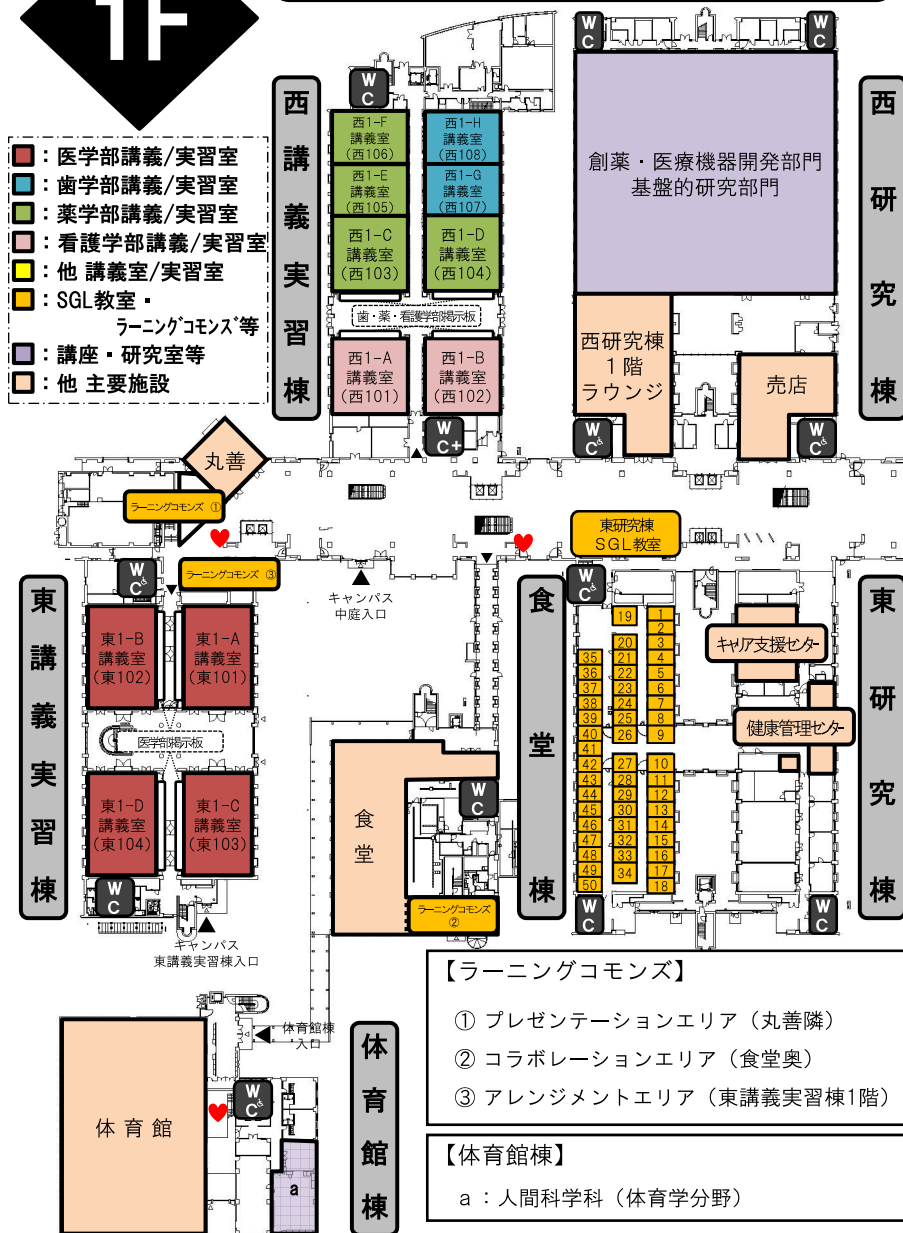
区分	科目名		前期		後期		総時間数		単位	備考
			コマ数	時間	コマ数	時間	コマ数	時間		
専門科目	微生物学・免疫学Ⅱ	講義	18.0	36.0			18.0	36.0	2.0	
	微生物学・免疫学Ⅱ実習	実習	10.0	20.0			10.0	20.0		
	歯科理工学Ⅱ	講義	19.0	38.0			19.0	38.0	2.5	
	歯科理工学Ⅱ実習	実習	16.0	32.0			16.0	32.0		
	薬理学Ⅱ	講義	11.0	22.0			11.0	22.0	1.0	
	薬理学Ⅱ実習	実習	3.0	6.0			3.0	6.0		
	口腔病理学	講義	16.0	32.0			16.0	32.0	3.0	
	口腔病理学実習	実習	26.0	52.0			26.0	52.0		
	予防歯科学	講義	10.0	20.0			10.0	20.0	1.0	
	予防歯科学実習	実習	4.0	8.0			4.0	8.0		
	保存修復学	講義	21.0	42.0			21.0	42.0	3.0	
	保存修復学実習	実習	21.0	42.0			21.0	42.0		
	補綴学総論	講義	7.0	14.0			7.0	14.0	1.0	
	補綴学総論実習	実習			7.0	14.0	7.0	14.0		
	歯科放射線学	講義	14.0	28.0	9.0	18.0	23.0	46.0	2.0	
	歯科放射線学実習	実習			5.0	10.0	5.0	10.0		
	医科学（3年）	講義	14.0	28.0	14.0	28.0	28.0	56.0	2.0	
	歯周病学	講義	7.0	14.0	19.0	38.0	26.0	52.0	3.0	
	歯周病学実習	実習			16.0	32.0	16.0	32.0		
	臨床薬理学	講義			6.0	12.0	6.0	12.0	1.0	
	臨床薬理学実習	実習			8.0	16.0	8.0	16.0		
	社会と歯学	講義			14.0	28.0	14.0	28.0	1.0	
	歯内療法学	講義			28.0	56.0	28.0	56.0	3.5	
	歯内療法学実習	実習			21.0	42.0	21.0	42.0		
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）	講義			5.0	10.0	5.0	10.0	1.0	
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習	実習			9.0	18.0	9.0	18.0		
	冠橋義歯学	講義			22.0	44.0	22.0	44.0	4.0	
	冠橋義歯学実習	実習			34.0	68.0	34.0	68.0		
	基礎科学演習	演習	3.0	6.0			3.0	6.0	1.0	
	基礎科学演習実習	実習	14.0	28.0			14.0	28.0		
	医療リベラルアーツ	演習	7.0	14.0	5.0	10.0	12.0	24.0	0.5	
	歯科総合演習（3年）	演習	13.0	26.0	21.0	42.0	34.0	68.0	2.5	
	チーム医療リテラシー	演習	12.0	24.0			12.0	24.0	1.0	
合計			266.0	532.0	243.0	486.0	509.0	1018.0	36.0	

1F

矢巾キャンパス平面図



- : 医学部講義/実習室
- : 歯学部講義/実習室
- : 薬学部講義/実習室
- : 看護学部講義/実習室
- : 他 講義室/実習室
- : SGL教室
- : ラーニングcommons等
- : 講座・研究室等
- : 他 主要施設



【ラーニングcommons】

- ① プレゼンテーションエリア (丸善隣)
- ② コラレーションエリア (食堂奥)
- ③ アレンジメントエリア (東講義実習棟1階)

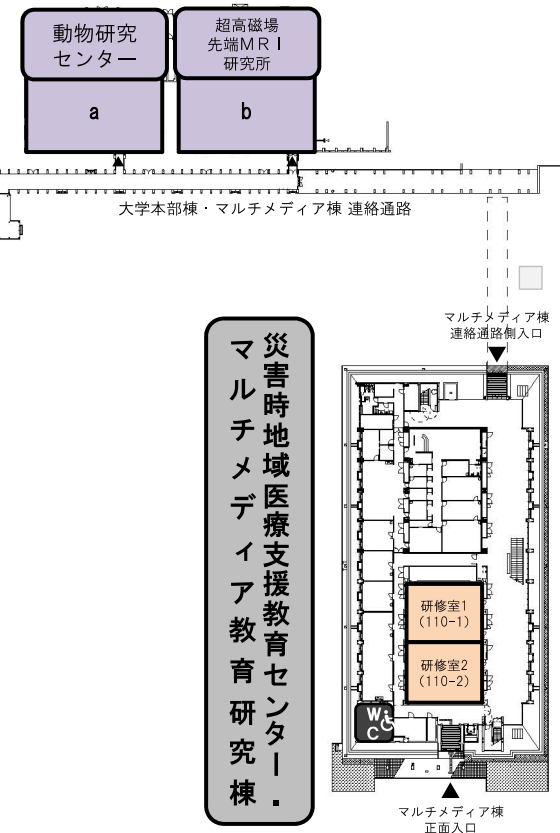
【体育館棟】

- a : 人間科学科 (体育学分野)

- ♥ : AED (自動体外式除細動器)
- WC : トイレ (も : 多目的付, + : オストメイト対応)

【動物研究センター・超高磁場先端MRI研究所】

- a, b : 医歯薬総合研究所・基盤的研究部門

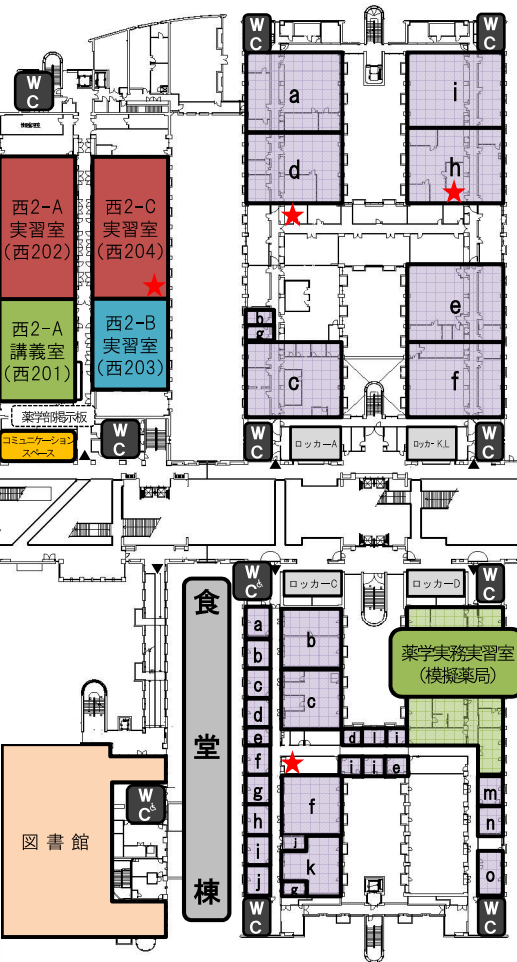


災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟

2F

- ：医学部講義/実習室
- ：歯学部講義/実習室
- ：薬学部講義/実習室
- ：看護学部講義/実習室
- ：他 講義室/実習室
- ：SGL教室・ラーニングcommons等
- ：講座・研究室等
- ：他 主要施設

西講義実習棟



西研究棟

【西研究棟】

- a：法科学講座（法医学分野）
- b：法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）
- c：生理学講座（統合生理学分野）
- d：生理学講座（病態生理学分野）
- e：生化学講座（分子医化学分野）
- f：生化学講座（細胞情報科学分野）
- g：いわて東北メディカル・メガバンク機構
- h：医歯薬総合研究所・創薬・医療機器開発部門
- i：いわて東北メディカル・メガバンク機構

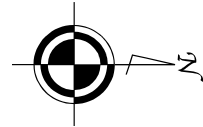
本部棟

大堀記念講堂

東研究棟

【東研究棟】

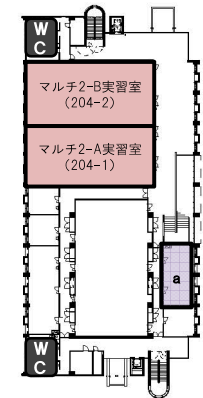
- a：教養教育センター長室
- b：物理学科
- c：化学科
- d：情報科学科（数学分野）
- e：情報科学科（医学統計情報学分野）
- f：生物学科
- g：人間科学科（心理学・行動科学分野）
- h：人間科学科（文学分野）
- i：外国語学科（英語分野）
- j：人間科学科（哲学分野）
- k：人文社会語学系研究室
- l：人間科学科（法学分野）
- m：全学教育推進機構長室
- n：口腔医学講座（歯科医学教育学分野）
- o：看護専門基礎講座



動物研究センター

超高磁場
先端MRI
研究所

災害時地域医療支援教育センター・
マルチメディア教育研究棟

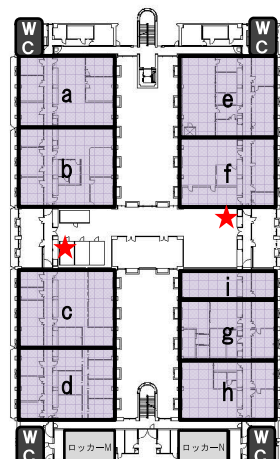
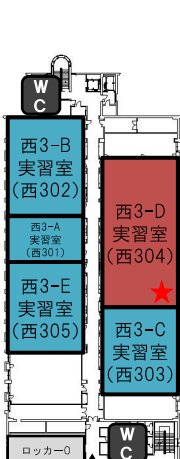


【災害時地域医療支援教育センター】
a：救急・災害医学講座

3F

- ：医学部講義/実習室
- ：歯学部講義/実習室
- ：薬学部講義/実習室
- ：看護学部講義/実習室
- ：他 講義室/実習室
- ：SGL教室・ラーニングcommons等
- ：講座・研究室等
- ：他 主要施設

西講義実習棟

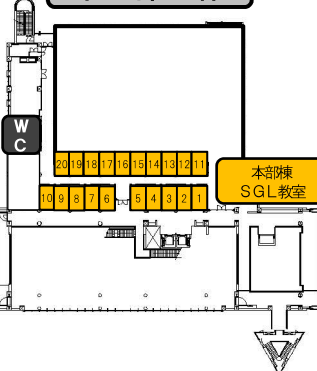


西研究棟

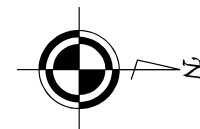
【西研究棟】

- a：医療工学講座
- b：衛生学公衆衛生学講座
- c：微生物学講座（感染症学・免疫学分野）
- d：微生物学講座（分子微生物学分野）
- e：薬理学講座（情報伝達医学分野）
- f：薬理学講座（病態制御学分野）
- g：病態薬理学講座（分子細胞薬理学分野）
- h：病態薬理学講座（薬剤治療学分野）
- i：医学教育学講座教育支援システム開発分野

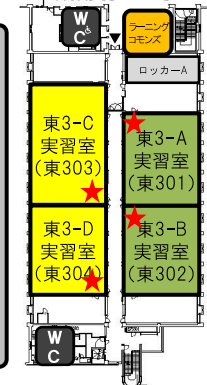
本部棟



動物研究センター

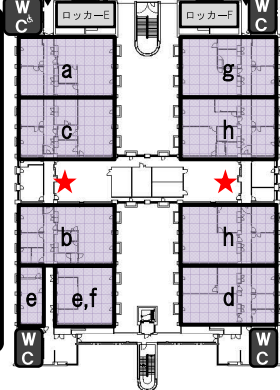


東講義実習棟



図書館

食堂



東研究棟

【東研究棟】

- a：生物薬学講座（生体防御学分野）
- b：生物薬学講座（機能生化学分野）
- c：臨床薬学講座（情報薬科学分野）
- d：臨床薬学講座（臨床薬剤学分野）
- e：臨床薬学講座（地域医療薬学分野）
- f：臨床薬学講座（薬学教育学分野）
- g：病態薬理学講座（臨床医化学分野）
- h：いわて東北メディカル・メガバンク機構

体育館

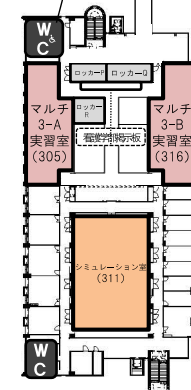
柔剣道場

体育館棟

- ★：緊急時用シャワー
- WC：トイレ（も：多目的付）

マルチメディア棟
附属病院連絡通路

※女子トイレ・多目的トイレのみ

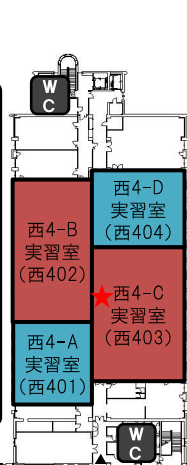


災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟

4F

- ：医学部講義/実習室
- ：歯学部講義/実習室
- ：薬学部講義/実習室
- ：看護学部講義/実習室
- ：他 講義室/実習室
- ：SGL教室・ラーニングcommons等
- ：講座・研究室等
- ：他 主要施設

西講義実習棟

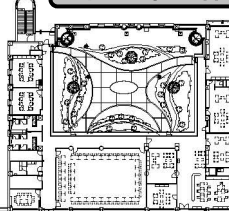


西研究棟

【西研究棟】

- a：解剖学講座（人体発生学分野）
- b：解剖学講座（機能形態学分野）
- c：解剖学講座（細胞生物学分野）
- d：解剖学講座（発生生物・再生医学分野）
- e：病理学講座（機能病態学分野）
- f：病理学講座（病態解析学分野）
- g：病理学講座 教授室
- h：病理学講座 スタッフルーム

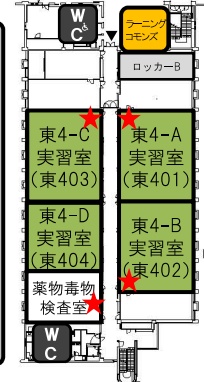
本部棟



東研究棟

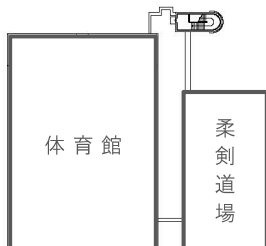
食堂

東講義実習棟



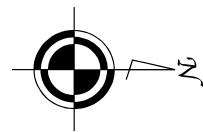
図書館

体育館棟

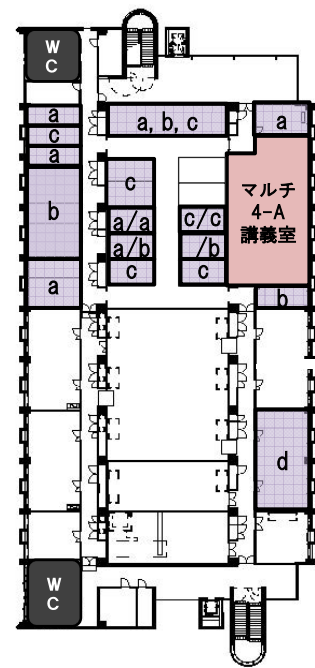


【東研究棟】

- a：生物薬学講座（神経科学分野）
- b：薬科学講座（分析化学分野）
- c：薬科学講座（天然物化学分野）
- d：薬科学講座（創薬有機化学分野）
- e：薬科学講座（構造生物薬学分野）
- f：医療薬科学講座（薬物代謝動態学分野）
- g：医療薬科学講座（創剤学分野）
- h：医療薬科学講座（衛生化学分野）



災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟

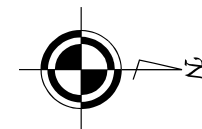


【マルチメディア教育研究棟】

- a：共通基盤看護学講座
- b：地域包括ケア講座
- c：成育看護学講座
- d：医学教育学講座

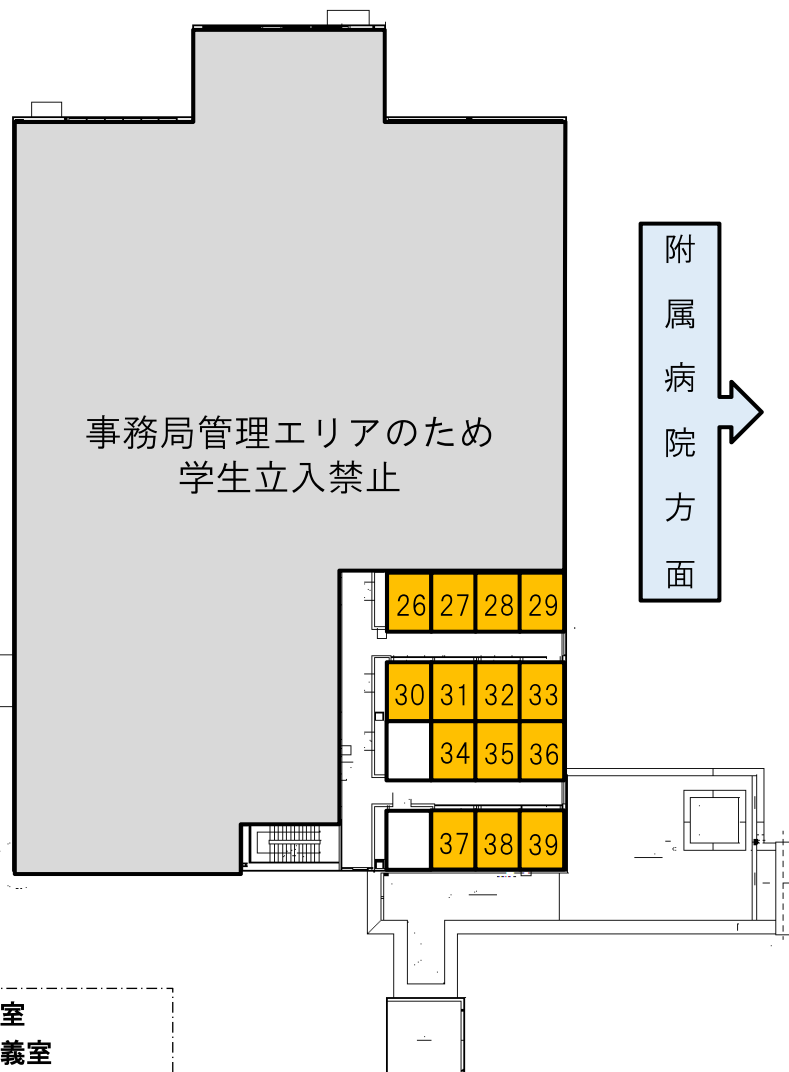
- ★：緊急時用シャワー
- WC：トイレ（も：多目的付）

トクタヴェール
(店舗棟)



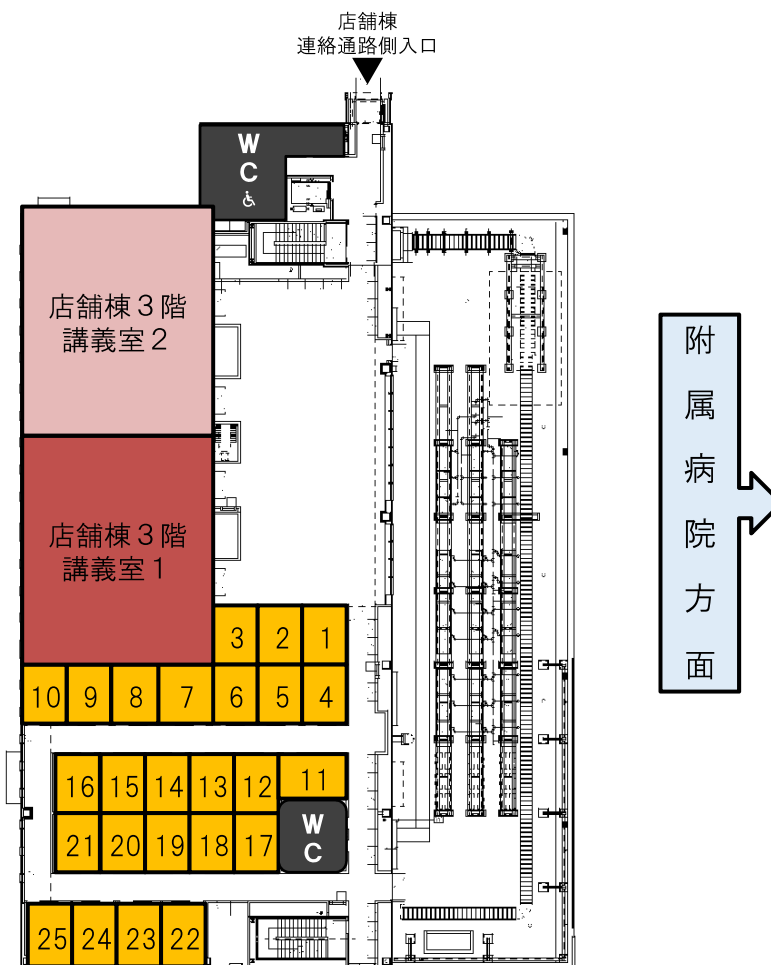
2F

大学本部棟方面



3F

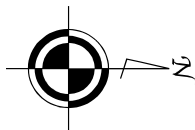
大学本部棟方面



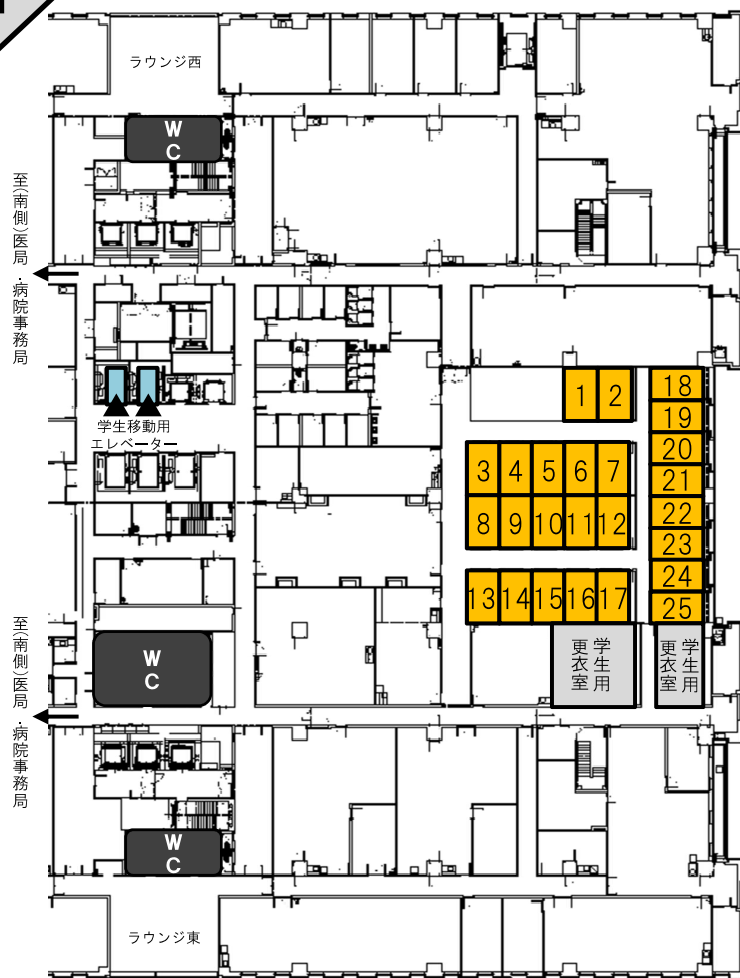
- : 医学部講義室
- : 看護学部講義室
- : SGL教室
- WC : トイレ (♿ : 多目的付)

※店舗棟のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

附 属 病 院



5F



- : SGL教室
- WC : トイレ (♂ : 多目的付)

※附属病院のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

歯学部教場平面図

歯学部地下1階



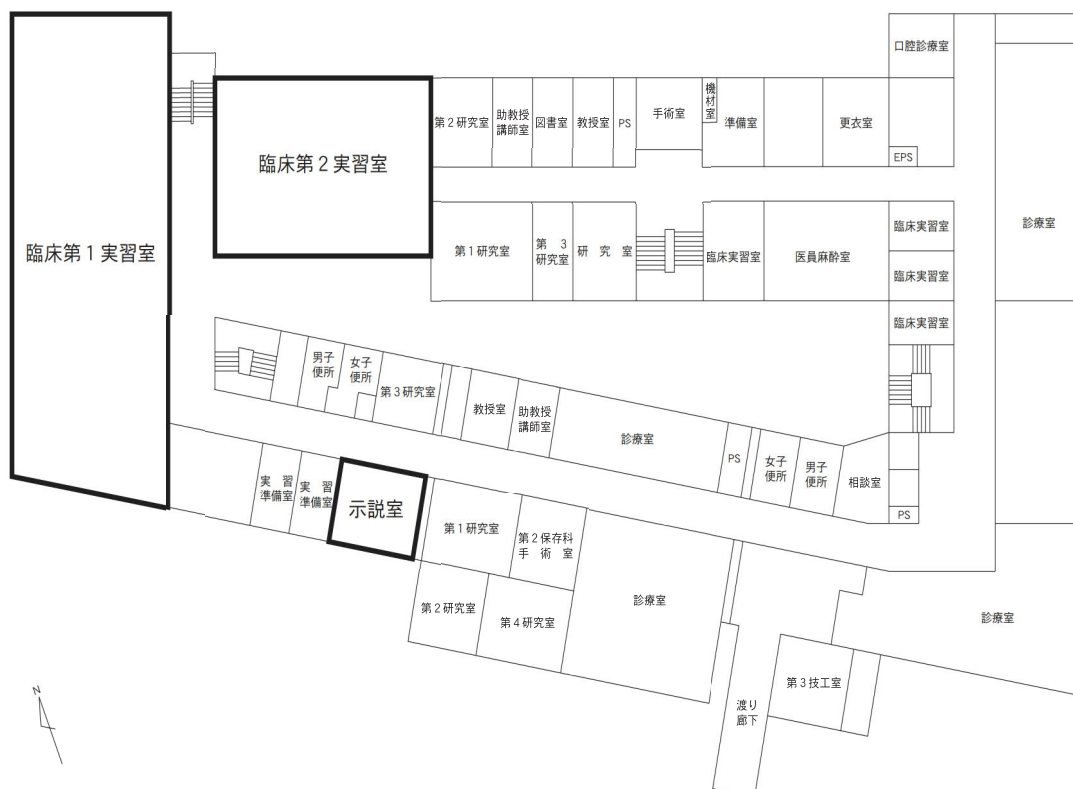
歯学部1階



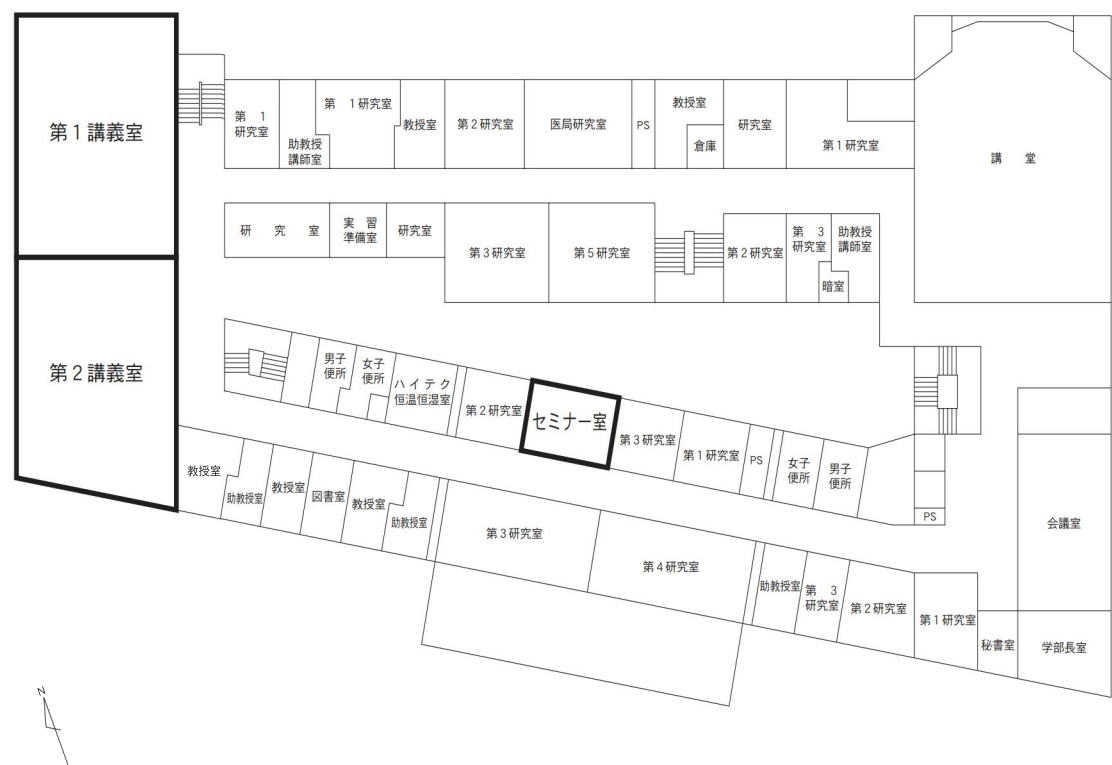
歯学部2階



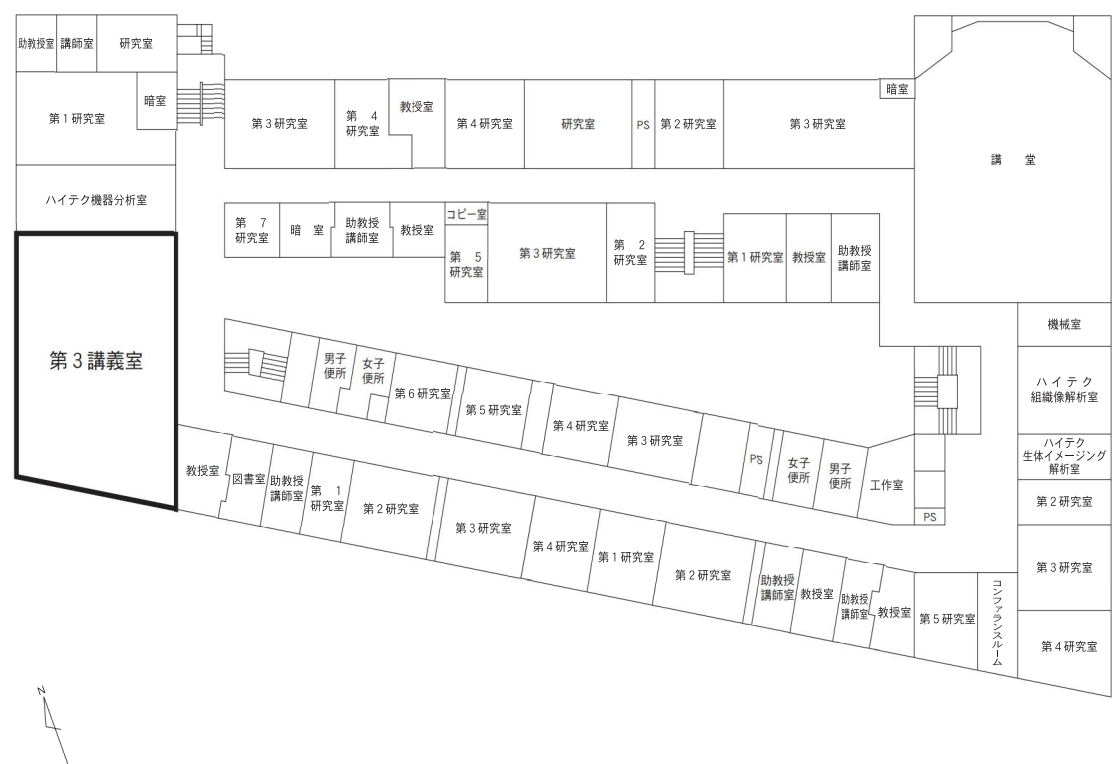
歯学部3階



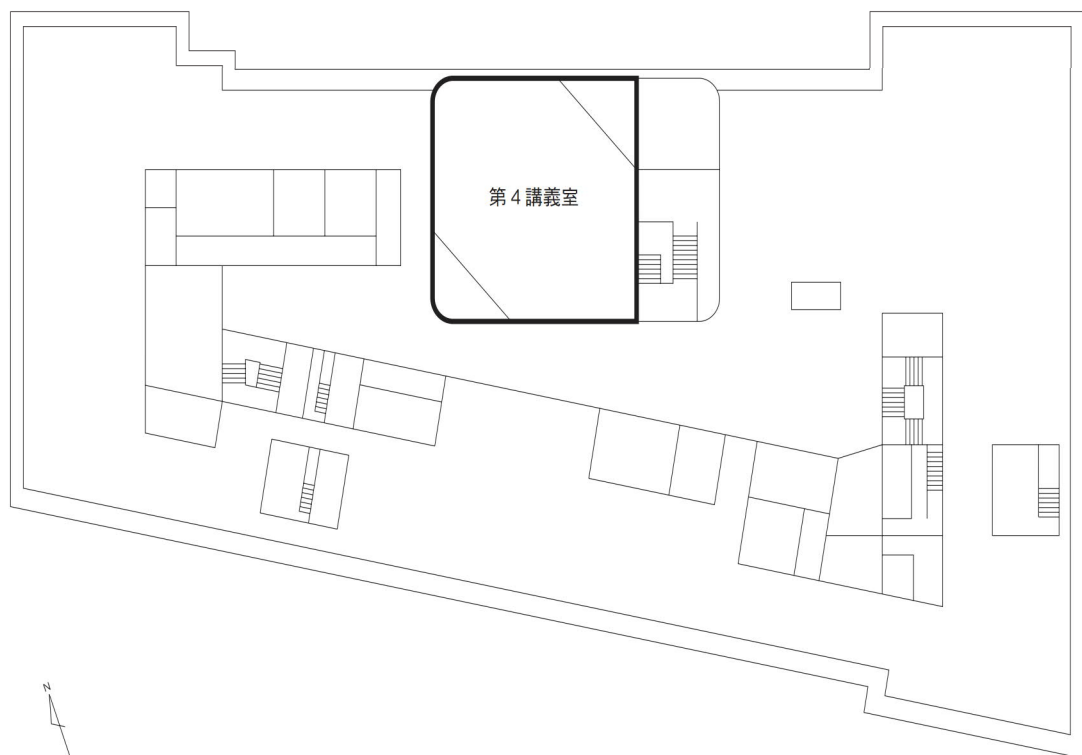
歯学部4階



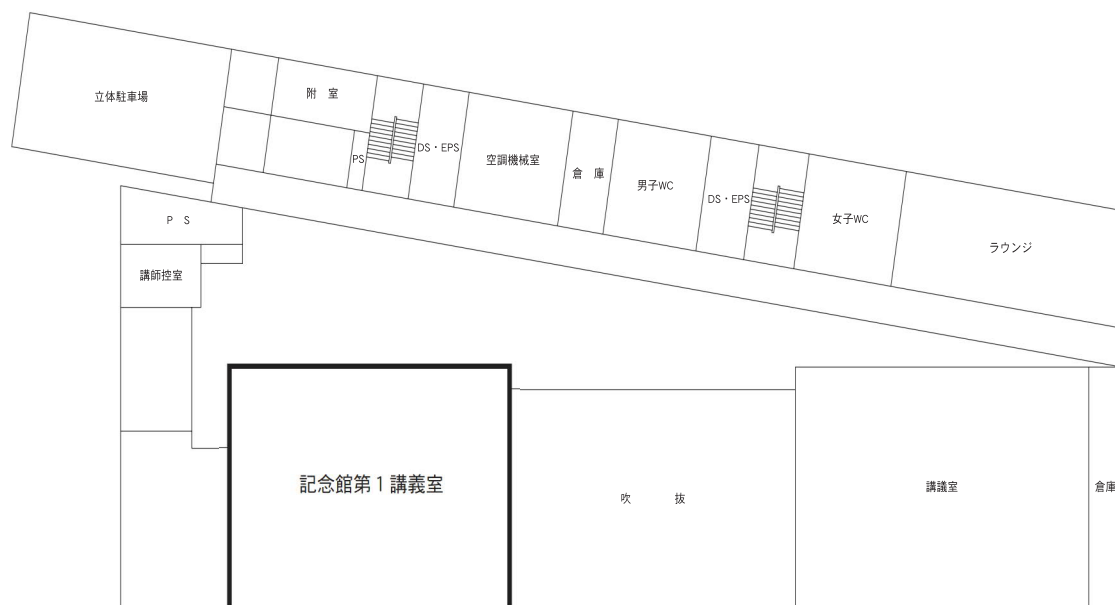
歯学部5階



歯学部6階

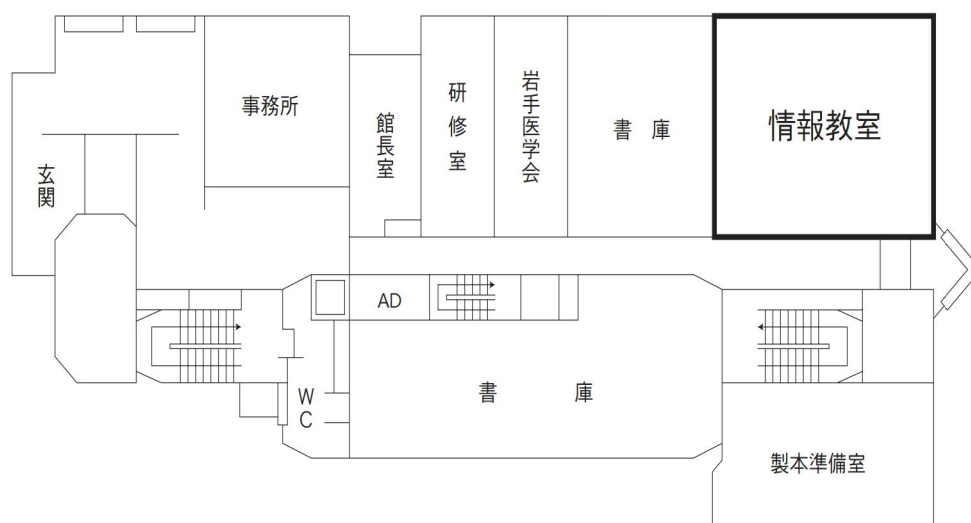


記念館9階

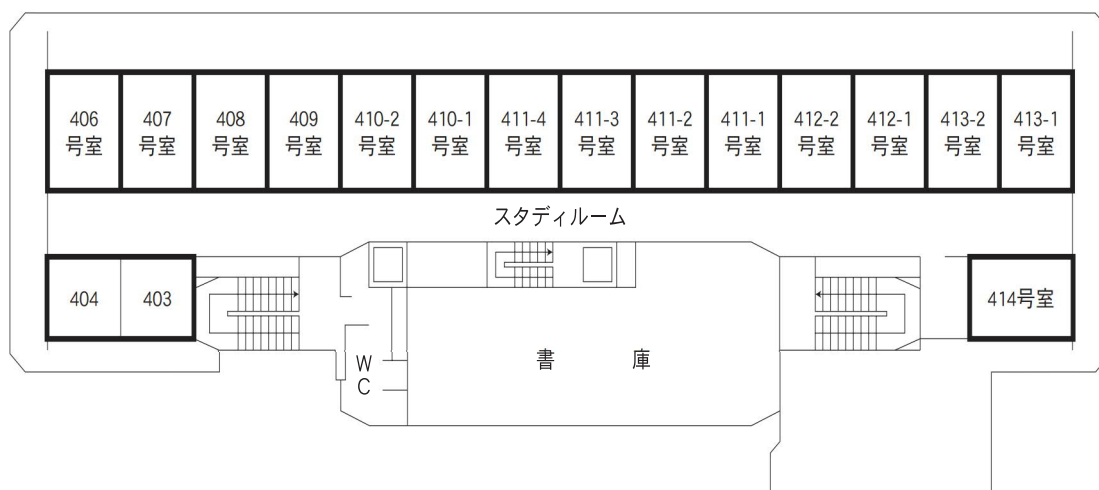


内丸図書館

〔 1 階 〕



〔 4 階 〕



授 業 科 目

微生物学・免疫学Ⅱ

責任者・コーディネーター	微生物学講座（分子微生物学分野） 石河 太知 教授				
担当講座（分野）	微生物学講座（分子微生物学分野）				
対象学年	3	区分・時間数	講義/演習		実習
期間	前期		前期	36.0時間	20.0時間
			後期	—	—

学修方針（講義概要等）

微生物は自然界に広く生息しており、その種類はウイルスから原虫まで多岐にわたる。ヒトは微生物との相互作用なくしては生存し得ない。しかし反面、ごく限られた微生物がヒトに対して病原性を発揮する。微生物学・免疫学Ⅱでは3年次において、2年次において理解した「微生物学総論・各論」と宿主側の感染防御機構たる「免疫学」の知識を踏まえ、齲蝕・歯周病などの口腔感染症の病因論について講義・演習・実習を通じて学修する。

教育成果（アウトカム）

歯科医師として最大のターゲットとなる齲蝕と歯周病はともに口腔細菌による感染症であることから、その成立には微生物側の因子のみならず、口腔という局所の環境因子をも含めた宿主側の因子が大きく作用する。その他の口腔感染症をも含め、病因論に立脚した口腔感染症の知識、検証技術を習得し、さらに生命科学の一分野としての口腔微生物学・免疫学について理解できる。

（関連するディプロマポリシー：1、2、3、4、6、8、9）

到達目標（SB0s）

〈口腔微生物学〉

1. 口腔微生物の分類と特徴を説明できる。
2. 齲蝕と歯周疾患の病因・病態について感染症の観点から説明できる。
3. 齲蝕と歯周疾患以外の口腔感染症を発症させる微生物の名称と特徴を説明できる。
4. 口腔微生物と全身疾患の関連について説明できる。

〈微生物学実習〉

5. 消毒と滅菌について習熟し、適切な方法を選択できる。
6. 細菌の取扱いに習熟する。
7. 口腔細菌を細菌学・免疫学的に同定できる。
8. 高度な専門性と倫理観、コミュニケーションならびに協調性の意義について説明できる。
9. 生涯学習のためのICTスキルならびに情報リテラシーについて説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

各講義前後には、下記の事前・事後学修を定める。詳細はシラバス各講義欄に記載する。

【事前学修】

シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学習を行うこと。各講義に対する事前学習の時間は平均30分を要する。

【事後学修】

講義後に公開される事後課題を、講義資料や教科書を用いてノートにまとめ、到達目標の内容を確認すること。各講義に対する事前学習の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習/実習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/6 (月)	3	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	ガイダンス 微生物学総論 微生物の性状と病原細菌による感染症およびその病原因子を理解する。	1. 微生物の構造・性状を説明できる。 2. 感染の概念と感染症を説明できる。 [A-4-1全般] 事前学修：到達目標の内容について教科書や2年次の資料を参考に、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	4/6 (月)	4	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	免疫学総論 生体の感染に対する防御の仕組みを理解する。	1. 免疫応答に関与する器官と細胞を説明できる。 2. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 3. 自然免疫と獲得免疫を説明できる。 [A-4-2全般] 事前学修：到達目標の内容について教科書や2年次の資料を参考に、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	4/13 (月)	3	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	フローラ 人体の正常フローラならびに口腔フローラについて理解する。	1. 人体各部の正常フローラについて説明できる。 2. 正常フローラと日和見感染症について説明できる。 3. 口腔のニッチとその構成細菌について説明できる。 4. 内因感染症について説明できる。 5. 口腔バイオフィルムについて説明できる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, D-3-2-4] 事前学修：教科書p. 212-220を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/13 (月)	4	石河太知教授 (微生物学講座 分子微生物学分野) ペリクル・プラーク う蝕 歯面，口腔に形成されるペリクル・プラークについて理解する。	1. ペリクルについて説明できる。 2. プラークの成熟過程について説明できる。 3. 歯肉縁上プラーク、歯肉縁下プラークについて説明できる。 4. ミュータンスレンサ球菌の病原因子について説明できる。 5. 齲蝕の成立機序について説明できる。 6. 齲蝕成立機序に関わる宿主免疫系について説明できる。 7. 齲蝕免疫について説明できる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, D-3-2-1, 4] 事前学修：教科書p. 235-241を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/20 (月)	3 4	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子微生物学分野) 口腔内の主な微生物 口腔内に常在する微生物の性状と病原性について理解する。	1. 口腔レンサ球菌の性状と病原性について説明できる。 2. 放線菌の性状と病原性について説明できる。 3. その他グラム陽性菌の性状と病原性について説明できる。 4. 黒色色素産生菌の性状と病原性について説明できる。 5. その他グラム陰性菌の性状と病原性について説明できる。 6. 口腔内マイコプラズマの性状と病原性について説明できる。 7. 口腔内真菌・原虫の性状と病原性について説明できる。 [A-4-1-2, 3, 5, D-3-2-4] 事前学修：教科書p. 221-234を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/27 (月)	3	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯周療法学分野) 歯周疾患の細菌・免疫学1 歯周病原性細菌の性状と歯周疾患の成立機序を理解する。	1. 歯周病原性細菌の性状とその病原因子について説明できる。 2. 歯周疾患の成立機序について説明できる。 3. 歯周疾患におけるHost-parasite relationshipについて説明できる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, D-3-2-3, 4, D-5-2-3-1] 事前学修：教科書p. 259-278を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/27 (月)	4	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	歯周疾患の細菌・免疫学2 歯周病原性細菌の性状と歯周疾患の成立機序を理解する。	1. 歯周病原性細菌の性状とその病原因子について説明できる。 2. 歯周疾患の成立機序について説明できる。 3. 歯周疾患におけるHost-parasite relationshipについて説明できる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, D-3-2-3, 4] 事前学修：教科書p. 259-278を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/11 (月)	3	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	口腔免疫学 口腔内で機能している免疫系の機能と、全身の免疫系とのつながりを理解する。	1. 口腔内のバリア機能について説明できる。 2. 歯肉溝の免疫機能について説明できる。 3. 口腔内の抗菌因子について説明できる。 4. 抗体の機能について説明できる。 5. 口腔関連リンパ系組織について説明できる。 [A-4-1-2, 3, 5] 事前学修：教科書p. 242-244を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。
演習	5/11 (月)	4	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	微生物学演習1 講義、実習で修得した知識を確実なものとして深化させ、問題解決能力の基礎を身につける。	1. 講義、実習で理解できなかった項目を列挙できる。 2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。 3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。 4. 提示された課題の問題点を列挙できる。 5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。 6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, D-3-2-1, 4] 事前学修：今までに作成したノートや教科書、講義資料を参照し、学習内容を再確認しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。

実習	5/18 (月)	3 4	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子微生物学分野) 佐々木実 非常勤講師	一般微生物学実習の概要と基本操作 環境中及び常在細菌の検出及び滅菌消毒 一般微生物学実習の内容と到達点を理解する。 空中細菌及び手指細菌を採取および観察法を体得し、環境および人体の滅菌消毒法を理解する。	1. 培地と細菌培養法について説明できる。 2. コロニー形態とグラム染色について説明できる。 3. 芽胞について説明できる。 4. 空中細菌と手指細菌の検査法について説明できる。 5. 滅菌・消毒法について説明できる。 6. グループで協調し実習に臨むことができる。 7. 実習成果をWebClassを用いて提出することができる。事前学修：実習書を読んで実習内容及び手順、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習後課題に取り組み、実習内容を再確認しておくこと。所要時間45分程度。
実習	5/25 (月)	3	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子微生物学分野) 佐々木実 非常勤講師	化膿球菌の同定と性状解析 化膿球菌の性状、ビルレンス因子について知識を体得し、同定法への応用を理解する。	1. 溶血性とその評価方法について説明できる。 2. 黄色ブドウ球菌とコアグラゼ陰性ブドウ球菌の性状について説明できる。 3. レンサ球菌とブドウ球菌の性状の違いについて説明できる。 4. グループで協調し実習に臨むことができる。 5. 実習成果をWebClassを用いて提出することができる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, 8] 事前学修：実習書を読んで実習内容及び手順、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習後課題に取り組み、実習内容を再確認しておくこと。所要時間45分程度。
演習	6/1 (月)	3	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子微生物学分野)	微生物学演習1解説 講義、実習で修得した知識を確実なものとして深化させ、問題解決能力の基礎を身につける。	1. 講義、実習で理解できなかった項目を列挙できる。 2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。 3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。 4. 提示された課題の問題点を列挙できる。 5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。 6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, D-3-2-1, 4] 事前学修：今までに作成したノートや教科書、講義資料を参照し、学習内容を再確認しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/1 (月)	4	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	微生物の検出と感染症 の診断 微生物検査法とその原 理について理解する。	1. 細菌の染色方法について説明で きる。 2. 細菌の培養法, 同定法を説明で きる。 3. 免疫学的血清診断法を説明でき る。 [A-4-1-1, 2, 3, 8] 事前学修: 教科書p. 15-17, 53- 56, 108-109および過去の講義資料を 読んで疑問点を整理しておくこと。 所要時間30分程度。 事後学修: 講義後の課題をノートに まとめ、到達目標の内容を整理して おくこと。所要時間45分程度。
講義	6/8 (月)	3	下山佑 非常勤講師	歯内疾患の細菌・免疫 学 歯内疾患の原因細菌の 性状と歯内疾患の成立 機序を理解する。	1. 歯内疾患の原因細菌の性状とそ の病原因子について説明できる。 2. 歯内疾患の成立機序について説 明できる。 3. 歯内疾患におけるHost-parasite relationshipについて説明できる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, D-3-1-3-1, D-3- 2-2, 4] 事前学修: 教科書p. 279-286を読ん で疑問点を整理しておくこと。所要 時間30分程度。 事後学修: 講義後の課題をノートに まとめ、到達目標の内容を整理して おくこと。所要時間45分程度。
講義	6/8 (月)	4	下山佑 非常勤講師	その他の口腔感染症と 微生物、院内感染 その他の口腔感染症、 およびその原因菌につ いて理解する。院内感 染について理解する。	1. 全身疾患を引き起こす口腔細菌 とその病原因子について説明でき る。 2. 口腔細菌が引き起こす全身疾患 とその成立機序について説明でき る。 3. 歯周疾患と全身疾患との関連に ついて説明できる。 4. 歯科における院内感染対策につ いて説明できる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, 8, 9, D-3-1-3-1, D-3-2-2, 3, 4, D-3-1-10-2, D-5-2- 3-1] 事前学修: 教科書p. 287-295を読ん で疑問点を整理しておくこと。所要 時間30分程度。 事後学修: 講義後の課題をノートに まとめ、到達目標の内容を整理して おくこと。所要時間45分程度。

実習	6/15 (月)	3 4	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野) 佐々木実 非常勤講師	齧蝕病原性細菌の同定 と性状解析1 歯周病原細菌の性状、 ビルレンス因子につい て知識を体得し、同定 法への応用を理解す る。	1. ミュータンスレンサ球菌の性状 について説明できる。 2. <i>S. mutans</i> と <i>S. sobrinus</i> の違い について説明できる。 3. 口腔レンサ球菌のニッチについ て説明できる。 4. 口腔細菌感染症としての齧蝕の 成立機序について説明できる。 5. グループで協調し実習に臨むこ とができる。 [A-4-1-1, 2, 5, 8, D-3-2-4] 事前学修：実習書を読んで実習内容 及び手順、疑問点を整理しておくこ と。所要時間30分程度。 事後学修：実習後課題に取り組み、 実習内容を再確認しておくこと。所 要時間45分程度。
実習	6/22 (月)	3	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野) 佐々木実 非常勤講師	齧蝕病原性細菌の同定 と性状解析2 歯周病原細菌の性状、 ビルレンス因子につい て知識を体得し、同定 法への応用を理解す る。	1. ミュータンスレンサ球菌の性状 について説明できる。 2. <i>S. mutans</i> と <i>S. sobrinus</i> の違い について説明できる。 3. バイオフィルムとしてのプラーク について説明できる。 4. 口腔細菌感染症としての齧蝕の 成立機序について説明できる。 5. グループで協調し実習に臨むこ とができる。 6. 実習成果をWebClassを用いて提 出することができる。 [A-4-1-1, 2, 5, 8, D-3-2-4] 事前学修：実習書を読んで実習内容 及び手順、疑問点を整理しておくこ と。所要時間30分程度。 事後学修：実習後課題に取り組み、 実習内容を再確認しておくこと。所 要時間45分程度。
実習	6/22 (月)	4	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野) 佐々木実 非常勤講師	歯周病原細菌の同定と 性状解析1 歯周病原細菌の性状、 ビルレンス因子につい て知識を体得し、同定 法への応用を理解す る。	1. 歯周病原性細菌の性状について 説明できる。 2. 歯周病原細菌の病原因子につい て説明できる。 3. 口腔細菌感染症としての歯周病 の成立機序について説明できる。 4. 免疫応答、免疫反応について説 明できる。 5. グループで協調し実習に臨むこ とができる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, 8, D-3-2-4] 事前学修：実習書を読んで実習内容 及び手順、疑問点を整理しておくこ と。所要時間30分程度。 事後学修：実習後課題に取り組み、 実習内容を再確認しておくこと。所 要時間45分程度。

実習	6/29 (月)	3	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子微生物学分野) 佐々木実 非常勤講師	歯周病原細菌の同定と性状解析2 歯周病原細菌の性状、ビルレンス因子について知識を体得し、同定法への応用を理解する。	1. 歯周病原性細菌の性状について説明できる。 2. 歯周病原細菌の病原因子について説明できる。 3. 口腔細菌感染症としての歯周病の成立機序について説明できる。 4. 免疫応答、免疫反応について説明できる。 5. グループで協調し実習に臨むことができる。 6. 実習成果をWebClassを用いて提出することができる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, 8, D-3-2-4] 事前学修：実習書を読んで実習内容及び手順、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習後課題に取り組み、実習内容を再確認しておくこと。所要時間45分程度。
実習	6/29 (月)	4	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子微生物学分野) 佐々木実 非常勤講師	口腔常在真菌の性状解析 日和見感染の原因となる常在真菌の性状を理解し、細菌との正常の違いを理解する。	1. 人体および口腔の正常フローラについて説明できる。 2. 口腔真菌の分類について説明できる。 3. <i>Candida albicans</i>の性状について説明できる。 5. グループで協調し実習に臨むことができる。 5. 実習成果をWebClassを用いて提出することができる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, 8, D-3-2-4] 事前学修：実習書を読んで実習内容及び手順、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習後課題に取り組み、実習内容を再確認しておくこと。所要時間45分程度。
演習	7/6 (月)	3	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子微生物学分野)	微生物学演習2 講義、実習で修得した知識を確実なものとして深化させ、問題解決能力の基礎を身につける。	1. 講義、実習で理解できなかった項目を列挙できる。 2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。 3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。 4. 提示された課題の問題点を列挙できる。 5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。 6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, 8, D-3-1-3-1, D-3-2-2, 3, 4, D-3-1-10-2, D-5-2-3-1] 事前学修：演習問題および作成した解説を再確認しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/13 (月)	3 4	寺尾豊 非常勤講師 (新潟大学 教授)	微生物学・免疫学総括 講義、実習で修得した知識を確実なものとして深化させ、問題解決能力の基礎を身につける。	1. 講義、実習で理解できなかった項目を列举できる。 2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。 3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。 4. 提示された課題の問題点を列举できる。 5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。 6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, 8, D-3-1-3-1, D-3-2-2, 3, 4, D-3-1-10-2, D-5-2-3-1] 事前学修：演習問題および作成した解説を再確認しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。
演習	8/24 (月)	3	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子微生物学分野)	微生物学演習2解説 講義、実習で修得した知識を確実なものとして深化させ、問題解決能力の基礎を身につける。	1. 講義、実習で理解できなかった項目を列举できる。 2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。 3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。 4. 提示された課題の問題点を列举できる。 5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。 6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, 8, D-3-1-3-1, D-3-2-2, 3, 4, D-3-1-10-2, D-5-2-3-1] 事前学修：演習問題および作成した解説を再確認しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。

実習	8/24 (月)	4	石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	口腔微生物学実習解説・まとめ 口腔微生物学実習から学んだものについて習得内容を整理し、感染症の成立機序と口腔微生物学の意義について理解する。	1. 人体および口腔の正常フローラについて説明できる。 2. 感染症の成立機序とその予防法について説明できる。 3. 口腔細菌感染症としての齲蝕と歯周病の成立機序について説明できる。 4. 免疫応答、免疫反応について説明できる。 [A-4-1-1, 2, 3, 5, 8, D-3-2-4] 事前学修：実習課題を再確認し、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習内容及び課題について再確認し、実習内容を再確認しておくこと。所要時間45分程度。
----	-------------	---	---	---	--

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	口腔微生物学・免疫学 第5版	川端重忠ほか 編	医歯薬出版	2021年
参	口腔微生物学 第8版	石原和幸ほか 編	学建書院	2024年
参	エッセンシャル免疫学 第4版	平野俊夫ほか 監訳	MEDSi	2023年
推	歯科衛生学シリーズ 微生物学 第2版	寺尾豊ほか 著編	医歯薬出版	2024年

成績評価方法・基準・配点割合等

下記により評価し、65%以上を合格とする。

定期試験（MCQ、記述） ----- 75%

演習試験および提出物等 ----- 25%

到達目標	DP	定期試験	演習試験	提出物	その他	合計
1、2、3、4	4、6、8	50	8	2		60
5、6、7	4、6、8	25	2	8		35
8	1、2、3			1	1	2
9	9			3		3
合計		75	10	14	1	100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

一般的な講義に加え、グループワークによる知識定着をはかる。事前学修としてWebClassを用いた資料や教科書による学修に加え、講義終了毎に事後学修としてポートフォリオの作成及び関連領域のDESS演習を用いた自己学修を行うこととし、自学自修の習慣の定着化と知識の集約化をはかる。学修定着度は定期的な演習試験により確認し、ポートフォリオの提出や解説および補足講義を通しフィードバックを行う。実習では少人数のグループを複数編成し、実習成果物の作成やディスカッション等による課題解決を通し協調性やコミュニケーションスキルの向上を図る。学修課題の提出はWebClassを介して行うことで、ICTスキルや情報リテラシーの習得を図る。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
モノクロコピー・複合機一式		1	基礎実習・研究用機器	配付資料作成等
ノートパソコン MacBook Pro		1	視聴覚用機器	講義資料作成、プレゼンテーション等
ノートパソコン MacBook Air		1	視聴覚用機器	講義資料作成、プレゼンテーション等
デスクトップパソコン iMac		1	視聴覚用機器	講義資料作成等
タブレットパソコン iPad Air		1	視聴覚用機器	講義プレゼンテーション等
教室付属AVシステム		1	視聴覚用機器	講義プレゼンテーション等
生物顕微鏡	CX31N-11	16	基礎実習用機器	実習・実験試料の観察
実体顕微鏡	SZ61-C-SET	8	基礎実習用機器	実習・実験試料の観察
オートクレーブ	LBS-325	1	基礎実習用機器	実習・実験試料の調製、廃棄
培養機	FTW-502	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の培養
安全キャビネット	1300 series A2	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の調製
冷蔵庫	ST55W(B)	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の保管
バイオメディカルフリーザー一式	MDF-U442特型	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の保管
フリーザー付薬用保冷库	MPR-414F	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の保管
卓上型pHメーター	a-AB23PH JP	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の調製
微量高速遠心機	CF16RX II	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の調製
分光光度計一式	7A0-0030等	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の調製
二槽式アルミバス	ALB-301	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の調製
電子天秤	AB265-S/FACT	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の調製
顕微鏡用カメラ一式	flexcameraC3等	1	基礎実習・研究用機器	実習・実験試料の記録

歯科理工学Ⅱ

責任者・コーディネーター		医療工学講座 武本 真治 教授		
担当講座（分野）		医療工学講座		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	前期		前期 38.0時間 後期 —	32.0時間 —

学修方針（講義概要等）

歯科理工学は歯科医療で取り扱われる材料、器械、器具について科学的理論（基礎科学）と臨床応用（応用科学）に関する学問であり、低学年で学修した基礎科学を発展させて、歯科臨床で安全、安心、高機能に歯科材料、器械、器具を使用するための特性を理解することを目的とする。特に、化学、物理学、生物学を活かしながら、歯科材料に必要な金属学、無機化学、有機化学、物理化学、生物化学、さらに器械や器具に必要な機械工学などの関連学問領域の基礎知識を理解する。また、歯科材料を使って顎顔面口腔領域の形態および機能の回復とそれを維持するために製作される修復物の成形法を学修する。これらの歯科材料の取扱いや成形方法を活かして、歯科疾患の予防と治療にどのように応用されているかを理解する。特に、臨床応用の観点から関連深い保存修復学、歯内療法学、歯科補綴学、歯科矯正学、口腔外科学および歯科インプラント学などでの臨床では幅広く応用され、改良され、さらには新規の機材や材料の開発や歯科医療システムに対して基礎的知識を応用できるように知識の習得を講義と実習を通じて学修する。

教育成果（アウトカム）

歯科臨床では、様々な材料（歯科材料、歯科生体材料）と医療用器械・器具を駆使して、口腔機能の回復が図られており、それぞれ重要な役割を担っている。したがって、歯科医師はこれらに関する科学的な知識をもち、医療へ合理的に応用する技術に習熟することに加えて、患者に対してわかりやすく説明できることが必要である。生体に対して異物である材料を生体内で機能させるためには、材料の物理学的、機械的、化学的および生物学的性質（生体に対する影響）を理解するとともに、機能を回復させるための手段の一つとして、修復物の製作方法を整理して実行することができるに学修する。それらの修復方法が臨床でどのように活用され、患者の口腔内で機能を発揮させられるかを理解し、高学年で学ぶ臨床科目に活かせる基本的な考え方を身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：1、2、4、6、8、9）

到達目標（SB0s）

- 1) 歯科用アクリルレジンの種類と成分及び特性を説明できる。
- 2) 成形修復材の種類と成分および特性を説明できる。
- 3) 金属の接合に必要な材料の種類と性質を使用機器と関連付けて説明できる。
- 4) 金属の加工法とそれによる性質を説明できる。
- 5) 切削・研磨用材料と使用機器の特徴を説明できる。
- 6) 審美修復材料の種類、特徴、製作法との関連、材料の選択基準を説明できる。
- 7) CAD/CAMによる製作手順を使用機器と関連付けて説明できる。
- 8) インプラント材料の種類と特徴を説明できる。
- 9) 歯科診療に用いる器材、機器を列挙できる。
- 10) 金属の鋳造・熱処理および陶材焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。
- 11) 歯科材料の機械的、物理的、化学的および生物学的性質を説明できる。
- 12) 合着・接着用材料の組成、特徴、操作方法を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

講義で使用する事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べ、講義に臨むこととする。事前学修内容について講義はじめにプレテストまたは講義中に発表することによりフィードバックする。

事後学修として、講義中および講義要旨にポストテストとして行う。その内容で理解が不十分な箇所については、講義要旨および教科書等を見直し学修するようにする。本内容はすべての歯科理工学の講義、実習に対して該当するものとする。

（事前学修：平均15分を要する 事後学修：平均60分を要する）

講義/演習/実習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/2 (木)	3	武本真治教授 (医療工学講座)	1. アクリルレジン1 義歯の構造と構成材料 およびアクリルレジンの 重合反応および義 歯床用アクリルレジンの 種類と成分、重合方 法およびレジン硬化体 の物性に関する基本事 項について学ぶ。	1. 歯科臨床におけるアクリルレジンの用途（義歯床、レジン歯など）を説明できる。 2. 義歯の構造と構成、使用材料を説明できる。 3. モノマー、ポリマー、付加重合、縮重合、共重合、架橋を説明できる。 4. ラジカル付加重合反応の概要を説明できる。 5. 義歯床用アクリルレジンの粉液成分と役割、混和粉液比、混和後の性状変化を説明できる。 6. 義歯床用アクリルレジンの重合方法（加熱、常温）の違いを説明できる。 [B-2-2, B-3-1] 事前学修：教科書（新編）第11章、（スタンダード）16章を読み、疑問点を抽出しておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。
講義	4/2 (木)	4	武本真治教授 (医療工学講座)	2. アクリルレジン2 アクリルレジンの重合 操作および重合に関わ る問題点と、義歯床製 作の流れについて学 ぶ。	1. 義歯製作時の重合操作に用いる材料、機器の種類と特徴を説明できる。 2. 加熱重合と常温重合の共通点と相違点を説明できる。 3. 加熱重合レジンと常温重合レジンの物性比較ができる。 4. パラフィンワックスの組成と性質を理解する。 5. レジンの内部気泡、重合収縮、残留モノマーの問題とレジン硬化体の吸水性を説明できる。 6. 義歯床製作の概要を説明できる。 [B-2-2, B-3-1] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。

講義	4/6 (月)	2	佐々木かおり助教 (医療工学講座)	3. 成形修復材料1 レジンに無機質フィラーが配合されたコンポジットレジンの構成と特性を学ぶ。さらに、コンポジットレジンを用いた歯冠修復の概要を学ぶ。	1. 歯冠修復治療法のひとつである成形修復について説明できる。 2. 成形修復材料の種類（複合レジン、ガラスアイオノマーセメント、アマルガム）を挙げられる。 3. 複合レジンの構成、成分を説明できる。 4. 成分モノマーの特徴（アクリルレジンとの違い）を説明できる。 5. 補強材としてのフィラーの種類、特徴を説明できる。 6. アクリルレジンと比べた複合レジンの特徴（複合化の利点）を説明できる。 [B-2-1, B-3-2] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。
講義	4/13 (月)	2	佐々木かおり助教 (医療工学講座)	4. 成形修復材料2 成形修復材（特にガラスアイオノマーセメントとアマルガム）の構成と特性を学ぶ。	1. 成形修復用ガラスアイオノマーセメントの構成、成分を説明できる。 2. 成形修復用ガラスアイオノマーセメントの物性、合着用ガラスアイオノマーセメントと比べた特徴を説明できる。 3. アマルガムの構成、成分を説明できる。 4. アマルガムの硬化反応を説明できる。 5. アマルガム取扱い時の注意事項を説明できる。 [D-1-①②、D-2-①] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。

講義	4/16 (木)	3	武本真治教授 (医療工学講座) 5. 接着 歯科接着の応用例を知り、接着の化学的な原理、接着時の表面処理の意義および歯科用接着材（レジンセメント）、ボンディング剤の成分について学ぶ。	1. 歯科治療における合着と接着の相違を説明できる。 2. むれと接着の関係および接着材の特性（表面処理の必要性）を説明できる。 3. 歯科用接着材の成分を説明できる。 4. 接着材の硬化反応と硬化体の物性を説明できる。 5. 歯科治療における接着の基本工程と各工程で用いる材料（エッチング材、プライマー、ボンディング材）の役割を説明できる。 6. 歯面および各種歯科材料の接着に必要な表面処理方法、特に接着性モノマーの働きを被着材ごとに説明できる。 [B-2-3, B-3-2] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。
講義	4/16 (木)	4	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座) 6. 非貴金属の応用 歯科理工学実習ガイダンス 非貴金属の加工と熱処理（焼なまし）を理解する。 実習の概要を理解する。	1. 歯科臨床で応用されている非貴金属の種類を列举できる。 2. 非貴金属の臨床応用例を列举できる。 3. 非貴金属の加工機構を説明できる。 4. ビッカース硬さ試験機の使用方法を説明できる。 5. マイクロメータの使用法を説明できる。 [B-3-1, B-3-4] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく。実習ガイダンスは2025年度に配布した実習書の注意点を読んでおく（30分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（90分）。

講義	4/20 (月)	2	武本真治教授 (医療工学講座) 7. 切削・研磨技術 歯の切削の基本原理と、用いる切削・研削工具と回転駆動装置を学ぶ。修復・補綴物の研磨の概要を学ぶ	1. 歯科臨床における切削・研磨作業の例を挙げられる。 2. 歯科用回転駆動装置の名称、構造と性能を説明できる。 3. 切削工具と研削工具の種類と特徴を説明できる。 4. 歯の切削時の注意点を説明できる。 5. 回転式研磨、サンドブラストと電解研磨の概要を説明できる。 [B-2-1, B-3-1, B-3-2] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく(15分)。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する(60分)。
実習	4/23 (木)	3 4	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座) 田邊耕二非常勤講師 畑中昭彦非常勤講師 (各班を分担) 歯科理工学実習1 アクリルレジン1 歯科用セメント 歯科用セメントの操作方法とその性質を学ぶ。 義歯床用アクリルレジンの重合操作を実習し、材料の理工学的性質と取り扱い方法を学ぶ。	1. 義歯床用アクリルレジンの使用目的・用途を説明できる。 2. モノマー／ポリマー混合物の経時的状態変化と適切な填入時期を説明できる。 3. 義歯作製の一連の操作を説明できる。 4. 歯科臨床におけるコンポジットレジンの使用目的・用途を説明できる。 5. 歯科臨床でのセメントの使用目的・用途を説明できる。 6. 3種類のセメントの練和方法と硬化時間に及ぼす粉液比の影響を説明できる。 7. 3種類のセメント硬化体の強度に及ぼす粉液比の影響を説明できる。 8. 3種類のセメント硬化体の酸溶解性を説明できる。 [B-1-2, B-2-2, B-2-3, B-3-1] 事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと(15分)。 事後学修：実習のレポートを作成する(90分)。

実 習	4/30 (木)	3 4	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座) 畑中明彦非常勤講師 (各班を分担)	歯科理工学実習2 アクリルレジン2 接着 (各班に分かれて実習) 義歯床用アクリルレジンの性質を調べ、取扱い方法を学ぶ。 歯科用接着材の操作方法と歯科材料の表面処理方法を学ぶ	1. 義歯床用アクリルレジンの使用目的・用途を説明できる。 2. モノマー／ポリマー混合物の経時的状態変化と適切な填入時期を説明できる。 3. 義歯作製の一連の操作を説明できる。 4. 歯科臨床での接着材の使用目的・用途を説明できる。 5. 接着性レジンセメントの構成と基本操作を説明できる。 6. コンポジットレジン修復の基本操作を説明できる。 7. 修復材（金属、セラミックス、レジン）に適した表面処理方法と、接着強さに及ぼす表面処理の効果を説明できる。 [B-1-2, B-2-2, B-2-3, B-3-1] 事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。 事後学修：実習のレポートを作成する（90分）。
講 義	5/14 (木)	3	武本真治教授 (医療工学講座)	8. 金属の接合 インプラント治療で用いる歯科材料の種類と特徴について学ぶ。	1. 金属の接合方法の種類と特徴を説明できる。 2. 歯科用ろうの種類と所用性質を説明できる。 3. ろう付け用フラックスの種類とその作用を説明できる。 [B-3-1] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。
演 習	5/18 (月)	2	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座)	9. 歯科理工学演習1 ユニット1～7に関する演習問題を解き、応用力と問題解決能力を身につける。	1. 問題演習を通して、これまでに学んだ各ユニットの目標への到達をより確かなものにする。 [B-2-1, B-2-2, B-2-3, B-3-1, B-3-2] 事前学修：ユニット1～8の講義内容を復習しておく（90分）。 事後学修：演習後、誤答した箇所を各自知識を補完する（90分）。

実 習	5/21 (木)	3 4	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座) 野口竜実非常勤講師 畑中昭彦非常勤講師 (各班を分担)	歯科理工学実習3 歯科用セメント アクリルレジン1 歯科用セメントの操作方法とその性質を学ぶ。 義歯床用アクリルレジンの重合操作を実習し、材料の理工学的性質と取り扱い方法を学ぶ。	1. 義歯床用アクリルレジンの使用目的・用途を説明できる。 2. モノマー／ポリマー混合物の経時的状態変化と適切な填入時期を説明できる。 3. 義歯作製の一連の操作を説明できる。 4. 歯科臨床におけるコンポジットレジンの使用目的・用途を説明できる。 5. コンポジットレジンの硬さに及ぼす因子（フィラーのタイプなど）を説明できる。 6. 照射時間が光重合型コンポジットレジンの硬化深さに及ぼす影響を説明できる。 7. コンポジットレジンの重合収縮率を説明できる。 [B-1-2, B-2-2, B-2-3, B-3-1] 事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。 事後学修：実習のレポートを作成する（90分）。
講 義	5/25 (月)	2	武本真治教授 (医療工学講座)	10. 陶材焼付金属冠 歯科用陶材の用途、種類、成分・組成、焼成体の性質を学ぶ。 陶材焼付鑄造冠作製に用いる焼付用陶材の成分・組成、特徴を学ぶ。また、金属と陶材との結合機構を学ぶ。	1. 陶材焼付金属冠の構造を説明できる。 2. 金属焼付用陶材の成分・組成と特徴を説明できる。 3. 陶材焼付用合金の組成と特徴を説明できる。 4. 陶材焼付金属冠の製作過程を説明できる。 [B-2-1, B-3-1, B-3-2] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。

実 習	5/28 (木)	3 4	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座) 渡邊浩章非常勤講師 畑中明彦非常勤講師 (各班を分担)	歯科理工学実習4 アクリルレジン2 接着 義歯床用アクリルレジンの性質を調べ、取扱い方法を学ぶ。 歯科用接着材の操作方法と歯科材料の表面処理法を学ぶ。	1. 義歯床用アクリルレジンの使用目的・用途を説明できる。 2. モノマー／ポリマー混合物の経時的状態変化と適切な填入時期を説明できる。 3. 義歯作製の一連の操作を説明できる。 4. 歯科臨床での接着材の使用目的・用途を説明できる。 5. 接着性レジンセメントの構成と基本操作を説明できる。 6. コンポジットレジン修復の基本操作を説明できる。 7. 修復材（金属、セラミックス、レジン）に適した表面処理方法と、接着強さに及ぼす表面処理の効果を説明できる。 [B-1-2, B-2-2, B-2-3, B-3-1] 事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。 事後学修：実習のレポートを作成する（90分）。
講 義	6/1 (月)	2	武本真治教授 (医療工学講座)	12. オールセラミック冠に応用するニューセラミックスとその製作方法 強度、成形性に優れたニューセラミックスの種類と成分、性質ならびに成形法を学ぶ。 オールセラミック冠作製過程を学ぶ。	1. 審美修復用セラミックスの重要性を説明できる。 2. オールセラミック冠の臨床上的特徴を説明できる。 3. オールセラミック冠の構造を説明できる。 4. ニューセラミックスの主要な成形法とその特徴を説明できる。 5. CAD/CAMシステムに用いる器械の構造と原理を説明できる。 6. CAD/CAMによるセラミックス成形法の概要を説明できる。 7. CAD/CAMにより成形できる複合レジン、金属材料の種類を列挙できる。 [B-2-1, B-3-1, B-3-4] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。

講義	6/8 (月)	2	武本真治教授 (医療工学講座)	13. インプラント材料 インプラント治療で用いる歯科材料の種類と特徴について学ぶ。	1. インプラント治療で用いる材料の種類、成分、特徴を説明できる。 2. 顎顔面補綴で使用する材料の種類を説明できる。 3. 歯周治療、口腔外科治療に用いる歯科材料の種類と特徴について学ぶ。 [B-2-6] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく(15分)。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する(60分)。
実習	6/11 (木)	3 4	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座) 昆 隆一非常勤講師 畑中明彦非常勤講師 (各班を分担)	歯科理工学実習5 熱処理・加工・ろう付け 歯冠用コンポジットレジン (各班に分かれて実習) 加工硬化、回復・再結晶現象及び時効硬化現象を学ぶ。 自在ろう付けの操作方を学ぶ。 コンポジットレジンの性質を調べ、取り扱い方法を学ぶ。	1. 歯科臨床における金属の加工、熱処理およびろう付けの目的・適用例を説明できる。 2. 銅試料の加工硬化と焼なましによる回復・再結晶を説明できる。 3. 金合金と金銀パラジウム合金の時効硬化を説明できる。 4. 自在ろう付けの操作方を説明できる。 5. ろう付けのメカニズムを説明できる。 6. コンポジットレジンの硬さに及ぼす因子(フィラーのタイプなど)を説明できる。 7. 照射時間が光重合型コンポジットレジンの硬化深さに及ぼす影響を説明できる。 8. コンポジットレジンの重合収縮率を説明できる。 [B-1-2, B-2-2, B-2-3, B-3-1] 事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと(15分)。 事後学修：実習のレポートを作成する(90分)。
講義	6/15 (月)	2	武本真治教授 (医療工学講座)	14. 歯科用器具・器械1 歯科用機器の構造と性能の基礎を理解する。	1. 歯科用チェアユニットの構成と各部の役割を説明できる。 2. レーザー装置の構造と性能の基礎を説明できる。 3. 画像診断用装置の構造、原理を説明できる。 4. 光照射器の構造を説明できる。 [B-3-2, B-3-3] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく(15分)。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する(60分)。

実習	6/18 (木)	3 4	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座) 勢島 尚非常勤講師 畑中明彦非常勤講師 (各班を分担)	歯科理工学実習6 歯冠用コンポジットレジン 熱処理・加工・ろう付け コンポジットレジンの性質を調べ、取り扱い方法を学ぶ。 加工硬化、回復・再結晶現象及び時効硬化現象を学ぶ。 自在ろう付けの操作方法を学ぶ。	1. 歯科臨床における金属の加工、熱処理およびろう付けの目的・適用例を説明できる。 2. 銅試料の加工硬化と焼なましによる回復・再結晶を説明できる。 3. 金合金と金銀パラジウム合金の時効硬化を説明できる。 4. 自在ろう付けの操作方法を説明できる。 5. ろう付けのメカニズムを説明できる。 6. コンポジットレジンの硬さに及ぼす因子（フィラーのタイプなど）を説明できる。 7. 照射時間が光重合型コンポジットレジンの硬化深さに及ぼす影響を説明できる。 8. コンポジットレジンの重合収縮率を説明できる。 [B-1-2, B-2-2, B-2-3, B-3-1] 事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。 事後学修：実習のレポートを作成する（90分）。
講義	6/22 (月)	2	武本真治教授 (医療工学講座)	15. 歯科用器具・器械2 歯科用機器の構造と性能の基礎を理解する。	1. う蝕、歯周疾患、歯内疾患の治療機器を列挙できる。 2. う蝕、歯周疾患、歯内疾患の治療機器の原理を説明できる。 3. 超音波装置の構造と性能の基礎を説明できる。 4. 咬合診断器、摂食・嚥下能力検査装置を列挙できる。 [B-3-3] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。
講義	6/25 (木)	3	高田雄京非常勤講師	16. 磁性アタッチメント/非貴金属2 補綴治療（義歯）に応用されている磁性アタッチメントについて学ぶ。	1. 磁性アタッチメントの構造を説明できる。 2. 磁性アタッチメントを組込んだ義歯の製作方法を説明できる。 [B-2-1] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。

講義	6/29 (月)	2	武本真治教授 (医療工学講座)	17. 歯科用器具・器械2 歯科用機器の構造と性能の基礎を理解する。	1. う蝕、歯周疾患、歯内疾患の治療機器を列举できる。 2. う蝕、歯周疾患、歯内疾患の治療機器の原理を説明できる。 3. 超音波装置の構造と性能の基礎を説明できる。 4. 咬合診断器、摂食・嚥下能力検査装置を列举できる。 [B-3-3] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。
演習	7/6 (月)	2	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座)	18. 歯科理工学演習2 ユニット8, 10～17に関する演習問題を解き、応用力と問題解決能力を身につける。	1. 問題演習を通して、これまでに学んだ各ユニットの目標への到達をより確かなものにする。 [B-2-1, B-3全般] 事前学修：ユニット9～16の講義内容を復習しておく（90分）。 事後学修：演習後、誤答した箇所を各自知識を補完する（90分）。
講義	7/13 (月)	2	高橋英和非常勤講師	19. CAD/CAM技術の歯科応用 CAD/CAM技術を応用した歯冠修復物の製作技術および材料を学ぶ。	1. ニューセラミックスの主要な成形法とその特徴を説明できる。 2. CAD/CAMによるセラミックス成形法の概要を説明できる。 [B-2-1, B-3-4] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。
実習	7/23 (木)	3 4	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座)	歯科理工学実習 歯科用陶材 CAD/CAM実習 歯科用陶材の築盛、焼成過程を学ぶ。 模型用スキャナーを用いた計測からデザインの手法を学ぶ。	1. 陶材の築盛時のコンデンスを説明できる。 2. 陶材の焼成過程で起こる現象を説明できる。 3. 模型の計測（デジタイジング）の方法を説明できる。 4. 模型にあった修復物を設計できる。 [B-2-1, B-3-4] 事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。 事後学修：実習のレポートを作成する（90分）。

実習	8/20 (木)	1 2	武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座)	歯科理工学実習 実習試験 実習試験解説 補足講義 実習で学んだ知識および技術の要点についての理解度の評価を受ける。	1. 実習で学んだ知識と技術についての筆記試験問題に的確に解答できる。 [B-1-1, B-2-1, B-2-2, B-2-3, B-3-1, B-3-2, B-3-4] 事前学修：歯科理工学実習で行った内容、レポートの内容を補完しておく（90分）。 事後学修：実習試験で誤答した箇所を各自知識を補完する（90分）。
講義	8/24 (月)	1	武本真治教授 (医療工学講座)	20. 材料の科学 歯科材料の中でも特にCAD/CAM用材料の物理的・機械的・化学的・生物学的性質について学ぶ。	1. 歯科材料の硬さ、強さ、靱性、脆性、展延性、粘弾性を説明できる。 2. 歯科材料の応力-ひずみ特性（弾性係数、レジリエンス、降伏強さなど）を説明できる。 3. 口腔内環境と化学反応性（金属の腐食、高分子の加水分解など）を説明できる。 [B-1全般] 事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。 事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタンダード歯科理工学：生体材料と歯科材料 第8版	中畠裕ほか 編集幹事 武本真治ほか 編	学建書院	2024年
教	新編歯科理工学 第7版	服部雅之、武本真治編	学建書院	2024年
教	歯科理工学実習書（配布）	医療工学講座 編	医療工学講座	2024年
参	基礎歯科理工学	宮坂平ほか編	医歯薬出版	2019年
参	臨床歯科理工学	宮崎隆ほか編	医歯薬出版	2006年
参	コア歯科理工学	小園凱夫ほか編著	医歯薬出版	2008年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義（①定期試験、②演習、③平常点（プレテスト、ポストテスト）） 75%

実習（①筆記試験、②実習レポート） 25%

計100%で評価（ただし、出席や態度等、状況に応じて減点する）

到達目標	DP	演習	レポート	実習試験	定期試験		その他	合計
1,2	2,4,6,8,9	2.5	5	5	16		0.4	28.9
3,11,12	4,8	2	5.5	5.5	10		0.3	23.3
4,5,6,10	4,6,8	2.5	2	2	21.5		0.4	28.4
7,8	1,2,4,6,8,9	1.5			10		0.2	11.7
9	4,6,8,9	1.5			6		0.2	7.7
合計		10	12.5	12.5	63.5		1.5	100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

アクティブラーニングとして、思考力、推論能力を向上するためにディスカッション方式の講義を行う。また、ポストテストを使用して学生は復習を行い知識の定着を図る。知識の定着を確実にするため数ユニット毎に演習を行い、その内容についてディスカッションしながら解説する。

学生参加型講義（ICT活用の演習）を実施するために、講義の途中あるいは最後にクリッカーを使用して学生の理解度の確認を行う。

実習では実習結果および考察するべき内容をレポートとしてWebClassに提出する。

本コースでは、一般的な講義に加えて演習や実習も行う。演習は、終了後にフィードバック講義を実施するとともに、学生の習熟度表をフィードバックする。

実習終了後には習得すべき項目として、実習試験の解説を含めたまとめ講義を行う。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
熱膨張計一式(開閉式管状炉)	KRO-11K	2	基礎実習専用機器	埋没材の加熱膨張測定
マイクロカッティングマシン一式	BS-300CL型	1	基礎実習・研究用機器	実験試料及び実習試料の作製
蒸留水製造装置一式	RFD240NA	1	基礎実習・研究用機器	実習用試薬の調製
送風定温乾燥器架台付	DRM320DA型	1	基礎実習専用機器	実習での試料の乾燥
窓付恒温水槽	TBN402DA	1	基礎実習・研究用機器	印象材等の定温実験
超純水製造装置	RFU424BA	1	基礎実習・研究用機器	実習用試薬の調製
電子天秤精密比重計	AUW220D+SMK401	1	基礎実習・研究用機器	試料の秤量
μ RS1000記録計TGM	173-70-01-06	1	基礎実習・研究用機器	寸法変化、膨張率等の記録
卓上集塵機	HD-400M	1	基礎実習・研究用機器	実習用試料作製
ハイプラスターオーバルジェット		1	基礎実習・研究用機器	鋳造体表面の酸化膜の除去
サーマルロボ	TR-2AR	1	基礎実習・研究用機器	実習に使用する試料の調製
恒温水槽	F-0015DN	1	基礎実習・研究用機器	実習に使用する水の加温
ノートパソコン	EliteBook 820G1/CT	1	基礎実習・研究用機器	講義資料の作成用
デスクトップパソコン	Inspiron3647	1	基礎実習・研究用機器	講義資料の作成用
デスクトップパソコン	ENVY700-270jp/CT	1	基礎実習・研究用機器	講義資料の作成用
ノートパソコン	Surface Pro3	1	基礎実習・研究用機器	講義資料の作成用
デスクトップパソコン	ProOne 600	1	基礎実習・研究用機器	講義資料の作成用
ノートパソコン	LAVIE Direct HZ	1	基礎実習・研究用機器	講義資料の作成および提示
ノートパソコン	ASUS ExpertBook	1	基礎実習・研究用機器	講義資料の作成および提示
HP ENVY Desktop TE01-0109jp	9AQ32AA-AAAU	1	視聴覚用機器	講義資料作成
カラー複合機・image Runner Advance	C5235F	1	基礎実習・研究用機器	講義の配布資料作成
サーマルロボ	TR-1AR	5	基礎実習専用機器	実習試料の保存
デジタル一眼レフカメラ	EOS Kiss X9	1	基礎実習・研究用機器	実習風景、講義資料に必要な写真の撮影
プロジェクタースクリーン・パワープロ ジェクター	IWS-82-V-CA WX300USTi	1	基礎実習・研究用機器	実習資料の提示、アクティ ブラーニングの実施
自動サーボスタンド／ハンディフォース ゲージ	HF100/ JSV-H1000	1	基礎実習・研究用機器	歯科材料の接着試験および 圧縮試験
印象材弾性比較試験機	A-003	3	基礎実習・研究用機器	印象材の弾性ひずみ試験
印象材永久ひずみ試験機	A-003-2	3	基礎実習・研究用機器	印象材の永久ひずみ試験
冷蔵庫	RXG51J (XW)	1	基礎実習・研究用機器	試料および材料の保存
3D プリンタ	TRS 3Dプリンタ XL4K	1	基礎実習・研究用機器	試料の作製
ノートパソコンDELL NI75SA	NI75SAWHBW	1	視聴覚用機器	講義資料作成用および講義 用
ASUS Tek ExpertBook B5302FEA	B5302FEA-EM0119R	1	視聴覚用機器	講義資料作成用および講義 用
パイプレーター R-I		1	基礎実習用機器	基礎実習時の指導用
バキュームミキサー スタンド付	VM115	1	基礎実習用機器	基礎実習時の指導用
デジタルハンディ温度計	YC507-T	1	基礎実習用機器	基礎実習時の指導用

薬理学Ⅱ

責任者・コーディネーター		薬理学講座（病態制御学分野） 中村 正帆 教授		
担当講座（分野）		薬理学講座（病態制御学分野）		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	前期		前期 —	—
			後期 22.0時間	6.0時間

学修方針（授業概要等）

薬理学は薬物の生体における作用を追究し、生命現象や病態の理解を深める学問であり、薬物治療に関わる基盤領域として重要である。本授業では薬物療法の実践に必要な薬理学的思考を修得するために、日常診療で用いられる様々な薬物の個体・細胞・分子レベルにおける薬理作用を学修する。

実践的な能力を獲得できるよう能動的学修を主体とし、記述課題、学修者間相互学修、ロールプレイ、対話と討論、発表などのアウトプット型授業を実施する。学修到達度と授業の質を評価するために、各講義・演習・実習ごとに学修者アンケートを実施する。

教育成果（アウトカム）

薬力学と薬物動態学を修得し、各薬物の作用機序と有害反応を説明できる。
疾患・病態を理解し、薬物療法の実践につながる薬理学的思考力が形成される。
これまで修得した知識を活用して、薬物療法の基本的な事項を説明できる。

（関連するディプロマポリシー：1 - 4, 6, 8, 9）

到達目標（SB0s）

1. 薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。
2. 薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。
3. 薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。
4. 薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。
5. 薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。
6. 主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。
7. 薬物相互作用の機序と注意事項を説明できる。
8. 麻酔薬、抗微生物薬、抗腫瘍薬、麻薬性鎮痛薬、抗炎症薬、免疫抑制薬の薬理作用、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。
9. 唾液腺作用薬、口腔内科治療薬、歯内療法薬、歯周療法薬、齲蝕予防薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。
10. 各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、骨硬組織、代謝内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。
11. 疾患、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について概要を理解した上で、模擬患者に説明または対話できる。
12. 基礎医歯学の実習から基本的な実験手技を体得する。
13. 能動的姿勢で実験や課題に取り組み、他者と協働して学修することができる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】

シラバスに記載されている授業内容を確認し、教科書・講義資料・自己学修問題等を用いて事前学修すること。各授業の事前学修の時間は平均45分を要する。

【事後学修】

授業課題の内容を教科書と講義資料を用いて復習し、自己学修問題で知識を定着させること。各授業の事後学修の時間は45分または2時間を要する。

(事前学修：平均45分を要する 事後学修：平均45分を要する)

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/7 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L1：オリエンテーション・麻薬性鎮痛薬（オピオイド） 薬理学IIの概要、麻薬性鎮痛薬（オピオイド）とその作用機序、適応、有害反応、耐性と依存	1. 薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 2. 薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。 6. 主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 8. 麻薬性鎮痛薬の薬理作用、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
講義	4/14 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L2：抗炎症薬・免疫抑制薬・アレルギー治療薬 抗炎症薬・免疫抑制薬・抗アレルギー薬とその作用機序、適応、有害反応、歯科診療での注意点	6. 主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 8. 抗炎症薬の薬理作用、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 11. 疾患、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について概要を理解した上で、模擬患者に説明または対話できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
講義	4/21 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L3：骨硬組織系治療薬・薬剤関連顎骨壊死・ビタミン類 骨硬組織系作用薬とビタミン類とその作用機序、適応、有害反応、歯科診療での注意点	6. 主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 10. 骨硬組織系作用薬とビタミン類の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 11. 疾患、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について概要を理解した上で、模擬患者に説明または対話できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。

講義	5/12 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L4：血液・血小板・凝固系治療薬 血小板・凝固系作用薬とその作用機序、適応、有害反応、歯科診療での注意点	6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 7．薬物相互作用の機序と注意事項を説明できる。 10．血液系作用薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 11．疾患、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について概要を理解した上で、模擬患者に説明または対話できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
講義	5/19 (火)	1	田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	L5：唾液腺作用薬・口腔内科治療薬・歯内療法薬・歯周療法薬・齦蝕予防薬 唾液腺の機能と形態に影響を及ぼす薬物・口腔粘膜疾患とその治療薬・歯内療法薬・歯周療法薬・齦蝕予防薬の作用機序、適応、有害反応	6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 9．唾液腺作用薬、口腔内科治療薬、歯内療法薬、歯周療法薬、齦蝕予防薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
演習	5/26 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L6：中間まとめ試験 L1-L5の授業内容について復習する。	麻薬性鎮痛薬、抗炎症薬、免疫抑制薬、抗血小板薬、抗凝固薬、唾液腺作用薬、口腔内科治療薬、齦蝕予防薬、歯内療法薬、歯周療法薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：中間まとめ内容を復習する。
講義	6/2 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L7：糖尿病治療薬・高脂血症治療薬・代謝内分泌系治療薬 糖尿病・高脂血症・代謝内分泌疾患の治療薬とその作用機序、適応、有害反応、歯科診療での注意点	6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 10．糖尿病治療薬・高脂血症治療薬・代謝内分泌系治療薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。

講義	6/9 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L8：循環器系治療薬Ⅰ：利尿薬・高血圧治療薬・心不全治療薬 利尿薬・高血圧治療薬・心不全治療薬とその作用機序、適応、有害反応、歯科診療での注意点	6. 主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 10. 利尿薬・高血圧治療薬・心不全治療薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
講義	6/16 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L9：循環器系治療薬Ⅱ：虚血性心疾患治療薬・抗不整脈薬・救命救急で用いる薬物 虚血性心疾患・不整脈・救命救急に用いる治療薬とその作用機序、適応、有害反応、歯科診療での注意点	6. 主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 10. 虚血性心疾患治療薬と抗不整脈薬、救命救急で用いる薬物の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
講義	6/23 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L10：中枢神経系作用薬：抗てんかん薬・睡眠薬・抗不安薬・抗精神病薬・抗うつ薬・認知症治療薬 中枢神経系作用薬とその作用機序、適応、有害反応、歯科診療での注意点	6. 主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 10. 中枢神経系作用薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
講義	6/30 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L11：呼吸器系治療薬・消化器系治療薬 呼吸器系治療薬・消化器系治療薬とその作用機序、適応、有害反応、歯科診療での注意点	6. 主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 10. 呼吸器系治療薬と消化器系治療薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。

実習日程表

実習	7/7 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	E1：実習 これまで学修した薬物の作用機序、薬力学、薬物動態学の理解を深める。 生体における薬物の作用を自らの目で観察し、生体と薬物分子との相互作用について理解を深める。	1．薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 2．薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。 3．薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。 4．薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。 5．薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。 6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 7．薬物相互作用の機序と注意事項を説明できる。 10. 呼吸器系治療薬と消化器系治療薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題、実習書で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
実習	7/7 (火)	3	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	E2：腸管平滑筋実習1 摘出腸管に対する薬物作用の観察、アゴニスト・アンタゴニストの効力の薬理学的評価、各受容体アゴニスト・アンタゴニストの特異性の評価	1．薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 2．薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。 10. 消化器系治療薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 12. 基礎医歯学の実習から基本的な実験手技を体得する。 13. 能動的姿勢で実験や課題に取り組む、他者と協働して学修することができる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、実習書で予習する。 事後学修：レポートを作成し提出する。所要時間2時間。

実習	7/7 (火)	4	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	E3：腸管平滑筋実習2 摘出腸管に対する薬物作用の観察、アゴニスト・アンタゴニストの効力の薬理学的評価、各受容体アゴニスト・アンタゴニストの特異性の評価	1. 薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 2. 薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。 10. 消化器系治療薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 12. 基礎医歯学の実習から基本的な実験手技を体得する。 13. 能動的姿勢で実験や課題に取り組み、他者と協働して学修することができる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、実習書で予習する。 事後学修：レポートを作成し提出する。所要時間2時間。
----	------------	---	---	---	---

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	現代歯科薬理学 第7版	鈴木邦明 監修	医歯薬出版	2024
教	薬の基本とはたらきがわかる薬理学	柳田俊彦 編	羊土社	2023
参	標準薬理学 第8版	飯野正光 監修	医学書院	2021
参	薬がみえる vol.1～4	野元正弘ら 監修	メディックメディア	2021など
参	Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 14th edition	L. L. Brunton & B. C. Knollmann	McGraw-Hill EDUCATION	2023

成績評価方法・基準・配点割合等

総括評価：試験（中間と定期）：70%、発表・実演・実習・グループ学習・レポート・授業課題：30%

形成的評価：授業課題・自己学修問題・レポートなどで理解度を確認し、必要に応じてフィードバックする。発表・実演・実習・グループ学習では、個別の質問への返答や全体への解説をその場で行う。

到達目標	DP	試験	発表・実演・実習	レポート	授業課題	その他	合計
1-10	3, 4	60	2	2	5	1	70
11	1 - 4, 6, 8, 9	8	2	0	1	1	12
12, 13	3, 4, 6, 8, 9	2	10	5	0	1	18
合計	—	70	14	7	6	3	100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

- ・学修環境：教員と学修者は協働して、安全で快適な学修環境保持に努めること。
- ・出席確認：原則として、授業課題の写真データを授業終了時にWebClassに提出することで、講義出席と判定する。これ以外の方法で出席を確認する場合は、必ず授業開始時に連絡するので、その指示に従うこと。
- ・レポートなど：捏造・改竄・盗用は不正行為である。正しく引用すること。
- ・質問や相談など：いつでも受け付ける。どのような内容でも構わない。授業時に教員に話しかけるか、WebClassかEメールでアポイントメントをとること。

1. 講義資料：原則としてWebClassに講義前日までに掲載する。自己学修に活用すること。
2. 自己学修問題：WebClassに5肢択一を中心とした問題を掲載する。事前学修、事後学修に活用すること。
3. 授業課題：講義で記述式課題に取り組む（A4用紙1-2枚）。授業終了時に課題用紙全体を写真に撮り、WebClassの指定項目に提出する。提出をもって講義を出席とする。
4. 授業アンケート：各授業終了時にWebClassのアンケートに回答する。アンケートに回答することで、自分自身の理解度や受講状況を記録することができる。
5. レポート：原則としてWebClassの指定項目に提出する。指定されたファイル形式とファイル名、提出期限を厳守すること。
6. 試験のフィードバック方法：試験について講評と解説をWebClassにアップロードする。必要に応じて個別に面談する。
7. その他のフィードバック方法：原則として授業中またはWebClassでフィードバックする。必要に応じて個別に指導する。
8. グループワーク、ロールプレイ実演、発表、実験実習など能動的学修・学修者相互学修：実施方法は授業で説明する。必要に応じて事前にグループ学修した上、資料などを作成し、発表や実演の準備と練習をすること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有：大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、事例を交えて専門領域に関して教育する。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
生体アンブ	PowerLab	1	基礎実習用機器	生体データの定量
薬理学習システム	PL2602UC 等	1	基礎実習用機器	薬物-受容体関係の定量

口腔病理学

責任者・コーディネーター		病理学講座（病態解析学分野） 入江 太郎 教授		
担当講座（分野）		病理学講座（病態解析学分野）		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	前期		前期 32.0時間 後期 —	52.0時間 —

学修方針（講義概要等）

2年次後期に修得した病理学総論の知識と技能を基盤として口腔病理学を学修する。口腔病理学と3年次後期から開始される臨床系科目を修得するための基盤となる病理学の修得を確実なものとするために、代表的な頭頸部領域の疾患の病理組織標本における基本的な病理組織学的所見を適切に指摘でき、それらの所見に基づいて病態を考察できる知識と技能をアクティブラーニングにより学修する。

教育成果（アウトカム）

歯科医師として科学的根拠を基盤とした診断と医療を行うために、病理学総論で学んだ基本的概念をもとに口腔領域の疾患およびこれらと関連ある全身性疾患の成り立ち、転帰の過程および治療による経過を組織および細胞レベルで理解することができる。

（関連するディプロマポリシー：4、8）

到達目標（SB0s）

1. 歯の発育異常を説明できる。
2. 齲蝕と象牙質・歯髄複合体の病変を説明できる。
3. 辺縁性歯周疾患を説明できる。
4. 顎口腔の発育異常、口腔領域に徴候をみる症候群を説明できる。
5. 口腔粘膜疾患・免疫応答に関連した口腔病変を説明できる。
6. 口腔癌・口腔潜在的悪性疾患と口腔上皮性異形成を説明できる。
7. 歯源性・非歯源性嚢胞を説明できる。
8. 歯源性・非歯源性腫瘍を説明できる。
9. 顎骨の腫瘍様病変を説明できる。
10. 唾液腺の病変を説明できる。
11. 加齢に伴う口腔病変を説明できる。
12. 全身性疾患と全身性疾患口腔病変を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書とWebClassに提示されている講義資料とプレテストを用いて事前学修（予習・復習）を行うものとする。各授業に対する事前学修の時間は最低53分以上を要する。各講義の講義開始時にプレテストを行い、講義時間内に担当教員とのディスカッションの機会を設ける。本内容は全授業に対して該当するものとする。

（事前学修：最低53分を要する 事後学修：最低53分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/2 (木)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	歯の発育異常・齲蝕 歯の発育異常・う蝕の病因と病態について理解する	1. 歯の形・大きさ・数・構造の異常について説明できる。 2. 歯の物理的・化学的損傷について説明できる。 3. 歯の沈着物・着色・変色について説明できる。 4. 齲蝕の疫学について説明できる。 5. 齲蝕の分類と好発部位について説明できる。 6. 齲蝕の原因と成り立ちについて説明できる。 7. 齲蝕の病理学的特徴について説明できる。 [D-5-2-1-1] 事前学修：新口腔病理学p2-47を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	4/2 (木)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	象牙質・歯髄複合体の病変・根尖性歯周疾患 象牙質・歯髄複合体の病変と根尖性歯周疾患の病因と病態について理解する。	1. 象牙質・歯髄複合体の加齢変化・退行性・進行性病変について説明できる。 2. 歯髄の感染と創傷治癒について説明できる。 3. 根尖性歯周炎の分類・推移・継発症について説明できる。 [D-5-2-2-1、D-5-2-2-3] 事前学修：新口腔病理学p48-78を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	4/22 (水)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	辺縁性歯周疾患	1. 歯周病の定義と疫学について説明できる。 2. 歯周病の病因について説明できる。 3. 歯周病の病理発生について説明できる。 4. 全身疾患と歯周病の関係について説明できる。 [D-5-2-3-1、D-5-2-3-2] 事前学修：新口腔病理学p79-97を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	5/1 (金)	3	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	顎口腔の発育異常、口腔領域に徴候をみる症候群 顎口腔の発育異常や口腔領域に徴候をみる症候群の病因と病態について理解する。	1. 口唇口蓋裂と顔面披裂について説明できる。 2. 口腔顎顔面に異常を示す奇形症候群について説明できる。 3. 中胚葉・外胚葉の異形成症について説明できる。 4. 口唇・頬部の異常について説明できる。 5. 舌の異常について説明できる。 6. 口腔領域に徴候をみる症候群について説明できる。 [D-3-1-1、D-3-1-10-5] 事前学修：新口腔病理学p132-142、p229-238、p331-340を読み、疑問点を抽出しておくこと。

講義	5/13 (水)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	口腔粘膜疾患・免疫応答に関連した口腔病変 口腔粘膜に生じる疾患・免疫応答に関連した口腔病変の病因と病態について理解する。	1. 水疱性病変について説明できる。 2. 赤色病変について説明できる。 3. 潰瘍性病変について説明できる。 4. 白色病変について説明できる。 5. 黒色病変について説明できる。 6. 舌炎・口唇炎について説明できる。 7. ウイルス性・細菌性感染症について説明できる。 [D-3-1-4] 事前学修：新口腔病理学p143-161, p283-291を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	5/20 (水)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	口腔癌・口腔潜在的悪性疾患と口腔上皮性異形成 口腔癌・前癌病変と異形成について理解する。	1. 前癌病変について説明できる。 2. 異形成について説明できる。 3. 上皮内癌について説明できる。 4. 口腔癌について説明できる。 [A-5-6、D-3-1-6-5] 事前学修：新口腔病理学p169-181を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	5/27 (水)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	歯原性嚢胞 歯原性嚢胞の病因と病態について理解する。	1. 発育性嚢胞について説明できる。 2. 炎症性嚢胞について説明できる。 [D-3-1-5] 事前学修：新口腔病理学p182-188を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	6/3 (水)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	非歯原性嚢胞 非歯原性嚢胞の病因と病態について理解する。	1. 顎骨内に発生する非歯原性嚢胞について説明できる。 2. 軟組織に発生する非歯原性嚢胞について説明できる。 [D-3-1-5] 事前学修：新口腔病理学p189-195を読み、疑問点を抽出しておくこと。
演習	6/5 (金)	3	入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	病理学到達度試験 これまでに行った講義の内容についての理解度を確認する。	1. 歯の発育異常・損傷・沈着物・着色についての理解度を確認する。 2. 齲蝕・象牙質・歯髄複合体の病変・根尖性歯周疾患についての理解度を確認する。 3. 辺縁性歯周疾患についての理解度を確認する。 4. 歯科治療に伴う治癒の病理についての理解度を確認する。 5. 顎口腔の発育異常、口腔領域に徴候をみる症候群と顎・顎関節の非腫瘍性病変についての理解度を確認する。 6. 口腔粘膜疾患・免疫応答に関連した口腔病変についての理解度を確認する。 7. 口腔癌・前癌病変についての理解度を確認する。 [D-5-2-1-1、D-5-2-2-1、D-5-2-2-3、D-5-2-3-1、D-5-2-3-2、D-3-1-1、D-3-1-10-5、D-3-1-4、A-5-6、D-3-1-6-5、D-3-1-5]

講義	6/19 (金)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	歯源性腫瘍 歯源性腫瘍の病因と病態について理解する。	1. 良性歯源性腫瘍について説明できる。 2. 悪性歯源性腫瘍について説明できる。 [D-3-1-6] 事前学修：新口腔病理学p196-211を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	6/24 (水)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	顎骨の非歯源性腫瘍・腫瘍様病変 顎骨の非歯源性腫瘍・腫瘍様病変の病因と病態について理解する。	1. 線維骨性病変について説明できる。 2. 骨形成性病変について説明できる。 3. 軟骨形成性病変について説明できる。 4. 巨細胞性病変について説明できる。 5. 円形細胞腫瘍について説明できる。 [D-3-1-6] 事前学修：新口腔病理学p212-238を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	7/1 (水)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	①顎骨の非腫瘍性病変と口腔領域軟組織の腫瘍・腫瘍様病変 ②唾液腺の非腫瘍性病変 顎骨の非腫瘍性病変、口腔領域軟組織の腫瘍・腫瘍様病変と唾液腺の非腫瘍性病変の病因と病態を理解する。	1. 顎骨の骨折について説明できる。 2. 顎骨骨髓炎について説明できる。 3. 唾液腺の発育異常について説明できる。 4. 唾液腺の退行性・進行性病変について説明できる。 5. 唾石症・唾液腺の嚢胞について説明できる。 6. 唾液腺の炎症性疾患について説明できる。 7. 唾液腺の自己免疫疾患について説明できる。 [D-3-1-3-6, D-3-1-8-1~3, 5-7] 事前学修：新口腔病理学p229-238, p271-282を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	7/8 (水)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	唾液腺腫瘍 唾液腺腫瘍の病因と病態を理解する。	1. 唾液腺の良性上皮性腫瘍について説明できる。 2. 唾液腺の悪性上皮性腫瘍について説明できる。 3. 唾液腺の非上皮性腫瘍について説明できる。 [D-3-1-8-4] 事前学修：新口腔病理学p257-270を読み、疑問点を抽出しておくこと。

講義	7/15 (水)	1	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	加齢に伴う口腔病変 加齢に伴う口腔病変の病因と病態について理解する。	1. 加齢と老化について説明できる。 2. 加齢に伴う歯と歯周組織の変化について説明できる。 3. 加齢に伴う顎骨と顎関節の変化について説明できる。 4. 加齢に伴う口腔軟組織の変化について説明できる。 5. 加齢に伴う唾液と唾液腺の変化について説明できる。 [A-2-4-8] 事前学修：新口腔病理学p292-311を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	7/22 (水)	1	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	全身性疾患と口腔病変と歯科医療における病理診断 口腔に影響を及ぼす全身性疾患と歯科医療における病理診断を理解する。	1. ウイルス感染症について説明できる。 2. 細菌性感染症について説明できる。 3. 内分泌代謝障害について説明できる。 4. 栄養障害について説明できる。 5. 細胞診について説明できる。 [A-4-1-3] 事前学修：新口腔病理学p312-330を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	8/19 (水)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	口腔病理学の総括 口腔病理学の重要項目を整理し正しく理解する。	1. 口腔病理学の重要項目について説明できる。 2. 口腔顎顔面領域の疾患の病因と病態について説明できる。 [D-3-1-6、D-3-1-6、D-3-1-8-1~3、5-7、D-3-1-8-4、A-2-4-8、A-4-1-3]

実習日程表

実習	4/16 (木)	1 2	入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	歯の硬組織疾患 歯の損傷や齲蝕の病理組織学的特徴を理解する。	1. 摩耗の病理組織学的特徴を説明できる。 2. エナメル質齲蝕の病理組織学的特徴を説明できる。 3. 象牙質齲蝕の病理組織学的特徴を説明できる。 [D-5-2-1-1] 事前学修：WebClassの「3D病理学」に掲載されている「歯の硬組織疾患」の実習解説書を学修、理解して実習に臨むこと。
実習	4/30 (木)	1 2	入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	歯髓の病変 歯髓疾患や歯髓の加齢変化の病理組織学的特徴を理解する。	1. 急性化膿性歯髓炎の病理組織学的特徴を説明できる。 2. 慢性潰瘍性歯髓炎の病理組織学的特徴を説明できる。 3. 慢性増殖性歯髓炎の病理組織学的特徴を説明できる。 4. 歯髓萎縮の病理組織学的特徴を説明できる。 [D-5-2-2-1、D-5-2-2-3] 事前学修：WebClassの「3D病理学」に掲載されている「歯髓の病変」の実習解説書を学修、理解して実習に臨むこと。

実習	5/14 (木)	1 2	入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	歯周組織の病変 歯周組織の病変の病理 組織学的特徴を理解す る。	1. 根尖性歯周炎(歯根肉芽腫・歯根 嚢胞)の病理組織学的特徴を説明で きる。 2. 辺縁性歯周炎の病理組織学的特徴 を説明できる。 3. 肉芽腫性エプーリスの病理組織学 的特徴を説明できる。 [D-5-2-3-1、D-5-2-3-2] 事前学修：WebClassの「3D病理学」 に掲載されている「歯周組織の病 変」の実習解説書を学修、理解して 実習に臨むこと。
実習	5/21 (木)	1 2	入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	口腔粘膜疾患 口腔粘膜疾患と口腔顎 顔面領域の感染性疾患 の病理学的特徴を理解 する。	1. 尋常性天疱瘡の病理組織学的特徴 を説明できる。 2. 扁平苔癬の病理組織学的特徴を説 明できる。 3. カンジダ症の病理組織学的特徴を 説明できる。 4. 膿原性肉芽腫の病理組織学的特徴 を説明できる。 [D-3-1-4] 事前学修：WebClassの「3D病理学」 に掲載されている「口腔粘膜疾患と 感染性疾患」の実習解説書を学修、 理解して実習に臨むこと。
実習	5/28 (木)	1 2	入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	歯源性・非歯源性嚢胞 歯源性嚢胞および非歯 源性嚢胞の病理学的特 徴を理解する。	1. 含歯性嚢胞の病理組織学的特徴を 説明できる。 2. 歯源性角化嚢胞の病理組織学的特 徴を説明できる。 3. 石灰化歯源性嚢胞の病理組織学的 特徴を説明できる。 4. 類皮嚢胞の病理組織学的特徴を説 明できる。 5. 鰓嚢胞(リンパ上皮性嚢胞)の病 理組織学的特徴を説明できる。 [D-3-1-5] 事前学修：WebClassの「3D病理学」 に掲載されている「歯源性・非歯原 性嚢胞」の実習解説書を学修、理解 して実習に臨むこと。
実習	6/4 (木)	1 2	入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	プレテスト・実習到達 度試験 これまでに行ったプレ テスト(事前練習版・ 本番版)と実習内容に ついての理解度を確認 する。	1. 歯の硬組織疾患の病理組織学的特 徴を説明できる。 2. 歯髄の病変の病理組織学的特徴を 説明できる。 3. 歯周組織の病変の病理組織学的特 徴を説明できる。 4. 口腔粘膜疾患の病理組織学的特徴 を説明できる。 5. 歯源性・非歯源性嚢胞の病理組織 学的特徴を説明できる。 [D-3-1-5、D-5-2-2-1、D-5-2-2-3、 D-5-2-2-1、D-5-2-2-3、D-5-2-3- 1、D-5-2-3-2、D-3-1-4、D-3-1-5] 事前学修：WebClassのプレテスト (事前練習版・本番版)・実習書 ファイルを学修、理解して到達度試 験に臨むこと。

実習	6/11 (木)	1 2	入江太郎教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	歯原性腫瘍1 歯原性腫瘍の病理学的 特徴を理解する。	1. エナメル上皮腫(濾胞型・叢状型) の病理組織学的特徴を説明できる。 2. エナメル上皮線維腫の病理組織学 的特徴を説明できる。 3. 腺腫様歯原性腫瘍の病理組織学的 特徴を説明できる。 [D-3-1-6] 事前学修：WebClassの「3D病理学」 に掲載されている「歯原性腫瘍1」 の実習解説書を学修、理解して実習 に臨むこと。
実習	6/18 (木)	1 2	入江太郎教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	歯原性腫瘍2 歯原性腫瘍の病理学的 特徴を理解する。	1. 歯牙腫(集合型、複雑型)の病理 組織学的特徴を説明できる。 2. 歯原性粘液腫の病理組織学的特徴 を説明できる。 3. セメント質骨形成線維腫の病理組 織学的特徴を説明できる。 4. セメント芽細胞腫の病理組織学的 特徴を説明できる。 [D-3-1-6] 事前学修：WebClassの「3D病理学」 に掲載されている「歯原性腫瘍2」 の実習解説書を学修、理解して実習 に臨むこと。
実習	6/25 (木)	1 2	入江太郎教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	非歯原性腫瘍1 非歯原性良性腫瘍の病 理学的特徴を理解す る。	1. 骨腫の病理組織学的特徴を説明で きる。 2. 色素性母斑の病理組織学的特徴を 説明できる。 3. 顆粒細胞腫の病理組織学的特徴を 説明できる。 4. 海綿状血管腫の病理組織学的特徴 を説明できる。 5. 平滑筋腫の病理組織学的特徴を説 明できる。 [D-3-1-6] 事前学修：WebClassの「3D病理学」 に掲載されている「非歯原性腫瘍 1」の実習解説書を学修、理解して 実習に臨むこと。
実習	7/2 (木)	1 2	入江太郎教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	非歯原性腫瘍2 非歯原性悪性腫瘍の病 理学的特徴を理解す る。	1. 上皮異形成と上皮内癌の病理組織 学的特徴を説明できる。 2. 多発性骨髄腫の病理組織学的特徴 を説明できる。 3. 軟骨肉腫の病理組織学的特徴を説 明できる。 4. 平滑筋肉腫の病理組織学的特徴を 説明できる。 [D-3-1-6] 事前学修：WebClassの「3D病理学」 に掲載されている「非歯原性腫瘍 2」の実習解説書を学修、理解して 実習に臨むこと。

実習	7/9 (木)	1 2	入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	唾液腺の非腫瘍性病変 唾液腺の非腫瘍性病変 の病理学的特徴を理解 する。	1. 粘液嚢胞の病理所見の病理組織学 的特徴を説明できる。 2. 慢性硬化性唾液腺炎の病理組織学 的特徴を説明できる。 3. Sjögren症候群の唾液腺の病理組 織学的特徴を説明できる。 4. 良性リンパ上皮性病変の病理組織 学的特徴を説明できる。 [D-3-1-8-3] 事前学修：WebClassの「3D病理学」 に掲載されている「唾液腺の非腫瘍 性病変」の実習解説書を学修、理解 して実習に臨むこと。
実習	7/16 (木)	1 2	入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	唾液腺の腫瘍 唾液腺腫瘍の病理学的 特徴を理解する。	1. 多形腺腫の病理組織学的特徴を説 明できる。 2. Warthin腫瘍の病理組織学的特徴 を説明できる。 3. 腺様嚢胞癌の病理組織学的特徴を 説明できる。 4. 粘表皮癌の病理組織学的特徴を説 明できる。 [D-3-1-8-4] 事前学修：WebClassの「3D病理学」 に掲載されている「唾液腺の腫瘍」 の実習解説書を学修、理解して実習 に臨むこと。
実習	7/23 (木)	1 2	入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解 析学分野)	実習試験 これまでに行った講義 の内容についての理解 度を確認する。	1. 歯の硬組織・歯髄の病変について の理解度を確認する。 2. 歯周組織・口腔粘膜疾患と感染性 疾患についての理解度を確認する。 3. 非歯源性腫瘍・歯源性腫瘍につい ての理解度を確認する。 4. 歯源性・非歯源性嚢胞についての 理解度を確認する。 5. 唾液腺の非腫瘍性病変・腫瘍性病 変についての理解度を確認する。 [D-3-1-6、D-3-1-8-3、D-3-1-8-4]

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	新口腔病理学 第3版	下野正基 他編、入江太朗 他著	医歯薬出版	2021年
教	歯学生のための基礎病理学	高田 隆 監、入江太朗 他著	医歯薬出版	2024年
参	要説 病理学総論	草間 薫、入江太朗 他編	医学情報社	2020年
参	標準病理学 第6版	北川昌伸・仁木利郎 編	医学書院	2019年
参	シンプル病理学 改訂第7版	笹野公伸 他編	南江堂	2015年
参	口腔病理アトラス 第3版	高木 實 監	文光堂	2018年
参	スタンダード病理学	下野正基 他編	学建書院	2019年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義と実習の総合評価とし、評価点合計で65%以上を合格とする。

講義：病理学到達度試験(20%)、前期試験(30%)、プレテスト(2.5%)、振り返り問題演習(2.5%)により評価する。

実習：実習到達度試験(20%)、実習試験(20%)、実習スケッチの検印数(5%)とする。

到達目標	DP	病理学到達度試験	実習到達度試験	実習試験	前期試験	実習スケッチ	その他	合計
1～3	4, 8	10	10			2	1	23
4～6	4, 8	10	10			1	1	22
7～9	4, 8			10	15	1	2	28
10～12	4, 8			10	15	1	1	27
合計		20	20	20	30	5	5	100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

講義毎に講義内容に関連する「プレテスト」（講義日までにWebClassに掲載される事前練習版と講義日の講義開始時に実施される本番版）と重要項目の「振り返り問題演習」を実施し到達度を確認する。実習スケッチは口頭試問・ディスカッションにより実習内容が十分理解されていることを確認の上検印を行う。口頭試問により理解が不十分と考えられる場合はレポート作成を指導する場合がある。

実習スケッチの検印数が全てのスケッチの全検印数の6割未満の場合、実習試験の受験資格を失う。

各講義・実習時間内に講義・実習内容に関して担当教員とのディスカッションの機会、及び学生の理解度を講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して確認する機会も必要に応じて設ける。演習問題を学生同士で教え合う時間を設けることで理解を深める機会も同様に設定する。

講義担当者は、学生参加型講義を実施するために、必要に応じて過去の国試問題等を演習用に準備し、クリッカー等を用いて、演習と解説の成果・習得の確認を行う。

各学生は講義内容を事前に予習した上で、各講義・演習および実習に臨むこと。講義終了後は、事前学修済み教材を活用し事後学修を必ず行うこと。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップパソコン proDesk600一式	G3 SF/CT	1	視聴覚用（学部授業他）機器	実習（講義）の資料提示用
オールインワン蛍光顕微鏡	BZ-X700	1	基礎実習・研究用機器	実習・研究における形態学的観察用
最高級写真顕微鏡一式	AX-80-65	1	基礎実習・研究用機器	標本・試料観察、講義資料作成
ノートパソコン一式	PC-MT1-H3	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成
顕微鏡デジタルカメラ一式	DP70-SET-A	1	基礎実習・研究用機器	標本・試料観察、講義資料作成
液晶プロジェクター	8125A001	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習資料の提示
パソコン一式	PC-MY11 F F E E F	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成
吊り下げスクリーン	AM-080V-042	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習資料の提示
ディスカッション顕微鏡（対向型）	BX51N-33-D0	1	基礎実習・研究用機器	標本・試料観察、講義資料作成
デスクトップパソコン一式	Mate MY24R/FE-5	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成
カラー複合機 Color image RUNNER	iR C3080	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成
デスクトップパソコン一式	Dc5800SF/CT	1	基礎実習専用機器	講義資料作成
カラー複合機imageRUNNER ADVANCE	C2218F-V 18PPM	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成
ノートパソコン	250G6	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成
デスクトップパソコン・Mate J ・一式	MJ28E/L-J SPL	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成
ディスプレイモニタ 24.1型	EV2456-BK	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習資料作成
デスクトップパソコン	Prodesk400 G6 SF/CT	1	視聴覚用機器 基礎実習機器	講義・実習資料作成

予防歯科学

責任者・コーディネーター	口腔医学講座（予防歯科学分野） 小林 琢也 教授				
担当講座（分野）	口腔医学講座（予防歯科学分野）				
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習		実習
期間	前期		前期	20.0時間	8.0時間
			後期	—	—

学修方針（講義概要等）

予防歯科学の内容は、個人の口腔保健管理のための臨床予防歯科学と集団の口腔保健管理のための口腔衛生学に大別される。前者の臨床予防歯科学では専門性の高い介入方法を用いて口腔疾患の予防手段を実施しその効果を評価する。代表的な口腔疾患の病因ならびにリスク因子を理解し、それぞれ疾患のそれら因子に対して科学的に効果的な予防手段を選択できるように学修する。実習では臨床における口腔保健管理の基本であるブラッシング指導の実施と評価法を学ぶ。後者の口腔衛生学では、第2学年時に「衛生学・公衆衛生学」で学修した集団に対する全身の健康管理に関する知識を口腔保健に適用することを目的に学修する。

教育成果（アウトカム）

個人予防歯科学の学修により、口腔疾患の病因とリスク因子を理解し、それらを科学的方法で評価することができるようになる。それにより臨床において、疾病発生前にリスクを評価し、適切な予防手段を提供することができるようになる。
口腔衛生学の学修により、地域の特性に応じた地域口腔保健活動計画の立案の方法を理解できるようになる。さらに、口腔疾患の数量化を修得することにより、介入の効果判定を科学的に行えるようになる。

（関連するディプロマポリシー：1、4、5）

到達目標（SB0s）

1. 齲蝕のリスクを列挙できる。
2. 齲蝕のリスク評価法を列挙できる。
3. 齲蝕のリスクに対する予防法を列挙できる。
4. フッ化物による齲蝕予防機序を説明できる。
5. 歯周病のリスクを列挙できる。
6. 歯周病のリスク評価法を列挙できる。
7. 歯周病のリスクに対する予防法を列挙できる。
8. その他の代表的な口腔疾患を列挙できる。
9. 周術期の口腔保健管理の意義を説明できる。
10. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを概説できる。
11. ライフステージ毎（母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健）の地域口腔保健活動の概要を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。

【事後学修】

講義後にポストテストを実施する。ポストテストで理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/10 (金)	4	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野) 岸 光男客員教授	齲蝕と歯周病の要因と リスク評価1 齲蝕と歯周病の要因と リスクを学ぶことによ りその発生要因とリス ク評価法を理解する。	1. 齲蝕の定義および発生要因を理解 する。 2. 歯周疾患の定義および発生要因を 理解する。 [PS-04、S0-02、D-5-1-1・2・4・5] 事前学修：教科書 p. 16-34、p. 35- 47, p. 57-68 を読んで疑問点を整 理しておくこと。
講義	4/17 (金)	4	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野) 岸 光男客員教授	齲蝕と歯周病の要因と リスク評価2 齲蝕と歯周病の要因と リスクをを学ぶことによ りその発生要因とリス ク評価法を理解す る。	1. 齲蝕活動性試験など齲蝕のリスク ファクターおよび早期発見のための 検査方法を説明できる。 2. 歯周病のリスクファクターおよび 早期発見のための検査方法を説明で きる。 [PS-04、S0-02、D-5-1-1・2・4・5] 事前学修：教科書 p. 148-153, p. 160-166 を読んで疑問点を整理して おくこと。
講義	4/24 (金)	4	衣斐美歩講師 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	口腔疾患の疫学指標 口腔疾患に固有の疫学 指標を学ぶことで歯科 疾患とリスクの分布頻 度を把握できるようにな る。	1. 歯科疫学調査の特性を概説でき る。 2. 齲蝕の疫学指標を列挙できる。 3. 歯周疾患の疫学指標を列挙でき る。 4. 口腔清掃度の疫学指標を列挙で きる。 5. その他の歯科疾患（歯のフッ素 症、不正咬合、など）の疫学指標を 列挙できる。 [PS-04、C-6-1-3、D-5-1-5] 事前学修：教科書 p. 148-153, p. 106-135 を読んで疑問点を整理して おくこと。
講義	5/1 (金)	4	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	齲蝕の予防：フッ化物 の応用、予防填塞 齲蝕予防のためのフッ 化物応用法と予防填塞 について理解する。	1. 自然界のフッ化物について概説で きる。 2. フッ化物の人体に対する為害作用 を説明できる。 3. フッ化物の齲蝕予防機序について 説明できる。 4. フッ化物の全身応用法、局所応用 法を列挙できる。 5. 予防填塞法の意義と術式を概説 できる。 [D-5-1-1・2・6] 事前学修：教科書 p. 48-56, p. 155-159 を読んで疑問点を整理して おくこと。

講義	5/15 (金)	4	岸 光男客員教授	口臭の予防、禁煙・食生活支援 口臭の診断・予防を学ぶことで口臭臨床の心身の健康への寄与を理解する。 禁煙・食生活支援と歯科疾患の関連を学ぶことで歯科疾患予防におけるそれら支援の意義を理解できる。	1. 口臭の分類を説明できる。 2. 口臭の原因を説明できる。 3. 口臭の予防と処置を説明できる。 4. WHOの簡易的禁煙支援方法を概説できる。 5. 口腔保健のための保健機能食品を列挙できる。 [D-5-1-1・4、E-5-2-6] 事前学修：教科書 p. 69-74, p. 167-171, p. 184-196を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/22 (金)	4	佐藤華子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	プラークコントロール、歯磨剤 プラークコントロールおよび歯磨剤について学習することにより、齲蝕、歯周病における予防法について理解する。	1. プラークコントロールの意義および種類について説明できる。 2. 口腔の不潔物に関する疫学指標について説明できる。 3. ブラッシング方法の種類とその特徴を説明できる。 4. 補助清掃用具の種類とその使用方法を説明できる。 5. 歯磨剤の種類を列挙できる。 6. 歯磨剤の基本成分および薬効成分を説明できる。 [D-5-1-2・3・6、E-5-2-1・2・3] 事前学修：教科書 p. 172-183, を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/29 (金)	4	杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	口腔粘膜疾患、その他の口腔疾患の予防 口腔粘膜疾患と周術期の口腔症状を学ぶことで歯科医療のニーズの多様性を理解できる。	1. 口腔粘膜疾患を列挙できる。 2. 周術期に生じる口腔症状と口腔管理の意義を概説できる。 3. その他の口腔疾患（Tooth wear、不正咬合、顎関節症）の要因と予防法を概説できる。 [D-6-2-1・3] 事前学修：教科書 p. 75-83, p. 197-203を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	6/5 (金)	4	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	母子歯科保健 母子歯科保健について学ぶことで、地域母子母子保健における歯科医師の役割が理解できる。	1. 母子歯科保健の意義と目的を説明できる。 2. 母子歯科保健活動の仕組みについて説明できる。 3. 乳幼児歯科健康診査について説明できる。 4. 1歳6か月児、3歳児歯科健康診査のう蝕罹患型と保健指導内容を説明できる。 [C-4-2-5・6、C-4-3-1、D-6-2-5] 事前学修：教科書（衛生学・公衆衛生学）p. 149-161, 教科書（口腔保健・予防歯科学）p. 225-244 を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	6/12 (金)	4	佐藤華子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	学校歯科保健 学校学校歯科保健について学ぶことで学校保健における歯科医師の役割が理解できる。	1. 学校歯科保健の意義と目的を概説できる。 2. 学校歯科保健活動の仕組みについて説明できる。 3. 学校歯科健康診断について説明できる。 4. 学校歯科医の職務を列挙できる。 [C-4-2-5・6、C-4-3-1、D-6-2-5] 事前学修：教科書（衛生学・公衆衛生学）p.162-178, 教科書（口腔保健・予防歯科学）p.245-264 を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	6/19 (金)	4	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野) 岸 光男客員教授	産業歯科保健 成人・高齢者歯科保健 産業歯科保健、成人・高齢者歯科保健について学ぶことで、職域ならびに居住地域における成人から高齢期の健康に対する歯科保健と歯科医師の役割が理解できる。	1. 産業歯科保健の意義を説明できる。 2. 職域における歯科保健管理について説明できる。 3. 歯周疾患検診を説明できる。 4. 特定保健指導における歯科医師の役割を説明できる。 5. 介護保険におけるチェックリストの口腔関連項目を列挙できる。 [C-4-2-5、C-4-3-1] 事前学修：教科書p.265-291を読んで疑問点を整理しておくこと。

実習日程表

実習	7/3 (金)	3 4	佐藤俊郎准教授 衣斐美歩講師 大石泰子助教 佐藤華子助教 杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野) 阿部晶子非常勤講師	歯科集団検診 歯科集団検診の実施を相互に体験することで歯科集団検診の意義と注意点（バイアス、実施リスク）が理解できる。	1. 歯科集団検診に必要な器具を列挙できる。 2. 歯科集団検診の基準統一について説明できる。 3. 歯科集団検診の手技を経験できる。 4. 歯科集団検診結果を集計できる。 [C-4-2-5・6、C-4-3-1、D-6-2-5] 事前学修：実習書の内容を良く確認しておくこと。実習書は実習1週間までに配布する。
実習	7/10 (金)	3 4	佐藤俊郎准教授 衣斐美歩講師 大石泰子助教 佐藤華子助教 杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	口腔清掃度評価 ブラッシング指導 口腔保健の必要性を学ぶことによって、口腔清掃状態を評価し、個人の口腔内状態に応じた口腔衛生指導を理解する。	1. 口腔清掃状態の指標を説明できる。 2. 相互実習でプラークの付着状況などの口腔清掃状態を評価できる。 3. 口腔保健の必要性を説明できる。 4. 個人に対応した口腔衛生指導を列挙できる。 5. 相互実習でブラッシング方法を説明し、実践させることができる。 [D-5-1-1～5] 事前学修：実習書の内容をよく確認しておくこと。実習書は実習1週間までに配布する。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	口腔保健・予防歯科学 第2版	山久喜久ほか 編	医歯薬出版	2023年
教	新編 衛生学・公衆衛生学 第1版 (第5刷)	安井利一、鳩崎義浩、岸 光男ほか 編	医歯薬出版	2025年

成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験 90%
平常点（ポストテスト、実習レポート） 10%

到達目標	DP	ポストテスト、実習レポート	定期試験	その他	合計
1～11	1、4、5	10	90		100
合計		10	90		100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

講義前にWebClassに資料を提示するので事前学習に利用すること。
非常勤講師担当以外の講義では講義前後に試験（プレテスト、ポストテスト）を行い、結果は次の講義前にフィードバックする。
提出されたレポートは、採点后、コメントをつけて返却する。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的

保存修復学

責任者・コーディネーター		(主) 歯科保存学講座（う蝕治療学分野） 野田 守 教授 歯科保存学講座（う蝕治療学分野） 浅野 明子 准教授		
担当講座（分野）		歯科保存学講座（う蝕治療学分野）		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	前期		前期 42.0時間 後期 —	42.0時間 —

学修方針（講義概要等）

保存修復学(operative dentistry)では、口腔治療の対象となる硬組織の各疾患の科学と病態、診査・診断・治療方法を講義・実習で段階的に把握する。

教育成果（アウトカム）

齲蝕の科学、病態（診査・診断）、接着、修復材料、齲蝕の治療の講義・実習で修復領域を修得する。初診から高頻度歯科臨床の流れとして臨床で求められる口腔治療学の、知識、態度、技能を学修することができる。履修内容に関するフィードバックは掲示・ウェブクラス等で周知する。

（関連するディプロマポリシー：1，2，4，6，9）

到達目標（SB0s）

1. 保存修復学の意義と目的について説明できる。
2. 硬組織疾患の治療の特徴について説明できる。
3. 硬組織疾患治療の基本的な手技を実施できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。

【事後学修】

講義、実習で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/7 (火)	2	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	総論・歯の機能・感染 対策 保存修復学の概念、歯 の機能、感染対策につ いて説明できる。	1. 保存修復学の概念と目的を説明で きる。 2. 保存修復学の歴史、変遷を説明で きる。 3. 接着性修復と非接着性修復を説明 できる。 4. 歯の機能と加齢に伴う変化を説明 できる。 5. 感染予防対策を説明できる。 [PS-04、PS-09、B-2-1、C-4-1-2、 D-5-1-1・2・4] 事前学修：歯科理工学の関連知識、 保存修復学第1章Ⅰ、Ⅱ、第2章Ⅲを 読んで理解しておくこと。所要時間 30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
講義	4/7 (火)	3	野田 守教授 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	Cariology 1 病理・組織学的特徴 エナメル質齲蝕、象牙 質齲蝕、セメント質齲 蝕について説明できる ようになる。	1. 歯の構造と機能、加齢に伴う変化 を説明できる。 2. エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕、 セメント質齲蝕の発症機序、病態、 進行について病理学的に説明でき る。 [A-2-4-8、D-3-2-1、D-3-2-5、 D-5-2-1-1] 事前学修：保存修復学第1章Ⅲ、第4 章Ⅰ、Ⅱを読み、疑問点を抽出して おく。また事前に提示されたキー ワードについて教科書とその他の参 考書を含めて調べ、予習しておく。 所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。

講義	4/7 (火)	4	野田 守教授 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	Cariology 2 MID (Minimal Intervention Dentistry)、齲蝕除去の理論について説明できるようになる。	1. 齲蝕歯質において残すべき歯質について説明できる。 2. 急性齲蝕と慢性齲蝕における感染歯質除去理論の違いを説明できる。 3. 齲蝕の検査法について説明できる。 4. エナメル質齲蝕の処置法を説明できる。 5. 象牙質齲蝕の処置法を説明できる。 6. 高齢者における根面う蝕を説明できる。 7. MID (Minimal Intervention Dentistry) について説明できる。 [D-3-2-1、D-5-1-2、D-5-1-4、D-5-1-5、D-5-2-1-1、D-5-2-1-2、E-3-1-2] 事前学修：保存修復学第4章Ⅰ、Ⅱを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/21 (火)	2 3	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	非齲蝕性硬組織疾患 非齲蝕性硬組織疾患の病態、対処法を説明できる。	1. 非齲蝕性硬組織疾患を説明できる。 2. 変色歯を説明できる。 3. 象牙質知覚過敏症を説明できる。 4. 歯の漂白法について説明できる。 [D-5-2-1-1、E-3-1-2] 事前学習：保存修復学第4章Ⅲを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/21 (火)	4	浅野明子准教授 大塚泰寛助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	硬組織の検査法、硬組織の切削 硬組織の検査法、硬組織切削の手技、器具を説明できるようになる。	1. 硬組織の検査法を説明できる。 2. 硬組織の切削法を列挙できる。 3. 手用切削器具を説明できる。 4. 回転切削器械を説明できる。 5. バー・ポイントを説明できる。 6. 歯科用レーザーによる硬組織切削について説明できる。 7. 音波、超音波切削について説明できる。 8. 齲蝕の化学的溶解について説明できる。 [PS-07、B-3-1、B-3-2、D-2-2-1] 事前学修：第4章IVを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/12 (火)	2	浅野明子准教授 大塚泰寛助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	象牙質・歯髄複合体の保護 象牙質・歯髄複合体について説明できるようになる。 アマルガム修復とその除去について説明できるようになる。	1. 象牙質・歯髄複合体の保護の目的を説明できる。 2. 歯髄障害の要因について説明できる。 3. 象牙質・歯髄保護法について説明できる。 [D-5-2-1-5] 事前学修：第4章VIIを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/19 (火)	2	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	窩洞の分類1 窩洞形態に関する諸条件について説明できるようになる。窩洞の名称、分類について説明できるようになる。	1. 窩洞の分類を説明できる。 2. 窩洞の具備すべき条件を説明できる。 [D-5-2-1-6] 事前学修：保存修復学第4章V，VIを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/26 (火)	2	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	窩洞の分類2 窩洞形態に関する諸条件について説明できるようになる。窩洞の名称、分類について説明できるようになる。	1. メタルインレー窩洞をデザインできる。 2. 材料と窩洞形態の特徴を説明できる。 [D-5-2-1-3、D-5-2-1-6] 事前学修：保存修復学第4章V，VIを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
演習	6/2 (火)	2	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	中間試験	1. これまでに学んだことを規定時間内に説明できる。
講義	6/10 (水)	2	浅野明子准教授 大塚泰寛助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	修復の補助法 修復の補助法について説明できるようになる。	1. 歯間分離について説明できる。 2. 歯肉圧排について説明できる。 3. 仮封の目的、種類、および特徴を説明できる。 4. 隔壁の目的、種類、および特徴を説明できる。 5. クサビの目的、種類、および特徴を説明できる。 6. 歯肉圧排に用いる器具の特徴を説明できる。 7. リテーナーについて目的、種類、および特徴を説明できる。 8. 防湿法についての歯科治療について説明できるようになる。 9. 除痛法について説明できる。 [D-1-2-1-1、D-1-2-1-2、D-5-2-1-4] 事前学修：第4章VIIIを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/10 (水)	3	野田 守教授 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	接着歯学 レジンの接着システム について説明できるよ うになる。	1. エナメル質、象牙質それぞれの 接着について説明できる。 2. ハイブリッド層（樹脂含侵層） について説明できる。 3. 各種接着システムのメカニズム の違いについて説明できる。 4. 各種プライマーについて説明でき る。 [B-2-1、B-2-3、D-5-2-1-3] 事前学修：保存修復学第5章Ⅰ、Ⅱ を読み、疑問点を抽出しておく。ま た事前に提示されたキーワードにつ いて教科書とその他の参考書を含め て調べ、予習しておく。所要時間30 分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
講義	6/10 (水)	4	野田 守教授 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	ガラスアイオノマー修 復、アマルガム修復 修復用のガラスアイオ ノマー、アマルガムに ついて説明できる。	1. 従来型、レジン添加型ガラスア イオノマーセメントの硬化機序を説 明できる。 2. 酒石酸について説明できる。 3. 感水、離水について説明でき る。 4. グラスアイオノマーセメントの 利点、欠点について説明できる。 5. グラスアイオノマーセメントの 歯質との接着について説明できる。 6. グラスアイオノマーセメントと 他セメントとの比較ができる。 7. グラスアイオノマーセメント修 復の術式について説明できる。 8. グラスアイオノマーセメントの 適応症、禁忌症について説明でき る。 9. アマルガム修復の取扱について説 明できる。 [B-2-1、B-2-3、D-5-2-1-3] 事前学修：保存修復学第5章Ⅲ、Ⅳ を読み、疑問点を抽出しておく。ま た事前に提示されたキーワードにつ いて教科書とその他の参考書を含め て調べ、予習しておく。要時間30分 程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。

講義	6/23 (火)	2	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野) コンポジットレジン修復1 コンポジットレジンの組成と特徴について説明できるようになる。	1. MMA系レジンの組成と特徴を説明できる。 2. 化学重合型および光重合型コンポジットレジンの組成と特徴を説明できる。 3. 化学重合型および光重合型コンポジットレジンの重合様式を説明できる。 4. 可視光線照射器（ハロゲン照射器、LED照射器）について説明できる。 5. 材料の化学的構造を理解し図示できる。 6. 修復用コンポジットレジン进行分类できる。 7. フィラーについて説明できる。 8. コンポジットレジンの問題点と対処法について説明できる。 与えられたテーマおよび問題に対してインターネットなどを利用して、情報収集を行い、発表出来るようにまとめる。 [B-2-1、B-2-3、D-5-2-1-3] 事前学修：保存修復学第5章Ⅰ、Ⅱを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/23 (火)	3	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野) コンポジットレジン修復2 コンポジットレジンの術式、適応症、既往症について説明できるようになる。	1. コンポジットレジン修復の術式を説明できる。 2. コンポジットレジン修復の適応症を説明できる。 3. コンポジットレジン修復の禁忌症を説明できる。 4. トンネル修復について説明できる。 5. 可視光線照射器（ハロゲン照射器、LED照射器）について説明できる。 [B-2-1、B-2-3、D-5-2-1-3] 事前学習：保存修復学 第5章Ⅰ、Ⅱを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/23 (火)	4	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野) 間接修復の合着、接着 セメント 歯科用セメントの基礎 的物性の評価法につい て説明できるようにな る。	1. セメントの種類、特徴および用 途を説明できる。 2. セメントのJIS規格を説明でき る。 3. リン酸亜鉛セメントの特徴を説 明できる。 4. ポリカルボキシレートセメント の特徴を説明できる。 5. EBAセメントの特徴を説明でき る。 6. レジン系セメントの特徴を説明 できる。 7. その他の歯科用セメントを分類 できる。 8. 合着用セメントの歯髄刺激を説 明できる。 [B-2-1、B-2-3、D-5-2-1-3] 事前学修：保存修復学第6章Ⅰ、Ⅱ を読み、疑問点を抽出しておく。ま た事前に提示されたキーワードにつ いて教科書とその他の参考書を含め て調べ、予習しておく。要時間30分 程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
講義	6/30 (火)	2	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野) 間接修復メタルイン レー メタルインレー修復に ついて説明できるよう になる。	1. メタルインレー窩洞の形成理論を 説明できる。 2. 鑄造修復の診療室および技工操 作の流れを説明できる。 3. 仮封の目的、種類、および特徴 を説明できる。 4. 鑄造欠陥について説明できる。 5. メタルインレー修復後の不快事 項について説明できる。 [B-2-1、B-3-1、D-5-2-1-7] 事前学修：歯科理工学の関連領域、 保存修復学第6章Ⅳを読み、疑問点 を抽出しておく。また事前に提示さ れたキーワードについて教科書とそ の他の参考書を含めて調べ、予習し ておく。要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。

講義	6/30 (火)	3	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野) コンポジットレジンインレー修復、セラミックインレー修復、CAD/CAM修復、ベニア修復 間接法による審美修復の特徴と術式について説明できるようになる。	1. レジンインレー修復の術式、特徴を説明できる。 2. レジンインレーの窩洞形成について説明できる。 3. クレビスについて説明できる。 4. コンポジットレジン修復とレジンインレー修復について比較、説明できる。 5. レジンコーティング法について説明できる。 6. セラミックインレーについて説明できる。 7. CAD/CAMについて説明できる。 8. ベニア修復の特徴について説明できる。 9. ベニア修復の適応症について説明できる。 10. 術後の経過と管理を説明できる。 [B-2-1、B-3-1、B-3-4、D-5-2-1-7] 事前学修：保存修復学 第6章V、VI、VIIを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/30 (火)	4	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野) 高齢者・補修修復 保存修復における高齢者の特徴と有病者の修復法について説明できるようになる。修復治療の術後管理について説明できるようになる。	1. 高齢者の歯の特徴を説明できる。 2. 高齢者の齲蝕について説明できる。 3. 高齢者の修復法について説明できる。 4. 有病者の修復法について説明できる。 5. 切削時の有病者への配慮を説明できる。 6. 在宅医療における歯科治療について説明できる。 7. 補修修復について説明できる。 8. 修復治療後のメンテナンスについて説明できる。 [CS-06、C-4-1-2、D-5-1-4、D-5-1-5、D-5-2-1-8] 事前学修：第7章、第8章を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/21 (火)	2	野田 守教授 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野) 上松丈裕非常勤講師	硬組織疾患の処置～ライフステージ・地域に応じた包括的なマネジメント～ 地域医療、ライフステージにあわせた硬組織治療について説明できる。	1. 患者のライフステージや生活背景を考慮した硬組織疾患のマネジメントの概念を説明できる。 2. 地域歯科医療における硬組織疾患の予防および管理を説明できる。 3. 地域包括ケアにおける歯科医療の役割を説明できる。 [D-5-1-4、D-5-2-1、D-6全般] 事前学修：第4章I、第7章を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	8/18 (火)	2	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	修復臨床ケースから学ぶPBL形式 提示された修復症例に対する的確な診断、治療法の選択、治療に用いる器具を用意できるようになる。	1. 提示された症例に対して、的確な診査ができる。 2. 提示された症例に対して的確な診断ができる。 3. 患者背景も考慮した治療法を選択できる。 4. 治療に用いる器具を用意できる。 与えられたテーマおよび問題に対してインターネットなどを利用して、情報収集を行い、発表出来るように纏めておく。 [D-5-2-1全般] 事前学修：有病者に対する歯科治療についてインターネットなどで調べ予習しておく。要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習日程表

実習	4/14 (火)	2 3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	ラバーダム防湿① ラバーダム防湿② V級コンポジットレジン、 ガラスアイオノマーセメント充填 ラバーダム防湿の基本的 手技, 応用的なラバー ダム防湿の手技を身に 着けたうえで, コンポ ジットレジン、ガラス アイオノマーセメント に適した窩洞形成を行 い、充填操作ができる ようになる。	1. 1歯のラバーダム防湿を行うことができる。 2. 多数歯ラバーダム防湿を行うことができる。 3. 上顎前歯にV級コンポジットレジン窩洞を形成、充填することができる。 4. 下顎前歯部にV級ガラスアイオノマーセメント窩洞を形成、充填できる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-1-1] 事前学習：保存修復学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	4/28 (火)	1 2 3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	Ⅲ・Ⅳ級コンポジットレジン修復 シュミレーターで上顎前歯にⅢ級・Ⅳ級のコンポジットレジン充填ができるようになる。	1. 上顎前歯にⅢ、Ⅳ級コンポジットレジン充填を行うことができる。 2. 欠損部の解剖学的形態を回復することができる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-1-2] 事前学習：保存修復学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	6/9 (火)	2 3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	Ⅱ級コンポジットレジン修復 シミュレーターで上顎 小臼歯のⅡ級コンポ ジットレジン充填がで きるようになる。	1. 上顎小臼歯にⅡ級コンポジット レジン窩洞を形成できる。 2. Ⅱ級コンポジットレジン充填時 に隔壁を設置することができる。 3. Ⅱ級コンポジットレジン充填を 行うことができる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E- 5-1、E-5-3-1-2] 事前学習：保存修復学, 実習書を読 み、疑問点を抽出しておく。また事 前に提示されたキーワードについて 教科書とその他の参考書を含めて調 べ、予習しておく。所要時間30分程 度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
実習	6/16 (火)	2 3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	間接覆髄、補修、Ⅰ級 コンポジットレジン修 復 歯髄保存療法を行うこ とができる。補修修復 を想定したⅤ級修復が できるようになる。ま た、Ⅰ級コンポジット レジンを審美的に配慮 した形態を付与でき るようになる。	1. ラバーダム防湿下で人工歯を用 いて齲蝕除去を行い、間接覆髄の手 技を実施できる。 2. 補修修復を想定したⅤ級修復が できる。 3. Ⅰ級コンポジットレジン の窩洞形成と修復ができる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E- 5-1、E-5-3-1-1] 事前学習：保存修復学, 実習書を読 み、疑問点を抽出しておく。また事 前に提示されたキーワードについて 教科書とその他の参考書を含めて調 べ、予習しておく。所要時間30分程 度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
実習	7/14 (火)	1 2	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	Ⅱ級メタルインレー修 復 下顎大臼歯にⅡ級メタ ルインレー窩洞形成が できるようになる。	1. ボックス型Ⅱ級メタルインレー の窩洞形成ができる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E- 5-1、E-5-3-1-5] 事前学習：保存修復学, 実習書を読 み、疑問点を抽出しておく。また事 前に提示されたキーワードについて 教科書とその他の参考書を含めて調 べ、予習しておく。所要時間30分程 度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。

実習	7/14 (火)	3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	Ⅱ級レジニンインレー修復 シュミレーターでレジ ニンインレー、セラミッ クインレーの窩洞形成 を行うことができるよ うになる。	1. レジンインレー窩洞を形成できる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-1-5] 事前学習：保存修復学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	7/21 (火)	3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	模型製作 歯内療法の実習に使用する模型の作成を行うことができるようになる。	1. 適切な粉液比で石膏を練和し、石膏模型を製作することができる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1] 事前学習：歯内療法学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	8/18 (火)	3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	実習試験 与えられた臨床課題をシュミレーターで実施できるようになる。	1. 与えられた課題を時間内に達成できる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-1-1] 事前学習：保存修復学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	保存修復学 7版	千田彰ほか編	医歯薬出版	2019年
教	保存修復学21 7版	山本一世ほか監修	永末書店	2026年
教	保存修復クリニカルガイド 第2版 Web動画付き	千田彰ほか編	医歯薬出版	2025年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義（65点以上で合格）：講義レポート、中間試験、定期試験の総合評価

実習（65点以上で合格）：実習（態度、知識、技能）の総合評価

講義と実習が両者とも合格した場合のみ、合格とする。

備考

実習：すべての実習に態度良好で出席すること、すべての提出物を提出すること、すべての検印を受けることを必須とし、それらを全て守れない場合は、原則として実習評価不可とする。

本実習では、実習に関する知識（実習内容を理解することができる）、技術（実習内容に則した手技ができる）、積極性（実習意欲があり積極的に行動することができる）、礼節（礼儀正しい話し方ができ責任ある行動ができる）を評価する。

講義・実習：講義、実習ともに欠席、遅刻に応じて減点する。

再試は原則として各領域65点以上を合格とする。

到達目標	DP	講義レポート	実習	中間試験	定期試験	合計
1,2	1,4,9	10		20	50	80
3	2,6		20			20
合計		10	20	20	50	100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

アクティブ・ラーニングを実施するために、TxADの各講義・実習ではグループワークを取り入れ、伝える力の強化を図るとともに、各講義・実習時間内に扱う各内容に関して担当教員とのディスカッションの機会を設ける。学生の理解度を必要に応じて講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して逐次確認する。講義資料は必要に応じてWebClassにアップロードする。

学生参加型講義を実施するために、各担当者は過去の国試問題をインターネット上の事前学習教材（DESSお試し演習）として演習前日までに設定する。各学生は事前学修教材を事前に予習した上で、各講義・演習および解説講義に臨むこと。各実施予定日には講義室でインターネットに接続できるよう予め接続可能なPC、タブレット等を準備しておくこと。講義終了後は、事前学修済み教材を活用し事後学修を必ず行なうこと。

小テストや中間試験を分析してさらなる学修が必要な項目について、講義時間内あるいは掲示にてフィードバックを行う。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的

補綴学総論

責任者・コーディネーター		歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 小林 琢也 教授		
担当講座（分野）		歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、冠橋義歯・口腔インプラント学分野）		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	前期/後期		前期 14.0時間	—
			後期 —	14.0時間

学修方針（講義概要等）

歯科補綴学とは、歯・口腔・顎・その関連組織の先天性欠如、後天的欠損、喪失や異常を人工装置を用いて修復し、喪失した形態または障害された機能を回復するとともに、継発疾病の予防を図るために必要な理論と技術を考究する学問である。

補綴学総論では、歯質、歯列、顎骨などの欠損や形態異常を修復し、失われた形態・機能・審美性の回復を図るための様々な補綴装置について、また、機能回復の為に必要な顎運動と顎運動を再現する方法について修得することを目的に学修する。

教育成果（アウトカム）

補綴学総論の講義では、歯質、歯列、顎骨などの欠損や形態異常に対して、失われた形態・機能・審美性の回復を図るための様々な補綴装置の特徴と概念について学修する。また、口腔機能回復の基礎となる、正常な顎運動、咬合様式について学修する。それに加え、顎運動と咬合を生体外で再現するための咬合器と咬合器装着方法について学修する。

（関連するディプロマポリシー：1, 4, 6）

到達目標（SB0s）

1. 加齢、歯の喪失に伴う顎骨と顎関節の形態変化を理解している。A-2-4-7
2. 歯、歯周組織、咀嚼機能、嚥下機能の加齢変化を理解している。A-2-4-8
3. 頸部を構成する骨と関節を理解している。A-3-2-2
4. 頭頸部を構成する筋を理解している。A-3-2-3
5. 吸啜、咀嚼、嚥下機能を担う筋の構造と機能、支配神経を理解している。A-3-2-4
6. 顎関節の構造と機能を理解している。A-3-2-8
7. 顎骨、顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を理解している。D-5-3-2-13
8. 固定性補綴装置の意義と具備条件を理解している。D-5-3-1-1
9. 固定性補綴装置の種類、特徴及び製作法(CAD/CAMを含む)を理解している。D-5-3-1-2
10. 無歯顎及び歯列欠損に伴う障害の種類と病態を理解している。D-5-3-2-1
11. 可撤性義歯の種類、目的、意義及び適応症を理解している。D-5-3-2-2
12. 口腔インプラントの種類、特徴、目的及び意義を理解している。D-5-3-3-1
13. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を理解している。D-5-3-1-11, D-5-3-2-6

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】

シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、教科書を用いて調べ、事前学修として疑問点を整理しておくこと。各講義に対する事前学修の時間は平均30分を要する。

【事後学修】

講義後にポストテストを実施する。ポストテストで理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各講義に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/8 (水)	4	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野) 今一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	歯科補綴学総論1 (歯の欠損に伴う顎口腔の変化と補綴治療の目的) 歯の欠損に伴う顎口腔の変化に対する補綴歯科治療の目的について理解する。	1. 加齢、歯の喪失に伴う顎骨と顎関節の形態変化を理解している。 2. 歯、歯周組織、咀嚼機能、嚥下機能の加齢変化を理解している。 7. 顎骨、顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を理解している。 a) 補綴歯科治療の目的、臨床的意義について説明できる。 b) 補綴歯科治療における診察・診断について説明できる。 c) 歯の欠損に伴う顎口腔の変化について説明できる。 d) 歯の欠損を生じる因子について説明できる。 [A-2-4-7] [A-2-4-8] [D-5-3-2-13] 事前学修：歯の欠損に伴う顎口腔の変化に対する補綴歯科治療の目的について、教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/22 (水)	4	今一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	歯科補綴学総論2 (クラウンブリッジの特徴) クラウンおよびブリッジによる補綴歯科治療の特徴を理解する。	8. 固定性補綴装置の意義と具備条件を理解している。 9. 固定性補綴装置の種類、特徴及び製作法(CAD/CAMを含む)を理解している。 a) 歯の欠損様式と補綴装置の選択について説明できる。 b) クラウンブリッジによる補綴歯科治療の特徴を説明できる。 [D-5-3-1-1] [D-5-3-1-2] 事前学修：クラウン及びブリッジによる補綴歯科治療の特徴について、教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/20 (水)	4	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	歯科補綴学総論3 (可撤性補綴装置の特徴) 可撤性補綴装置（全部床義歯、部分床義歯）による補綴歯科治療の特徴を理解する。	10. 無歯顎及び歯列欠損に伴う障害の種類と病態を理解している。 11. 可撤性義歯の種類、目的、意義及び適応症を理解している。 a) 歯の欠損様式と補綴装置の選択について説明できる。 b) 可撤性補綴装置（全部床義歯、部分床義歯）による補綴歯科治療の特徴を説明できる。 [D-5-3-2-1] [D-5-3-2-2] 事前学修：可撤性補綴装置による補綴歯科治療の特徴について、教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/17 (水)	4	今一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	歯科補綴学総論4 (デンタルインプラントの特徴) デンタルインプラントによる補綴歯科治療の特徴を理解する。	12. 口腔インプラントの種類、特徴、目的及び意義を理解している。 a) 歯の欠損様式と補綴装置の選択について説明できる。 b) デンタルインプラントによる補綴歯科治療の特徴を説明できる。 [D-5-3-3-1] 事前学修：デンタルインプラントによる補綴歯科治療の特徴について、教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/8 (水)	4	今一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野) 小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	歯科補綴学総論5 (顎口腔の形態と機能) 顎口腔の形態と機能及び正常咬合とその種類について理解する。	3. 頸部を構成する骨と関節を理解している。 4. 頭頸部を構成する筋を理解している。 5. 吸啜、咀嚼、嚥下機能を担う筋の構造と機能、支配神経を理解している。 a) 顎口腔の解剖学的形態について説明できる。 b) 顎口腔の組織学的形態について説明できる。 c) 顎口腔の機能について説明できる。 d) 正常咬合の種類とその概念について説明できる。 [A-3-2-2] [A-3-2-3] [A-3-2-4] 事前学修：顎口腔の形態と機能及び正常咬合とその種類について、教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/22 (水)	4	今一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野) 小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	歯科補綴学総論6 (下顎位と下顎運動) 下顎位、下顎運動を理解する。	6. 顎関節の構造と機能を理解している。 13. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を理解している。 a) 補綴歯科治療に必要な下顎位について説明できる。 b) 下顎運動の特徴を説明できる。 c) ポッセルト図形とその各点について説明できる。 [A-3-2-8] [D-5-3-1-11] [D-5-3-2-6] 事前学修：顎口腔の形態と機能及び正常咬合とその種類について、教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	8/19 (水)	4	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野) 今一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	歯科補綴学総論7 (咬合器、顔弓記録、チェックバイト記録) 咬合器の分類と調節機構を理解する。 顔弓の臨床的意義と、咬合器装着方法、顎路角調節方法を理解する。	13. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を理解している。 a) 顔弓と顔弓記録の基準点を説明できる。 b) 顔弓を使用する臨床的意義を説明できる。 c) 調節性咬合器と非調節性咬合器について説明できる。 d) アルコン型とコンダイラー型咬合器について説明できる。 e) 上下顎模型の装着方法を説明できる。 6) 顎路角の調節方法を説明できる。 [D-5-3-1-11] [D-5-3-2-6] 事前学修：咬合器と咬合器装着方法及び顎路調節の方法について、教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
----	-------------	---	---	--	--

実習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
実習	12/10 (木)	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野) 今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	歯科補綴学総論実習①② (概形印象採得と研究用模型の製作) 概形印象採得と研究用模型の製作の方法を相互実習にて習得、概形印象採得と研究用模型の製作の手技を理解する。	8. 固定性補綴装置の意義と具備条件を理解している。 9. 固定性補綴装置の種類、特徴及び製法法(CAD/CAMを含む)を理解している。 10. 無歯顎及び歯列欠損に伴う障害の種類と病態を理解している。 11. 可撤性義歯の種類、目的、意義及び適応症を理解している。 a) 概形印象採得ができる。 b) 研究用模型の製作ができる。 [D-5-3-1-1] [D-5-3-1-2] [D-5-3-2-1] [D-5-3-2-2] [E-5-3-4-2-3] 事前学修：概形印象採得と研究用模型の製法法の方法について、教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	12/17 (木)	2 3	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一郎助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野) 今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	歯科補綴学総論実習③④ (咬合と下顎運動の検査、チェックバイト、顔弓記録) 咬合と下顎運動の検査の方法を習得し、チェックバイトと顔弓記録の手技を理解する。	6. 顎関節の構造と機能を理解している。 13. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を理解している。 a) 咬合と下顎運動の検査ができる。 b) チェックバイトが行える。 c) 顔弓記録が行える。 [E-2-2-4] [E-5-3-4-1-5] [E-5-3-4-2-5] 事前学修：下顎位の種類や下顎運動の特徴、チェックバイト、顔弓記録、フェイスボウトランスファーの意義と目的、及び手法について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	12/17 (木)	4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一郎助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野) 今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	歯科補綴学総論実習⑤ (咬合器装着) 咬合器装着の方法を習得し、咬合器装着の手技を理解する。	13. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を理解している。 a) 模型を調節性咬合器へ装着できる。 [E-5-3-4-2-6] 事前学修：下顎位の種類や下顎運動の特徴、チェックバイト、顔弓記録、フェイスボウトランスファー、咬合器装着の意義と目的、及び手法について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実 習	12/24 (木)	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一郎助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有 床義歯・口腔リハビ リテーション学分 野) 今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (歯科補綴学講座 冠 橋義歯・口腔インプ ラント学分野)	歯科補綴学総論実習⑥ ⑦ (半調節性咬合器の顎 路調節) 咬合と下顎運動の検査 の方法を習得し、半調 節性咬合器の顎路調節 の手技を理解する。	6. 顎関節の構造と機能を理解して いる。 13. 平均値咬合器及び調節性咬合器 の種類と特徴を理解している。 a) 咬合と下顎運動の検査ができ る。 b) 半調節性咬合器の調節機構の説 明ができる。 c) 半調節性咬合器の顎路調節がで きる。 [E-5-3-4-2-6] 事前学修：下顎位の種類や下顎運動 の特徴、半調節性咬合器の特徴と顎 路調節の意義、目的、及び手法につ いて教科書よ実習書を用いて調べ、 疑問点を整理しておくこと。所要時 間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解 が不十分であった箇所について、講 義資料や教科書及び実習書を用いて 知識を整理しておくこと。所要時間 45分程度。
--------	--------------	--------	--	--	---

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	クラウンブリッジ補綴学 第7版	小川匠ほか編	医歯薬出版	2026年
教	無歯顎補綴治療学 第4版	市川哲雄ほか編	医歯薬出版	2022年
教	よくわかる口腔インプラント学 第4版	赤川安正ほか著	医歯薬出版	2023年

成績評価方法・基準・配点割合等

本科目は、4年次までに履修する冠橋義歯学、全部床義歯補綴学（Ⅰ）、全部床義歯補綴学（Ⅱ）及び部分床義歯補綴学を学ぶための基礎的知識を教授するため、補綴学総論としての試験は行わず、冠橋義歯学及び全部床義歯補綴学（Ⅰ）の成績を用いて、成績評価を行う。本科目の最終評価点は、冠橋義歯学を70%、全部床義歯補綴学（Ⅰ）を30%として算出する。

到達目標	DP	定期試験	その他	合計
1～13	4	100		100
合計		100		100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

【フィードバック】
 ・非常勤講師担当以外の講義では講義後に試験（ポストテスト）を行い、試験に関する解説は、次の講義時にフィードバックする。
 ・提出されたレポートは、採点后、コメントをつけて返却する。

【アクティブラーニング】
 講義/演習日程表の「ユニット名 内容」の欄に別途記載済み。

【ICT】
 講義前にWebClassに資料を提示するので事前学習に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップコンピュータ	MDV-AGG9210X	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
デスクトップパソコン	Inspiron580S	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
ノートパソコン	MC516J/A Education	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
一眼レフカメラ・EOS	KISSX5 LKIT	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
ノートパソコン・VAIO 一式	VPCZ21AJ	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
内視鏡用ビデオシステム	PSV-4000	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
バイトアイ 咬合接触面測定器	BE- I	1	臨床実習用機器	咬合接触状態の可視化および観察、分析のため
ノートパソコン一式	PCLZ750TSB (SSS)	1	基礎実習・研究用機器	授業のデモ及び研究データ解析用

ジルコニア焼結用ファーネス一式 (KavoEverestTherm)	4180	1	基礎実習・臨床実習用機器	ジルコニアフレーム（実習用）製作用
標準カラーカメラユニット・一式	VW-300C	1	基礎実習・臨床実習用機器	相互実習時の口腔内写真撮影用
歯科用拡大鏡・サージタルルーペ・オー クリレーダー	EVK450	1	基礎実習・臨床実習用機器	拡大視野下での形成、技工のため
コピー機・ミニコピア	DPC995	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
10.2インチiPad Wi-Fiモデル	MK2P3J/A	1	視聴覚用機器	学生講義、研究用

歯科放射線学

責任者・コーディネーター		口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野） 小林 琢也 教授		
担当講座（分野）		口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野）		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	通期		前期 28.0時間	—
			後期 18.0時間	10.0時間

学修方針（講義概要等）

歯科診療に必要な放射線の基礎的、臨床的知識ならびに放射線学的診断能力の修得を目的に学修する。事前、事後の自主学修を習慣化し、実習においては自身の考えを積極的に意見し、グループ内での意見交換、討論を通じて疾患についての理解を深め、画像診断の基本的事項を学修する。

教育成果（アウトカム）

講義：放射線の物理的な性質と生物的影響および放射線防護の専門的基礎的知識を修得し、放射線を有効かつ安全に扱うことができるようになる。各種画像検査の特徴と画像診断の基礎を学修し、口腔領域の画像所見上の正常像と異常像とを鑑別できるようになる。放射線治療の基礎とその応用を理解し、口腔領域の悪性腫瘍の放射線治療および放射線影響を発症した治療患者の口腔管理について理解する。

実習：解剖学で学修した知識を生かし、放射線画像上の解剖学的構造を理解し修得する。放射線読影の基本を理解し、画像診断の基本的技能を修得する。

（関連するディプロマポリシー：1、2、6、8）

到達目標（SB0s）

【前期】

- 1) 放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。
- 2) 放射線の人体（胎児を含む）への影響の特徴（急性影響と晩発影響等）を説明できる。
- 3) 放射線防護の基準と方法を列挙できる。
- 4) エックス線画像の形成原理（画像不良の原因を含む）を列挙できる。
- 5) エックス線撮影装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。
- 6) 口内法エックス線検査の種類と適応及びパノラマエックス線検査の適応を選択できる。
- 7) 口内法エックス線画像とパノラマエックス線画像における正常像を説明できる。
- 8) 顎顔面頭蓋部エックス線検査の種類と適応を列挙できる。
- 9) 造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(CT)、歯科用コーンビームCT(CBCT)、磁気共鳴撮像法(MRI)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。

【後期】

- 10) 口内法エックス線撮影の方法について説明できる。
- 11) パノラマエックス線撮影の方法について説明できる。
- 12) CBCT、CT、MRIの特徴を理解し、適応疾患を列挙できる。
- 13) 各種検査画像の正常解剖像を説明できる。
- 14) 歯原性嚢胞・腫瘍を列記し、その画像所見上の特徴を説明できる。
- 15) 骨折・炎症・顎関節疾患について分類し、画像診断できる。
- 16) 悪性腫瘍を示唆する特徴的画像所見を列挙し、画像上で所見を指摘できる。
- 17) 唾液腺疾患について弁別し、列挙できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

1) 事前学修：読み取り学修（文字を読む力を補いつつ、新しい知識に触れる機会を作る）
学生はシラバスに記載されている授業内容を確認し、授業を受ける前に事前の予習を行う。予習はシラバスに記載されている内容に該当する教科書の読み取りと事前に配布する「授業まとめノート」の当該事前学修ページを予習する。授業まとめノートは講義開始の1週間までに配布する。教科書読み取りと事前学修ページには1限分（90分）につき**10分**を想定する。

2) 事前学修：知識整理学修（理解の不足している部分を認識する）

読み取り学修で得た知識を確認するためにMicrosoft Forms上の演習問題に解答し、間違えた選択肢について再度教科書および授業まとめノートで確認する。演習に**5分**、間違えた選択肢の学修に**5分**を想定する。Formsへのアクセス方法はWebClass上に提示するので手順に従い実施する。

その他の各論

事前読み取り、事前学修ページの予習を終えたのちWebClass上に提示する「予習プリント」（穴埋め、記述、多肢選択）を行う。予習プリントは週ごとに作成し、講義前週の金曜日までにWebClass上にアップロードする。予習プリントは1限分（90分）あたり**10分**を想定する。

予習プリントの解答には教科書読み取りと授業まとめノートの事前学修ページを行った知識のみで行うことを原則とする。予習プリントの正答は授業前日にWebClassにアップロードし、各自自己採点し授業で知識あるいは理解不足箇所を認識する。

3) 事後学修：知識定着学修（短期間、短時間の繰り返しで知識の長期定着を目指す）

講義受講後にMicrosoft Forms上の演習問題に再度解答し、理解度を確認する。選択を間違えた場合は表記される解説を確認するとともに、再度教科書および授業まとめノートを用い、知識を整理する。1限分（90分）あたり**15分**を想定する。

講義終了後WebClassに「復習プリント」をアップロードする。学生は復習プリントをダウンロードし、自筆にて回答し、講義終了後6日以内にwebclassでアップロードする。提出はPDF書類としてファイル名は「学籍番号_3D〇〇〇〇（氏名）_〇〇〇〇（講義日）」とする。復習プリントの学修時間は1限分（90分）あたり**30分**程度を想定する。

事前・事後学修時間について1限分（90分）あたり**75分**の総学修時間を想定する。また、復習は担当教員が採点し、後日学生に返却しフィードバックする。総括的評価（試験）前に各々返却された復習を再度復習する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習/実習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/8 (水)	3	田中良一教授 (放射線医学講座)	1. 放射線とその性質 (教科書p19～25) 放射線の基礎的知識を得るため、電離と励起、放射線の種類と分類について理解する。	1. 原子の構造および電離と励起について理解する。 2. 放射線の種類を判別する。 3. エックス線の一般的性質について理解する。 [D-2-5-1]
				2. 放射線に関する単位 (教科書p28～32) 放射線の基礎的知識を得るため、放射線の量とその単位について理解する。	1. 以下の用語を定義する。 照射線量、吸収線量、等価線量、実効線量、放射線加重係数、組織加重係数 2. 放射線量を測定するための機器を列挙し、測定原理を理解する。 [D-2-5-1]
講義	4/15 (水)	3	田中良一教授 (放射線医学講座)	3. X線の発生原理とエックス線管の構造 (教科書p25～27) X線検査を適切に行うため、X線の発生原理およびX線管の構造について理解する。	1. X線発生の原理とX線管球の構造を理解する。 2. 焦点と半影との関係を述べることができる。 3. X線のろ過について説明できる。 4. 制動X線と特性X線の違いを説明できる。 5. 線質について説明できる。 [D-2-5-5]
				4. X線と物質の相互作用 (教科書p67～74) 適切なX線写真像を得るために必要な物質との相互作用、減弱について理解する。	1. 光電効果とコンプトン効果について説明できる。 2. コンプトン効果と散乱線の関係を説明する。 3. 距離によるX線の減弱、および物質によるX線の減弱について述べることができる。(教科書には記載なし) [D-2-5-5]
講義	4/22 (水)	3	田中良一教授 (放射線医学講座)	5. 写真コントラスト (教科書p75) 黒化度を定義し写真コントラストの概念を習得する。	1. 黒化度を定義する。 2. 特性曲線について理解する。 3. 写真コントラストを定義する。 4. 写真コントラストに対する散乱線の影響を説明する。 5. 散乱線に影響する因子を列挙する。 [D-2-5-4]
				6. 被写体コントラスト (教科書p67、68、86) 被写体コントラストの原理について理解する。	1. 被写体コントラストを定義する。 2. 被写体コントラストに影響する因子を列記する。 [D-2-5-4]

講義	5/13 (水)	3	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	7. フィルム処理と失敗 (教科書p27～30) フィルム処理の過程について理解する。	1. フィルムの感光理論を述べることができる。 2. フィルムの処理過程を説明する。 3. 写真処理とその原因を推論する。 [D-2-5-4]
				8. デジタルラジオグラフィ (教科書p84～98) デジタルX線画像処理の原理と適応について理解する。	1. デジタルX線撮影法の原理と特徴を述べることができる。 2. IPおよびCCD方式のX線センサーの特徴を述べることができる。 [D-2-5-5]
				9. X線の投影像 (教科書p27～74) 良好なX線画像を得るためのフィルムの種類・増感紙の併用目的を理解する。	1. 焦点—被写体—フィルムとの幾何学的関係を説明する。 2. 次の用語を定義する。 拡大・ひずみ・半影・接線効果・マッハ効果・歯頸部バーンアウト 3. 像の鮮鋭度に影響する因子を列挙する。 [D-2-5-4]
講義	5/20 (水)	3	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	10. 口内法X線撮影 (教科書p93～120) 口内法X線撮影法の種類、撮影手技および画像の正常像を理解する。	1. 口内法X線撮影法の原理と特徴を説明する。 2. 口内法X線撮影法の手技を述べることができる。 3. 口内法X線写真における正常解剖を説明する。 [D-2-5-6]
講義	5/27 (水)	3	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	11. パノラマX線撮影 (教科書p121～133) パノラマX線撮影の種類、原理、撮影手技および画像の正常像を理解する。	1. パノラマX線撮影法の原理と特徴を説明する。 2. パノラマX線撮影の手技を述べることができる。 3. パノラマX線写真における正常解剖を説明する。 [D-2-5-6]
				12. 頭部X線単純撮影法 (教科書p148～156) 顔面頭蓋部の種類、原理、撮影手技および画像の正常像を理解する。	1. 顔面頭蓋部撮影法の種類と投影法を説明する。 2. 顔面頭蓋部撮影法における正常解剖を説明する。 3. 断層撮影の原理を述べることができる。 [D-2-5-8]
講義	6/3 (水)	3	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	13. CBCT, CT (教科書p134～147、p163～170) CTの種類、原理、適応および画像の正常像を理解する。	1. 歯科用コーンビームCTとCTの画像形成原理と適応を説明できる。 2. CT値、部分容積効果について説明できる。 3. CTでもちいられる造影剤とその禁忌を列挙できる。 [D-2-5-9]
				14. 造影検査 (教科書p160～162) 造影検査について理解する。	1. 造影撮影の適応と造影剤使用禁忌を列挙する。 2. 各検査で使用される造影剤を列挙できる。 3. 造影剤使用の禁忌を列挙できる。 [D-2-5-9]

講義	6/17 (水)	3	田中良一教授 (放射線医学講座)	15. 胸部X線画像 (教科書p449) 胸部X線検査は歯科麻酔手術の術前検査にも広く利用される検査である。基本的正常像および異常像の典型を理解する。	1. 胸部X線写真の撮影法を述べることができる。 2. 胸部X線写真の正常解剖像を述べることができる。 3. 胸部X線写真の異常像を列挙できる。 [D-2-5-9]
				16. Interventional Radiology (教科書p213～215) 画像診断技術を応用した治療を行うために Interventional Radiology について理解、修得する。	1. Interventional Radiology の実際例を述べる。 [D-3-1-6-3]
講義	6/24 (水)	3	田中良一教授 (放射線医学講座)	17. MRI (教科書p171～184) 磁気共鳴撮影法 (MRI) の画像形成原理と適応について理解する。	1. MRIの画像形成原理と適応について説明できる。 2. MRIでの用いられる造影撮影の目的と造影剤ならびに使用禁忌を列記する。 3. 顎関節疾患のMRI画像を説明する。 [D-2-5-9]
講義	7/1 (水)	3	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	18. 超音波検査 (教科書p193～202) 超音波検査の画像形成原理と適応を理解する。	1. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説明する。 2. 底面エコーおよび音響効果について述べる。 [D-2-5-9]
				19. 核医学検査 (教科書p203～212) 核医学検査の画像形成原理を理解し、各種検査法の知識を習得する。	1. 次の用語を定義する。放射線同位体、ベクレル、キュリー 2. シンチグラフィとPETの原理・適応を説明する。 3. 核種の生理的集積部位と病的集積を比較する。 [D-2-5-9]
講義	7/8 (水)	3	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	20. 放射線の生物学的影響 (教科書p33～41、p51～62) 放射線の細胞に対する影響を理解し、知識を習得する。 放射線防護について概略を理解する。	1. 放射線によるDNA損傷の発生メカニズムを説明する。 2. 次の用語を定義する。励起、線エネルギー付与、直接作用、間接作用、生物学的効果比 3. 放射線の細胞致死効果を高めるのに酸素分圧が大切である理由を論ずる。 4. 細胞周期と放射線感受性について述べる。 5. 放射線防護について概略を説明できる。 [D-2-5-2]、[D-2-5-3]

講義	7/15 (水)	3	細川洋一郎非常勤講師 (弘前大学 教授)	21. 人体に対する放射線の影響 (教科書p42～62) 適切な放射線治療を行うために放射線防護に対する十分な知識・技能を習得する。	1. 放射線によるDNA損傷の発生メカニズムを述べるができる。 2. 生物学的効果比について述べるができる。 3. 放射線感受性と細胞周期について述べるができる。 [D-2-5-2]、[D-2-5-3]
講義	7/22 (水)	3	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	22. 癌の放射線治療 (教科書p453～482) 放射線腫瘍学の基礎的知識を習得する。	1. 放射線影響による早期組織反応と晩期組織反応の症状、症例を列挙する。 2. 確定的影響と確率的影響を定義する。 3. 放射線被曝の分類と実態について説明する。 4. 放射線影響のリスクを述べることができる。 5. 医療被曝における患者の防護を説明する。 6. 医療従事者の放射線防護を説明する。 [D-2-5-2]、[D-3-1-6-3]
講義	8/19 (水)	3	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	演習 I 正常エックス線解剖のまとめを示説し、確認テストを行う。これまで修得した知識を整理する。	1. 口内法、パノラマX撮影、頭部単純撮影の正常解剖を述べるができる。 [D-2-5-7]
講義	9/29 (火)	3	金森尚城助教 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	画像診断学1-1 診断の基礎(正常解剖) 画像診断を行う上で必要な解剖学的構造の知識を修得する。 特にCT、CBCT、MRI画像についてマクロ解剖との合致を得る。	1. CT、MRIの軸位、冠状断、矢状断それぞれの正常解剖を述べるができる。 2. 歯科用コーンビームCTの再構成について説明できる。 3. CT、MRIで組織隙を列挙、明示できる。 [D-2-5-7]
講義	10/06 (火)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	画像診断学1-2 診断の基礎(読影所見) 口腔領域に発症する疾患の治療を適切に行うために、画像診断所見の記載方法を習得する。	1. 読影所見の記載方法を列記できる。 2. 歯根嚢胞を例として、読影所見を記述できる。 3. 歯および歯周組織疾患のX線所見を述べられる。 4. X線画像の透過不透過像、CT画像の高低濃度、MRIの信号強度の相違を記述できる。 [D-2-5]

講義	10/20 (火)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	画像診断_2-1 嚢胞 口腔領域に発生する嚢 胞や偽嚢胞の適切な治 療を行うため、臨床症 状や画像診断・病理診 断を基にした総合的診 断の知識・技能を習得 する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画 像所見について説明できる。 歯根嚢胞・残留嚢胞・含歯性嚢胞・ 歯周嚢胞・側方歯周嚢胞・鼻口蓋嚢 胞・鼻齒槽嚢胞・単純性骨嚢胞・静 止性骨空洞・脈瘤性骨嚢胞 [D-3-1-5-1]
講義	10/27 (火)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	画像診断学_2-2 腫瘍 口腔領域に発生する良 性歯源性・非歯源性腫 瘍の適切な治療を行う ため、臨床症状や画像 診断・病理診断をもと にした総合的診断の知 識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像 所見について説明できる。 エナメル上皮腫、歯源性角化嚢胞、 石灰化上皮性歯源性腫瘍、歯源性石 灰化嚢胞、腺腫様歯源性腫瘍、歯原 性粘液腫、エナメル上皮線維歯牙 腫、エナメル上皮線維腫、歯源性線 維腫 [D-3-1-6-1]
講義	11/10 (火)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	画像診断学_2-3 骨折・炎症 口腔領域の外傷・骨折 や上顎洞疾患の適切な 治療を行うため、臨床 症状や画像診断・病理 診断を基にした総合的 診断の知識・技能を習 得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画 像所見について説明できる。 急性骨髓炎・慢性骨髓炎・Garre骨 髄炎・放射線性骨髓炎・放射線性骨 壊死・BRONJ・上顎洞炎・上顎洞真 菌症・上顎洞粘液貯留嚢胞・術後性 上顎嚢胞・上顎洞癌・上顎骨骨折・ 下顎骨骨折 [D-3-1-3-1～7]
講義	11/17 (火)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	画像診断学_2-4 顎関節疾患 外傷、炎症、形態・機 能異常 顎関節における形態と 機能異常、損傷、炎症 性疾患の原因、症状、 診断に関する知識を習 得する。	1. 顎関節の形態と機能について説 明できる。 2. 顎関節症の分類を列挙できる。 3. 顎関節症の症状・診断法を概説 できる。 4. 顎関節症の治療法を説明でき る。 [D-3-1-7]
講義	11/24 (火)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	画像診断学_2-5 悪性腫瘍 口腔領域に発症する悪 性腫瘍と骨髓炎の適切 な治療を行うため、臨 床症状や画像診断・病 理診断を基にした総合 的診断の知識・技能を 習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画 像所見について説明できる。 下顎歯肉癌・舌癌・口腔底癌・上顎 歯肉癌・上顎洞癌・頬粘膜癌・骨肉 腫・悪性黒色腫・悪性リンパ腫 [D-3-1-6]

講義	12/08 (火)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	画像診断学_2-6 唾液腺疾患 唾液腺疾患の適切な治 療を行うため、臨床症 状や画像診断・病理診 断を基にした総合的診 断の知識・技能を習得 する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画 像所見について説明できる。 唾液腺炎・Sjogren症候群・ Mikulicz症候群・唾石・唾液腺腫瘍 [D-3-1-8]
実習	12/22 (火)	1 内丸	泉澤 充教授 高橋徳明講師 星 勲助教 金森尚城助教 菅野江美助教 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	読影実習1 嚢胞 講義で学んだ様々な疾 患の画像所見の特徴を 説明できる。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画 像所見について説明できる。 歯根嚢胞・残留嚢胞・含歯性嚢胞・ 歯周嚢胞・側方歯周嚢胞・鼻口蓋嚢 胞・鼻齒槽嚢胞・単純性骨嚢胞・静 止性骨空洞・脈瘤性骨嚢胞 [D-3-1-5-1]
実習	12/22 (火)	2 内丸	泉澤 充教授 高橋徳明講師 星 勲助教 金森尚城助教 菅野江美助教 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	読影実習2 腫瘍 講義で学んだ様々な疾 患の画像所見の特徴を 説明できる。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像 所見について説明できる。 エナメル上皮腫、歯原性角化嚢胞、 石灰化上皮性歯原性腫瘍、歯原性石 灰化嚢胞、腺腫様歯原性腫瘍、歯原 性粘液腫、エナメル上皮線維歯牙 腫、エナメル上皮線維腫、歯原性線 維腫 [D-3-1-6-1]
実習	12/22 (火)	3 内丸	泉澤 充教授 高橋徳明講師 星 勲助教 金森尚城助教 菅野江美助教 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	読影実習3 骨折・炎症・顎関節疾 患 講義で学んだ様々な疾 患の画像所見の特徴を 説明できる。	1. 以下の疾患の各種画像所見につい て読影し詳細について記述できる。 慢性骨髓炎・Garre骨髓炎・BRONJ・ 上顎洞炎・術後性上顎嚢胞・上顎骨 骨折・下顎骨骨折 [D-3-1-3-1~7] 2. 顎関節部の各種画像所見について 読影し詳細について記述できる。 ・顎関節の形態と機能について説明 できる。 ・顎関節症の分類を列挙できる。 ・顎関節症の症状・診断法を概説で きる。 ・顎関節症の治療法を説明できる。 [D-3-1-7]
実習	12/22 (火)	4 内丸	泉澤 充教授 高橋徳明講師 星 勲助教 金森尚城助教 菅野江美助教 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	読影実習4 悪性腫瘍・唾液腺疾患 講義で学んだ様々な疾 患の画像所見の特徴を 説明できる。	1. 以下の疾患の各種画像所見につい て読影し詳細について記述できる。 下顎歯肉癌・舌癌・骨肉腫・悪性黒 色腫・悪性リンパ腫 [D-3-1-6] 2. 以下の疾患の各種画像所見につい て読影し詳細について記述できる。 唾液腺炎・多形腺腫・Mikulicz症候 群・唾石症 [D-3-1-8]

講義	1/5 (火)	3	泉澤 充教授 高橋徳明講師 星 勲助教 金森尚城助教 菅野江美助教 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	読影確認テスト 読影講義、実習について学修した内容について復習する。	1. 後期実習で読影した実習症例と同症例の疾患について確認テストを行う。 2. 確認テストでは疾患について所見、診断、鑑別疾患が問われる。 3. テストはPCにてプロジェクター投影し、紙媒体へ記載し行う。 [D-2-5-2]
実習	1/5 (火)	4	泉澤 充教授 高橋徳明講師 星 勲助教 金森尚城助教 菅野江美助教 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	読影確認テスト 読影講義、実習について学修した内容について復習する。	1. 後期実習で読影した実習症例と同症例の疾患について確認テストを行う。 2. 確認テストでは疾患について所見、診断、鑑別疾患が問われる。 3. テストはPCにてプロジェクター投影し、紙媒体へ記載し行う。 [D-2-5-2]

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	歯科放射線学 第7版	岡野友宏 ほか編	医歯薬出版	2024年
参	解説と例題でわかる歯科放射線テキスト	勝又明敏 浅海淳一 田口明 森本泰宏 ほか編	永末書店	2021年
参	歯科放射線診断teaching file 第4版	金田隆・倉林亨・佐野司 編著	砂書房	2019年
参	エックス線診断と生体構造	佐藤巖・代居敬・河合泰輔 (著)	南山堂	2004年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義、実習いずれとも基準を満たしたものを合格とする。
成績65点以上を合格とする。

前期

- ①定期試験：80%
- ②事前・事後学修小テスト：10%
- ③正常解剖確認テスト：10%

後期

- ①定期試験：60%
- ②読影確認テスト：20%
- ③読影症例のまとめ（ポートフォリオ）の提出、評価：20%

総合

前期50%、後期50%割合として通年で評価する。

到達目標	DP	正常解剖確認 テスト・読影確 認テスト	レポート (事前事後 学修小テスト)	事前事後 学修小テスト	定期試験	ポートフォリオ (事前事後 学修小テスト)	合計
1)～9)	1,6,8	5	2.5	2.5	40		50
10)～13)	1,6,8	10			15		25
14)～17)	1,2,6,8				15	10	25
合計		15	2.5	2.5	70	10	100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

前期

WebClassにあげた自主学修用のプリントをダウンロード、保存もしくはプリントアウトし、自筆で解答する。

解答をwebclassを利用して提出する。講義担当者は採点后、返却する。

また、WebClassに参考資料も随時のせて、活用する。

Microsoft Formsを用いて自己学習を通じたフィードバックに活用する。

講義用の視覚素材内にiPad上で板書し、理解を深める。

後期

一般的な講義に加えて、相互実習、相互評価の機会を設け、伝える力の強化を図る。

講義資料は1日前までにWebClassにアップする。または、講義、実習時に資料を配布する。

インターネット上の教材(DESS問題、WebClass教材)を利用することがあるので、

学生は講義室でインターネットに接続可能なPC、タブレット等の準備をしておくこと。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
複合機 ApeosPort	C3570 (Model-PFS)	1	視聴覚用機器	講義資料作成用

医科学（3年）

責任者・コーディネーター		口腔医学講座（関連医学分野）千葉 俊美 教授			
担当講座（分野）		口腔医学講座(関連医学分野)、医学部各講座			
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習		実習
期間	通期		前期	28.0時間	—
			後期	28.0時間	—

学修方針（講義概要等）

3年次で症候学および内科各疾患、外科学総論、神経精神疾患について学ぶことを目的とする。これまで講義および実習で得た基礎医学の知識や経験を生かし、疾患の病態およびその対応について学修する。

教育成果（アウトカム）

歯科医師が必要とする医学的知識を症候学から代表的疾患まで網羅し、さらに外科学における観点も踏まえて医学的な基本知識の習得を目的とし、基礎専門科学目で学んだ知識をもとに、疾患の病態を考えることが出来る。

（関連するディプロマポリシー：4、8）

到達目標（SB0s）

1. 症候学、循環器疾患、糖尿病・代謝疾患、内分泌疾患、脳神経内科疾患、腎疾患、呼吸器疾患、血液疾患、脳血管疾患、消化器疾患、外科学における侵襲と生体反応、外科的感染症、ショック、周術期管理、滅菌・消毒、出血・止血、神経精神疾患、自己免疫疾患、胆膵疾患、感染症・院内感染について理解し説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

[事前学修] シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。
[事後学修] 講義資料や教科書等を用いて事後学習を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均50分を要する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均50分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/8 (水)	2	千葉俊美教授 (口腔 医学講座関連医学分 野)	1. 内科学 内科診察の基本 症候学1	以下の項目について理解し説明できる。 1. 診察の手順について 2. 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下について [D-2-3] (口腔医学キーワード) 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	4/15 (水)	2	千葉俊美教授 (口腔 医学講座関連医学分 野)	2. 内科学 症候学2	以下の項目について理解し説明できる。 1. 食思不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害について [D-2-3] (口腔医学キーワード) 食思不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。

講義	4/22 (水)	2	千葉俊美教授 (口腔医学講座関連医学分野)	3. 消化器疾患1	以下の項目について理解し説明できる。 1. 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃食道逆流症、炎症性腸疾患について理解し説明できる。 [D-2-3, A-3-1-7] (口腔医学キーワード) 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃食道逆流症、炎症性腸疾患 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	5/13 (水)	2	石田大准教授 (内科学講座循環器内科分野)	4. 循環器疾患1	以下の項目について理解し説明できる 1. 循環器薬とその作用について理解し説明できる。 2. 高血圧、心不全について [D-2-3] (口腔医学キーワード) 循環器薬、高血圧、心不全 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	5/20 (水)	2	肥田頼彦特任講師 (内科学講座循環器内科分野)	5. 循環器疾患2	以下の項目について理解し説明できる。 1. 心筋梗塞、狭心症について理解し説明できる。2. 大動脈、末梢動脈疾患の治療について [D-2-3] (口腔医学キーワード) 心筋梗塞、狭心症、大動脈・末梢動脈疾患 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。

講義	5/27 (水)	2	大和田真玄准教授 (内科学講座循環器 内科分野)	6. 循環器疾患3	以下の項目について理解し説明できる。 1. 不整脈、感染性心内膜炎について理解し説明できる。2. 不整脈アブレーション治療について [D-2-3] (口腔医学キーワード) 不整脈、感染性心内膜炎、不整脈アブレーション治療 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	6/3 (水)	2	池田奈由非常勤講師 (国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 栄養疫学・政策 研究センター 栄養社会科学研究室 室長) 講義形態: Web	7. 特別講義 人口レベルの非感染性疾患リスク評価	以下の項目について理解し説明できる。 1. 肥満や高血圧等の非感染性疾患リスクに関する国際疫学研究の動向と評価手法、世界におけるリスクの分布と推移および日本の特徴を理解する。 [D-2-3] (口腔医学キーワード) 非感染性疾患 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	6/16 (火)	5	石塚直樹講師 (内科学講座脳神経内科・老年科分野)	8. 脳神経内科疾患	以下の項目について理解し説明できる。 1. 主要な脳神経内科疾患 [D-2-3] (口腔医学キーワード) [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。

講義	6/17 (水)	2	千葉俊美教授（口腔医学講座関連医学分野）	9. 消化器疾患2	以下の項目について理解し説明できる。 1. 食道癌、胃癌、大腸癌 [D-2-3] （口腔医学キーワード） 食道癌、胃癌、大腸癌 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	7/1 (水)	2	内海裕助教（内科学講座 呼吸器内科分野）	10. 呼吸器疾患1	以下の項目について理解し説明できる。 1. アレルギーの分類、機序と代表的疾患、気管支喘息の病態、アナフィラキシーショックの病態 [D-2-3] （口腔医学キーワード） 気管支喘息、アナフィラキシーショック [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	7/8 (水)	2	内海裕助教（内科学講座呼吸器内科分野）	11. 呼吸器疾患2	以下の項目について理解し説明できる。 1. 気管支炎、肺炎、COPD、肺癌 [D-2-3] （口腔医学キーワード） 気管支炎、肺炎、COPD、肺癌 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	7/15 (水)	2	千葉俊美教授（口腔医学講座関連医学分野）	12. 消化器疾患3	以下の項目について理解し説明できる。 1. 急性・慢性肝炎、肝硬変 [D-2-4] （口腔医学キーワード） 急性・慢性肝炎、肝硬変 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。

講義	7/22 (水)	2	千葉俊美教授（口腔医学講座関連医学分野）	13. 胆・膵疾患 以下の項目について理解し説明できる。 1. 胆道疾患の主要な症候、病態 2. 膵疾患の主要な症候、病態 [D-2-3] （口腔医学キーワード） 胆石症、胆道感染症、原発性硬化性胆管炎、胆嚢癌、胆管癌、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵癌、嚢胞性膵疾患 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	8/19 (水)	2	千葉俊美教授（口腔医学講座関連医学分野）	14. 腎疾患 以下の項目について理解し説明できる。 1. 腎疾患の主要症候と腎機能検査 2. 腎・尿路系の主要な症候、病態、治療（ステロイドを含む） [D-2-3] （口腔医学キーワード） 急性腎障害、慢性腎臓病、慢性腎不全、透析 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	9/15 (火)	2	西谷真来助教（内科学講座血液腫瘍内科分野）	15. 血液疾患1 以下の項目について理解し説明できる。 1. 貧血、出血性素因、血友病、von Willebrand病、悪性リンパ腫 [D-2-3] （口腔医学キーワード） 貧血、出血性素因、血友病、von Willebrand病、悪性リンパ腫 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。

講義	9/25 (金)	5	瀬川利恵講師（内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野）	16. 内分泌疾患	以下の項目について理解し説明できる。 1. 主要なホルモンの作用、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患 [D-2-3, A-3-1-9] （口腔医学キーワード） 下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	10/6 (火)	2	松下祐助教（神経精神科学講座）	17. 神経精神疾患	以下の項目について理解し説明できる。 1. 統合失調症、うつ病、双極性障害、アルコール・薬物依存症 [D-2-3] （口腔医学キーワード） 統合失調症、うつ病、双極性障害、アルコール・薬物依存症 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	10/13 (火)	2	石垣 泰教授（内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野）	18. 糖尿病疾患	以下の項目について理解し説明できる。 1. 糖尿病の成因、病態、合併症と治療法について [D-2-3] （口腔医学キーワード） 糖尿病 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。

講義	10/13 (火)	3	石垣 泰教授 (内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野)	19. 代謝疾患	以下の項目について理解し説明できる。 1. 脂質異常症、尿酸代謝異常、肥満症の病態と治療法について [D-2-3] (口腔医学キーワード) 脂質異常症、尿酸代謝異常、肥満症 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	10/20 (火)	2	小宅達郎准教授 (内科学講座血液腫瘍内科分野)	20. 血液疾患2	以下の項目について理解し説明できる。 1. 白血病、造血幹細胞移植、AIDS [D-2-3] (口腔医学キーワード) 白血病、造血幹細胞移植、AIDS [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	11/10 (火)	2	柴田 近 非常勤講師 (東北医科薬科大学医学部 (外科学第一 (消化器外科) 教室) 教授)	21. 消化器疾患4 : 特別講義「消化管運動と消化管ホルモン」	以下の項目について理解し説明できる。 1. 消化管運動と消化管ホルモンの関係 2. 主な消化管ホルモンの作用 3. 消化管運動の仕組み 4. 消化管運動・ホルモンと疾患の関わり [D-2-3] (口腔医学キーワード) 消化管運動、消化管ホルモン [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。

講義	11/17 (火)	2	駒ヶ嶺正嗣特任講師 (内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野)	22. 自己免疫疾患1	以下の項目について理解し説明できる。 1. 関節リウマチ・膠原病など自己免疫疾患、自然免疫、獲得免疫（その1）。 [D-2-3] (口腔医学キーワード) シェーグレン症候群、ベーチェット病 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	11/24 (火)	2	藤本 穰教授 (内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野)	23. 自己免疫疾患2	以下の項目について理解し説明できる。 1. 膠原病など自己免疫疾患、免疫不全（その2） [D-2-3] (口腔医学キーワード) [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	12/1 (火)	3	千葉俊美教授 (口腔医学講座関連医学分野)	24. 脳血管疾患	以下の項目について理解し説明できる。 1. 脳内出血、脳梗塞 [D-2-3] (口腔医学キーワード) 脳内出血、脳梗塞 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。

講義	12/1 (水)	4	千葉俊美教授（口腔医学講座関連医学分野）	25. 感染症・院内感染	以下の項目について理解し説明できる。 1. 肺結核、感染症、菌交代現象、院内感染経路および院内感染防止対策 [D-2-3] （口腔医学キーワード） 肺結核、感染症、インフルエンザ、菌交代現象、院内感染 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	12/8 (火)	2	高橋宗康 非常勤講師（帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授）	26. 特別講義 災害、保健政策、公衆衛生	以下の項目について理解し説明できる。 1. 災害における歯科医療の役割や、保健政策や公衆衛生についてについて理解し説明できる。 [D-2-3] （口腔医学キーワード） 災害、保健政策、公衆衛生 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
講義	12/15 (火)	2	馬場誠朗講師（外科学講座）	27. 外科学1	以下の項目について理解し説明できる。 1. 侵襲と生体反応、外科的感染症、ショック [D-2-3] （口腔医学キーワード） 侵襲と生体反応、外科的感染症、ショック [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。 所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。

講義	12/23 (水)	5	新田浩幸教授(外科学講座)	28. 外科学2 以下の項目について理解し説明できる。 1. 周術期管理、滅菌・消毒、出血・止血について理解し説明できる。 [D-2-3] (口腔医学キーワード) 周術期管理、滅菌・消毒、出血・止血 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は50分程度。
----	--------------	---	---------------	---

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	歯科医師のための内科学	千葉俊美, 山田浩之編	医歯薬出版	2021
教	Pocket Drugs 2026	福井次矢 監修、小松康弘他編	医学書院	2026
参	標準外科学 第17版	田邊 稔 監修、池田徳彦、大木隆生、猪股雅史、篠原 尚編集	医学書院	2025
参	Internal Medicine for Dental Treatments	Toshimi Chiba, Hiroyuki Yamada, Editors	Springer	2024
参	イヤートート2024: 内科・外科編		Medic Media	2023
参	内科学(第12版)(分冊版)	矢崎義雄総編集	朝倉書店	2022
参	病気がみえる(各シリーズ)	医療情報科学研究所／編集	Medic Media	2018-24
参	標準精神医学第8版	野村総一郎 監修	医学書院	2021
参	シリーズまとめてみた精神科 第2版	天沢ヒロ 著	医学書院	2019

成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験で評価する (100%)

*各講義数に応じた問題数による試験を実施する

到達目標	DP	定期試験	その他	合計
1	4、8	100		100
合計		100		100

特記事項・その他 (試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等)

特記事項なし

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有 (大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う)

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップパソコン一式	EliteDesk 800 G5 SF/CT	1	視聴覚用機器	実習(講義)の資料作成用

歯周病学

責任者・コーディネーター		歯科保存学講座（歯周療法学分野）佐々木 大輔 教授		
担当講座（分野）		歯科保存学講座（歯周療法学分野）		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	通期		前期 14.0時間	—
			後期 38.0時間	32.0時間

学修方針（講義概要等）

歯周病学の内容は、歯周病の発症機構と病態を理解するための基礎的歯周病学と、臨床における歯周治療および歯周管理を学ぶ臨床歯周病学に大別される。前者では、歯周組織の構造と機能、歯周病の原因論、病態生理およびリスク因子について学修し、歯周病を慢性炎症性疾患として科学的に理解する。後者では、歯周病の病態を把握し治療方針を決定するために歯周検査を行う意義を理解するとともに、検査の目的、種類および評価法を学修し、得られた所見に基づく診断の考え方を理解する。その上で、歯周基本治療および歯周外科治療について、その適応、原理、治療の流れ、代表的な術式ならびに治癒機転を学び、再評価、口腔機能回復治療、メンテナンスおよびSupportive Periodontal Therapy (SPT) へと至る一連の歯周治療体系を学修する。さらに、歯周病と全身疾患との関連（ペリオドンタルメディシン）や、侵襲性歯周炎などの特殊な歯周疾患についても概説し、歯周病学を包括的に理解する。実習では、歯周検査および口腔清掃指導に加え、歯周基本治療や歯周外科治療の基本手技を学修し、歯周治療に必要な基礎的技能と臨床的思考力を養う。

教育成果（アウトカム）

本講義・実習を履修した学生は、以下の能力を修得する。

1. 歯周組織の構造と機能ならびに歯周病の発症機構、病態生理およびリスク因子について説明できる。
2. 歯周病の病態を把握するために歯周検査を行う目的を理解し、検査の種類と得られる所見の意義について説明できる。
3. 歯周検査結果に基づき、歯周病の診断および治療方針決定の基本的考え方を説明できる。歯周基本治療および歯周外科治療について、その適応、原理、代表的な術式ならびに治癒機転の概要を説明できる。
4. 歯周治療の流れ（検査、診断、歯周基本治療、再評価、歯周外科治療、再評価、口腔機能回復治療、再評価、メンテナンス・SPT）を体系的に説明できる。
5. 歯周病と全身疾患との関連（ペリオドンタルメディシン）および特殊な歯周疾患の概念について概説できる。
6. 歯周検査および口腔清掃指導を適切に実施できる。
7. 歯周基本治療および歯周外科治療に関する基本的手技を、指導下で安全に実施できる。
8. 歯周治療における長期管理の重要性を理解し、メンテナンスおよびSPTの意義を説明できる。
9. 歯周病学を包括的歯科医療の一分野として捉え、将来の臨床実習および歯科医療実践に必要な基礎的姿勢を身につける。

（関連するディプロマポリシー：1、2、3、4、5、6、8、9）

到達目標（SB0s）

1. 歯周組織の構造と機能ならびに歯周病の発症機構および病態を説明できる。
2. 歯周病の主な原因因子およびリスク因子を理解し、その意義を説明できる。
3. 歯周病の病態把握および治療方針決定のために歯周検査を行う目的を説明できる。
4. 歯周検査の主な種類と評価項目を理解し、診断の基本的考え方を説明できる。
5. 歯周治療の基本的な流れ（診断、歯周基本治療、再評価、歯周外科治療、メインテナンス・SPT）を説明できる。
6. 歯周基本治療および歯周外科治療について、その目的、適応および治療原理の概要を説明できる。
7. 歯周基本治療および歯周外科治療における治癒機転の概要を説明できる。
8. 歯周病と全身疾患との関連（ペリオドンタルメディシン）および特殊な歯周疾患の基本的概念を説明できる。
9. 歯周検査および口腔清掃指導を適切に実施できる。
10. 指導下において、歯周基本治療や歯周外科治療に関する基本的手技を安全に実施できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

【事後学修】

講義理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均45分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

（事前学修：最低30分を要する 事後学修：最低45分を要する）

講義/演習/実習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	6/8 (月)	1	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周病学概要説明 歯周病学、歯周治療学 で修得すべき事を理解 する。	1. 歯周治療の対象となる歯周組織の 病態、診査・診断・治療方法を総合 的に説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版1-4p、臨床歯周病学3版1編2-31p を読んでまとめておく。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
講義	6/15 (月)	1	八重柏隆客員教授	歯周病の基礎知識、リ スクファクター 歯周病の基礎知識とリ スクファクターを理解 できる。	1. 歯周病の基礎知識を説明できる。 2. 歯周病のリスクファクターを説明 できる。 3. コア歯学で修得必要な項目を説明 できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第1、2章1-53p、臨床歯周病学3 版1編23-62pを読んでまとめてお く。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
講義	6/22 (月)	1	村井治講師 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周病の診査・診断 歯周病の診査・診断を 理解できる。	1. 歯周病の診査・診断を説明でき る。 2. 歯周病診査に必要な器具を列举で きる。 3. 歯周病の診断の臨床的意義を説明 できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第4章76-99p、臨床歯周病学3版 63-85p、96-123pを読んでまとめて おく。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
講義	6/29 (月)	1	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周基本治療 (概要) 診査・診断、治療計 画、歯周基本治療を理 解できる。	1. 歯周疾患の診査・診断、治療方針 および治療計画の流れを説明でき る。 2. 説明と同意の重要性を説明でき る。 3. 治療計画立案の必要項目を列举で きる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第5章100-128p、臨床歯周病学3 版78-85p、96-114p、124-148pを読 んでまとめておく。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。

講義	7/6 (月)	1	村井治講師 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周基本治療 応急処置，患者のモチ ベーション、プラーク コントロール他につい て理解できる。	1. 歯周疾患の急性症状の診断・応急 処置について説明できる。 2. 歯周治療に必要なモチベーション について説明できる。 3. 歯周治療に必要なブラッシング法 の種類と特徴を列挙して説明でき る。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第5章108-120p、臨床歯周病学3 版124-164pを読んでまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
講義	7/13 (月)	1	鈴木啓太助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周基本治療 (咬合・咬合調整・暫 間固定他) 外傷性咬合と咬合調 整・暫間固定を理解で きる。	1. 咬合の基本事項について説明でき る。 2. 外傷性咬合と咬合性外傷を説明 できる。 3. 咬合性外傷の症状を説明でき る。 4. ブラキシズムを説明できる。 5. 咬合調整を説明できる。 6. 暫間固定を説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第5章128-132p、臨床歯周病学3 版78-85p、165-180pを読んでまと めておく。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
講義	8/24 (月)	2	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	歯周病の細菌学 歯周疾患と細菌（感染 と免疫）について理解 できる。	1. 口腔細菌、歯垢および歯石を説明 できる。 2. 歯周疾患の症状を細胞レベル、分 子生物学的レベルで説明できる。 3. 歯周病における感染と免疫を説明 できる。 [D-3-2-3、4] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第1章14-24p、臨床歯周病学3版 32-49pを読んでまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
講義	9/14 (月)	3	村井治講師 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周基本治療 SRP、スケーラーおよび PMTCを理解できる。	1. 歯周治療に必要なSRPを説明でき る。 2. 治療に用いるスケーラーを説明で きる。 3. PMTCを説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第5章120-128p、臨床歯周病学3 版149-164pを読んで到達目標につい てまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。

講義	9/14 (月)	4	村井治講師 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	診査と説明・指導 診査結果と病状説明、 口腔清掃指導を理解で きる。	1. 診査結果を説明できる。 2. 病状説明のポイントを説明でき る。 3. プラークコントロール方法を説明 できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：歯周基礎実習帳「歯周病 の病状説明」該当箇所、ザ・ペリオ ドントロジー4版第5章110-120p、臨 床歯周病学3版96-115p、138-148pを 読んでまとめておく。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
実習	9/28 (月)	3 4	佐々木大輔教授 村井 治講師 鈴木啓太助教 相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周組織の診察と検 査・口腔清掃指導 診察と検査、口腔清掃 指導について理解でき る。	1. 検査結果を用いて歯周病患者に対 する歯周病の病状を適切に説明でき る。 2. ブラッシング法の種類と特徴を列 挙し説明できる。 3. 歯周組織の診査項目および必要な 診査器具を列挙し、説明できる。 実習内容（事前レポート）に関して 担当教員とディスカッションする。 [E-5-3-3全般] 事前学修：歯周基礎実習帳「歯周病 の病状説明」該当箇所、ザ・ペリオ ドントロジー4版第4章76-89p、第5 章112-119p、臨床歯周病学3版96- 107p、138-148pを読んでまとめてお く。 事後学修：実習理解が不十分であつ た箇所については、歯周基礎実習 書、講義資料や教科書等を用いて知 識および模型を用いて技能の補充を 行う。
実習	10/5 (月)	3 4	佐々木大輔教授 村井 治講師 鈴木啓太助教 相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	SRPとPMTC（模型実習） SRPとPMTCを適切に実施 できる。	1. SRPに用いる器具を選択できる。 2. 手用スケーラーによるSRP(ポジ ショニング含む)ができる。 3. 安全・感染予防の配慮ができる。 4. エアースケーラーを用いたスケー リングができる。 5. PMTCを模型上で実施できる。 実習内容（事前レポート）に関して 担当教員とディスカッションする。 [E-5-3-3全般] 事前学修：歯周基礎実習帳「歯周病 の病状説明」該当箇所、ザ・ペリオ ドントロジー4版第5章120-127p、 194-199p、臨床歯周病学3版149- 164p、309-317pを読んでまとめてお く。 事後学修：実習理解が不十分であつ た箇所については、歯周基礎実習 書、講義資料や教科書等を用いて知 識および模型を用いて技能の補充を 行う。

講義	10/19 (月)	3	相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周病の分類と疫学 歯周病の分類、疫学に ついて理解できる。	1. 歯周病の疫学について説明でき る。 2. 歯周病に影響する要因を説明でき る。 3. 歯周疾患の分類について説明でき る。 [C-6-1-3、D-3-2全般、D-5-2-3全 般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第7章の237-244p、臨床歯周病学 3版86-95pを読んで到達目標につい てまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
講義	10/19 (月)	4	相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	ペリオドンタルメディ シン ペリオドンタルメディ シンおよび高齢者(有病 者)の歯周病・注意点を 理解できる。	1. ペリオドンタルメディシン、歯周 病と関係する疾患（糖尿病および循 環器疾患等）との関連性を説明でき る。 2. 高齢者（有病者）の歯周病の特徴 と治療時の注意点を説明できる。 3. 全身疾患を有する者の歯周病治療 について（症例で）説明できる。 [D-2-4-1、D-3-2全般、D-5-2-3全 般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第3章の54-75p、臨床歯周病学3 版50-62p、356-364pを読んで到達目 標についてまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
講義	10/26 (月)	3	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	特殊な歯周病 特殊な歯周病を理解す る。	1. 特殊な歯周病（喫煙関連性歯周 炎、壊死性歯周疾患、薬物性歯肉増 殖症、剥離性歯肉炎、侵襲性歯周 炎、思春期の歯周病、女性の歯周病 等）を説明できる。 2. 遺伝に関わる歯周病（歯肉線維腫 症、Down症候群、Papillon-Lefèvre 症候群、低ホスファターゼ症等）を 説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第9章222-227p、254-276p、臨床 歯周病学3版365-376pを読んでまと める。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。

講義	10/26 (月)	4	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	薬物療法、レーザー治 療 歯周治療に必要な薬物 療法、レーザー治療に ついて理解する。	1. 歯周領域の薬物療法（局所薬物配 送システム他）を説明できる。 2. 歯周領域のレーザー治療を説明で きる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第5章200-207p、臨床歯周病学3 版318-327p、336-344pを読んでまと めておく。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
実習	10/28 (水)	1	佐々木大輔教授 村井 治講師 鈴木啓太助教 相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周病患者のエックス 線画像読影 (実習) 歯周病患者のエックス 線画像を読影できる。	1. 歯周病患者のエックス線像の特 徴・解決を要する問題点等を列挙し て読影できる。 2. 咬合性外傷と根分岐部病変のエッ クス線像について説明できる。 3. 歯周病による骨吸収ラインを示し て説明できる。 [E-2-5-4、E-5-3-3全般] 実習内容（事前レポート）に関して 担当教員とディスカッションする。 事前学修：歯周基礎実習帳「歯周病 の病状説明」該当箇所、ザ・ペリオ ドントロジー4版第4章76-89p、臨床 歯周病学3版96-107pを読んでまとめ ておく。 事後学修：実習理解が不十分であつ た箇所については、歯周基礎実習 書、講義資料や教科書等を用いて知 識および模型を用いて技能の補充を 行う。
実習	10/28 (水)	2	佐々木大輔教授 村井 治講師 鈴木啓太助教 相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	咬合調整 (実習) 模型上で咬合調整がで きる。	1. 咬合を診査して咬合干渉部、早期 接触部を特定できる。 2. 咬合調整の方法を説明できる。 3. 適切な削合により咬合調整でき る。 [E-5-3-3全般] 実習内容（事前レポート）に関して 担当教員とディスカッションする。 事前学修：歯周基礎実習帳「歯周病 の病状説明」該当箇所、ザ・ペリオ ドントロジー4版第5章130-131p、臨 床歯周病学3版168-172pを読んでま とめておく。 事後学修：実習理解が不十分であつ た箇所については、歯周基礎実習 書、講義資料や教科書等を用いて知 識および模型を用いて技能の補充を 行う。

実習	10/28 (水)	3 4	佐々木大輔教授 村井 治講師 鈴木啓太助教 相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	咬合調整、暫間固定 (実習) 暫間固定ができる。	1. 適切な削合により咬合調整できる。 2. A-splintができる。 3. ダイレクトボンディング固定できる。 [E-5-3-3全般] 実習内容(事前レポート)に関して担当教員とディスカッションする。 事前学修: 歯周基礎実習帳「歯周病の病状説明」該当箇所、ザ・ペリオドントロジー4版第5章128-129p、臨床歯周病学3版168-172pを読んでまとめる。 事後学修: 実習理解が不十分であった箇所については、歯周基礎実習書、講義資料や教科書等を用いて知識および模型を用いて技能の補充を行う。
講義	11/2 (月)	3	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周外科治療1 (概要) 歯周外科治療の概要を理解できる。	1. 歯周外科治療の概要を説明できる。 2. 各歯周外科の適応(仮性ポケット、骨縁上ポケット、骨縁下ポケットに対応する歯周外科治療)を説明できる。 3. 歯周外科の基本、歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修: ザ・ペリオドントロジー4版第5章142-169p、臨床歯周病学3版181-206pを読んでまとめる。 事後学修: 講義理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて知識の補充を行う。
講義	11/2 (月)	4	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周外科治療2 (基本) 歯周外科治療の基本を理解できる。	1. 各歯周外科治療で使用する歯周治療用器具の種類と使用法および適応となる術式を説明できる。 2. 切開・縫合を行う際の適応および使用する器具を説明できる。 3. フラップ手術の流れ・術式を説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修: ザ・ペリオドントロジー4版第5章142-169p、臨床歯周病学3版181-206pを読んでまとめる。 事後学修: 講義理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて知識の補充を行う。

講義	11/9 (月)	1	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周外科治療3 (歯周組織再生療法) 歯周組織再生療法を理解できる。	1. 歯周組織再生療法の種類と適応症を説明できる。 2. 歯周組織再生療法の術式を説明できる。 3. 歯周組織再生療法に用いる材料および薬剤を説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー4版第5章142-169p、臨床歯周病学3版207-244pを読んでまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて知識の補充を行う。
講義	11/9 (月)	2	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周外科治療4 (ポケット除去療法のまとめ) 歯周外科治療のポケット除去療法の理解を深める。	1. 歯周外科治療後の創傷治癒の種類を説明できる。 2. 正常な歯周組織の生物学的幅径(骨縁上組織付着)を説明できる。 3. 上皮性付着、再付着、新付着の違いを説明できる。 4. 歯周外科治療のポケット除去療法を治癒過程の違いから切除療法、組織付着療法、歯周組織再生療法に分別できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー4版第5章146-169p、臨床歯周病学3版207-244pを読んでまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて知識の補充を行う。
実習	11/9 (月)	3 4	佐々木大輔教授 村井 治講師 鈴木啓太助教 相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周外科基本手技実習 (切開、縫合、模型使用) 歯周外科の基本作業を実習できる。	1. 歯周外科の基本作業(各種切開方法他)を模型実習できる。 2. 縫合の種類を列挙し模型で縫合できる。 3. 模型で歯肉弁を作製しメス、持針器を扱うことができる。 [E-5-3-3全般] 実習内容(事前レポート)に関して担当教員とディスカッションする。 事前学修：歯周基礎実習帳「歯周病の病状説明」該当箇所、ザ・ペリオドントロジー4版第5章142-145p、臨床歯周病学3版181-187pを読んでまとめる。 事後学修：実習理解が不十分であった箇所については、歯周基礎実習書、講義資料や教科書等を用いて知識および模型を用いて技能の補充を行う。

講義	11/16 (月)	1	大川義人非常勤講師	根分岐部病変と歯内-歯周病変 根分岐部病変と歯内-歯周病変を理解できる。	1. 根分岐部病変の分類 (Glickman・Lindhe) を説明できる。 2. 歯根の保存・除去療法について説明できる。 3. 歯内-歯周疾患の成因と治療方法を説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー4版第5章132-134p、177-181p、臨床歯周病学3版245-256p、328-335pを読んでまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて知識の補充を行う。
講義	11/16 (月)	2	大川義人非常勤講師	高齢者の歯周病、予防管理、特発病変への対応 高齢者の歯周病、予防管理、特発病変への対応を理解できる。	1. 高齢者の歯周病を説明できる。 2. 歯周病の予防管理を説明できる。 3. 特発病変への対応を説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー4版第3、5、6、8章の該当箇所、臨床歯周病学3版309-317p、356-364pを読んでまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて知識の補充を行う。
講義	11/16 (月)	3	村井 治講師 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	抜歯の基準、再評価、メンテナンス、SPT 抜歯の基準、再評価、メンテナンス、SPTを理解する。	1. 抜歯の基準を説明できる。 2. 再評価の意義を説明できる。 3. 定期管理 (メンテナンスとSPT) を説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー4版第5章135-136p、194-199p、臨床歯周病学3版96-115p、309-317pを読んでまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて知識の補充を行う。
講義	11/16 (月)	4	村井 治講師 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	口腔機能回復治療 (歯周-矯正、歯周-補綴他) 口腔機能回復治療を理解できる。	1. 口腔機能回復治療について説明できる。 2. 歯周-矯正治療について説明できる。 3. 歯周疾患患者の歯周補綴 (永久固定)・インプラント治療について説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー4版第5章182-193p、臨床歯周病学3版267-308pを読んでまとめる。 事後学修：講義理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて知識の補充を行う。

実習	11/25 (水)	1 2 3 4	佐々木大輔教授 村井 治講師 鈴木啓太助教 相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周外科の実際 (歯周外科実習：豚顎 使用) (実習) 豚顎を使用して歯周外 科治療の基本を実習で きる。	1. 各種切開法を豚顎で実践できる。 2. 歯肉の全層弁での剥離・翻転を豚 顎で実践できる。 3. 各種縫合法を豚顎で実践できる。 4. 歯根明示下でのSRPを豚顎で実践 できる。 5. フラップ手術を豚顎で実践でき る。 6. 骨縁上組織付着を説明できる。 7. SRPを豚顎で実践できる。 8. 各種歯周組織検査 (ウォーキング プローブ、ボーンサウンディング) を豚顎で実践できる。 [E-5-3-3全般] 実習内容 (事前レポート) に関して 担当教員とディスカッションする。 事前学修：歯周基礎実習帳「歯周病 の病状説明」該当箇所、ザ・ペリオ ドントロジー4版第5章148-151p、臨 床歯周病学3版187-190pを読んでま とめておく。 事後学修：実習理解が不十分であつ た箇所については、歯周基礎実習 書、講義資料や教科書等を用いて知 識および模型を用いて技能の補充を 行う。
講義	11/30 (月)	3	八重柏隆客員教授	歯周外科治療5 (歯周形成外科手術 他) 歯周形成外科手術を理 解できる。	1. 歯周形成外科の種類と適応症を 説明できる。 2. 歯周形成外科の流れ・術式を説 明できる。 3. 歯周形成外科に用いる器具を説 明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：ザ・ペリオドントロジー 4版第5章170-176p、臨床歯周病学3 版257-266pを読んでまとめておく。 事後学修：講義理解が不十分であつ た箇所については、講義資料や教科 書等を用いて知識の補充を行う。
演習	12/7 (月)	3 4	佐々木大輔教授 村井 治講師 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	口頭試問 歯周病学の要点を自分 なりの表現で理解す る。	1. 歯周領域の重要項目・内容につい て規定時間内に口頭で説明できる。 [D-3-2全般、D-5-2-3全般] 事前学修：講義内容を復習して臨む こと。口頭試問リスト内容につい て、ザ・ペリオドントロジー4版全 章、臨床歯周病学3版全編、歯周病 専門用語集を読んでまとめ、口頭で 説明できるようにして臨むこと。 事後学修：口頭試問で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて知識の補充を行 う。
演習	12/14 (月)	3	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周病学試験 (中間試験)	これまでに学んだ歯周病学の要点を 規定時間内に選択もしくは記述でき る。

講義	12/14 (月)	4	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周病学試験 (中間試験解説)	これまでに学んだ歯周病学の要点を 振り返り、不足している知識を補填 する。
実習	12/21 (月)	3 4	佐々木大輔教授 村井 治講師 鈴木啓太助教 相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	実習試験 (SRP)	1. スケーリング・ルートプレーニン グに用いる器具を選択できる。 2. スケーリング・ルートプレーニン グを適切に実施できる (適切なポジ ショニングを含む)。 3. 医療安全・感染予防に配慮した SRPが実施できる。 [E-5-3-3全般] 事前学修：歯周基礎実習帳「歯周病 の病状説明」該当箇所、ザ・ペリオ ドントロジー4版第5章120-127p、臨 床歯周病学3版149-164pを読んでま とめておく。 事後学修：実習試験の理解が不十分 であった箇所については、歯周基礎 実習書、講義資料や教科書等を用い て知識および模型を用いて技能の補 充を行う。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	臨床歯周病学 第4版	齋藤淳ほか編	医歯薬出版	2026年
教	ザ・ペリオドントロジー 第4版	沼部幸博ほか編	永末書店	2023年
参	歯周病学用語集 第4版	特定非営利活動法人 日本歯周病学会 編	医歯薬出版	2025年
推	歯周治療の各ガイドライン	特定非営利活動法人 日本歯周病学会 編	医歯薬出版	2009年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義（65点以上で合格）：中間試験、期末試験、口頭試問の総合評価

実習（65点以上で合格）：実習（知識、態度、技能）評価、実習試験の総合評価
講義と実習が両者とも合格した場合のみ合格とする。

備考

実習評価：すべての実習に良好な態度で出席、すべての提出物を提出、すべての検印を受けることを必須とし、それらを全て守れない場合は、原則として実習評価不可とする。

実習評価対象：知識（実習内容を理解することができる）、技術（実習内容に則した手技ができる）、積極性（実習意欲があり積極的に行動することができる）、礼節（実習にふさわしい礼儀正しい話し方ができ責任ある行動ができる）。

講義・実習の減点：講義、実習ともに欠席、遅刻に応じて減点する。

再試：65点以上を合格とする。

到達目標	DP	実習	実習試験	口頭試問	中間試験	期末試験	その他	合計
1, 2	1			1	8	13		22
3, 4	1, 2			1	10	16		27
5, 6	1, 2			2.5	10	16		28.5
7, 8	1, 2			0.5	2	5		7.5
9, 10	1, 2, 3, 4	10	5					15
合計		10	5	5	30	50		100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

本講義および実習では、WebClassを活用して講義・実習に関連する資料を事前に提示し、学生に事前学修を促す。講義中および実習中には、歯周病の病態把握、検査結果の解釈、診断および治療方針、ならびに各手技の目的や留意点について、質疑応答やディスカッションを行い、主体的な学修を促進する。さらに、講義・実習終了後には担当教員とのディスカッションの機会を設けるとともに、提出されたレポートを担当教員が確認し、学修内容に対するフィードバックを行う。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
口腔内撮影用カメラ一式	EOS/X5他	1	視聴覚用機器	症例提示用資料作成
ノートパソコン・VAIO一式	VPCEH29FJ/W	1	視聴覚用機器	講義資料・スライドの作成
ソニックテクノ 歯科用デジタルカメラ	DC17-PRO	1	基礎実習・研究用機器 臨床実習用機器	講義・実習時の資料作成用
キャビトンセレクト SPS	667-127	6	基礎実習専用機器	基礎実習におけるデモとして使用
ノートパソコンMacBook Air	MJVE2JA	1	視聴覚用機器	講義・実習の資料作成・提示用
メディカルビデオレコーダー	UR-4MD	1	視聴覚用機器	実際の手術術式の供覧
マクロリングライト	MR14EX2	1	視聴覚用機器	実際の症例の供覧
アイスペシャル デジタル口腔撮影装置	C-3	2	視聴覚用機器	講義資料用症例記録
ノートパソコン	CF-LV8SDKJS	1	基礎実習・研究用機器	プレゼンテーション用

臨床薬理学

責任者・コーディネーター		薬理学講座（病態制御学分野） 中村 正帆 教授		
担当講座（分野）		薬理学講座（病態制御学分野）		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	後期		前期 —	—
			後期 12.0時間	16.0時間

学修方針（授業概要等）

臨床薬理学は薬物とヒトのあらゆる側面に関与する科学であり、適正な個別化薬物治療から医薬品開発と規制科学まで幅広い領域の基礎となっている。これまで学んだ様々な薬物に関する知識を最大限活用し、具体的な投与方法や有害反応の回避方法、相互作用など薬物療法の基本を修得する。また治療において配慮が必要な妊産婦、小児、高齢者、臓器障害患者における薬物投与を学修する。

実践的な能力を獲得できるよう能動的学修を主体とし、記述課題、学修者間相互学修、ロールプレイ、対話と討論、発表などのアウトプット型授業を実施する。学修到達度と授業の質を評価するために、各講義・演習・実習ごとに学修者アンケートを実施する。

教育成果（アウトカム）

処方薬の作用機序、有害反応、適応、禁忌、投与や服薬上の注意点を説明できる。
修得した薬理学的思考力を活用し、病態に適した薬物療法を選択できる。
これまで修得した知識を活用して、薬物療法の基本的な事項を患者に説明できる。

（関連するディプロマポリシー：1 - 4, 6, 8, 9）

到達目標（SB0s）

1. 薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。
2. 薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。
3. 薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。
4. 薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。
5. 薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。
6. 主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。
7. 薬物相互作用の機序と注意事項を説明できる。
8. 薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を説明できる。
9. 臨床研究、臨床試験、治験と市販後臨床試験、プラセボ効果の意義、研究倫理と関連法規を説明できる。
10. 漢方医学の特徴や、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用、有害事象を概説できる。
11. 麻酔薬、抗微生物薬、抗腫瘍薬、麻薬性鎮痛薬、抗炎症薬の薬理作用、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。
12. 各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、骨硬組織、代謝内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。
13. 疾患の概略、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について理解した上で模擬診療を実演し、診療内容について対話を通して説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】

シラバスに記載されている授業内容を確認し、教科書・講義資料・自己学修問題等を用いて事前学修すること。各授業の事前学修の時間は45分または3時間程度を要する。

【事後学修】

授業課題の内容を教科書と講義資料を用いて復習し、自己学修問題で知識を定着させること。各授業の事後学修の時間は45分または2時間程度を要する。

(事前学修：平均45分を要する 事後学修：平均45分を要する)

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/15 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L1：オリエンテーション・臨床研究総論 臨床薬理学の概要、薬理学ロールプレイの説明、臨床研究のデザイン、倫理的指針、新薬開発の流れ（非臨床試験と臨床試験）、法的規制	9. 臨床研究、臨床試験、治験と市販後臨床試験、プラセボ効果の意義、研究倫理と関連法規を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
講義	9/29 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L2：有害反応（副作用）・有害事象 有害反応、有害事象、適応禁忌、重篤副作用疾患別対応マニュアル、緊急安全性情報・安全性速報、副作用等報告制度、医薬品副作用被害救済制度	2. 薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。 6. 主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
講義	10/6 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L3：薬物相互作用・薬理遺伝学 薬物動態の復習、薬物動態的相互作用、薬力学的相互作用、相互作用による有害反応、相互作用の治療応用、薬物代謝酵素・トランスポーター・ターゲット分子の遺伝学	1. 薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 4. 薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。 5. 薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。 7. 薬物相互作用の機序と注意事項を説明できる。 8. 薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。

講義	10/13 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	L4：薬物治療の実践 処方箋の書き方、服薬アドヒアランス、ポリファーマシー、医薬品情報の入手、安全性情報の共有、小児、妊産婦、高齢者、臓器障害患者の薬物治療	3. 薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。 11. 麻酔薬、抗微生物薬、抗腫瘍薬、麻薬性鎮痛薬、抗炎症薬の薬理作用、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 12. 各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、骨硬組織、代謝内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
講義	10/20 (火)	1	田浦太志教授 (薬科学講座 天然物化学分野)	L5：和漢薬（漢方薬）I 和漢薬（漢方薬）総論、漢方医学の基礎、代表的な生薬の種類と作用、有害反応	10. 漢方医学の特徴や、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用、有害事象を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。
講義	10/27 (火)	1	田浦太志教授 (薬科学講座 天然物化学分野)	L6：和漢薬（漢方薬）II 和漢薬（漢方薬）総論、歯科で処方される代表的な和漢薬（漢方薬）の種類と作用、有害反応	10. 漢方医学の特徴や、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用、有害事象を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般] 事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。 事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。

実習日程表

実習	11/10 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	R1：薬理学ロールプレイ実践編_準備1 薬理学ロールプレイ役割の決定、症例の問題点の把握、症例の病態の理解、薬物治療の適応、EBM、実演準備、対話・質疑応答の対策、資料作成	13. 疾患の概略、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について理解した上で模擬診療を実演し、診療内容について対話を通して説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般、D-4-2全般、D-4-3全般] 事前学修：模擬症例に基づいて、医療者役、患者家族役は模擬診療実演を準備する。解説者役は疾患と治療薬について解説資料を作成する。3時間。 事後学修：ロールプレイについてレポートを作成する。2時間。
----	--------------	---	--	--	---

実習	11/17 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	R2：薬理学ロールプレイ実践編_準備2 薬理学ロールプレイ役割の決定、症例の問題点の把握、症例の病態の理解、薬物治療の適応、EBM、実演準備、対話・質疑応答の対策、資料作成	13. 疾患の概略、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について理解した上で模擬診療を実演し、診療内容について対話を通して説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般、D-4-2全般、D-4-3全般] 事前学修：模擬症例に基づいて、医療者役、患者家族役は模擬診療実演を準備する。解説者役は疾患と治療薬について解説資料を作成する。3時間。 事後学修：ロールプレイについてレポートを作成する。2時間。
実習	11/24 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	R3：薬理学ロールプレイ実践編_準備3 薬理学ロールプレイ役割の決定、症例の問題点の把握、症例の病態の理解、薬物治療の適応、EBM、実演準備、対話・質疑応答の対策、資料作成	13. 疾患の概略、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について理解した上で模擬診療を実演し、診療内容について対話を通して説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般、D-4-2全般、D-4-3全般] 事前学修：模擬症例に基づいて、医療者役、患者家族役は模擬診療実演を準備する。解説者役は疾患と治療薬について解説資料を作成する。3時間。 事後学修：ロールプレイについてレポートを作成する。2時間。
実習	12/1 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	CT1：カフェインの中樞神経作用の科学的検証1 臨床試験の実施。	9. 臨床研究、臨床試験、治験と市販後臨床試験、プラセボ効果の意義、研究倫理と関連法規を説明できる。 12. 中樞・末梢神経系に作用する薬の薬理作用、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般、D-4-2全般、D-4-3全般] 事前学修：実習書を予習する。 事後学修：レポートを作成する。
実習	12/1 (火)	2	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	CT2：カフェインの中樞神経作用の科学的検証2 臨床試験の実施。	9. 臨床研究、臨床試験、治験と市販後臨床試験、プラセボ効果の意義を説明できる。 12. 中樞・末梢神経系に作用する薬の薬理作用、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般、D-4-2全般、D-4-3全般] 事前学修：実習書を予習する。 事後学修：レポートを作成する。

実習	12/8 (火)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	CT3：カフェインの中樞神経作用の科学的検証3 臨床試験結果の解析。	9. 臨床研究、臨床試験、治験と市販後臨床試験、プラセボ効果の意義を説明できる。 12. 中枢・末梢神経系に作用する薬の薬理作用、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般、D-4-2全般、D-4-3全般] 事前学修：実習書を予習する。 事後学修：レポートを作成する。
実習	12/15 (火)	3	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野) 藤原秀世 非常勤講師 川田慶勲 非常勤講師 菊月圭吾 客員教授	R4：薬理学ロールプレイ実践編_発表会1 学生が医療者・患者に扮して模擬診療（ロールプレイ）を実施し、その後薬物治療の基礎的事項について学生間で対話し学修する。	13. 疾患の概略、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について理解した上で模擬診療を実演し、診療内容について対話を通して説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般、D-4-2全般、D-4-3全般] 事前学修：模擬症例に基づいて、医療者役、患者家族役は模擬診療実演を準備する。解説者役は疾患と治療薬について解説資料を作成する。3時間。 事後学修：ロールプレイについてレポートを作成する。2時間。
実習	12/15 (火)	4	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野) 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野) 藤原秀世 非常勤講師 川田慶勲 非常勤講師 菊月圭吾 客員教授	R5：薬理学ロールプレイ実践編_発表会2 学生が医療者・患者に扮して模擬診療（ロールプレイ）を実施し、その後薬物治療の基礎的事項について学生間で対話し学修する。	13. 疾患の概略、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について理解した上で模擬診療を実演し、診療内容について対話を通して説明できる。 [A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般、D-4-2全般、D-4-3全般] 事前学修：模擬症例に基づいて、医療者役、患者家族役は模擬診療実演を準備する。解説者役は疾患と治療薬について解説資料を作成する。3時間。 事後学修：ロールプレイについてレポートを作成する。2時間。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	現代歯科薬理学 第7版	鈴木邦明 監修	医歯薬出版	2024
参	薬の基本とはたらきがわかる薬理学	柳田俊彦 編	羊土社	2023
参	臨床薬理学 第4版	日本臨床薬理学会 編	医学書院	2017
参	基本がわかる漢方医学講義	日本漢方医学教育協議会 編	羊土社	2020
参	薬がみえる vol.1～4	野元正弘ら 監修	メディックメディア	2021など
参	Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 14th edition	L. L. Brunton & B. C. Knollmann	McGraw-Hill EDUCATION	2023

成績評価方法・基準・配点割合等

総括評価：試験：40%、発表・実演・実習・グループ学習・レポート・授業課題：60%
 形成的評価：授業課題・自己学修問題・レポートなどで理解度を確認し、必要に応じてフィードバックする。発表・実演・実習・グループ学習では、個別の質問への返答や全体への解説をその場で行う。

到達目標	DP	試験	発表・実演・実習	レポート	授業課題	その他	合計
1-9	3, 4	25	10	5	5	1	46
10	4	5	0	0	1	1	7
11-13	1-4, 6, 8, 9	10	25	10	1	1	47
合計	—	40	35	15	7	3	100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

- ・学修環境：教員と学修者は協働して、安全で快適な学修環境保持に努めること。
- ・出席確認：原則として、授業課題の写真データを授業終了時にWebClassに提出することで、講義出席と判定する。これ以外の方法で出席を確認する場合は、必ず授業開始時に連絡するので、その指示に従うこと。
- ・レポートなど：捏造・改竄・盗用は不正行為である。正しく引用すること。
- ・質問や相談など：いつでも受け付ける。どのような内容でも構わない。授業時に教員に話しかけるか、WebClassかEメールでアポイントメントをとること。

1. 講義資料：原則としてWebClassに講義前日までに掲載する。自己学修に活用すること。
2. 自己学修問題：WebClassに5肢択一を中心とした問題を掲載する。事前学修、事後学修に活用すること。
3. 授業課題：講義で記述式課題に取り組む（A4用紙1-2枚）。授業終了時に課題用紙全体を写真に撮り、WebClassの指定項目に提出する。提出をもって講義を出席とする。
4. 授業アンケート：各授業終了時にWebClassのアンケートに回答する。アンケートに回答することで、自分自身の理解度や受講状況を記録することができる。
5. レポート：原則としてWebClassの指定項目に提出する。指定されたファイル形式とファイル名、提出期限を厳守すること。
6. 試験のフィードバック方法：試験について講評と解説をWebClassにアップロードする。必要に応じて個別に面談する。
7. その他のフィードバック方法：原則として授業中またはWebClassでフィードバックする。必要に応じて個別に指導する。
8. グループワーク、ロールプレイ実演、発表、実験実習など能動的学修・学修者相互学修：実施方法は授業で説明する。必要に応じて事前にグループ学修した上で資料などを作成し、発表や実演の準備と練習をすること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有：大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、事例を交えて専門領域に関して教育する。

授業に使用する機械・器具と使用目的 … 特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的

社会と歯学

責任者・コーディネーター		口腔医学講座（予防歯科学分野） 小林 琢也 教授	
担当講座（分野）		口腔医学講座（予防歯科学分野）	
対象学年	3	区分・時間数	講義/演習 実習
期間	後期		前期 後期 28.0時間

学修方針（講義概要等）

社会と歯学では、まず人々に保健・医療・研究に対するの倫理の歴史的推移を学修し、AIの出現などによる現代社会特有の倫理を考察することでプロフェッショナリズム獲得のための基盤が醸成される。また、保健・医療・介護は国や地方公共団体が設けている制度に則って、歯科医師などの専門家によって国民に提供されなければならない。その法的基盤を理解するために法律、制度について学修する。加えて、実際に保健・医療の現場で活躍されている外部講師から講義を受けることにより、それら制度・法律の現実的な適用を理解する。講義資料は講義前にWebClassに掲載するので、事前学修に使用すること。

教育成果（アウトカム）

講義：歯科保健医療を社会科学の視点から学習することにより、我が国の保健行政および社会保障制度の枠組みの中で歯科保健医療を適切に提供しようとする態度が身につく。また、本科目では地域歯科保健医療、災害時歯科保健医療支援、地域医療で高い実績ある外部講師を招いて講義を行う。これらにより歯科医師としての具体的な地域社会への貢献について理解することができる。

（関連するディプロマポリシー：1～5、8、9）

到達目標（SB0s）

1. 医療倫理の歴史的流れを概説できる。
2. プロフェッショナリズムを獲得しようとする。
3. 医療法を概説できる。
4. 歯科医師法に記載された歯科医師の義務を列挙できる。
5. チーム医療における他職種と歯科医師の役割を概説できる。
6. 医療記録の記載内容と保存方法を説明できる。
7. 医療安全を概説できる。
8. 保健衛生関連法規を列挙できる。
9. 災害時の歯科保健医療の意義を概説できる。
10. 社会保障制度による医療提供方法を列挙できる。
11. 社会保険と社会福祉を区別できる。
12. 医療施設の開設管理を概説できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書等（シラバスに指定）を用いて事前学修を行うこと。事前学修は平均30分を要する。講義前後で同じ内容の小テスト（プレ・ポストテスト）を実施する（外部講師担当は除く）。講義後に問題と正解がWebClassに公開される。問題を解きなおすだけでなく、周辺知識を含めた学修を事後に行うこと。事後学修は平均45分を要する。本内容は外部講師担当と問題演習以外の全授業に対して該当するものとする。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/10 (木)	2	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野) 岸 光男客員教授	社会と歯学総論・医の 倫理 医療法1 歯科医療に関連する社会背景と医療関連倫理規定を学ぶことにより歯科医療の社会的意義が理解できる。	1. 歯科医療の社会的背景を概説できる。 2. 歯科医師のプロフェッショナリズムを概説できる。 3. 世界医師総会宣言と我が国の医の倫理規定を列挙できる。 4. 医療法が定める項目を列挙できる。 5. 医療安全に関する医療法の規定を列挙できる。 [PR-01、GE-01、SO-04・05 C-1-1-1~6、C-1-2-1~4、C-3-2-2] 事前学修：スタンダード社会歯科学（以下、ST社歯）p.1-27, p.51-73を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	9/17 (木)	2	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野) 岸 光男客員教授	医療法2、歯科医師法 医療法と歯科医師法を学ぶことにより歯科医療の特殊性と普遍性が理解できる。	1. 医療施設の種類を列挙できる。 2. 医療計画と医療圏について説明できる。 3. 地域包括ケアシステムにおける医療の位置づけを概説できる。 4. 歯科医師法に定められた歯科医師の義務を列挙できる。 5. 歯科医師免許の欠格事由と行政処分を説明できる。 [PR-03、SO-05、GE-01、C-3-2-1・2・4・5、C-3-3-1・2・3・4、C-4-2-1・2] 事前学修：ST社歯 p.51-81を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	9/24 (木)	2	杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	保健・医療・福祉関連 職と多職種連携 他の医療・保健・福祉関連職の枠割を理解することで、医療施設におけるチーム医療、地域における包括ケアの推進に役立てることができる。	1. 歯科衛生士法が規定する事項を列挙できる。 2. 歯科技工士法が規定する事項を列挙できる。 3. その他の保健・医療・福祉職を列挙できる。 4. 多職種連携による医療チームの種類を列挙できる。 5. 周術期ケアにおけるチーム医療を概説できる。 [PR-03、CM-04、IP-01・02、C-1-3-1~5、C-4-2-3] 事前学修：ST社歯 p.83-90、p.113-129を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	10/1 (木)	2	佐藤華子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	薬事関連法規と臨床研究、薬害の防止 薬事関連法規に加えて臨床研究、薬害等、医事関連の制度を学ぶことによって、医薬品等のリスクと日本のそれらに対する管理体制とを理解できる。	1. 歯科領域で用いる医薬品、医薬部外品、化粧品および医療機器を列挙できる。 2. 歯科領域で用いる医療機器のクラス分類を説明できる。 3. 臨床研究の種類を列挙できる。 4. 医薬品副作用被害救済制度を概説できる。 [PR-01・03、IP-01・02、C-1-2-2、C-3-2-6、C-4-2-4・7] 事前学修：ST社歯 p.95-111、p.153-156を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	10/8 (木)	2	岸 光男客員教授	歯科診療に関する記録物とその管理 AI社会の原則 歯科診療に関する記録物とその管理法を学ぶことで医療情報の重要性和患者中心の医療を理解できる。	1. 診療録、診断書、処方せん、歯科技工指示書、その他の記録物の記載と保存を説明できる。 2. 記録物の管理（院内管理、院外管理、電子カルテ、個人情報の保護）を説明できる。 3. AIの社会原則を列挙できる。 [C-3-1-1・2・3・4、C-6-3-3・4、D-2-4-1・2・3、D-4-1-1・2・3] 事前学修：ST社歯 p. 20-23, p.41-49を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	10/15 (木)	2	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	医療の質と安全性の確保 医療現場におけるリスクを学ぶことで医療行為のリスクマネジメントを理解する。	1. 医療事故防止の原則を概説できる。 2. 医療廃棄物の取り扱いを概説できる。 3. 医事紛争の流れを概説できる。 [LL-02・03、CS-07、C-3-1-1・2・3・4、C-3-2-1・2・4、C-3-3-2・3、E-1-1-1・2・3・5] 事前学修：ST社歯 p.131-156を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	10/22 (木)	2	岸 光男客員教授	地域保健関連法規 地域保健関連法規を学ぶことで歯科医師の地域保健に対する使命を理解することができる。	1. 健康増進法が規定する事項を列挙できる。 2. 地域保健法が規定する事項を列挙できる。 3. 食品衛生法、感染症法、予防接種法、検疫法を概説できる。 [PS-10、S0-02・03、C-4-2-5・6、C-4-3-1] 事前学修：ST社歯 p.157-168を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	10/29 (木)	2	大黒英貴非常勤講師	災害時の歯科保健医療 東日本大震災直後の被災地支援を行った歯科医師から災害時の歯科保健医療について学ぶことで災害時の歯科保健医療の必要性が理解できる。	1. 災害時の時系列フェーズを理解できる。 2. 災害時の歯科支援活動を列挙できる。 3. 身元確認作業における歯科医師の役割を理解できる。 [S0-06、C-4-3-7・8] 事前学修：口腔保健・予防歯科学 p. 314-318を読んで疑問点を整理しておくこと。 事後学修：講義資料を見直して、災害時における歯科保健医療と歯科医師の役割を自分の言葉でまとめてみる。事後学修には最低45分を要する。
講義	11/5 (木)	2	佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座 予防歯科学分野） 岸 光男客員教授	社会保障制度 1 社会保険 社会保障制度の概要を知り、医療を提供する仕組みを知ることによって、歯科医師は医療の担い手のみならず、社会保障体制の担い手でもあることを理解することができる。	1. 医療保障の分類を概説できる。 2. 社会保険と社会福祉の違いを説明できる。 3. 社会保険の種類を列挙できる。 4. 医療保険制度を概説できる。 5. 被用者保険と国民健康保険の違いを説明できる。 6. 年金保険を概説できる。 7. 労働保険を概説できる。 [PS-10・11、IP-02・03、S0-01・03、C-4-2-5・6、C-4-3-1・2] 事前学修：ST社歯 p. 169-184, p. 195-201を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	11/12 (木)	2	佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座 予防歯科学分野） 岸 光男客員教授	社会保障制度 2 介護保険と地域医療 介護保険制度と地域医療体制を学ぶことで地域包括ケアシステムの概念を理解する。	1. 介護保険法が規定する項目を列挙できる。 2. 介護保険法による地域支援事業を説明できる。 3. 地域包括ケアシステムを概説できる。 4. 医療連携と医療計画（地域医療構想）を説明できる。 5. 介護施設と医療施設の機能と役割を概説できる。 6. 医療の効率的提供（クリニカルパスと地域連携クリニカルパス）を説明できる。 [PS-10・11、IP-01～03、C-4-3-1～6] 事前学修：ST社歯 p. 185-201を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	11/19 (木)	2	岸 光男客員教授	社会保障制度 3 社会福祉 社会保障福祉を学ぶことで社会的弱者に対する医療者の役割を理解する。	1. 社会福祉関連法規を列挙できる。 2. 虐待防止関連法規を列挙できる。 3. 障害者福祉の理念を概説できる。 4. 障害者総合支援法による自立支援給付を概説できる。 5. 公的扶助を概説できる。 6. 医療扶助を説明できる。 [PS-10・11、S0-01・03、C-4-1-1、C-4-3-1～6] 事前学修：ST社歯 p. 201-217を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	11/26 (木)	2	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	医療経済と国民医療費 国際保健医療 医療経済ならびに他国の保健医療制度を学ぶことにより医療提供方法の多様性を理解する。	1. 国民医療費の財源、制度、診療種類別内訳を概説できる。 2. 国民医療費の推移について説明できる。 3. 歯科医療費の推移について説明できる。 4. 社会保障費の推移を概説できる。 5. 国による保健医療制度の差違を概説できる。 [PS-11、C-4-3-3] 事前学修：ST社歯 p. 219-242を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	12/3 (木)	2	橋場友幹非常勤講師	歯科医療施設の管理 歯科診療所管理者から歯科医療施設の開設・管理を学ぶことで地域歯科医療の現状を理解することができる。	1. 歯科医療施設の開設、休廃止を概説できる。 2. 歯科医療施設の管理を概説できる。(含、放射線管理) 3. 広告制限、院内掲示事項を列挙できる。 4. 医薬品・医療機器の安全管理責任を概説できる。 5. 医療廃棄物管理を概説できる。 [LL-02・03、C-3-1-1・2・3・4、C-3-3-3] 事前学修：第1～6回までの講義を復習しておくこと。事前学修には最低30分を要する。 事後学修：本授業の講義資料と第1～6回までの講義資料の関連を検討すること。事後学修には最低45分を要する。
講義	12/10 (木)	2	岸 光男客員教授	問題演習 問題演習によって、保健医療福祉関連の法規と制度への理解を深めることができる。	1. 重要な法規とその目的を列挙できる 2. 医療計画を説明できる。 3. 社会保障制度を概説できる。 4. 医薬品、医療機器等と保健機能食品の区別ができる。 [LL-02・03、C-3-1-1・2・3・4、C-3-3-3] 事前学修：WebClassに最低3日前までに演習問題をアップするので、それを解答しておくこと。事前学修に最低30分を要する。 事後学修：演習問題を再度回答して、重要なポイントを書きだすこと。事後学修には最低45分を要する。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタンダード社会歯科学 第9版	尾崎哲則ほか 編著	学建書院	2026
教	新編 衛生学・公衆衛生学 第1版 (第5刷)	安井利一、鳩崎義浩、 岸光男ほか 編	医歯薬出版	2025
教	口腔保健・予防歯科学 第 2版	山下喜久ほか 編	医歯薬出版	2023
参	新版 歯科医療管理 安全・安心・信頼の歯科医療 を提供するために	一般社団法人 日本歯 科医療管理学会 編	医歯薬出版	2018
参	災害時の歯科保健医療対策 連携と標準化に向けて	中久木康一、北原 稔、安藤雄一 編	一世出版	2015

成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験 90%
平常点（ポストテスト、演習）10%

到達目標	DP	ポストテスト、演習	定期試験	その他	合計
1～12	1～5、8、9	10	90		100
合計		10	90		100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

講義前にWebClassに資料を提示するので事前学習に利用すること。
非常勤講師担当以外の講義では講義前後に試験（プレテスト、ポストテスト）を行い、結果は次の講義前にフィードバックする。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的 … 特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的

歯内療法学

責任者・コーディネーター		(主) 歯科保存学講座（う蝕治療学分野） 野田 守 教授 歯科保存学講座（う蝕治療学分野） 浅野 明子 准教授		
担当講座（分野）		歯科保存学講座（う蝕治療学分野）		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	後期		前期 —	—
			後期 56.0時間	42.0時間

学修方針（講義概要等）

歯内治療学(endodontics)では、口腔治療の対象となる歯内疾患の各疾患の科学と病態、診査・診断・治療方法を講義・実習で段階的に把握する。

教育成果（アウトカム）

歯内疾患の科学、病態（診査・診断）治療の講義・実習で修復領域を修得する。初診から高頻度歯科臨床の流れとして臨床で求められる口腔治療学の、知識、態度、技能を学修することができる。履修内容に関するフィードバックは掲示・ウェブクラス等で周知する。

（関連するディプロマポリシー：1， 2， 4， 6， 9）

到達目標（SB0s）

1. 歯内治療学の意義と目的について説明できる。
2. 歯内治療の治療の特徴について説明できる。
3. 歯内治療の基本的手技を実施できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。

【事後学修】

講義、実習で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/9 (水)	1	野田 守教授 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯内総論 歯と歯周組織の機能・ 構造 歯内療法の定義、意 義、目的について説明 できるようになる。	1. 歯内療法学の目的を説明でき る。 2. 歯髓腔の組織・解剖学を説明でき る。 3. 象牙質・歯髓複合体の生理学的機 能、硬組織形態を説明できる。 4. 歯と歯髓腔の形態異常について 説明できる。 [A-2-4-8、A-5-5-1、A-5-5-1、D- 3-1-3-1、D-3-1-3-2、D-3-2-2、D- 5-2-2-1] 事前学習：歯内治療学第1章、第2章 を読み、疑問点を抽出しておく。ま た事前に提示されたキーワードにつ いて教科書とその他の参考書を含め て調べ、予習しておく。所要時間30 分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
講義	9/9 (水)	2	野田 守教授 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う蝕 治療学分野) 西谷佳浩非常勤講師	歯髓の保存療法、待機 的診断 歯髓疾患の治療方針お よび歯髓保存療法につ いて説明できるようにな る。	1. 各種歯髓疾患の治療方針につ いて説明できる。 2. 待機的診断法について説明でき る。 3. 歯髓鎮痛消炎療法について説明 できる。 4. 間接覆髄法について説明でき る。 5. 直接覆髄法について説明でき る。 6. 暫間的間接覆髄法について説明 できる。 7. 生活断髄法について説明でき る。 [D-5-2-1-5、D-5-2-2-1] 事前学習：歯内治療学 5 章Ⅶを読 み、疑問点を抽出しておく。また事 前に提示されたキーワードについて 教科書とその他の参考書を含めて調 べ、予習しておく。所要時間30分程 度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。

講義	9/9 (水)	3 4	浅野明子准教授 大塚泰寛助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯内治療における基本術式 歯内治療に必要な検査法について説明できるようになる。	1. 適切な医療面接ができる。 2. 診断に必要な検査の目的を説明できる。 3. 歯内治療に必要な検査法を説明できる。 4. 検査機器の使用方法を説明できる。 5. 無菌的処置法、麻酔法について説明できる。 [D-2-1-1全般、D-2-2-1、D-3-1-3-3、D-3-2-2、D-5-2-2-1] 事前学習：歯内治療学4章を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/16 (水)	1 2	野田 守教授 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	歯髄炎と根尖性歯周炎の概要 歯髄炎と根尖性歯周炎の病変について説明できるようになる。	1. 歯髄炎の病態について説明できる。 2. 根尖性歯周炎の病態について説明できる。 3. 歯髄保護の方法について説明できる。 [D-5-2-2-1] 事前学習：歯内治療学 5, 章V、VI、VIIを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/30 (水)	1 2	浅野明子准教授 飛嶋彩恵子助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	歯髄疾患の分類と病態 各種歯髄疾患の分類と病態について説明できるようになる。	1. 歯髄疾患の原因を説明できる。 2. 歯髄疾患の分類と臨床症状について説明できる。 3. 歯髄疾患の特徴と経過について説明できる。 4. 歯髄疾患の特徴と経過を説明できる。 [A-5-5-1、A-5-5-2、D-3-1-3-1、D-3-1-3-2、D-3-1-3-3、D-3-2-2、D-5-2-2-1] 事前学習：歯内治療学第5章 I～IVを読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	10/7 (水)	1 2	浅野明子准教授 飛嶋彩恵子助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯髄疾患の診断、治療方針 歯髄疾患の診断と治療方針、治療法について説明できる。	1. 歯髄疾患の診断について説明できる。 2. 歯髄疾患の治療方針について説明できる。 3. 歯髄疾患の治療法について説明できる。 [D-5-2-2-1] 事前学習：歯内治療学 5 章 V～VII を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/14 (水)	1 2 3	東 兼司助教 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	根尖性歯周炎の分類、病態、診断、治療方針 各種根尖性歯周炎の病態から治療方針まで説明できるようになる。	1. 根尖性歯周疾患の概要について説明できる。 2. 根尖性歯周疾患の原因について説明できる。 3. 各種根尖性歯周組織疾患の分類と病態を説明できる。 4. 根尖性歯周疾患の特徴と経過について説明できる。 5. 根尖性歯周疾患の診断について説明できる。 6. 根尖性歯周疾患の治療方針について説明できる。 [A-5-5-1、A-5-5-2、D-3-1-3-1、D-3-1-3-2、D-3-1-3-3、D-3-2-2、D-5-2-2-1] 事前学習：歯内治療学第 6 章を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	11/4 (水)	1 2	野田 守教授 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野) 前田英史非常勤講師	実体顕微鏡を応用した歯内治療 実体顕微鏡を用いた根管治療について説明できるようになる。	1. 根管治療の注意点を説明できる。 2. 実体顕微鏡の使用方法を説明できる。 [D-5-2-2-1、D-5-2-2-5] 事前学習：歯内治療学第 7、14 章を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	11/4 (水)	3	浅野明子准教授 大塚泰寛助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	根管処置 抜髄・感染根管治療の 基本術式について説明 できるようになる。	1. 髄腔開拓の要件について説明で きる。 2. 作業長の測定について説明できる。 3. 根管形成について説明できる。 4. 根管の化学的洗浄、消毒につい て説明できる。 5. 根管内容物の検査、補助療法つ いて説明できる。 6. 再根管治療について説明でき る。 [D-5-2-2-1] 事前学習：歯内治療学第7章を読 み、疑問点を抽出しておく。また事 前に提示されたキーワードについて 教科書とその他の参考書を含めて調 べ、予習しておく。所要時間30分程 度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
講義	11/4 (水)	4	浅野明子准教授 大塚泰寛助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	根管充填 根管充填の基本術式に ついて説明できるよう になる。	1. 根管充填の目的を説明できる。 2. 根管充填が可能な条件を説明で きる。 3. 根管充填材の所要性質、種類に ついて説明できる。 4. 種々の根管充填の術式について 説明できる。 5. 即時根管充填法について説明でき る。 6. 根管充填後の治癒経過について説 明できる。 [D-5-2-2-2] 事前学習：歯内治療学第8章を読 み、疑問点を抽出しておく。また事 前に提示されたキーワードについて 教科書とその他の参考書を含めて調 べ、予習しておく。所要時間30分程 度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
演習	11/18 (水)	1	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	中間試験	1. これまでに学んだことを規定時 間内に説明できる。

講義	11/18 (水)	2	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	緊急処置 根未完成歯の治療 疼痛に対する緊急処置 方法と根未完成歯の治 療法について説明でき る。	1. 疼痛に対する緊急処置法を説明で きる。 2. 急性歯髄炎に対する緊急処置法を 説明できる。 3. 根尖性歯周炎に対する緊急処置法 を説明できる。 4. 根未完成歯の歯内療法のための 説明できる。 5. アペキシゲネーシスについて説 明できる。 6. アペキシフィケーションについ て説明できる。 7. 再生歯内療法について説明でき る。 [D-5-2-2-1、D-5-2-2-3] 事前学習：歯内治療学第9章、第10 章を読み、疑問点を抽出しておく。 また事前に提示されたキーワードに ついて教科書とその他の参考書を含 めて調べ、予習しておく。所要時間 30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
講義	11/18 (水)	3	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯根の病的吸収 歯根の病的吸収の病態 について説明できる。	1. 内部吸収の原因、症状、対処法に ついて説明できる。 2. 外部吸収の原因、症状、対処法に ついて説明できる。 [D-5-2-2-7] 事前学習：歯内治療学第11章を読 み、疑問点を抽出しておく。また事 前に提示されたキーワードについて 教科書とその他の参考書を含めて調 べ、予習しておく。所要時間30分程 度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
講義	12/9 (水)	1	東 兼司助教 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	外傷歯の診断と処置 外傷歯の歯内療法の基 本術式について説明で きるようになる。	1. 外傷歯の分類が説明できる。 2. 外傷歯も診査・検査について説明 できる。 3. 外傷歯の治療について説明でき る。 [D-3-1-2-3、D-5-2-2-8] 事前学習：歯内治療学第12章を読 み、疑問点を抽出しておく。また事 前に提示されたキーワードについて 教科書とその他の参考書を含めて調 べ、予習しておく。所要時間30分程 度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。

講義	12/9 (水)	2	東 兼司助教 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	外科的歯内療法 実体顕微鏡の応用 外科的歯内療法の術式・適応症、実体顕微鏡について説明できるようになる。	1. 外科的歯内療法の術式・適応症を説明できる。 2. 外科的歯内療法に用いる器具を用意できる。 3. 実体顕微鏡の構造、機能を説明できる。 4. 実体顕微鏡による検査、適応症を説明できる。 [D-5-2-2-5] 事前学習：歯内治療学第13、14章を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/9 (水)	3	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	根管処置後の歯冠修復 歯内－歯周病変のの病態、治療法について説明できる。支台築造法について説明できる。	1. コロナルリーケージについて説明できる。 2. 支台築造法について説明できる。 [E-3-3)-(2)-②、E-3-4)-(1)-③] 事前学習：第18章を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/9 (水)	4	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯内治療における安全対策 歯内治療における偶発症について説明できる。	1. 歯内療法における偶発症を説明できる。 2. 偶発症への対処法を説明できる。 3. 有病者における歯内処置で配慮すべき点を説明できる。 [D-5-2-2-3] 事前学習：歯内治療学第19章を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	12/16 (水)	1	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野) 志賀華絵非常勤講師	変色歯の漂白 変色歯の漂白法について説明できる。	1. 変色歯の分類を説明できる。 2. 変色歯の漂白方法を説明できる。 3. 漂白の適応症と禁忌症を説明できる。 4. 偶発症について説明できる。 [D-5-2-2-3、D-5-2-2-6] 事前学習：歯内治療学第15章を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/16 (水)	2	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野) 志賀華絵非常勤講師	高齢者有病者の歯内治療 高齢者・有病者の歯内治療の留意点について説明できるようになる。	1. 高齢者の心身における特徴を説明できる。 2. 全身疾患と歯内治療について説明できる。 3. 高齢者・有病者と健常者の歯内療法の違いを説明できる。 4. 高齢者の歯内療法について説明できる。 [D-3-2-2、D-5-2-2-1] 事前学習：第17章を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/23 (水)	1	野田 守教授 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯内-歯周病変 歯内-歯周病変の病態、治療法について説明できる。	1. 歯内-歯周病変の分類と臨床症状について説明できる。 2. 歯内-歯周病変の診断と治療について説明できる。 [E-3-3)-(2)-②、E-3-4)-(1)-③] 事前学習：第16章、を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	12/23 (水)	2	野田 守教授 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯内臨床ケースから学ぶ PBL形式 提示された歯内症例に 対して的確な診断、治 療法の選択、治療に用 いる器具を容易できる ようになる。	1. 提示された症例に対して、的確な診査ができる。 2. 提示された症例に対して、的確な診断ができる。 3. 患者背景を考慮した治療法を選択できる。 4. 治療に用いる器具を用意できる。 与えられたテーマおよび問題に対してインターネットなどを利用して、情報収集を行い、発表出来るように纏めておく。 [D-5-2-2全般] 事前学習：有病者の歯科治療との関連についてインターネットなどで調べておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
----	--------------	---	---	--	---

実習日程表

実習	9/16 (水)	3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	材料と根管形成 歯内療法に用いる各種材料を把握し、今後の実習の理解を深めることができるようになる。	1. ブローチで綿栓を巻くことができる。 2. 根管模型で根管拡大を行うことができる。 3. 根管治療で使用する器具を適切に扱うことができる。 4. 根管拡大の基準を説明できる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1] 事前学習：歯内療法学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
----	-------------	--------	--	---	--

実習	9/30 (水)	3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	上顎前歯の根管治療① 髓腔開拡大から根管口の 明示、仮封までをシュ ミレーター実習で根管 拡大を治療手技に沿っ てできるようになる。	1. 根管治療の術式を説明できる。 2. 上顎前歯の髓腔開拡大を行うことができる。 3. 根管口の漏斗状拡大を行うことができる。 4. 作業長を決定することができる。 5. 作業長で根管拡大を行うことができる。 6. 根管洗浄、乾燥、貼薬仮封を行うことができる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-2-6] 事前学習：歯内療法学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	10/7 (水)	3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	臼歯の根管治療① 上顎小臼歯 髓腔開拡大 根管口明示 根管拡大 シミュレーターで上顎 小臼歯の根管治療がで きるようになる。	1. 上顎小臼歯の髓腔開拡大を行うことができる。 2. 根管口の漏斗状拡大を行うことができる。 3. 根管洗浄、乾燥、貼薬仮封を行うことができる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-2-2] 事前学習：歯内療法学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	10/21 (水)	1 2 3	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	臼歯の根管治療② 根管充填① 下顎大臼歯の髓腔開 拡大、根管口の明示、根 管拡大をシュミレー ター実習で大臼歯の根 管治療ができるよう になる。 アクリル模型で基本的 な根管充填の基本的 手技を行うことができ ようになる。	1. 下顎大臼歯のアクセスキャビ ティを理解できる。 2. 下顎大臼歯の根管拡大を行うことができる。 3. 根管治療の術式を説明できる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-2-6] 事前学習：WebClassで実習書を予習したうえで、実習に望むこと。

実習	11/11 (水)	1 2	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	上顎前歯の根管治療② 上顎前歯部の根管充填をシュミレーターで行うことができるようになる。 電氣的根管長測定器を使用して根管長側的ができるようになる。	1. 根管充填を行うことができる条件を説明できる。 2. マスターポイントの試適を行うことができる。 3. シーラーを練和できる。 4. 根管充填を行うことができる。 5. 電氣的根管長測定を行うことができる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-2-6] 事前学習：歯内療法学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	11/11 (水)	3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	臼歯の根管治療③ 下顎大臼歯の根管充填をシュミレーター実習で行うことができるようになる。	1. 根管充填を行うことができる条件を説明できる。 2. マスターポイントの試適を行うことができる。 3. シーラーを練和できる。 4. 根管充填を行うことができる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-2-7] 事前学習：歯内療法学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	12/2 (水)	1 2	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	上顎前歯の根管治療③ 再根管治療をシュミレーター実習で行うことができるようになる。	1. 根管内の根管充填材を除去することができる。 2. 再根管治療が必要な病態を説明できる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-2-1] 事前学習：歯内療法学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	12/2 (水)	3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	臼歯の根管治療④ 上顎大臼歯の根管拡大をシュミレーター実習で行うことができる。	1. 上顎大臼歯の髓腔開拓を行うことができる。 2. シュミレーター実習で診療解除を実施することができる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-2-2] 事前学習：歯内療法学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	12/16 (水)	3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	ニッケルチタンロータリーファイルを使用した根管治療 シュミレーターでニッケルチタンロータリーファイルでの根管拡大を実施できるようになる。	1. ニッケルチタンロータリーファイルの特徴を説明できる。 2. ニッケルチタンロータリーファイルで根管拡大を実施できる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-2-2] 事前学習：歯内療法学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	12/23 (水)	3 4	野田 守教授 浅野明子准教授 千田弥栄子助教 東 兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 鈴木太平助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	実習試験 与えられた臨床課題をシュミレーターで実施できるようになる。	1. 与えられた課題を時間内に達成できる。 [E-1-1-1、E-1-1-2、E-1-1-3、E-5-1、E-5-3-1-1] 事前学習：歯内療法学, 実習書を読み、疑問点を抽出しておく。また事前に提示されたキーワードについて教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	歯内治療学 第6版	興地隆史ほか編	医歯薬出版	2025年
教	エンドドンティクス 第7版	興地隆史ほか編	永末書店	2026年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義（65点以上で合格）：講義レポート、中間試験、定期試験の総合評価

実習（65点以上で合格）：実習（態度、知識、技能）の総合評価

講義と実習が両者とも合格した場合のみ、合格とする。

備考

実習：すべての実習に態度良好で出席すること、すべての提出物を提出すること、すべての検印を受けることを必須とし、それらを全て守れない場合は、原則として実習評価不可とする。

本実習では、実習に関する知識（実習内容を理解することができる）、技術（実習内容に則した手技ができる）、積極性（実習意欲があり積極的に行動することができる）、礼節（礼儀正しい話し方ができ責任ある行動ができる）を評価する。

講義・実習：講義、実習ともに欠席、遅刻に応じて減点する。

再試は原則として各領域65点以上を合格とする。

到達目標	DP	講義レポート	実習	中間試験	定期試験	合計
1,2	1,4,9	10		20	50	80
3	2,6		20			20
合計		10	20	20	50	100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

アクティブ・ラーニングを実施するために、TxADの各講義・実習ではグループワークを取り入れ、伝える力の強化を図るとともに、各講義・実習時間内に扱う各内容に関して担当教員とのディスカッションの機会を設ける。学生の理解度を必要に応じて講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して逐次確認する。講義資料は必要に応じてWebClassにアップロードする。

学生参加型講義を実施するために、各担当者は過去の国試問題をインターネット上の事前学習教材（DESSお試し演習）として演習前日までに設定する。各学生は事前学修教材を事前に予習した上で、各講義・演習および解説講義に臨むこと。各実施予定日には講義室でインターネットに接続できるよう予め接続可能なPC、タブレット等を準備しておくこと。講義終了後は、事前学修済み教材を活用し事後学修を必ず行なうこと。

小テストや中間試験を分析してさらなる学修が必要な項目について、講義時間内あるいは掲示にてフィードバックを行う。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的

全部床義歯補綴学（Ⅰ）

責任者・コーディネーター		歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 小林 琢也 教授		
担当講座（分野）		歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）		
対象学年	第3学年	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	後期		前期 —	—
			後期 10.0時間	18.0時間

学修方針（講義概要等）

歯科補綴学とは、歯・口腔・顎・その関連組織の先天性欠如、後天的欠損、喪失や異常を人工装置を用いて修復し、喪失した形態または障害された機能を回復するとともに、継発疾病の予防を図るために必要な理論と技術を考究する学問である。

全部床義歯補綴学では、片顎または上下両顎のすべての歯を喪失した症例に対し、全部床義歯によって修復・整形し、損なわれた口腔と関連組織の形態と機能および外観を回復させるとともに、患者の健康の維持・増進を図るために必要な方法に関して、理論と技術を修得することを目的に学修する。

教育成果（アウトカム）

全部床義歯補綴学の講義及び実習では、無歯顎患者の喪失あるいは低下した形態と機能を回復・向上させ、健全な社会生活を送るため、無歯顎患者補綴治療の基礎理論を学修し、全部床義歯の基本構造や支持・維持・安定の原則を学修する。また、無歯顎患者の診察、診断、適切な治療計画の立案、義歯の設計理論と製作工程、装着後の調整に至るまでの知識と技術を修得する。

（関連するディプロマポリシー：1, 4, 6）

到達目標（SB0s）

1. 無歯顎に伴う障害の種類と病態を理解している。D-5-3-2-1
2. 全部床義歯の目的、意義及び適応症を理解している。D-5-3-2-2
3. 全部床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、安定、咬合平衡を含む)を理解している。D-5-3-2-3
4. 全部床義歯製作のための印象採得を理解している。D-5-3-2-4
5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。D-5-3-2-5

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】

シラバスに記載されている次回の講義と実習内容を確認し、教科書と実習書を用いて調べ、事前学修として疑問点を整理しておくこと。各講義に対する事前学修の時間は平均30分を要する。

【事後学修】

講義後にポストテストを実施する。ポストテストで理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各講義に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/24 (木)	3	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有 床義歯・口腔リハビ リテーション学分野)	全部床義歯補綴学① (診察・検査・診断) 全部床義歯補綴の診察 法を理解する。 講義・ディスカッショ ン	1. 無歯顎に伴う障害の種類と病態 を理解している。 2. 全部床義歯の目的、意義及び適 応症を理解している。 3. 全部床義歯の要素構成と設計原 則(支持、維持、安定、咬合平衡を 含む)を理解している。 4. 全部床義歯製作のための印象採 得を理解している。 a) 無歯顎の病態を説明できる。 b) 概形印象採得と研究用模型につ いて説明できる。 c) 個人トレーの製作について説明 できる。 d) 印象材の種類と適応を説明でき る。 [D-5-3-2、D-5-3-2-1, 2, 3] 事前学修：無歯顎の病因と病態及び 治療法について教科書を用いて調 べ、疑問点を整理しておくこと。所 要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不 十分であった箇所について、講義資 料や教科書を用いて知識を整理し ておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/1 (木)	3	小林琢也教授 佐藤宏明講師 (歯科補綴学講座 有 床義歯・口腔リハビ リテーション学分野)	全部床義歯補綴学② (上顎精密印象採得) 全部床義歯製作に必要 な上顎の口腔の解剖と 精密印象採得を理解す る。 講義・ディスカッショ ン	3. 全部床義歯の要素構成と設計原 則(支持、維持、安定、咬合平衡を 含む)を理解している。 4. 全部床義歯製作のための印象採 得を理解している。 a) 上顎無歯顎の解剖学的ランド マークと圧負担域を説明できる。 b) 上顎の筋圧形成に関わる筋を説 明できる。 c) 筋圧形成の意義を説明できる。 d) 精密印象採得の目的と方法を説 明できる。 [D-5-3-2、D-5-3-2-3, 4] 事前学修：上顎の印象採得法につ いて教科書を用いて調べ、疑問点を 整理しておくこと。所要時間30分程 度。 事後学修：ポストテストで理解が不 十分であった箇所について、講義資 料や教科書を用いて知識を整理し ておくこと。所要時間45分程度。

講義	10/8 (木)	3	小林琢也教授 佐藤宏明講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野) 全部床義歯補綴学③ (下顎精密印象採得) 全部床義歯製作に必要な下顎の口腔の解剖と精密印象採得を理解する。 講義・ディスカッション	3. 全部床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、安定、咬合平衡を含む)を理解している。 4. 全部床義歯製作のための印象採得を理解している。 a) 下顎無歯顎の解剖学的ランドマークと圧負担域を説明できる。 b) 下顎の筋圧形成に関わる筋を説明できる。 c) 筋圧形成の意義を説明できる。 d) 精密印象採得の目的と方法を説明できる。 e) 全部床義歯の作業用模型製作の目的と方法を説明できる。 [D-5-3-2、D-5-3-2-3, 4] 事前学修：下顎の印象採得法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/8 (木)	4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野) 全部床義歯補綴学④ (垂直的顎間関係の記録) 無歯顎患者の垂直的顎間関係の記録法を理解する。 講義・ディスカッション	1. 無歯顎に伴う障害の種類と病態を理解している。 2. 全部床義歯の目的、意義及び適応症を理解している。 5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 a) 咬合床の機能と仮想咬合平面の決定方法を説明できる。 b) 咬合高径の形態的、機能的な決定方法を説明できる。 [D-5-3-2、D-5-3-2-5] 事前学修：垂直的顎間関係について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	11/26 (木)	3	小林琢也教授 米澤悠助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野) 全部床義歯補綴学⑤ (水平的顎間関係の記録) 無歯顎患者の水平的顎間関係の記録法を理解する。 講義・ディスカッション	1. 無歯顎に伴う障害の種類と病態を理解している。 2. 全部床義歯の目的、意義及び適応症を理解している。 5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 a) 水平的顎間関係の特に器具を必要としない方法、特殊な器具を使用する方法を説明できる。 b) ゴシックアーチ描記法を説明できる。 c) 咬合床に記入する標示線を説明できる。 [D-5-3-2、D-5-3-2-5] 事前学修：水平的顎間関係について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
----	--------------	---	---	--

実習日程表

実習	10/15 (木)	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野) 全部床義歯補綴学実習 (全部床義歯補綴学 I 実習概論、咬合床の製作①②) 歯の欠損を有する患者の模型を診察・検査し、治療計画と設計について習得する。 全部床義歯の咬合床の基本的形態を理解し、製作法を習得する。	1. 無歯顎に伴う障害の種類と病態を理解している。 2. 全部床義歯の目的、意義及び適応症を理解している。 3. 全部床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、安定、咬合平衡を含む)を理解している。 4. 全部床義歯製作のための印象採得を理解している。 5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 a) 全部床義歯補綴歯科治療の意義を説明できる。 b) 全部床義歯治療の流れを診療室と技工操作に分けて列挙できる。 c) 実習に必要な器具、材料の名称と役割を説明できる。 d) 咬合床の役割と具備条件を説明できる。 e) リリーフとブロックアウトの違いを説明できる。 [E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-1] 事前学修：全部床義歯補綴治療法の咬合床の役割について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
----	--------------	--------	--	---

実習	10/22 (木)	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一郎助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	全部床義歯補綴学実習 (咬合床の製作③④) 全部床義歯の咬合床の基本的形態を理解し、製作法を習得する。	2. 全部床義歯の目的、意義及び適応症を理解している。 5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 a) 咬合床の役割と具備条件を説明できる。 b) リリーフとブロックアウトの違いを説明できる。 c) 光重合型レジンを用いて、基礎床の圧接ができる。 d) パラフィンワックスを用いて咬合堤の製作・調整ができる。 e) 人工歯の標準的排列位置を説明できる。 [E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-1] 事前学修：全部床義歯補綴治療法の咬合床の役割について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	10/29 (木)	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一郎助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	全部床義歯補綴学実習 (咬合床の製作⑤⑥) 全部床義歯の咬合床の基本的形態を理解し、製作法を習得する。	2. 全部床義歯の目的、意義及び適応症を理解している。 5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 a) 咬合床の役割と具備条件を説明できる。 b) リリーフとブロックアウトの違いを説明できる。 c) 光重合型レジンを用いて、基礎床の圧接ができる。 d) パラフィンワックスを用いて咬合堤の製作・調整ができる。 e) 人工歯の標準的排列位置を説明できる。 f) 上顎前歯部咬合堤前縁の設定位置を説明できる。 g) 仮想咬合平面の設定の際に参考となる要素を説明できる。 [E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-1] 事前学修：全部床義歯補綴治療法の咬合床の役割について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	11/12 (木)	3	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一郎助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	全部床義歯補綴学実習 (咬合床の製作⑦) 全部床義歯の咬合床の基本的形態を理解し、製作法を習得する。	2. 全部床義歯の目的、意義及び適応症を理解している。 5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 a) 咬合床の役割と具備条件を説明できる。 b) リリーフとブロックアウトの違いを説明できる。 c) 光重合型レジンを用いて、基礎床の圧接ができる。 d) パラフィンワックスを用いて咬合堤の製作・調整ができる。 e) 人工歯の標準的排列位置を説明できる。 f) 上顎前歯部咬合堤前縁の設定位置を説明できる。 g) 仮想咬合平面の設定の際に参考となる要素を説明できる。 [E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-1] 事前学修：全部床義歯補綴治療法の咬合床の役割について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	11/12 (木)	4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一郎助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	全部床義歯補綴学実習 (顎間関係の記録・咬合器装着①) 顎間関係の記録の術式を理解し、顎間関係の記録法を修得する。	5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 a) 咬合床を用いた咬合採得を説明できる。 b) 咬合採得材料の種類や特徴を説明できる。 c) 咬合床に標示線を記入できる。 d) スプリットキャスト法による咬合器装着の意義と手法を説明できる。 [E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-5、E-5-3-4-2-6] 事前学修：咬合採得の手順について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実 習	12/3 (木)	3	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一郎助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有 床義歯・口腔リハビ リテーション学分野)	全部床義歯補綴学実習 (顎間関係の記録・咬 合器装着②) 顎間関係の記録の術式 を理解し、顎間関係の 記録法を修得する。	5. 全部床義歯製作のための咬合採 得を理解している。 a) 咬合床を用いた咬合採得を説明 できる。 b) 咬合採得材料の種類や特徴を説 明できる。 c) 咬合床に標示線を記入できる。 d) スプリットキャスト法による咬 合器装着の意義と手法を説明でき る。 [E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2- 5、E-5-3-4-2-6] 事前学修：咬合採得の手順について 教科書と実習書を用いて調べ、疑問 点を整理しておくこと。所要時間30 分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解 が不十分であった箇所について、講 義資料や教科書及び実習書を用いて 知識を整理しておくこと。所要時間 45分程度。
--------	-------------	---	---	---	---

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	無歯顎補綴治療学 第4版	市川哲雄ほか編	医歯薬出版	2022年
教	コンプリートデンチャーテクニック 第6版	細井紀雄ほか編	医歯薬出版	2011年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義・実習の評価方法は、以下の評価方法と割合で行う。

- ・定期試験 70%
- ・平常点（ポストテスト、レポート）10%
- ・実習点（試験、技能・態度）20%

合格は65点以上とする。

実習評価において、全ての実習内容を履修し、ライターの確認、検印を受けることで、実習試験の受験資格を得ることができる。

到達目標	DP	実習試験	小テスト	定期試験	合計
1	1、4	4	2	14	20
2	1、4	4	2	14	20
3	4	4	2	14	20
4	1、4、6	4	2	14	20
5	1、4、6	4	2	14	20
合計		20	10	70	100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

【フィードバック】

- ・非常勤講師担当以外の講義では講義後に試験（ポストテスト）を行い、試験に関する解説は、次の講義時にフィードバックする。
- ・提出されたレポートは、採点后、コメントをつけて返却する。

【アクティブラーニング】

講義/演習日程表の「ユニット名 内容」の欄に別途記載済み。

【ICT】

講義前にWebClassに資料を提示するので事前学習に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップコンピュータ	MDV-AGG9210X	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
デスクトップパソコン	Inspiron580S	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
ノートパソコン	MC516J/A Education	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
一眼レフカメラ・EOS	KISSX5 LKIT	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
ノートパソコン・VAIO 一式	VPCZ21AJ	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
内視鏡用ビデオシステム	PSV-4000	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
バイトアイ 咬合接触面測定器	BE- I	1	臨床実習用機器	咬合接触状態の可視化および観察、分析のため
ノートパソコン一式	PCLZ750TSB (SSS)	1	基礎実習・研究用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
ジルコニア焼結用ファーネス一式 (KavoEverestTherm)	4180	1	基礎実習・臨床実習用機器	ジルコニアフレーム（実習用）製作用
標準カラーカメラユニット・一式	VW-300C	1	基礎実習・臨床実習用機器	相互実習時の口腔内写真撮影用
歯科用拡大鏡・サージテルルーペ・オー クリレーダー	EVK450	1	基礎実習・臨床実習用機器	拡大視野下での形成、技工のため
コピー機・ミニコピア	DPC995	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
10.2インチiPad Wi-Fiモデル	MK2P3J/A	1	視聴覚用機器	学生講義、研究用

冠橋義歯学

責任者・コーディネーター		歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野） 今 一裕 教授		
担当講座（分野）		歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	後期		前期 —	—
			後期 44.0時間	68.0時間

学修方針（講義概要等）

補綴歯科治療学では、う蝕や外傷による歯冠部分の破折や実質欠損、および歯周病、外傷、腫瘍などによる歯の喪失に対して、補綴学的な回復方法と歯科理工学的な材料を用いることによりこの欠損喪失の補填を行い、咀嚼機能や発音機能ならびに審美的な外観の回復などを図る方法を理解することを目的とする。

冠橋義歯（クラウンブリッジ）学では金属、合成樹脂やセラミックなどを歯にかぶせる冠や、比較的少数の歯の欠損喪失部をブリッジで補綴する方法を学修する。

教育成果（アウトカム）

講義で内容を理解、把握し、知識を確かなものとし、実習を行うことで、本分野の学修をおこなう。

冠橋義歯の診察・診断・治療について、確実な理解を確立し、5年次臨床実習を行うに足る十分な補綴歯科領域の知識を確実に身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：1 ～ 5, 7, 9）

到達目標（SB0s）

1. 冠橋義歯による治療の意義と目的について説明できる。
2. 冠橋義歯による治療の特徴を説明できる。
3. 冠橋義歯による治療の基本的手技が実施できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書ならびにWebclass上の授業スライド、DESSを用いて過去のCBT、国家試験に取り組み、事前学修（予習・復習）を行うこと。基礎実習については事後学修として理解度確認の小テストを設定する。各授業に対する事前学修の時間は最低30分、事後学修の時間は45分を要する。本内容は本科目全授業に対して該当するものとする。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/11 (金)	1	今一裕教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (クラウン・ブリッジの要件) クラウンブリッジの具備すべき要件について理解する。	1. クラウンブリッジの具備すべき要件を説明できる。 [D-5-3-1-1] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	9/11 (金)	2	今一裕教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (クラウンブリッジの種類と特徴) クラウンブリッジの種類と特徴について理解する。	1. クラウンブリッジの種類とその特徴を説明できる。 [D-5-3-1-2] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	9/25 (金)	1	深澤翔太准教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (クラウンブリッジの治療の流れ) クラウンブリッジの治療の流れについて理解する。	1. クラウンブリッジの診察、検査、診断を説明できる。 2. クラウンブリッジの臨床操作ならびに技工操作を説明できる。 [D-5-3-1-2] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	9/25 (金)	2	深澤翔太准教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (生活歯の支台歯形成) 生活歯の支台歯形成について理解する。	1. 支台歯の咬合面、軸面、歯頸側辺縁の形態を説明できる。 2. 支台歯形成の要点を説明できる。 3. 生活歯の支台歯形成時の注意点と手技を説明できる。 [D-5-3-1-4] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	10/2 (金)	1	深澤翔太准教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (プロビジョナルレストレーション) プロビジョナルレストレーションについて理解する。	1. プロビジョナルレストレーションの目的と意義を説明できる。 [D-5-3-1-8] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。

講義	10/9 (金)	1	齊藤裕美子助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (失活歯の支台歯形成、支台築造) 失活歯の支台歯形成と支台築造について理解する。	1. 失活歯の支台歯形成の要点を説明できる。 2. 支台築造の意義、目的、種類を説明できる。 [D-5-3-1-3] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	10/16 (金)	1	齊藤裕美子助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (クラウンブリッジの前処置) クラウンブリッジの前処置について理解する。	1. クラウンブリッジの前処置を説明できる。 2. 支台歯周囲組織や顎堤粘膜の最適な環境について説明できる。 [D-5-3-1-1] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	10/23 (金)	1	福徳暁宏講師 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (印象採得) クラウンブリッジの印象採得について理解する。	1. 精密印象採得法の種類と特徴を説明できる。 2. 目的（概形印象、精密印象など）に応じた印象材の種類と性質を説明できる。 [D-5-3-1-5] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	10/23 (金)	2	金村清孝非常勤講師	クラウンブリッジ補綴学 (顎間関係記録) 上下顎の顎間関係の記録法を理解する。	1. 前方基準点と後方基準点を説明できる。 2. 各種基準平面を説明できる。 3. 上下顎の顎間関係の記録を説明できる。 [D-5-3-1-1] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	10/30 (金)	1	深澤翔太准教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (作業模型、咬合器装着) 作業模型の種類とその特徴を理解する。 咬合器の特徴と、正しい模型の装着操作について理解する。	1. 作業模型の種類を列挙できる。 2. 作業模型の種類と選択について説明できる。 3. 咬合器の種類と選択について説明できる。 4. 咬合器装着について説明できる。 5. 咬合器の調節について説明できる。 [D-5-3-1-10]、[D-5-3-1-11] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。

講義	11/6 (金)	1	横田潤講師 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (ワックスパターン形成) クラウンを間接法で製作するためのワックス操作法を理解する。	1. ワックスパターン形成と特徴を説明できる 2. ワックスパターン形成時における適切な歯冠形態について説明できる。 [D-5-3-1-9] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	11/13 (金)	1	大平千之非常勤講師	クラウンブリッジ補綴学 (審美歯科1：レジン前装冠、ジャケットクラウン) レジン前装冠、レジンジャケットクラウンの特徴、製作法について理解する。 クラウンブリッジの色調選択法について理解する。	1. レジン前装冠の特徴について説明できる。 2. レジンジャケットクラウンの特徴について説明できる。 3. 陶材焼付冠とレジン前装冠の違いを説明できる。 4. 天然歯の構造と色調について説明できる。 5. 視感比色法について説明できる。 6. 器械測色法について説明できる。 [D-5-3-1-2]、[D-5-3-1-7] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	11/20 (金)	1	深澤翔太准教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	Digital Dentistry 1 CAD/CAM、口腔内スキャナーを応用した補綴処置を理解する。	1. Digital Dentistryの臨床応用について説明できる。 2. CAD/CAM冠の特徴とその製作方法について説明できる。 3. CAD/CAMシステムを用いた歯科技工について説明できる。 4. 口腔内スキャナーの使用法について説明できる。 [B-3-4]、[D-5-3-1-2]、[D-5-3-1-9] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	11/27 (金)	1	福德暁宏講師 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (クラウンの試適と装着) 模型上で製作したクラウンを生体に調和させるための試適、調整、仮着、合着の意義を理解する	1. クラウンの適合性と生体反応の関連を説明できる。 2. クラウンの試適、調整、仮着、合着の意義について説明できる。 3. 仮着材、合着材の種類を説明できる。特にレジンセメントの場合、被着体の表面処理について説明できる。 [D-5-3-1-12] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。

講義	11/27 (金)	2	福德暁宏講師 (冠橋義歯・口腔インプラント学) クラウンブリッジ補綴学 (ポーセレンラミネートベニア、陶材焼付冠) ポーセレンラミネートベニアと陶材焼付冠の特徴と製作法を理解する。	1. ポーセレンラミネートベニアの特徴と製作法を説明できる。 2. 陶材焼付冠の特徴と製作法を説明できる。 [D-5-3-1-1] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	12/4 (金)	1	千葉豊和非常勤講師 クラウンブリッジ補綴学 (審美歯科2：ジルコニア、オールセラミッククラウン) セラミック材料によるクラウンの製作法を理解する。	1. ジルコニアとオールセラミッククラウンの特徴について説明できる。 2. セラミックを用いたクラウン製作方法について説明できる。 [D-5-3-1-1]、[D-5-3-1-2]、[D-5-3-1-9] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	12/4 (金)	2	梅原一浩非常勤講師 Digital Dentistry 2 デジタル技術の歯科治療への応用を理解する	1. Digital Dentistryの特徴について説明できる。 2. CAD/CAMシステムを用いたインレー、クラウン、可撤性義歯製作方法について説明できる。 [B-3-4]、[D-5-3-1-2]、[D-5-3-1-9] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	12/11 (金)	1	横田潤講師 (冠橋義歯・口腔インプラント学) クラウンブリッジ補綴学 (ブリッジの設計) 意義、構成、種類について理解する。 ブリッジのポンティック形態とその目的について理解する。 ブリッジの連結法とろう付けについて理解する	1. ブリッジの意義を説明できる。 2. ブリッジの構成を説明できる。 3. ブリッジの種類を説明できる。 4. ブリッジのポンティックについて説明できる。 5. ブリッジの連結法を説明できる。 6. ブリッジのろう付けを説明できる。 [D-5-3-1-1]、[D-5-3-1-2]、[D-5-3-1-9] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。

講義	12/11 (金)	2	横田潤講師 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (接着ブリッジ、その他のブリッジ) 接着ブリッジの意義と特徴を理解する。	1. 接着ブリッジの特徴を説明できる。 2. 接着ブリッジの支台歯形成の要点を説明できる。 3. 接着ブリッジの接着手順・方法を説明できる。 4. その他クラウンブリッジに用いられるブリッジの種類、性質を説明できる。 [D-5-3-1-2] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	12/18 (金)	1	齊藤裕美子助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学 (クラウンブリッジの術後管理) クラウンブリッジ装着後における歯周組織の健康維持・増進、術後管理について説明できる。	1. ホームケア、プロフェッショナルケアとプラークコントロールについて説明できる。 2. リコール時の検査項目を列举できる。 3. ク라운の修理・トラブル対応について説明できる [D-5-3-1-13] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	1/8 (金)	1	今一裕教授 星美貴助教 島崎伸子先生 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	顎顔面補綴治療 顎顔面欠損に対する補綴治療（顎義歯・インプラントを応用した機能回復）	1. 顎義歯の適応症およびその病態を説明できる。 2. 顎義歯の特徴を説明できる。 3. 顎義歯の製作方法を説明できる。 4. 顎義歯の治療効果を説明できる。 [D-5-3-2-13] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
講義	1/8 (金)	2	福德暁宏講師 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	スポーツ歯学 スポーツデンティストの役割	1. スポーツ歯学・スポーツ医学の意義について説明できる。 2. スポーツ基本法について説明できる。 3. マウスガードの目的と機能を説明できる。 4. スポーツ選手と歯科との関わり合いについて説明できる。 [C-5-7]、[D-5-1-7]、[E-5-2-8] 事前学修30分、事後学修45分と設定し教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。

実習日程表

実習	9/11 (金)	3 4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習（生活歯の支台歯形成①） 下顎第一大臼歯全部金属冠の生活歯の支台歯形成の手技を習得する。	1. 下顎第一大臼歯全部金属冠の支台歯形成が行える。 [E-5-3-4-1-3] 事前学修：事前に実習書，WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	9/25 (金)	3	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習（生活歯の支台歯形成②） 上顎中切歯レジン前装冠の生活歯の支台歯形成の手技を習得する。	1. 上顎中切歯レジン前装冠の支台歯形成が行える。 [E-5-3-4-1-3] 事前学修：事前に実習書，WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	9/25 (金)	4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習（プロビジョナルレストレーション） プロビジョナルレストレーションの製作方法について理解する。	1. 間接法，直接法によるプロビジョナルクラウンの製作方法について説明できる。 2. プロビジョナルクラウンが製作できる。 [E-5-3-4-1-7] 事前学修：事前に実習書，WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	10/2 (金)	2	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習（対合歯列印象） 対合歯列印象について理解する。	1. 対合歯列印象の目的を理解する。 2. 対合歯列印象の手技を理解する。 [E-5-3-4-1-4] 事前学修：事前に実習書，WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	10/2 (金)	3 4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習（支台築造、失活歯の支台歯形成） 直接法による支台築造について理解する。	1. 直接法による支台築造を実施できる。 2. 直接法に必要な材料の特性を説明できる。 3. 支台築造後の支台歯形成を説明できる。 [E-5-3-4-1-2] 事前学修：事前に実習書，WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。

実習	10/9 (金)	2 3	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (精密印象採得) クラウン製作のための精密印象採得手技を習得する。	1. 下顎第一大臼歯の適正な印象が行える。 2. 印象の正確さを判断できる。 [E-5-3-4-1-4] 事前学修：事前に教科書，WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	10/9 (金)	4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (顎間関係の記録，対合歯列の咬合器装着) クラウン製作のための顎間関係の記録，対合歯列の咬合器装着手技を習得する。	1. 顎間関係の記録を実施できる。 2. 上顎模型を咬合器装着できる。 [E-5-3-4-1-5] 事前学修：事前に実習書，WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	10/16 (金)	2 3	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (作業模型製作) クラウン製作のための作業模型製作の手技を習得する。	1. 採得した印象に適切に1次・2次石膏を注入できる。 2. 石膏注入に必要なボクシングを実施できる。 3. 連結環を適切に配置し付与できる。 [E-5-3-4-1-2, 3, 4, 5, 6, 7] 事前学修：事前に教科書，WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	10/16 (金)	4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (作業模型製作，咬合器装着) クラウン製作のための作業模型製作の手技を習得する。	1. 後ダウエル法によりダウエルピンを植立できる。 2. 咬合器装着ができる。 [E-5-3-4-1-2, 3, 4, 5, 6, 7] 事前学修：事前に教科書，WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	10/30 (金)	2 3 4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (作業模型製作，分割，トリミング) クラウン製作のための作業模型製作の手技を習得する。	1. 適正な可撤歯型を製作できる。 2. 歯型側辺縁のトリミングを実施できる。 [E-5-3-4-1-2, 3, 4, 5, 6, 7] 事前学修：事前に教科書，WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。

実習	11/6 (金)	2 3 4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (ワックスパターン形成) クラウンの咬合と形態に関わる要件を理解する。	1. 形態的要件を満たしたワックスパターンを形成できる。 2. 適切な咬合関係を設定できる。 3. 適切な隣接接触関係を設定できる。 4. 適切な歯頸側辺縁形態を設定できる。 [E-5-3-4-1-2, 3, 4, 5, 6, 7] 事前学修：事前に教科書, WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	11/13 (金)	2	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (スプルーイング, 埋没) クラウンの咬合と形態に関わる要件を理解する。 クラウンの埋没を理解する。	1. 形態的要件を満たしたワックスパターンを形成できる。 2. 適切な咬合関係を設定できる。 3. 適切な隣接接触関係を設定できる。 4. 適切な歯頸側辺縁形態を設定できる。 5. クラウンの埋没法を説明できる。 [E-5-3-4-1-2, 3, 4, 5, 6, 7] 事前学修：事前に教科書, WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	11/13 (金)	3 4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (Grの埋没, 鑄造, 研磨) クラウンの鑄造を理解する。	1. クラウンの鑄造法を説明できる。 2. クラウンの研磨法を説明できる。 [E-5-3-4-1-2, 3, 4, 5, 6, 7] 事前学修：事前に教科書, WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	11/20 (金)	2	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (CAD/CAM冠の支台歯形成) 下顎左側5のCAD/CAM冠の支台歯形成の手技を習得する。	1. 下顎左側5 CAD/CAM冠の支台歯形成が行える。 [E-5-3-4-1-3] 事前学修：事前に実習書, WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。

実習	11/20 (金)	3 4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (光学印象、補足実習) 口腔内スキャナーと技工用スキャナーを用いた光学印象の手技を習得する。 支台歯形成、顎間関係記録、プロビジョナルレストレーション製作までの手順について、教員との質疑応答によって、疑問点を抽出し、問題解決能力を養う。	1. 口腔内スキャナーと技工用スキャナーを用いた光学印象ができる。 2. ラボサイドにおけるCADソフトを用いた補綴装置製作の設計ができる。 3. 支台歯形成からプロビジョナルクラウン製作までの手順における疑問点を抽出し、解決方法を説明できる。 [E-5-3-4-1-4] 事前学修：事前に実習書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	11/27 (金)	3 4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (クラウンの試適と調整、装着) FMC, CAD/CAMで製作したクラウンを生体に調和させるための試適、調整、仮着、合着の意義を理解する。	1. クラウンの適合性と生体反応の関連を説明できる。 2. クラウンの試適、調整、仮着、合着の意義について説明できる。 [E-5-3-4-1-8] 事前学修：事前に教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	12/4 (金)	3	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (レジン前装冠と前装修理) レジン前装冠の構造と積層による色調再現の方法を理解する。	1. リテンションピースの役割を理解する。 2. オペーク、デンティン、エナメル各レジン適切に築盛できる。 3. ステインによる特徴付けができる。 [E-5-3-4-1-6, 9] 事前学修：事前に教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	12/4 (金)	4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (実習試験) クラウンブリッジを製作する上で必要な基本的手技についての理解を問う。	1. 支台歯形成の基本的手技についての理解を問う。 [E-5-3-4-1-3, 7] 事前学修：事前に教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	12/11 (金)	3	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (ブリッジ形成) ブリッジの支台形態を理解する。プロビジョナルブリッジの製作方法を理解する。	1. ブリッジの支台歯形成が行える。 2. 平行性の確認が行える。 3. プロビジョナルブリッジの製作方法を説明できる。 [E-5-3-4-1-3] 事前学修：事前に教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。

実習	12/11 (金)	4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (Feedback, Retake) 現在まで行った実習内容についてFeedbackし、内容を理解する。支台歯形成、プロビジョナルレストレーション製作のトレーニングを行う。	1. ロストワックス法による補綴装置製法について説明できる。 2. CAD/CAMによる補綴装置製法について説明できる。 3. 支台歯形成の基本的な手技についての理解を問う。 4. プロビジョナルレストレーションの製作手技についての理解を問う。 [E-5-3-4-1-3] 事前学修：事前に教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	12/18 (金)	2	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (Brのろう付け、コア採得、埋没) ブリッジのろう付けを理解する。	1. ろう付けのための咬合面コアを採得できる。 2. コア採得したブリッジを埋没するためにボクシングできる。 [F-3-4)-③] 事前学修：事前に教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。
実習	12/18 (金)	3 4	今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学実習 (Brのろう付け) ブリッジのろう付けと埋没を理解する。	1. ろうの性質とアンチフラックスの役割を説明できる。 2. ろう付けについて説明できる。 [E-5-3-4-1-5] 事前学修：事前に教科書、WebClassを読んで講義に臨むこと。実習開始時に理解度確認の小テストを行う。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	冠橋義歯補綴学テキスト 第6版	石神元ほか編	永末書店	2025年
教	クラウンブリッジ補綴学 第7版	矢谷博文ほか編	医歯薬出版	2026年
教	クラウンブリッジテクニク 第2版	三浦宏之ほか編	医歯薬出版	2018年
教	よくわかる口腔インプラント学 第4版	赤川安正ほか編	医歯薬出版	2023年

成績評価方法・基準・配点割合等

本科目の最終評価は、講義60%、実習40%の割合で算出し、総合65点以上を合格とする。

1. 講義（60%）

最終筆記試験70%、中間試験30%の割合で評価する。

2. 実習（40%）

冠橋義歯補綴学実習において、全ての実習課題を履修し、ライターによる確認および検印を受けた場合、65%を付与し、実習試験の受験資格を得る。

成績評価は実習前小テスト10%、実習試験20%の割合で行う。全出席の場合は5%を加点する。

3. 出席・態度評価

講義・実習ともに欠席および遅刻に応じて減点する。また、以下の項目を総合的に評価する。

授業態度

知識（実習内容の理解度）

技術（実習手技の習熟度）

積極性（主体的な取り組み）

礼節（適切な言動および責任ある行動）

4. 再試験

講義評価が65点未満の場合、再試験を実施する。

講義					
到達目標	DP	中間試験	定期試験	その他	合計
1、2	1-5, 9	30	70		100
合計		30	70		100

実習							
到達目標	DP	実習試験	技術点	実習前小テスト	出席	その他	合計
3	1-5, 9	20	65	10	5		100
合計		20	65	10	5		100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

特になし。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップコンピュータ	MDV-AGG9210X	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
デスクトップパソコン	Inspiron580S	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
ノートパソコン	MC516J/A Education	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
一眼レフカメラ・EOS	KISSX5 LKIT	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
ノートパソコン・VAIO 一式	VPCZ21AJ	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
内視鏡用ビデオシステム	PSV-4000	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
バイトアイ 咬合接触面測定器	BE- I	1	臨床実習用機器	咬合接触状態の可視化および観察、分析のため
ノートパソコン一式	PCLZ750TSB (SSS)	1	基礎実習・研究用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
ジルコニア焼結用ファーネス一式 (KavoEverestTherm)	4180	1	基礎実習・臨床実習用機器	ジルコニアフレーム（実習用）製作用
標準カラーカメラユニット・一式	VW-300C	1	基礎実習・臨床実習用機器	相互実習時の口腔内写真撮影用
歯科用拡大鏡・サージテルルーペ・オー クリレーダー	EVK450	1	基礎実習・臨床実習用機器	拡大視野下での形成、技工のため
コピー機・ミニコピア	DPC995	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
10.2インチiPad Wi-Fiモデル	MK2P3J/A	1	視聴覚用機器	学生講義、研究用

基礎科学演習

責任者・コーディネーター		生化学講座（細胞情報科学分野） 石崎 明 教授		
担当講座（分野）		解剖学講座（機能形態学分野）、解剖学講座（発生生物・再生医学分野）、生理学講座（病態生理学分野）、生化学講座（細胞情報科学分野）、病理学講座（病態解析学分野）、微生物学講座（分子微生物学分野）、薬理学講座（病態制御学分野）、医療工学講座、口腔医学講座（歯科医学教育学分野）		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	前期		前期 6.0時間 後期 —	28.0時間 —

学修方針（講義概要等）

基礎講座での研究実習を伴う配属学修を実施して、リサーチマインドを涵養する。本演習では、各基礎講座で進行している最先端の研究紹介をした後で配属先アンケート調査を実施し、学生の希望に合った学習内容となるように配慮をして実施している。演習最終日には学会形式の研究発表会を実施して、お互いの興味や理解を深めている。また本科目を通じて、大学院歯学研究科への進学に対するモチベーションの昂揚を図る。

教育成果（アウトカム）

歯科医学は人体の構造・機能と病因・病態ならびに治癒機構を扱う生命科学に立脚した基礎歯学と歯科疾患の予防と治療を扱う臨床歯科から成り立っている。「基礎科学演習」では、各講座が推進している歯科基礎医学研究について触れ、如何なる点に注目してどのように考えれば新たな歯科医療の発展に繋がるかについて各研究成果を根拠としたプレゼンテーションができるようになる。

（関連するディプロマポリシー：8、9）

到達目標（SB0s）

先端歯学研究の内容に触れ、世界的にどのような研究が進んでいるのかについての情報を収集して、歯科医学の発展のためには、どのような研究が大切であるのかが理解できる。具体的には、

1. 最先端の歯科医学研究に係る情報を得ることができる。
2. 研究目標を設定して、その実現のための方略を考えることができる。
3. 実験結果を分析して、考察をすることができる。
4. 研究成果の分析により、次の研究目標を考えることができる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

各回最後に提示する次回実習の予習ポイント・課題について各分野が提示する資料を事前学修することとし、各回平均20分を要する。また、学修内容のふりかえり時間として各回平均20分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとし、また、適宜、実習開始前に事前学修内容の確認時間を設ける。

（事前学修：平均20分を要する 事後学修：平均20分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/24 (金)	2	石崎明教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	オリエンテーション 基礎科学演習の概要について理解する。 1) 各分野で実施する研究課題についてのプレゼンテーションと各実習内容についての質疑応答を実施する。 2) 希望配属分野についてのアンケート調査により、配属先を決定する。	1. 基礎科学演習の意義について理解できる。 2. 演習形式について理解できる。 [A-1全領域, A-2全領域, A-3全領域, A-4全領域, A-5全領域, A-6全領域, B-1全領域, B-2全領域, C-2全領域] 事前学習：参考書の「パネル」欄を熟読し、基本的な種々の研究手法を理解しておき、各研究課題についての説明を受けた際によく理解できるようにしておく。所要時間：20分程度。 事後学習：実習開始日までに、配属先で実施する研究実施内容についての希望を確定しておく（どうしてもこのような実験をしてみたいなどの希望）。所要時間：20分程度。
演習	6/26 (金)	1 2	本科目の講義・実習を担当する上記の全教員	研究成果発表会 各分野で進めてきた研究成果について、スライド等を用いてプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーションの後には学会形式の質疑応答を実施する。	1. 各配属学生の到達度を明らかにするために、研究成果発表会でのプレゼンテーションの内容について、本科目担当教員が点数制により評価する。 [A-1全領域, A-2全領域, A-3全領域, A-4全領域, A-5全領域, A-6全領域, B-1全領域, B-2全領域, C-2全領域] 事前学習：本科目の実習で得られたデータを吟味して、プレゼンテーション用のスライドの取りまとめを行う。所要時間：20分程度。事後学習：発表会での質疑応答の内容が適切であったかどうかについて、情報を収集して確認する。所要時間：20分程度。

実習日程表

実習	5/1 (金) 5/15 (金) 5/22 (金) 5/29 (金) 6/5 (金) 6/12 (金) 6/19 (金)	1 2	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野) 吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野) 藤村朗非常勤講師	機能形態学分野課題内容 ：第2学年の臨床解剖実習で見つかった所見を理解すると共に文献的に調査して総合的な解釈を加え成因、背景、機能的意義を解釈し考察する。 形態学的手法を習得して疾患の病態機序を解釈し得られたデータの多角的な考察と学術的なプレゼンテーションを行える。	1. 歯科医学研究の内容について理解し、その内容について説明できる。 2. 歯科医学研究に直に触れて、課題解決手段を自ら考えることができる。 3. 自分の考え方を理論的に分かり易く聞き手に説明することができる。 [A-1全領域, A-2全領域, A-3全領域, A-4全領域, A-5全領域, A-6全領域, B-1全領域, B-2全領域, C-2全領域]
			原田英光教授 大津圭史教授 池崎晶二郎講師 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	発生生物・再生医学分野課題内容 ：エナメル質形成不全症を歯の石灰化メカニズムから考える。歯の発生のメカニズムを教科書のための勉強だけではなく、研究活動を通して理解することによって、歯の疾患の解明や治療法の開発にどのように活かすことができるかを考え、その実践に触れてみる。	初回実習日までの事前学習：参考書の「解明への手がかり」欄を熟読し、実習初日での研究目標の設定と研究計画の立案に繋げる。所要時間：20分程度。初回実習日の事後学習：この日に絞り込んだ研究テーマについての情報の収集に勉める。所要時間：20分程度。 二回目以降の実習日の事前学習：実習の予習ポイント・課題について各分野が提示する資料を事前学習する。所要時間：20分程度。二回目以降の実習日の事後学習：グループワークとして、各回に得られた実験結果を次回までに吟味し、結果に応じた対策（次回の実験内容の計画）を立てておき、次回の実習開始時に担当教員と実験内容の適切性について協議した上で各実習を進める。所要時間：20分程度。
			黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	病態生理学分野課題内容 ：超高齢社会の課題解決に向け、iOSデバイス等の最新技術を用いた次世代口腔機能評価システムの開発プロセスを体験し、臨床現場や地域保健におけるデジタル技術の社会実装案を策定する。	
			石崎明教授 帖佐直幸准教授 横田聖司講師 (生化学講座 細胞情報科学分野)	細胞情報科学分野課題内容 ：真核細胞の増殖・分化機構について分子レベルで解明する。	
			入江太朗教授 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	病態解析学分野課題内容 ：唾液腺、口腔粘膜や顎骨の病変を病理学的に理解し、その症例の特殊性を認識でき、病態に基づいた基礎研究を構築するための方略を理解する。	
			石河太知教授 三浦利貴助教 (微生物学講座 分子微生物学分野)	分子微生物学分野課題内容 ：口腔細菌の同定とその病原性を分子レベルで明らかにする。	

		中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	病態制御学分野課題内容 ：新規薬物受容体の役割と分子機構の解明	
		武本真治教授 佐々木かおり助教 (医療工学講座)	医療工学講座課題内容 ：義歯は人工歯と床部分から成り立っている。近年の付加製造（3Dプリント）ではそれぞれを造形し接着する。そのような材料の違いが接着に及ぼす影響について適切な方法を検討し、臨床応用も見据えて試験を行う	

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	Essential細胞生物学 原著第5版	監訳：中村桂子 松原謙一	南江堂	2021年

成績評価方法・基準・配点割合等

研究マインド涵養の到達度について、最終発表会におけるプレゼンテーションの内容（50%）ならびに分野ごとに課すレポート等による平常点（50%）により総合的に判断する。

到達目標	DP	レポート	発表	その他	合計
1	8, 9	12.5	12.5		25
2, 3, 4	8	37.5	37.5		75
合計		50	50		100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

実習で得られた実験データについては、学生と教員との間での意見交換を実施し、各データに対する考察が深まるように指導する。本科目の最終日に設定された研究成果発表会では、学生によるプレゼンテーションについて、点数制での評価を実施する。加えて、成績上位者を発表し、学生ならびに教員全員でその栄誉を称える。なお、提出されたレポート等は評価後、コメントをつけて返却する。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
液体窒素保存容器	CryoSystem2000	1	基礎実習用機器	実験・実習試料の保存
顕微鏡デジタルシステム	Moticam1080	1	基礎実習用機器	標本のプレゼンテーション
クリーンベンチ	AV-1340	1	基礎実習用機器	実験・実習試料の無菌的操作
カラーリーダー	CR-20	1	基礎実習用機器	コンポジットレジジン等の色調測定
ChemiDoc XRS Plus Image Labシステム	1708265J1NPC	1	視聴覚用機器	プレゼンテーション用
ChemiDoc XRS Plus Image Labシステム	1708265J1NPC	1	基礎実習用機器	実習試料の撮影解析
ガラスビーズ滅菌器（デジタルタイプ）	GBSD-150	1	基礎実習用機器	実験器具の滅菌
マイクロプレート用小型低速遠心機	PS-020	1	基礎実習用機器	試料・試薬の分離
インテリミキサー	RM-2M	1	基礎実習用機器	実験・実習試料の攪拌
ポータブルアスピレーター バキュームスタンダード	159010	1	基礎実習用機器	培地・廃液の吸引処理
オートクレーブ	LBS-325	1	基礎実習用機器	基礎実習時の指導用

医療リベラルアーツ

責任者・コーディネーター		病理学講座（病態解析学分野）入江 太郎 教授 口腔保健育成学講座（歯科矯正学分野）佐藤 和朗 教授 法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）熊谷 章子 特任教授 口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）川井 忠 准教授		
担当講座（分野）		日程表の担当教員（講座 分野）欄に別に示す。		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	通期		前期 14.0時間	—
			後期 10.0時間	—

学修方針（講義概要等）

多様な価値観を持つ他者を理解し、広い視野に立った物の見方や考え方ができるようになること、さらに歯科医療に必要な専門英語を習得することを目的として、ディスカッション形式を活用した演習・講義を実施する。本科目の修得により医療に必要なコミュニケーションスキルの向上と、歯科臨床の現場で使用される歯学英语基本用語を再確認できる。4年次専門英語の演習・講義を行うに足る歯学専門英語の知識を確実に身につけることができる。

教育成果（アウトカム）

他領域で活躍している講師による講義・演習を通して、多様な価値観を持つ他者を理解し、広い視野に立った物の見方や考え方が形成される。歯科医療に必要な専門英語を習得することにより、医療に必要なコミュニケーションスキルの向上と構想力が養われる。

（関連するディプロマポリシー：1、4、6、7）

到達目標（SB0s）

1. 医療に必要なコミュニケーションの特徴を説明できる。
2. 歯学英语基本用語の成り立ちと基本構造を説明できる。
3. 臨床の現場で使用される歯学英语基本用語を理解できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

ユニット1～7については、シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、一般書やインターネット等を用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。事前学修内容をノートにまとめ当日持参すること。
 ユニット8～12については、各回到達目標の内容に関し教科書を用いて調べるものとし、各回平均30分を要する。WebClassにテキストの音声ファイルを公開する。適宜、事前学修内容の発表時間を設ける。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均30分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/3 (金)	3	今野 香 非常勤講師 (岩手県国際交流協会)	ユニット1 多文化共生 外国人患者への対応方法を習得する。	1. 多文化共生社会の定義を述べる。 2. 異なる価値観、異文化理解の必要性を述べる。 3. 外国人患者が来た時の対応方法を述べる。 ICT、事前学修：講義内容に準じる領域についてインターネット等で検索し講義に臨むこと。 [CM)-01～03、C-7)-1～2]
講義	4/10 (金)	3	小野寺憲一 非常勤講師 (岩手医科大学総合保安対策室長)	ユニット2 モンスターペイシェントへの対応 患者とのトラブル防止及び回避方法を習得する。	1. 医療と悪質クレームの関係、およびクレマーの例を述べる。 2. モンスターペイシェントのタイプを列举する。 3. 診療時に暴力事案が発生した場合の処理要領を述べる。 ICT、事前学修：講義内容に準じる領域についてインターネット等で検索し講義に臨むこと。 [CM)-01～03、C-1-2)-1～3、C-3-1)-1～4]
講義	4/17 (金)	3	矢野 明 非常勤講師 (岩手生物工学研究センター)	ユニット3 食と健康 地域の農林水産資源が有する健康機能性について学び、疾病予防への活用可能性を理解する。	1. 食の機能を知る。 2. 日本社会の人口構成変化を背景とした、健康づくりの重要性を学ぶ。 3. 岩手県の農林水産資源に含まれる有効成分や、その活用事例を知る。 ICT、事前学修：講義内容に準じる領域についてインターネット等で検索し講義に臨むこと。 [S0-02、C-4-1)-1～2、C-5-3、C-6-2)-2～3]
講義	4/24 (金)	3	吉田 亮 非常勤講師 (元 ホテルメトロポリタン盛岡総支配人)	ユニット4 接遇とクレーム 良好な対人関係を築くため、ホテルサービスを事例として提示し、接遇の特性とサービスの満足度、およびクレームの発生メカニズムを習得する。	1. 接遇を定義し、その特性を述べる。 2. 事前期待と実績評価の関係を説明する。 3. サービス（接遇）の満足度の決定要素を列举できる。 4. クレーム発生のメカニズムとその原因を分析し、対応策を述べる。 5. 実務上難しい取組と簡単な取組を説明できる。 ICT、事前学修：講義内容に準じる領域についてインターネット等で検索し講義に臨むこと。 [CM)-01～03、C-1-2)-1～3]

講義	5/15 (金)	3	二瓶直登 非常勤講師 (福島国際研究教育機構(F-REI))	ユニット6 食品と放射能 放射能事故による人体への影響を正しく理解するため、食品の放射線学的安全性について修得する。	1. 放射線被ばくに関する単位を列挙する。 2. 外部被曝と内部被曝の違いを述べる。 3. 身の回りの放射線について述べる。 4. 体内と食品中の自然放射性物質を列挙する。 5. 食品の放射能に関する基準値の考え方を説明する。 アクティブラーニング：ディスカッション形式の講義を行う。 ICT、事前学修：講義内容に準じる領域についてインターネット等で検索し講義に臨むこと。また、スマートフォン等を利用したクイズを講義中に行う。 [C-4-5)-1~4]
講義	5/22 (金)	3	島貫亮一 非常勤講師 (トミーインターナショナル)	ユニット5 矯正歯科材料の開発から販売まで 歯科材料の製品化までの流れを理解する。	1. 歯科材料のマーケティングを説明する。 2. 製品の企画、開発、販売の流れを述べる。 3. 企業の分業体制を説明できる。 4. 企業がグローバル化する背景を述べる。 ICT、事前学修：講義内容に準じる領域についてインターネット等で検索し講義に臨むこと。 [RE-05、B-2)-1~6、B-3)-1~4]
講義	5/29 (金)	3	堀江 皓 非常勤講師 (岩手大学名誉教授)	ユニット7 産学連携による地域産業おこし 産学連携による地域産業おこしについて理解する。	1. 我が国の産学連携の歴史について説明する。 2. 産学連携機関とその役割について説明する。 3. 産学連携の具体的手法と技術移転例について説明する。 ICT、事前学修：講義内容に準じる領域についてインターネット等で検索し講義に臨むこと。 [LL-01、LL-04、RE-05、CM-02、SO-05]
講義	9/10 (木)	3	Levine-小倉 Jonathan助教 (教養教育センター 外国語学科英語分野)	ユニット8 医学／歯科の基本用語 (1) 基礎的な医学/歯科用語を習得する。	1. 医学／歯科分野の基礎的な英語用語を理解できる。 2. 医学／歯科用語の成り立ちと基本構造を述べる。 [CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]
講義	10/14 (水)	4	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	ユニット9 医学／歯科の基本用語 (2) 基礎的な歯科用語を習得する。	1. 医学／歯科分野の基礎的な英語用語を理解できる。 2. 3年次に学ぶ臨床系科目に関連した歯科用語の成り立ちと基本構造を述べる。 3. 言葉の持つ意味を深く考える態度を身につける。 [CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]

講義	11/30 (月)	4	相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	ユニット10 医学／歯科の基本用語 (3) 基礎的な歯科用語を習得する。	1. 医学／歯科分野の基礎的な英語用語を理解できる。 2. 3年次に学ぶ臨床系科目に関連した歯科用語の成り立ちと基本構造を述べる。 [CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]
講義	12/24 (木)	2	佐藤宏明講師 (歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	ユニット11 医学／歯科の基本用語 (4) 基礎的な歯科用語を習得する。	1. 医学／歯科分野の基礎的な英語用語を理解できる。 2. 3年次に学ぶ臨床系科目に関連した歯科用語の成り立ちと基本構造を述べる。 3. 言葉の持つ意味を深く考える態度を身につける。 [CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]
演習	1/12 (火)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学) 熊谷章子特任教授 (法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野) 川井忠准教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	ユニット12 医学・歯学の基本用語 ／演習1 (到達度評価試験)	1. 客観的な評価 (到達度評価試験) をうけ、達成度と理解度を知る。 2. 結果のフィードバックをうけ、英語での理解度、コミュニケーション力の向上をはかる。 [CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	Medical Terminology A short course 9th ed.	Davi-Ellen Chabner	Saunders	2023年
参	Dental Terminology 3rd ed.	Charline M Dofka	Delmar Cengage Learning	2013年

成績評価方法・基準・配点割合等

1. ユニット1～7までは、各ユニットで提出したレポートで評価する。
2. ユニット8～12までは、英語到達度評価試験で評価する。
3. 本科目（医療リベラルアーツ）の評価は、前者（レポート）を7/12、後者（英語到達度評価試験）を5/12の割合で算出し、総合評価点とする。
4. ユニット1～7で欠席した場合、あるいは期日内にレポート提出がない場合は、当該ユニットの評価を0とする。
5. 総合評価点が65点未満の学生には、全範囲（ユニット1～12）を対象とする再試験を課す。

到達目標	DP	レポート	英語到達度評価試験	合計
1	1, 4	7/12		7/12
2, 3	6, 7		5/12	5/12
合計				12/12

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

- ・スマートフォン等を利用したクイズを講義中に行う場合、指示に従いインターネットに接続できるように準備すること。
- ・ユニット8～12の専門英語に関しては、WebClassにテキストの音声ファイルを公開するので、活用すること。
- ・英語到達度評価試験により達成度と理解度を評価し、試験答案の返却（フィードバック）を行う。
- ・各回到達目標の内容を使用するテキスト・音声ファイルとともに事前に教科書で調べることを。事前学習の時間は平均30分を目安とする。各々個人で、英語での理解度、コミュニケーション力の向上に努めること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）（様々な領域の専門家による講義により多様な価値観や広い視野に立った物の見方や考え方を学ぶ）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的

歯科総合演習（3年）

責任者・コーディネーター		生化学講座（細胞情報科学分野） 石崎 明 教授		
担当講座（分野）		歯学部基礎講座（全分野）、予防歯科学分野、う蝕治療学分野		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	通期		前期 26.0時間	—
			後期 42.0時間	—

学修方針（講義概要等）

3年次前期までに履修する歯科医学（解剖学、組織学・発生学、生理学、生化学、病理学、薬理学、微生物学・免疫学、歯科理工学、衛生学・公衆衛生学、予防歯科学、保存修復学等）における重要点の理解度を深めるため、2クール制の集中講義やICTを活用した繰り返し演習を実施する。本科目の修得により、4年次に履修する歯科総合演習（4年）を受講するための基礎学力を養い、臨床参加型実習を履修するために必要且つ十分な基礎歯科学的知識基盤の確立を目指す。

教育成果（アウトカム）

3年次前期までに履修する歯科医学（解剖学、組織学・発生学、生理学、生化学、病理学、薬理学、微生物学・免疫学、歯科理工学、衛生学・公衆衛生学、予防歯科学、保存修復学等）についてICTを活用した演習試験をCBTに近い環境で体験することにより、歯科医学専門科目を復習し、歯科医学のコアで修得すべき内容が実際に身についていることを3年次の段階で早期に再確認できる。また、診療参加型臨床実習を行うに足る十分な基礎歯科医学領域の知識を確実に身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：4）

到達目標（SB0s）

診療参加型臨床実習を行うに足る歯科医学の知識の修得とその応用力が身についているかどうかは、第4学年で受験する歯学生共用試験CBTに合格することで証明される。そこで、歯科総合演習（3年）においては、以下の到達目標を設定する。

1. 歯科医学の診断や適切な治療法の選択を導き出すための基礎系科目で得た知識についての理解を深め、その知識を臨床実習の現場で応用することができる。
2. 診断や歯科治療を実践するための臨床系科目で得た知識についての理解を深め、その知識を臨床実習の現場での基本的な診断や歯科治療の実践に役立てることができる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

事前学修（予習）は、シラバスに記載されている各回の演習・試験内容に関し教科書を用いて調べるものとし、各回40分程度を要する。事後学習は、各回の演習・試験内容について、授業当日の配布資料等を復習して、理解を深めるものとし、各回40分程度を要する。

（事前学修：平均40分を要する 事後学修：平均40分を要する）

講義/演習日程表①

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	7/2 (木)	3	入江太朗教授 (病理学講座・病態 解析学分野)	1. 病理総論前半 病因論・代謝障害・循環障害について理解する。	1. 病理学序論、病因論について説明できる。 2. 細胞傷害の機序についてその概略を説明できる。 3. 代謝障害についてその概略を説明できる。 4. 循環障害についてその概略を説明できる。 [A-5-1全般, A-5-2全般, A-5-4全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/3 (金)	1	横田聖司講師 (生化学講座・細胞 情報科学分野)	統合講義Ⅰ 遺伝子・細胞構造について理解する	1. 遺伝子の構造と機能及び遺伝の基本的機序が説明できる。 2. 細胞の基本構造と機能及び増殖と分化機構を説明できる。 [A-1-2全般, A-1-3全般, A-1-4全般] 事前学修：1年次後期～2年次生化学講義で配布された資料について見直しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。所要時間40分程度。
講義	7/3 (金)	2	横田聖司講師 (生化学講座・細胞 情報科学分野)	統合講義Ⅱ 三大栄養素・生体構成成分について理解する	1. 糖質・脂質・タンパク質の構造と代謝について説明できる。 2. 酵素・ビタミンについて説明できる。 [A-1-2全般, A-1-3全般, A-1-4全般] 事前学修：1年次後期～2年次生化学講義で配布された資料について見直しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。所要時間は各40分程度

講義	7/9 (木)	3	佐々木かおり助教 (医療工学講座)	1. 歯科精密鑄造に用いる材料 2. 義歯床製作に用いる材料 歯冠修復物、義歯床の製作過程とそれに用いる材料の特徴を復習する。	1. 歯科精密鑄造の過程を説明できる。 2. 歯科精密鑄造で用いる材料の具備すべき特徴を説明できる。 3. 義歯床の製作過程を説明できる。 4. 義歯床で用いる材料の具備すべき特徴を説明できる。 [B-2全般, B-3全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/10 (金)	1	大津圭史教授 (解剖学講座・発生生物・再生医学分野)	組織学総論 人体を構成するさまざまな細胞、組織の特徴について理解できる。	1. 人体の構造の概略について説明できる。 2. 人体を構成する組織の種類とその特徴を説明できる。 3. 人体の構造と細胞の関係について概説できる。 [A-3-1全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/10 (金)	2	大津圭史教授 (解剖学講座・発生生物・再生医学分野)	組織学各論 人体を構成するさまざまな細胞、組織の特徴について理解できる。	1. 人体の構造の概略について説明できる。 2. 人体を構成する組織の種類とその特徴を説明できる。 3. 人体の構造と細胞の関係について概説できる。 [A-3-1全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/16 (木)	3	田村晴希講師 (薬理学講座・病態制御学分野)	薬理学I 薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応	薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応を説明できる。 [A-1-6-1全般, A-1-6-2全般, A-1-6-3全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。

講義	7/17 (金)	1	黒瀬雅之教授 (生理学講座・病態 生理学分野)	細胞膜の物質輸送と受容 膜輸送と受容体機構を 図解で徹底整理する。	1. 拡散と能動輸送を図示できる。 2. 能動輸送の仕組みを説明できる。 3. 受容体の種類と伝達を識別できる。 [A-1-4] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/17 (金)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座・病態 生理学分野)	活動電位の発生と伝導 興奮の機序と伝導の法則をグラフで習得する。	1. イオン透過性と電位変化を図説し、説明できる。 2. 跳躍伝導と興奮伝導の法則並びに三原則を説明できる。 3. 局所麻酔薬作用部位を指摘できる。 [A-1-4, A-3-1-5] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/24 (金)	1	吉岡望准教授 (解剖学講座・機能 形態学分野)	1. 全身、頭頸部の骨学 全身、頭頸部を構成する骨の配置、形態的特徴、関節について理解する。	1. 頭蓋を構成する骨についてその周囲との関連性と形態を説明できる。 2. 全身の主要な骨の構成を説明できる。 [A-3全般] 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/24 (金)	2	吉岡望准教授 (解剖学講座・機能 形態学分野)	1. 全身、頭頸部の筋学 全身、頭頸部の筋の走行と支配神経について三次元的に理解する。	1. 全身の主要な筋の走行を説明できる。 2. 表情筋、咀嚼筋を含めた頸部の筋の走行と機能、神経支配について説明できる。 [A-3全般] 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。

講義	7/24 (金)	3	三浦利貴助教 (微生物学講座・分子微生物学分野)	1. 細菌学各論 2. ウイルス学各論 病原微生物の性状とそれによる感染症およびその病原因子を理解する。	1. 微生物の構造・性状を説明できる。 2. 感染の概念と感染症を説明できる。 3. 病原細菌の性状を説明できる。 4. ウイルスの性状を説明できる。 [A-4-1全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	8/21 (金)	1	岸 光男客員教授 (口腔医学講座・予防歯科学分野)	1. 統計分析法 2. スクリーニング 3. 人口統計 統計分析法を学修することにより、スクリーニング、人口統計への理解が深まる。	1. 統計学的分析法を説明できる。 2. スクリーニング検査を説明できる。 3. 人口統計を説明できる。 [C-6全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
	9/4 (金)		前期試験	前期総合試験	2年生で終了した科目：解剖学Ⅱ、組織学、生理学Ⅱ、生化学Ⅱ、衛生・公衆衛生学（2年生 前・後期 全範囲） 3年生前期で終了した科目：微生物学・免疫学Ⅱ、歯科理工学Ⅱ、口腔病理学、予防歯科学、保存修復学（3年生 前期までの全範囲） 3年生後期に継続する科目：薬理学、歯科放射線学、医科学（3年）（3年生 前期までの範囲）

講義/演習日程表②

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/14 (月)	2	三浦利貴助教 (微生物学講座・分子微生物学分野)	1. 免疫学 生体防御の仕組みを理解する。	1. 免疫応答に関与する器官と細胞を説明できる。 2. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 3. 自然免疫と獲得免疫を説明できる。 [A-4-2全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	9/28 (月)	1	横田聖司講師 (生化学講座・細胞情報科学分野)	統合講義Ⅱ 1. 結合組織について理解する。 2. 硬組織について理解する。	1. 細胞外マトリックス・MMPについて説明できる。 2. 骨代謝のメカニズム・血清カルシウム調整について説明できる。 [A-1-5全般, A-3-1-2全般] 事前学修：1年次後期～2年次生化学講義で配布された資料について見直しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。所要時間40分程度。
講義	9/28 (月)	2	横田聖司講師 (生化学講座・細胞情報科学分野)	統合講義Ⅲ 1. 唾液について理解する。 2. 炎症について理解する。 3. ペリクル・プラークについて理解する。	1. 唾液の作用について説明できる。 2. 自然免疫と獲得免疫・ケミカルメディエーターについて説明できる。 3. ペリクル・プラークの形成過程、細菌による代謝を説明できる。 [A-3-3-6, A-5-5-2, D-3-2-4] 事前学修：1年次後期～2年次生化学講義で配布された資料について見直しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。所要時間40分程度。
講義	10/5 (月)	1	大津圭史教授 (解剖学講座・発生生物・再生医学分野)	発生学（一般、顎顔面） 人体の初期発生過程について理解する。 顎・顔面の形成について理解する。	1. 人体の初期発生過程を説明できる。 2. 顎顔面の発生過程を説明できる。 3. 歯、歯周組織の発生過程を説明できる。 [A-2全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。

講義	10/5 (月)	2	大津圭史教授 (解剖学講座・発生 生物・再生医学分 野)	口腔組織学 歯、歯周組織、口腔粘 膜、顎関節、唾液腺の 組織構造と特徴を理解 する。	1. 歯、歯周組織、口腔粘膜、顎関 節、唾液腺の組織構造と特徴につ いて説明できる。 [A-3-3全般, A-3-4全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。
講義	10/19 (月)	1	黒瀬雅之教授 (生理学講座・病態 生理学分野)	神経伝達と自律神経系 シナプス伝達と自律神 経の拮抗支配を学ぶ。	1. 神経伝達物質と受容体の対を列 挙できる。 2. 交感・副交感神経の作用を比較 できる。 3. 節前・節後神経の走行を図解で きる。 [A-1-4, A-3-1-5] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。
講義	10/19 (月)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座・病態 生理学分野)	筋肉の収縮メカニズム 骨格筋と平滑筋の収縮 過程を模型的に理解す る。	1. 興奮収縮連関の全プロセスを説 明できる。 2. 滑り説とクロスブリッジを記述 できる。 3. 骨格筋と平滑筋の構造差を識別 できる。 [A-3-1-3] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。
講義	10/26 (月)	1	浅野明子准教授 (歯科保存学講座・ う蝕治療学分野)	硬組織疾患の病因・病 態 齲蝕、非齲蝕性硬組織 疾患を理解する。	1. 齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患の病 因、病態を説明できる。 2. 硬組織疾患の検査法を説明でき る。 [A-2-4-8、D-3-2-1、D-3-2-5、 D-5-2-1-1] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。

講義	10/26 (月)	2	浅野明子准教授 (歯科保存学講座・ う蝕治療学分野)	窩洞形態の基本 接着修復と間接修復の 窩洞形態を理解する。	1. 窩洞の原則を説明できる。 2. 接着修復と間接修復の窩洞形態の 違いを説明できる。 [D-5-2-1-6] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間40分程 度。
講義	11/2 (月)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能 形態学分野)	1. 全身、頭頸部の脈管 学のまとめ 2. 歯の解剖学 全身、頭頸部の動脈・ 静脈に関する走行経路 や分布範囲について理 解する。 歯の形態に関する基本 的構造を理解する。	1. 外頸動脈とその枝の走行と分布範 囲について説明できる。 2. 心臓の構造と周辺の血管との関係 性を説明できる。 3. 診療に用いられる体循環の動脈、 静脈の走行とそれらの連続性を説明 できる。 4. 永久歯と乳歯の各歯種の基本形態 と好発する異常形態を説明できる。 [A-3-1-4全般, A-3-4全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間40分程 度。
講義	11/2 (月)	2	岸 光男客員教授 (口腔医学講座・予 防歯科学分野)	1. 地域保健総論 2. 地域保健各論 社会と歯学の学修後に 公衆衛生を学び直すこ とで、知識相互の関連 への理解が深まる。	1. プライマリヘルスケアとヘルス プロモーションを説明できる。 2. 地域保健行政組織を概説できる。 3. 母子保健、学校保健、産業保 健、成人保健に係わる検診を列挙 し、それぞれの特徴を説明できる。 4. 介護保険制度と介護予防事業を 区別して説明できる。 [C-4-1-2, C-4-2全般, C-4-3全般, C-5全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間40分程 度。

講義	11/26 (木)	1	三浦利貴助教 (微生物学講座・分子微生物学分野)	1. 口腔細菌 口腔のフローラ、口腔細菌の性状およびう蝕・歯周疾患の成立・発症機序を理解する。	1. 口腔の常在微生物叢を説明できる。 2. 口腔微生物の性状を説明できる。 3. う蝕と歯周病の成立機序を説明できる。 [A-4-1全般、A-4-2全般、D-3-1-3-1、D-3-2-2, 3, 4、D-3-1-10-2、D-5-2-3-1] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	11/30 (月)	1	田村晴希講師 (薬理学講座・病態制御学分野)	薬理学II 薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応	薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応を説明できる。 [A-1-6-1全般、A-1-6-2全般、A-1-6-3全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	11/30 (月)	2	岸 光男客員教授 (口腔医学講座・予防歯科学分野)	1. 環境保健 2. 健康と栄養 3. 感染症の予防 社会と歯学の学修後に公衆衛生を学び直すことで、知識相互の関連への理解が深まる。	1. 主な環境指標を列挙できる。 2. 食事摂取基準と食事バランスガイドを説明できる。 3. 感染症の成立要因と要因ごとの予防法を説明できる。 [C-4-5, C-4-1-2, C-4-2-5, C-5-4, A-4-1-3・4・9, C-7-5] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	12/7 (月)	2	佐々木かおり助教 (医療工学講座)	1. 歯科材料の機械的、物理的性質 2. 成形修復材料 歯科材料が具備すべき機械的、物理的性質を理解する。	1. 歯科材料の応力-ひずみ曲線を説明できる。 2. 歯科材料の熱的性質を説明できる。 3. コンポジットレジンの特徴を説明できる。 4. グラスアイオノマーセメントの特徴を説明できる。 [A-1-1-3, B-1全般, B-2全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。

講義	12/10 (木)	1	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座・予防歯科学分野)	1. 齲蝕のリスクと予防 2. 歯周病のリスクと予防 代表的歯科疾患である齲蝕と歯周病のリスクに応じた予防法を理解する。	1. 齲蝕と歯周病のリスクを列挙できる。 2. 齲蝕と歯周病のリスクに応じた予防法を列挙できる。 [C-5-1~7] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	12/14 (月)	2	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能形態学分野)	1. 消化器の構造 2. 呼吸器の構造 口腔を含めた消化器の解剖学的特徴を理解する。 呼吸器、特に気道の解剖学的特徴と機能について三次元的に理解する。 摂食・嚥下に関わる構造を理解する。	1. 口腔・咽頭領域の区分を説明できる。 2. 口腔～直腸までの臓器の配列と特徴を説明できる。 3. 鼻腔～咽頭、肺までの呼吸器の構造と機能との関連性を説明できる。 [A-3-1-7全般, A-3-1-8全般] 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	12/17 (木)	1	佐藤泰生講師 (病理学講座・病態解析学分野)	1. 病理総論後半 免疫異常・感染症・腫瘍・奇形について理解する。	1. 免疫異常についてその概略を説明できる。 2. 感染症についてその概略を説明できる。 3. 腫瘍についてその概略を説明できる。 4. 奇形についてその概略を説明できる。 [A-4-1-3, A-4-2-6, A-5-1-1, A-5-5, 6] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	12/21 (月)	2	田村晴希講師 (薬理学講座・病態制御学分野)	薬理学III 薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応	薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応を説明できる。 [A-1-6-1全般, A-1-6-2全般, A-1-6-3全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。

講義	12/24 (木)	1	入江太朗教授 (病理学講座・病態 解析学分野)	1. 病理総論の要点 2. 口腔病理学の要点 病理学総論・口腔病理 学の重要事項を整理し 理解する。	1. 病理学総論で学んだ重要事項に ついて説明できる。 2. 口腔病理学で学んだ重要事項に ついて説明できる。 [A-5全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間40分程 度。
講義	1/7 (木)	1	武本真治教授 (医療工学講座)	1. 接着システム 2. 歯冠修復方法 歯冠修復方法を理解す る。	1. コンポジットレジン修復の手順 を説明できる。 2. 歯冠修復物の口腔内での装着方 法を説明できる。 [B-2-1, B-2-3, E-3-5-1全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間40分程 度。
	1/21 (月)		後期試験	後期総合試験	2年生で終了した科目：解剖学Ⅱ、 組織学、生理学Ⅱ、生化学Ⅱ、衛 生・公衆衛生学（2年生 前・後期 全範囲） 3年生で終了した科目（3年生 前・後期全範囲）：微生物学・免疫 学Ⅱ、歯科理工学Ⅱ、口腔病理学、 予防歯科学、社会と歯学、歯科放射 線学、保存修復学、歯内療法学、歯 周病学、冠橋義歯学 4年生に継続する科目（3年後期ま での範囲）：医科学（3年）、全部 床義歯補綴学（Ⅰ）

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	口腔解剖学 第2版	井出吉信ほか 編	医歯薬出版	2018年
教	図説 歯の解剖学 第2版	高橋和人ほか 著	医歯薬出版	1998年
参	イラストで分かる歯科医学の基礎 第5版	村上秀明、天野修、大川由一、西村康、吉田篤 監修	末永書店	2025年
教	Ross組織学 原著7版	M. H. Ross, W. Pawlina 著、内山安男、相磯貞和 監訳	南江堂	2019年
教	口腔組織・発生学 第3版	前田健康ほか 編	医歯薬出版	2023年
教	カラーアトラス口腔組織発生学 第4版	明坂年隆ほか 著、磯川桂太郎、川崎堅三、柳澤孝彰 編	わかば出版	2016年
参	ネッター 解剖生理学アトラス 第7版	J. T. Hansen, B. M. Koepfen 著、相磯貞和、渡辺修一 訳	南江堂	2022年
教	基礎歯科生理学 第7版	岩田幸一、井上富雄、舩橋誠、加藤隆史 編	医歯薬出版株式会社	2020年
参	生理学テキスト 第9版	大地陸男 著	文光堂	2022年
教	図解よくわかる生化学 第6版	中島邦夫ほか 著	南山堂	2004年
教	口腔生化学 第6版	高橋信博、石崎 明ほか 著	医歯薬出版	2018年
教	Essential細胞生物学 原書第5版 訳書	Alberts Bほか 著、中村桂子、松原謙一 監訳	南江堂	2021年
参	スタンダード生化学・口腔生化学 第4版	池尾 隆ほか 編	学建書院	2023年
教	歯学生のための基礎病理学	高田 隆 監、入江太朗ほか 著	医歯薬出版	2024年
教	新口腔病理学 第3版	下野正基ほか 編	医歯薬出版	2021年
教	現代歯科薬理学 第7版	鈴木邦明 監修	医歯薬出版	2024年
教	口腔微生物学・免疫学 第5版	川端重忠ほか 編	医歯薬出版	2021年
教	スタンダード歯科理工学：生体材料と歯科材料 第8版	中畠裕ほか 編	学建書院	2024年

教	新編歯科理工学 第7版	服部雅之、武本真治 編	学建書院	2024年
教	新編 衛生学・公衆衛生学 第1版	安井利一ほか 編	医歯薬出版	2025年
教	口腔保健・予防歯科学 第 2版	山下喜久ほか 編	医歯薬出版	2023年
教	スタンダード社会歯科学 第8版	尾崎哲則ほか 編	学建書院	2023年
教	保存修復学 第7版	千田彰ほか 編	医歯薬出版	2019年
教	保存修復学21 第7版	山本一世ほか 監修	永末書店	2026年
教	保存修復クリニカルガイド 第2版 動画付き	千田彰ほか 編	医歯薬出版	2025年

成績評価方法・基準・配点割合等

【前期・後期試験受験資格について】

- ・講義に規定数以上出席すること（前期・後期で各評価）。
- ・指定された範囲のDESS演習を実施すること。
原則として以上を満たすことを受験資格とする。

【前期・後期試験について】

- ・総合試験形式により実施する。

【成績評価について】

- ・前期・後期試験の点数により総合的に評価する。なお、春休み課題（レポート）の提出に不備があるものは、前期試験の点数より減点する。

到達目標	DP	レポート	前期試験	後期試験	その他	合計
1、2	4	2.7	27.3	70		100
合計		2.7	27.3	70		100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

ICTを用いた自学演習（DESS演習）を設定して、効率的且つ効果的な予習・復習をするための環境を整える。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的

チーム医療リテラシー

責任者・コーディネーター	医学教育学講座 医学教育学分野 高田 亮 教授		
担当講座・学科(分野)	全学教育推進機構、医学教育学講座医学教育学分野、緩和医療学科、内科学講座消化器内科分野、口腔医学講座関連医学分野、生理学講座病態生理学分野、病態薬理学講座分子細胞薬理学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野、看護専門基礎講座、人間科学科体育学分野、人間科学科心理学・行動科学分野		
担当教員	高田亮教授、相澤文恵非常勤講師、木村祐輔教授、柿坂啓介准教授、千葉俊美教授、黒瀬雅之教授、奈良場博昭教授、白石博久特任教授、遠藤龍人教授、佐々木亮平助教、香川由美助教、医学部教員、歯学部教員、薬学部教員、看護学部教員、教養教育センター教員		
対象学年	3 学年（全学部）	区分・時間数 (1 コマ 2 時間換算)	演習 24 時間（12 コマ）
期 間	前期	単位数	1 単位

・学修方針（講義概要等）

専門職連携教育(Inter Professional Education)の一環として、初年次に実施した「多職種連携のためのアカデミックリテラシー（問題解決型学習を含む）」での経験を踏まえ、3 年次では全人的医療を実現するうえでの多職種連携の必要性を理解することを目的とする。これまでの教養教育・専門教育での知識や経験を生かし、患者の健康段階に応じたサポート体制がどのような職種によるチームによって形成されるのか、また、緩和ケアにおいて患者の痛みを全人的に理解するためにどのような検討が必要なのかを、講義と医学・歯学・薬学・看護学・歯科衛生学の学生によるアクティブラーニングを通じて学修する。また、立場の異なるメンバーが集まったグループにおいて、一つの判断や結論を出すワークを行うことで、他者の意見を傾聴し、他者の価値観に配慮したうえで自己の意見を主張するスキルを学修し、チーム医療に必要なコミュニケーションの在り方や方法を理解する。

・教育成果（アウトカム）

専門教育途上にある学生が、他の学部学生とともに多様な場面に応じた多職種の役割について学び、討議することで、全人的医療を実現する上での多職種連携の必要性に気付く。緩和医療における患者の全人的苦痛とそれに対応する医療職を知ることによって、命を預かる医療人としての高いモラルと患者や他の職種を尊重する意識を身につける。これらのことにより、今後の医療知識獲得や臨床実習実践をより一層意欲的に行う覚悟を持つ。アクティブラーニングを通して、立場の異なるメンバーの意見を傾聴し、また、自分の意見をわかりやすく説明することを学修し、多様な価値観を尊重し、他者を畏敬する謙虚な気持ちを維持することができる。あわせて、生涯にわたってコミュニケーション能力をブラッシュアップするための要点をつかむ。

（ディプロマ・ポリシー 医学部：1,2,4,6 歯学部：1,2,3,4 薬学部：1,3 看護学部：1,2,4,7）

・到達目標（SBOs）

1. 各専門職の視点から、チーム医療の重要性とその実践方法を説明できる。
2. 各医療専門職の名称と役割を理解し、問題解決に関わる適切な医療チームを構築することができる。
3. 行動科学的アプローチの意義とその具体的な応用方法を説明できる。
4. 各専門職の視点から、多様な医療場面や緩和ケアの問題を分析し、全人的医療を実現するために必要な具体的な行動を提案できる。
5. 災害医療や地域医療における多職種連携の重要性を説明できる。
6. 自分の価値観や判断の仕方を再認識し、他者の価値観を尊重しながら、異なる視点を取り入れた意思決定ができる。
7. グループでの意思決定プロセスを理解し、グループダイナミクスを活用できる。

・授業日程

（矢）大堀記念講堂他

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
5/12	火	3	全学教育推進機構	高田 亮 全学教育推進機構長	多職種連携教育について 1.我々の目指すチーム医療について説明できる。 <特別講演> 多職種連携 ～患者さんの視点から～ (佐藤彰治氏) 1. 臨床現場におけるチーム医療の必要性を説明できる。 2. チーム医療における自・他職種の役割を概説できる。 事前学修：医療現場における多職種連携チームについて調べる。 事後学修：講演内容についてふりかえり、自らの考えをまとめる。 [IP-01,02, C-1-3-1]
			医学教育学分野 人間科学科心理学・行動科学分野	高田 亮 教授 香川 由美 助教	
			医学教育学分野	高田 亮 教授	カリキュラム説明 1. カリキュラムの目的と受講方法を説明できる。

					事前学修：シラバスをよく読み、本科目の到達目標と講義内容を確認する。 [IP-01,02, C-1-3-1,2]
		4 5	医学教育学分野 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター	高田 亮 教授 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部チューター (※1) 歯学部チューター (※2) 薬学部チューター (※3) 看護学部チューター (※4) 教養教育センターチューター (※5)	アイスブレイク ワークショップ1（多様な場面に関わる専門医療職の名称、役割と多職種連携の理解） 【双方向授業とグループワーク】 1. 医療に関わる多職種の名称とその役割の概要を説明することができる。 2. 様々な場面において必要とされる患者・家族へのサポートを列挙することができる。 3. 2 であげられたサポートに主体的に関わる専門職を列挙することができる。 4. 事例に関わる多職種の役割と職種間の関係をマインドマップにまとめることができる。 5. グループワークの結果を発表し、他グループのメンバーと討議できる。 6. ファシリテーター、チューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学修：教科書をよく読み、演習の手順を確認しておく。 事後学修：医療に関わる多職種が、多様な場面において患者、家族に果たす役割を確認する。 [PR-01,06, CM-02, IP-01,02,03,04, C-1-3-1,2,3]
5/19	火	3	医学教育学分野	相澤 文恵 非常勤講師 高田 亮 教授	医療における行動科学について 【ICT(WebClass)】 1. 医療に行動科学が応用される意義について説明できる。

				2. 全人的医療の実現に果たす行動科学の役割について説明できる。 3. 医療者・患者関係について説明できる。 4. 解釈モデルについて説明できる。 事前学修：教科書該当箇所を熟読し、初年次科目「医療における社会・行動科学」、「医療面接の基礎」で学んだことを確認する。 事後学修：医療において行動科学的アプローチが重要であることについて確認する。 [P-01,02, C-1-2-3, C-5-6]
	4 5	医学教育学分野 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター	高田 亮 教授 相澤 文恵 非常勤講師 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 白石 博久 特任教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部チューター (※1) 歯学部チューター (※2) 薬学部チューター (※3) 看護学部チューター (※4) 教養教育センターチューター (※5)	ワークショップ2（健康段階に応じた多職種の役割） 【双方向授業とグループワーク】 1. 事例に示された患者の健康段階において必要とされる患者・家族へのサポートを列举することができる。 2. 1 であげられたサポートに主体的に関わる専門職を列举することができる。 3. 健康段階に応じて、患者・家族に対する全人的に関わり（身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側）を述べることができる。 4. ワークショップの結果をグループごとに発表し、他グループのメンバーと討議できる。 5. テューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学修：教科書をよく読み、演習の手順を確認しておく。事後学修：医療に関わる多職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の職種）が、患者の解釈モデルを理解したうえで

					患者の健康段階に応じて患者、家族に果たす役割を確認する。 [PR-01,06, GE-05, PS-03, CM-02,04,05, IP-01,02,03,04 C-1-2-3, C-1-3-1,2,3, C-2-1, 3]
5/26	火	3	緩和医療学科 医学教育学分野	木村 祐輔 教授 高田 亮 教授	緩和医療論について 【ICT(WebClass)】 1. 緩和ケアについて、歴史、理念、意義について説明できる。 2. 全人的な“痛み”を理解し説明することができる。 3. がん治療に関わる多職種(医師、看護師、薬剤師、MSW, 臨床心理士ほか)それぞれの役割について理解し説明することができる。 事前学修：緩和ケアについて、教科書該当箇所を熟読する。 事後学修：生命を脅かす疾患に罹患した患者や家族が抱える全人的苦痛を理解し、チーム医療で支援することの重要性を確認する。 [PS-03, IP-01,02, C-1-2-3, C-1-3-6]
		4 5	医学教育学分野 緩和医療学科 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター	高田 亮 教授 木村 祐輔 教授 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 白石 博久 特任教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部チューター (※1) 歯学部チューター (※2) 薬学部チューター (※3) 看護学部チューター (※4) 教養教育センターチューター (※5)	ワークショップ3（緩和医療における多職種の役割） 【双方授業とグループワーク】 1. 記述されている内容から類推される患者・家族の苦痛を想像し、患者の“全人的苦痛”（身体的苦痛、社会的苦痛、精神的苦痛、スピリチュアルペイン）を列挙することができる。 2. 1にて列挙した苦痛（つらさ）への対応方法をグループで話し合い、主体的に関わる専門職を列挙し、チームとしての対応方法を述べることができる。 3. 自らの専門性（医師、歯科医師、薬剤師）を基盤とした“苦痛（つらさ）”への関り、

					他の医療職との連携による対応方法を述べることができる。 4. ワークショップの結果をグループごとに発表し、他グループのメンバーと討議できる。 5. テューターからのフィードバックを受け、医療における多職種役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学修：緩和ケアについて、該当箇所を熟読する。 事後学修：全人的苦痛を抱えた患者やその家族への支援を行う際の、医療者連携のあり方について、自らの専門性（医師、歯科医師、薬剤師、看護師）を中心に多職種連携の重要性を確認する。 [PR-01,06, GE-05, PS-03, CM-02,04,05, IP-01,02,03,04, C-1-2-3, C-1-3-1,2,3,6, C-2-1,3]
6/2	火	3 4	医学教育学分野 緩和医療学科 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター	高田 亮 教授 相澤 文恵 非常勤講師 木村 祐輔 教授 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 白石 博久 特任教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部テューター（※1） 歯学部テューター（※2） 薬学部テューター（※3） 看護学部テューター（※4） 教養教育センターテューター（※5）	代表者発表会 【双方向授業とプレゼンテーション】 1. 各会場から選出されたチームの発表を聞き、その内容について討議することができる。 2. 討議に参加することにより、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学修：発表会の討論に参加できるようにワークショップで取り上げた事例について復習しておく。 事後学修：患者が家族とともにその人らしく生きるために、医療チームを構成するメンバーそれぞれがどのような役割を果たし、協働すべきかについて確認する。 [CM-02,04,05, IP-01,02,03]

		5	医学教育学分野	高田 亮 教授	<特別講演> 「多職種連携」～医療の現場から～ (村上雅彦先生・大船渡病院) 【ICT(WebClass)】 1. 医療現場における多職種連携の現状を説明できる。 事前学修：医療現場における多職種連携チームについて調べる。 事後学修：講演内容についてふりかえり、自らの考えをまとめる。 [GE-05, IP-01, C-4-3-6,7,8]
--	--	---	---------	---------	---

※1 医学部テューター

所属	担当教員
整形外科科学講座	大竹 伸平 講師
形成外科学講座	本多 孝之 特任准教授
小児科学講座	石川 健 特任教授
皮膚科学講座	角田 加奈子 講師
細胞生物学分野	成田 啓之 准教授
情報伝達医学分野	小原 真美 助教
教育支援システム開発分野	柴崎 晶彦 助教

※2 歯学部テューター

所属	担当教員
発生生物・再生医学分野	大津 圭史 特任教授
細胞情報科学分野	石崎 明 教授
分子微生物学分野	三浦 利貴 助教
病態制御学分野	中村 正帆 教授
歯科放射線学分野	金森 尚城 助教
口腔外科学分野	野宮 孝之 助教
法歯学・災害口腔医学分野	熊谷 章子 特任教授

※3 薬学部テューター

所属	担当教員
薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授
創薬有機化学分野	辻原 哲也 准教授
分析化学分野	藤本 康之 准教授
分子細胞薬理学分野	藤原 俊朗 講師
薬物代謝動態学分野	寺島 潤 講師
分子細胞薬理学分野	高橋 巖 特任講師
情報薬科学分野	佐京 智子 助教

※4 看護学部テューター

所属	担当教員
共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 准教授
共通基盤看護学講座	伊藤 奈央 准教授
看護専門基礎講座	塚本 恭正 准教授
看護専門基礎講座	一ノ渡 学 講師
成育看護学講座	伊東 佐由美 講師
成育看護学講座	高橋 淳美 講師
地域包括ケア講座	館向 真紀 講師

※5 教養教育センターテューター

所属	担当教員
法学分野	廣瀬 清英 講師
心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授
心理学・行動科学分野	香川 由美 助教
哲学分野	林 研 准教授
物理学科	小松 真 講師
数学分野	江尻 正一 教授
数学分野	長谷川 大 准教授

※6 附属医療専門学校歯科衛生学科テューター

所属	担当教員
医療専門学校	鈴木 奈津子 教務主任

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教※	チーム医療リテラシー 2026	全学教育推進機構		2026

・ 成績評価方法

総括評価：

提出物とワークショップの参加態度で総合的に評価する。具体的には「各ワークショップのプロダクト」、「各ワークショップの提出レポート」、「講演会の提出レポート」、「グループワーク」、「発表会の内容」を、全てルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は事前に学生に提示する。プロダクトと提出レポートの評価は各課題責任者が行い、グループワークはチューターが評価する。また発表会の内容はファシリテーターが評価する。

以下に示す評価が全てルーブリック評価B以上であれば合格とする。1つでもC評価があった場合は到達目標未到達として不合格とする。

- (1) 1-3 日目に行うワークショップの「プロダクト評価」、「提出レポート評価」
- (2) 3 日目に実施する「グループワーク評価」、「発表会の内容観察評価」
- (3) 4 日目に行う「講演会の提出レポート評価」

点数は、全ての評価がBであった場合を60点とし、AやSがあった場合は、その数に合わせて加点を行う。また発表会で合理的な質問をした学生には加点をおこなう。最高点は100点とする。

形成評価：

各講義終了後に理解度を確認する小テストを行い、即時にフィードバックする。満点を取るまで何度でも受験可とし、ワークショップ参加のための前提知識を完全に修得できるようにする。

1・2 日目に実施する「チューターによるグループワークの観察評価」と、「ファシリテーターによる発表会の観察評価」は、形成評価として2・3 日目のワークショップ前に学生へ返却し、学修のガイドとする。AやSの項目があった場合は、総括評価に加点を行う。

各ワークショップ終了後にWebClassでふりかえりを実施し、理解度、到達度を確認する。ふりかえりの結果は成績には反映しない。

到達 目標	DP				中間 試験	レポート	小テスト	定期 試験	発表	その他	合計
	医	歯	薬	看							
1	2, 6	1, 2	1, 3	1, 2, 7						20	20
2	2, 6	1, 2	1, 3	1, 2, 7						20	20
3	4	4		4						5	5
4	1, 2, 4, 6	1, 3, 4	1, 3	1, 2, 4, 7						20	20
5	2, 4, 6	1, 3, 4	1, 3	1, 2, 4, 7						5	5
6	2, 6	1, 3	1, 3	1, 2, 7						20	20
7	2, 6	1, 3	1, 3	1, 2, 7						10	10
合計										100	100

・特記事項・その他

本科目では、一般的な講義に加えて4学部混成のグループによるワークショップ（以下 WS）を実施する。WS の課題達成プロセスについての評価は時間内にフィードバックする。提出物は、各 WS のプロダクトとレポート、最終日講演レポートとし、期日までに WebClass に提出する。

事前学修：シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、取り上げる内容に関わるキーワードについて科目開講時に配布された教科書等を用いて調べままとめておく。

事後学修：講義内容を復習したうえで WebClass の確認問題を行い、理解が不十分であった事項については教科書等を用いて理解を深める。

各コマに対して、事前学修に 40 分・事後学修に 30 分、各回 WS レポートおよび講演ふりかえりレポート作成のためにそれぞれ 2 時間以上を要する。

多職種連携に関する意識と社会的スキルの変化を評価するため、アンケート調査を科目の開始時と終了時の 2 回実施する。

本科目は附属医療専門学校歯科衛生学科3学年も履修する。

※の教科書は講義の初日に配布する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC	1	講義資料の提示
講義	書画カメラ・DVD プレーヤーセット（エルモ、東芝他）	1	講義資料の提示

自 由 科 目
(海外外国語研修)
(地域医療課題解決演習)

海外英語演習

責任者・コーディネーター	外国語学科英語分野 柳谷 千枝子 准教授		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野		
担 当 教 員	柳谷 千枝子 准教授、Jonathan Levine-Ogura 助教、 松田 竜宙 助教、Robert Ken Asano 助教		
対 象 学 年	1, 2, 3, 4, 5, 6	区分・時間数	約 2 週間
期 間	後期		

・学修方針（講義概要等）

英語圏の国に短期間滞在し、大学または語学学校の講師による語学コースを受講する。授業では、主として、日常会話に役立つ表現や文法事項などのテーマを扱う。さらに、リスニング練習を通してスピーキング能力を伸ばし、将来医師・歯科医師・薬剤師・看護師として活躍する際に必要な英語の総合力を培う。また、英語圏の国の文化や歴史に対する理解を深めるため、名所旧跡を見学する。その他、様々な国の人々と共にアクティビティーに参加したり、医療関連施設を訪問したりすることもある。

本演習では、外国で様々な経験を重ねることで医療者に求められる豊かな人間性を養い、また異文化コミュニケーションを図ることで国籍にかかわらず相手の立場を理解し、さらに、臆することなく自己を表現することで、友好的かつ国際的な人間関係を築くことができるようになる。

・教育成果（アウトカム）

本演習は教養教育に求められる豊かな人間性を涵養する一環として実施される。

1. 海外での生活体験を通して異文化に触れることで多様な価値観を理解でき、幅広い視点から人および物事を見ることができる。
2. 英語演習を通じて日本語を再認識することで、その能力向上を図るとともに、将来必要とされる患者との相互理解、信頼関係構築のためのコミュニケーション能力を育成できる。
(ディプロマポリシー：1, 2, 3, 7, 9)

・到達目標（SB0）

- (1) 異文化を理解し、現地の人と英語で意思疎通を図ることができる。
- (2) 教室では間違いをおそれず積極的に発言することができる。
- (3) 日本人同士で集まることなく各国の人たちと積極的に交流することができる。
- (4) 英語圏の文化・歴史・価値観・医療に触れることで、医療者に求められる豊かな人間性と柔軟な思考力を身につけることができる。

・ 成績評価方法

【総括的評価】 研修レポート: 30%、演習態度*: 70%

【形成的評価】 研修内容に関する質疑応答により、異文化に対する理解度評価を行う。

*本科目の演習態度とは、主に、授業、イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での積極的な発言、自主的行動、外国での問題解決能力等を指す。

*演習態度の具体的な評価方法については「参加者募集説明会」および「参加者対象説明会」で説明する。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、4	1、7、9		30					30
1、2、3、4	1、2、3、7						70	70
合計			30				70	100

備考：

「その他」（70%）は、授業・イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での発言、自主的行動、外国での問題解決能力等による演習態度評価を含む。

・ 特記事項・その他

研 修 先：英語圏の国（例：イギリス、オーストラリア等）

期 間：3 月（約 2 週間）の予定

宿泊施設：ホームステイ等

研修内容を把握し渡航に向けて準備するため、参加希望者は「参加者対象説明会」および「最終説明会」（各 1 時間程度）に出席する必要がある。なお、提出レポート（感想文）は、後日、個別にフィードバックする。

当該科目に関連する実務経験の有無 無

(令和8年度) 地域医療課題解決演習

科目担当責任者	医学部総合診療医学講座 下沖 収 教授		
担当講座・学科 (分野)	(医学部) 総合診療医学講座、内科学講座脳神経内科・老年科分野 (歯学部) 歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、 口腔医学講座予防歯科学分野、法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 (薬学部) 臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野 (看護学部) 地域包括ケア講座		
担当教員	(医学部) 下沖 収 教授、大間々 真一 准教授、高橋 智弘 講師、前田 哲也 教授、 赤坂 博 助教 (歯学部) 小林 琢也 教授、熊谷 章子 特任教授 (薬学部) 松浦 誠 教授、白石 博久 特任教授 (看護学部) 岩渕 光子 教授、赤井 純子 助教 ＜協力＞矢巾町健康長寿課関係者の皆様、演習訪問先等関係者の皆様		
対象学年	全学年（全学部）	期 間	通期
区分・時間数	演習 16.0 時間（全 8 回） (1 コマ 2 時間換算)	単位数	1 単位

■ 学習方針（演習概要等）

患者（対象者）を中心とする地域医療の実現のため、地域社会における医療課題についてグループワークを行う、多職種連携 PBL 科目である。自治体関連施設等の訪問、関係専門職や、対象者（住民）へのインタビュー等をグループで行い、学部・学年を超えたディスカッションの上で提言をまとめる。

■ 教育成果（アウトカム）

患者（対象者）や専門職チーム、地域社会との関係における各専門職プロフェッショナリズムを理解し実践する力を身につける。施設等の訪問やインタビュー等を行い、グループ内でのディスカッションを経て提言をまとめる過程を通じ、他者尊重に基づきチームで協働する力を身につける。併せて、多職種（専門職）連携の重要性を理解し、自職種の責務の理解に基づく自己主導型学習力を身につける。
(ディプロマ・ポリシー)

医学部：1, 2, 4, 6, 8 歯学部：1, 2, 3, 5, 9 薬学部：1, 2, 3 看護学部：1, 2, 3, 7, 8

■ 到達目標（SBOs）

1. 対象とする地域医療課題に関する現状と問題点を捉え、説明できる。
2. グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる。
3. 多分野にわたる幅広い情報収集ができる。
4. 課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくりにおける各職の役割が説明できる。
5. 自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる。

■ 成績評価方法

最終発表会を含め演習への参加態度評価（50%）、ルーブリックによるグループワーク等評価（30%）、成果物評価（20%）により評価する。

到達目標	DP				ルーブリック	発表 参加態度	成果物	合計
	医	歯	薬	看				
1, 2, 3, 4	1, 2, 4, 6, 8	1, 2, 3, 5, 9	1, 2, 3	1, 2, 3, 7, 8	30	50	20	100
5	2	9	1	1				
合計					30	50	20	100

■ 事前学修時間・内容

各回到達目標の内容を事前に学習するとともに、実施前にメールで事前もしくは事後課題の指示あり。各回、事前事後4時間以上の学習を要する。学習結果は、演習当日に持参もしくは指示によりデータ提出すること。フィードバックは授業時、または個別にメール等で行う。

■ 特記事項・その他

開催日：別途調整のうえ指定 対 象：全学年（全学部） 会 場：矢巾キャンパス・矢巾町役場等
 ＊受講希望者は掲示を確認の上、所定の期日までに履修届を提出のこと。＊30 分以上の遅刻は欠席とする。
 当該科目に関する実務経験の有無 有
 行政（矢巾町）と連携したフィールドワーク等を通じて、地域課題や解決方法について学ぶ。

実施日程

月日	時限	内容／到達目標	担当教員	会場
第1回 6月 予定	5限 予定	オリエンテーションと概要講義 2. 日本における当該課題の概要を理解し説明できる。 3. 地域における当該課題の概要を理解し説明できる。	大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 前田 哲也 教授 赤坂 博 助教 小林 琢也 教授 熊谷 章子 特任教授 松浦 誠 教授 白石 博久 特任教授 岩渕 光子 教授 赤井 純子 助教	矢巾町
第2回 6月 予定	5限 予定	グループワーク（課題理解の共有） 1. 地域における当該科目の概要理解について、グループ内検討により、関わり方の相違点・共通点を確認し自分の言葉で説明できる。 2. メンバーが理解を共有できるよう、必要なコミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第3回 7月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。		矢巾町
第4回 8月 予定	5限 予定	グループワーク（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第5回 9-10月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。		矢巾町
第6回 11月 予定	5限 予定	グループワーク（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第7回 11月 予定	5限 予定	グループワーク（プレゼンテーション作成） 1. グループ内で各専門領域を学ぶそれぞれの知見をあわせ、協働作業によりプロダクトを作成する過程で、多職種連携の重要性を理解し多職種を尊敬する謙虚さ、自己主導型学習を身につける。		矢巾キャンパス

第8回 12月 予定	5限 予定	検討発表会・まとめ 1. 当該課題への解決策を提案でき、医療人である自らの役目をも説明できるようになる。 2. 自他尊重に基づき、質疑応答その他において適切なコミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
------------------	----------	--	--	---------

学則・試験規程・その他

岩手医科大学学則

第1章 目的及び使命

第1条 本学の目的は、医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成するにある。すなわち、まず人としての教養を高め、十分な知識と技術とを修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出では力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させること、これが本学の使命とする所である。

2 各学部における教育研究上の目的は別に定める。

3 本学は教育研究水準の向上を図り、前項の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

4 前項の点検及び評価の方法並びに体制等については、別に定める。

第2章 組織及び修業年限

第2条 本学に次の学部学科を置く。

医学部 医学科

歯学部 歯学科

薬学部 薬学科

看護学部 看護学科

2 医学部、歯学部及び薬学部の修業年限は6年とし、看護学部は4年とする。

3 各学部の学生及び再入学者の在学年限は、別に定める。ただし、通算して修業年限の2倍を超えることができない。

第3章 学年・学期及び休業日

第3条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第4条 学年は、前期、後期の2期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から3月31日まで

ただし、前期及び後期の期間は、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第5条 定期休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 春期休業 3月16日から4月15日まで

(4) 夏期休業 7月16日から8月31日まで

(5) 冬期休業 12月23日から1月15日まで

ただし、春期、夏期及び冬期休業の期間については、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

2 臨時休業日は、その都度学長が定める。

第4章 授業科目、授業時間数及び単位

第6条 各学部の授業科目等は別表1のとおりとする。

第5章 授業科目の履修及び課程修了の認定

第1節 医学部、歯学部

第7条 医学部、歯学部においては、第6条に定める所定の授業科目を履修しなければならない。

2 履修方法及び履修すべき授業時間数については別に定める。

3 履修した科目に単位を付与する場合は、45時間の学修を必要とする内容を1単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算するものとする。

第8条 所定の講義及び実習を履修した者に対し試験を行う。

2 試験に関する実施規程は別に定める。

第9条 試験の成績は、合格または不合格とし、評価等は別に定める。

第2節 薬学部、看護学部

第10条 薬学部、看護学部においては、第6条に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

2 履修方法及び取得すべき単位数については別に定める。

3 単位の計算は、第7条第3項を準用する。

第11条 履修した授業科目については、別に定める方法で試験を行う。

第12条 試験の成績は、第9条を準用する。

第3節 全学部共通

第13条 特定の授業科目を履修した者に履修証明書を与えることがある。

第14条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを標準とする。

第14条の2 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が所属する学部以外の学部の授業科目を履修することができる。

第15条 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第 16 条 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第 1 項及び第 2 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 17 条 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、30 単位を超えないものとし、かつ、第 15 条第 1 項（同条第 2 項において準用する場合を含む。）及び前条第 1 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 6 章 卒業及び学位

第 18 条 医学部、歯学部においては第 2 条に定める期間を在学し、かつ、第 6 条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得し、試験に合格した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、医学部を卒業した者には学士（医学）、歯学部を卒業した者には学士（歯学）の学位を授与する。

2 薬学部においては第 2 条に定める期間を在学し、かつ、第 6 条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、薬学実務実習 20 単位以上を含む 186 単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

3 看護学部においては第 2 条に定める期間を在学し、かつ、第 6 条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、124 単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

第 7 章 入学、休学、再入学、転入学、編入学、転部入学及び退学

第 19 条 入学の時期は、学年の始めとする。

第 20 条 本学に入学資格のある者は、次の各号の一に該当しなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者。
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む）。
- (3) 外国において、学校教育12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
- (5) 文部科学大臣の指定した者。
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定資格試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む）。
- (7) その他、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認めた者。

第21条 入学志願者は、所定の入学願書に、履歴書、資格証明書、写真及び入学検定料を添えて学長に願い出なければならない。

第22条 本学に入学を志願した者については、教授会の議を経て学長が入学の許可、不許可を決定する。

- 2 本学を退学した者で、本学に再入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、別に定めるところにより選考し、教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することができる。

第23条 入学を許可された者は、本学所定の方式によって宣誓し、保証人2名を定めて在学保証書その他所定の書類を提出し、かつ所定の期日までに入学金を納入しなければならない。

第24条 保証人は、学生本人の父兄及び独立の生計を営む成年者とする。ただし、保証人のうち1名は学費負担者でなければならない。

- 2 保証人は学生の在学中の一切のことについて責任を負わなければならない。

- 3 保証人が死亡し、あるいはその資格を失ったときは、直ちに第1項の規定によって新たに設けなければならない。

第25条 学生、保証人が氏名、本籍、住所を変更した場合は直ちに届け出なければならない。

第26条 病気、その他やむを得ない事由により3ヶ月以上修学できないときは、その事由を証明する書類を添え保証人連署の休学願を提出し、教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。

- 2 休学の期間は、1年を超えることはできない。ただし特別の事情がある場合は、教授会の議を経て学長が更に1年以内の休学を許可することができる。

- 3 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

- 4 休学期間は、在学期間に算入しない。

第27条 休学期間であっても事故止みとなり復学を願い出た場合は、教授会の議を経て許可することがある。

第28条 他の大学から本学に、本学から他の大学に転入学、編入学を願い出た者がある場合は、教授会の議を経て学長が許可することがある。

2 本学の第1学年の学生で他学部への転部入学を希望する者があるときは、選考の上、第2学年の始めに限り転部入学を許可することがある。ただし、看護学部は除くものとする。

3 転入学、編入学、転部入学に関する規程は、別に定める。

第29条 本学を退学しようとする場合は、その事由を明記し、保証人連署の退学願を提出し教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。ただし、退学の事由が病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

第8章 入学検定料、入学金、授業料、その他の学費

第30条 入学検定料、入学金、授業料、その他の学費（以下授業料等という）の額は別表2に定める。

第31条 授業料等の納入は、次の各号のとおりとする。

(1) 入学金は、入学手続き時に納入しなければならない。

(2) 入学初年度の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、入学初年度は入学手続き時に納入しなければならない。ただし、半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合には所定の期日までに納入しなければならない。

(3) 入学次年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年4月25日までに納入しなければならない。ただし、授業料は半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合の2回目の納入期限日は9月25日までとする。

(4) 薬学部第5学年の長期実務実習にかかる費用の額及び納入方法は、別に定める。

第32条 授業料等を所定期日までに納入しない場合は、納入するまでその者の出席を停止し、30日を経過して、なお納入しない場合は、学長がこれを除籍することがある。

第33条 納入した授業料等は、返還しない。ただし、入学手続きを完了したもので、所定期日までに入学辞退の届出を行い、かつ授業料等の返還を申し出た者については、入学検定料及び入学金を除く外の納入金を返還する。

2 前項の規定にかかわらず、休学期間中の授業料および実験実習費は、休学を許可された月の翌月から復学を許可された月の前月までの月割計算による額の半額を免除する。

第9章 職員組織

第34条 本学に次の職員を置く。

学長・副学長・教授・准教授・講師・助教・助手・技術員・事務員・その他必要な職員。

2 職員の定員に関しては、別にこれを定める。

第10章 教授会

第35条 本学に教授会を置く。

2 教授会は、医学部、歯学部、薬学部及び看護学部のそれぞれの専任教授をもって当該学部毎に組織する。

- 3 教授会は、学長が次の事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、別に定めるもの
- 4 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 5 教授会の運営に関する規程は、別に定める。

第11章 学生収容定員

第36条 各学部の学生定員は次のとおりとする。

医学部医学科	入学定員	95名	収容定員	570名
歯学部歯学科	入学定員	73名	収容定員	438名
薬学部薬学科	入学定員	50名	収容定員	300名
看護学部看護学科	入学定員	90名	3年次編入学定員	5名 収容定員 370名

第12章 研究生・研修生・研究員・聴講生・科目等履修生及び外国人学生

第37条 本学において特殊事項に関する研究及び研修を志願する者については、選考のうえ研究生、研修生、研究員として許可することができる。

2 研究生、研修生、研究員に関する規程は、別に定める。

第38条 本学に聴講を希望する者がある場合は、選考のうえ聴講生として入学を許可することができる。

2 聴講生の規程は、別に定める。

第38条の2 本学の学生以外の者で、本学が開講する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、授業に支障のない限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。

2 科目等履修生の規程は、別にこれを定める。

第38条の3 研究生、研修生、研究員、聴講生には、第8条、第9条、第11条、第12条、第18条、第19条、第20条、第30条及び第40条は、これを適用しない。

第39条 外国人留学生を入学させることがある。外国人学生は、特に規定あるものの外は本学則の一般規定を準用する。

第13章 賞罰

第40条 人物及び学業の優秀な者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。

第41条 学生がその本分にもとる行為をした場合は、教授会の議を経て学長が懲戒する。

2 懲戒は、戒告、停学、退学、退学のうえ除籍の4種とする。

第 42 条 次の各号の一に該当する学生は、教授会の議を経て学長が退学又は退学のうえ除籍することができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなく欠席が多い者
- (4) 本学の秩序を乱す者

第 14 章 附属施設

第 43 条 本学に次の附属施設を置く。

- (1) 附属図書館
- (2) 附属病院
- (3) 附属薬用植物園

2 附属図書館規程、附属病院規程及び附属薬用植物園規程は、別に定める。

第 15 章 学生の厚生補導等

第 44 条 学生の厚生補導の充実を図るため、学生部を置く。

2 学生部規程および学生の厚生及び補導については別に定める。

第 45 条 本学に学生寮を置くことができる。

第 16 章 学生心得

第 46 条 学生心得は、別に定める。

第 17 章 改廃

第 47 条 この学則の改廃は、関係学部教授会及び教学運営会議の議を経て理事会が決定するものとする。

附 則

この学則は、昭和 22 年 6 月 18 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 29 年 9 月 15 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 40 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 41 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 43 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和 44 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 46 年 1 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 46 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 48 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 48 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 50 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料等は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

この学則は、昭和 50 年 10 月 24 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和 52 年 1 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 53 年 2 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

この学則は、昭和 54 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和 55 年 2 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 57 年 1 月 5 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 59 年 1 月 2 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 61 年 1 月 6 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、昭和 62 年 10 月 20 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 24 条第 1 項に定める歯学部学納金のうち、実験実習費並びに施設整備費の（）書は昭和 63 年度以降歯学部に入学者に適用する。
- 3 この改正学則施行の際、昭和 60 年度以前に入学し、在学している学生については、第 24 条第 3 項の規定は適用しない。

附 則

- 1 この学則は、平成 2 年 1 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学している学生については、第 20 条第 2 項、第 3 項および第 27 条第 2 項の規定は、平成 2 年 4 月 1 日より適用する。
ただし、この改正学則施行の際、現に休学している学生については、第 20 条 2 項、第 3 項および第 27 条第 2 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 2 年 10 月 19 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 3 年 11 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。
ただし、消費税法の一部を改正する法律（平成 3 年 5 月 15 日法律第 73 号）の改正にともない、第 24 条の入学金及び施設整備費は非課税とする。

附 則

- 1 この学則は、平成 5 年 11 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

この学則は、平成 7 年 9 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 10 年 9 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の在学年限は、第 2 条第 3 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 13 年 10 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 14 年 10 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 18 年 11 月 30 日付、文部科学大臣からの薬学部設置認可に伴い改正し、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成20年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第36条の規定にかかわらず、平成20年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～ 29年度
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
収容定員	490人	500人	510人	520人	530人	540人

- 3 第31条の規程にかかわらず、本附則第 2 項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附 則

この学則は、平成 20 年 8 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第36条の規定にかかわらず、平成21年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～ 29年度
入学定員	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	505人	520人	535人	550人	565人	570人

- 3 第31条の規程にかかわらず、本附則第2項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 学生定員の取扱については、平成20年8月5日付、文部科学省からの「地域や診療科の医師確保の観点からの医師養成の推進について（通知）」に基づき改定するものとし、平成20年4月1日の「新医師確保総合対策」に基づく附則、ならびに平成21年4月1日施行の「緊急医師確保対策」に基づく附則に関わらず次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～ 29年度
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110人
収容定員	520人	550人	580人	610人	640人	660人

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 第36条の規定にかかわらず、平成22年度から平成37年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度～ 29年度	平成30年度
入学定員	125人	125人	125人	125人	125人	125人	110人
収容定員	565人	610人	655人	700人	735人	750人	735人
	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
入学定員	110人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	720人	690人	660人	630人	600人	585人	570人

- 3 第31条の規程にかかわらず、本附則第2項のうち医学部地域枠等に係る入学生（地方自治体による医学生奨学金制度等を利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。
- 4 第36条の規定にかかわらず、平成22年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度～ 31年度
入学定員	75人	75人	75人	75人	75人	75人
収容定員	475人	470人	465人	460人	455人	450人

附 則

- 1 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。(平成 22 年 6 月 28 日一部改正)
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。
- 3 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。(平成 23 年 2 月 28 日一部改正)

附 則

この学則は、平成 23 年 6 月 1 日から施行する。(平成 23 年 5 月 30 日一部改正)

附 則

- 1 この学則は、平成 24 年 7 月 1 日から施行する。(平成 24 年 6 月 25 日一部改正)
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。(平成 24 年 10 月 29 日一部改正)
- 2 第 36 条の規定にかかわらず、平成 25 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
入学定員	123人	123人	123人	123人	123人	108人	108人
編入学定員	7人	7人	7人	7人	7人	7人	7人
収容定員	705人	745人	765人	770人	768人	751人	736人
	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	
入学定員	95人	95人	95人	95人	95人	95人	
編入学定員	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
収容定員	701人	666人	631人	596人	583人	570人	

- 3 第36条の規定にかかわらず、平成25年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度～ 31年度
入学定員	73人	73人	73人	73人	73人	73人
収容定員	458人	451人	444人	442人	440人	438人

附 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。(平成 27 年 3 月 23 日一部改正)

附 則

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 28 年 8 月 31 日付、文部科学大臣からの看護学部設置認可に伴い改正し、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の同一学年在学年限は、第2条第3項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。（平成29年7月31日一部改正、平成30年3月26日一部改正（別表1第6条関係の変更））

2 第36条の規定にかかわらず、平成30年度から平成37年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
入学定員	123 人	123 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	7 人	7 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	661人	626人	598人
	平成37年度						
入学定員	95 人						
編入学定員	0 人						
収容定員	570人						

3 第36条の規定にかかわらず、平成30年度から平成35年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
入学定員	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人
収容定員	920人	880人	840人	800人	760人	720人

附 則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。（平成30年4月23日一部改正（別表1第6条関係の変更）、平成31年3月25日一部改正（別表1第6条関係の変更））

附 則

1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。（令和元年7月29日一部改正、令和2年3月30日一部改正（別表1第6条関係の変更））

2 第36条の規定にかかわらず、令和2年度から令和9年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	126 人	126 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	4 人	4 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	664人	632人	601人
	令和9年度						
入学定員	95 人						
編入学定員	0 人						
収容定員	570人						

附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。（令和2年6月29日一部改正、令和3年3月29日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 2 第36条の規定にかかわらず、令和3年度から令和8年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
収容定員	760人	680人	600人	560人	520人	480人

附 則

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。（令和3年4月26日一部改正（別表1第6条関係の変更）、令和3年7月26日一部改正、令和4年3月28日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 2 第36条の規定にかかわらず、令和4年度から令和10年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
入学定員	126人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
編入学定員	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
収容定員	766人	731人	699人	667人	632人	601人	570人

附 則

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。（令和4年9月6日一部改正、令和5年3月27日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 2 第36条の規定にかかわらず、令和5年度から令和11年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	130人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	766人	734人	702人	667人	636人	605人	570人

附 則

- 1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。（令和5年10月26日一部改正、令和5年12月18日一部改正、令和6年3月25日一部改正（別表1第6条関係の変更、第7条関係の変更））
- 2 第36条の規定にかかわらず、令和6年度から令和12年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
入学定員	130人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	769人	737人	702人	671人	640人	605人	570人

- 3 第36条の規定にかかわらず、令和6年度から令和11年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	50名	50名	50名	50名	50名	50名
収容定員	530名	460名	390名	360名	330名	300名

附 則

- 1 この学則は、令和7年4月1日から施行する。（令和6年12月16日一部改正、令和7年3月24日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 2 第36条の規定にかかわらず、令和7年度から令和13年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
入学定員	130名	95名	95名	95名	95名	95名	95名
収容定員	772名	737名	706名	675名	640名	605名	570名

附 則

- 1 この学則は、令和7年8月1日から施行する。（令和7年6月30日一部改正（別表2第30条関係の変更））

附 則

- 1 この学則は、令和8年4月1日から施行する。（令和7年12月15日一部改正、令和8年3月30日一部改正（第2条第3項関係の変更、別表1第6条関係の変更））
- 2 第36条の規定にかかわらず、令和8年度から令和14年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
入学定員	130名	95名	95名	95名	95名	95名	95名
収容定員	772名	741名	710名	675名	640名	605名	570名

別表1（第6条関係：歯学部）

科目 区分	科目名	履修 年次	時間数	単位	区分	備考
教養教育科目	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	1	16.0	2	講義	必修
			16.0		演習	
	医療倫理学	1	28.0	1	講義	必修
	法学	1	28.0	1	講義	必修
	心理学	1	16.0	1	講義	必修
	医療における社会・行動科学	1	16.0	1	講義	必修
	医療面接の基礎	1	20.0	1	講義	必修
	データサイエンス	1	28.0	1	講義	必修
	情報リテラシー	1	14.0	1	講義	必修
			14.0		演習	
	物理学	1	28.0	1	講義	必修
	物理学実習	1	42.0	1	実験	必修
	専門課程への化学	1	28.0	1	講義	必修
	化学実習	1	42.0	1	実験	必修
	エッセンシャル生物	1	16.0	1	講義	必修
	専門課程への生物学	1	28.0	1	講義	必修
	生物学実習	1	42.0	1	実験	必修
	English Reading & Writing I	1	28.0	1	講義	必修
	English Reading & Writing II	1	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & Listening I	1	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & Listening II	1	28.0	1	講義	必修
	健康運動科学	1	16.0	1	講義	必修
			16.0		実技	
	ベーシック生物	1	28.0	1	講義	選択
	スタンダード生物	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト生物	1	28.0	1	講義	選択
	自然・文化人類学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック化学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック物理	1	28.0	1	講義	選択
	解析学入門	1	28.0	1	講義	選択
	医療とスポーツ	1	18.0	1	講義	選択
			10.0		実技	
	医療とコミュニケーション	1	28.0	1	講義	選択
	道徳のしくみ	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト数学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック数学	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト化学	1	28.0	1	講義	選択
	文学の世界	1	28.0	1	講義	選択
	実践英語	1	28.0	1	講義	選択
	医療と福祉	1	28.0	1	講義	選択
	科学英語	1	20.0	1	講義	選択
	医療と物語	1	20.0	1	講義	選択
	人間関係論	1	20.0	1	講義	選択
	パーソナリティ心理学	1	20.0	1	講義	選択
	哲学の世界	1	20.0	1	講義	選択
	医療と法律	1	20.0	1	講義	選択
	医学統計学	2	26.0	1	講義	必修

科目 区分	科目名	履修 年次	時間数	単位	区分	備考
歯学専門科目	歯科医学概論	1	48.0	1	講義	必修
	（看護・介護体験実習、病院内実習）	1	58.0	1	実習	必修
	解剖学Ⅰ	1	42.0	1	講義	必修
	組織学基礎	1	28.0	1	講義	必修
	生理学Ⅰ	1	28.0	1	講義	必修
	生化学Ⅰ	1	28.0	1	講義	必修
	臨床歯科学入門	1	44.0	1	講義	必修
	解剖学Ⅱ	2	84.0	1	講義	必修
	解剖学Ⅱ実習	2	140.0	1	実習	必修
	組織学・発生学	2	56.0	1	講義	必修
	組織学・発生学実習	2	56.0	1	実習	必修
	生理学Ⅱ	2	76.0	1	講義	必修
	生理学Ⅱ実習	2	8.0	1	実習	必修
	生化学Ⅱ	2	56.0	1	講義	必修
	生化学Ⅱ実習	2	28.0	1	実習	必修
	微生物学・免疫学Ⅰ	2	56.0	1	講義	必修
	歯科理工学Ⅰ	2	40.0	1	講義	必修
	歯科理工学Ⅰ実習	2	30.0	1	実習	必修
	薬理学Ⅰ	2	22.0	1	講義	必修
	薬理学Ⅰ実習	2	6.0	1	実習	必修
	病理学総論	2	24.0	1	講義	必修
	病理学総論実習	2	32.0	1	実習	必修
	衛生学・公衆衛生学	2	34.0	1	講義	必修
	衛生学・公衆衛生学実習	2	8.0	1	実習	必修
	歯科専門体験実習（講義）	2	4.0	1	講義	必修
	歯科専門体験実習	2	28.0	1	実習	必修
	専門英語（2年）	2	36.0	1	講義	必修

科目 区分	科目名	履修 年次	時間数	単位	区分	備考
歯学専門科目	微生物学・免疫学Ⅱ	3	36.0	1	講義	必修
	微生物学・免疫学Ⅱ実習	3	20.0	1	実習	必修
	歯科理工学Ⅱ	3	38.0	1	講義	必修
	歯科理工学Ⅱ実習	3	32.0	1	実習	必修
	薬理学Ⅱ	3	22.0	1	講義	必修
	薬理学Ⅱ実習	3	6.0	1	実習	必修
	口腔病理学	3	32.0	1	講義	必修
	口腔病理学実習	3	52.0	1	実習	必修
	予防歯科学	3	20.0	1	講義	必修
	予防歯科学実習	3	8.0	1	実習	必修
	保存修復学	3	42.0	1	講義	必修
	保存修復学実習	3	42.0	1	実習	必修
	補綴学総論	3	14.0	1	講義	必修
	補綴学総論実習	3	14.0	1	実習	必修
	歯科放射線学	3	46.0	1	講義	必修
	歯科放射線学実習	3	10.0	1	実習	必修
	医科学（3年）	3	56.0	1	講義	必修
	歯周病学	3	52.0	1	講義	必修
	歯周病学実習	3	32.0	1	実習	必修
	臨床薬理学	3	12.0	1	講義	必修
	臨床薬理学実習	3	16.0	1	実習	必修
	社会と歯学	3	28.0	1	講義	必修
	歯内療法学	3	56.0	1	講義	必修
	歯内療法学実習	3	42.0	1	実習	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）	3	10.0	1	講義	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習	3	18.0	1	実習	必修
	冠橋義歯学	3	44.0	1	講義	必修
	冠橋義歯学実習	3	68.0	1	実習	必修
	基礎科学演習	3	6.0	1	演習	必修
	基礎科学演習実習	3	28.0	1	実習	必修
	医療リベラルアーツ	3	24.0	1	演習	必修
	歯科総合演習（3年）	3	68.0	1	演習	必修
	チーム医療リテラシー	3	24.0	1	演習	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅱ）	4	16.0	1	講義	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習	4	54.0	1	実習	必修
	部分床義歯補綴学	4	32.0	1	講義	必修
	部分床義歯補綴学実習	4	52.0	1	実習	必修
	歯科麻酔学	4	56.0	1	講義	必修
	法歯科医学・災害歯科医学	4	14.0	1	講義	必修
	法歯科医学・災害歯科医学実習	4	14.0	1	実習	必修
	医科学（4年）	4	98.0	1	講義	必修
	口腔外科学	4	138.0	1	講義	必修
	口腔外科学実習	4	16.0	1	実習	必修
	口腔インプラント学	4	20.0	1	講義	必修
	口腔インプラント学実習	4	8.0	1	実習	必修
	歯科矯正学	4	70.0	1	講義	必修
	歯科矯正学実習	4	42.0	1	実習	必修
	小児歯科学	4	40.0	1	講義	必修
	小児歯科学実習	4	30.0	1	実習	必修
	障害者歯科学	4	28.0	1	講義	必修
	専門英語（4年）	4	14.0	1	講義	必修
	高齢者歯科医学	4	46.0	1	講義	必修
	歯科総合演習（4年）	4	126.0	1	演習	必修
	コミュニケーション学	4	12.0	1	講義	必修
	コミュニケーション学実習	4	38.0	1	実習	必修
	総合講義（Ⅰ）	5	276.7	1	講義	必修
	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）	5	1212.0	1	実習	必修
	総合講義（Ⅱ）	6	851.5	1	講義	必修
	4学部合同セミナー	6	4.0	1	演習	必修

科目 区分	科目名	履修 年次	時間数	単位	区分	備考
自由	海外英語演習	1～6	約2週間	2	演習	自由
科目	地域医療課題解決演習	1～6	16.0	1	演習	自由

別表 2 (第30条関係)

1. 入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。(転部入学含む)

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料 (年額)		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	初年度 (年額)	500,000 円	—	125,000 円	150,000 円
	第2学年以降 (年額)	500,000 円	—	195,000 円	150,000 円
施設整備費 (年額)		1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	入学時	3,000,000 円	2,000,000 円	—	—
	第2学年以降 (年額)	1,000,000 円	800,000 円	—	—

※教育充実費のうち、平成 21 年度医学部在学中の学生の第 2 学年からの年額は 800,000 円とする。

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

2. 再入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		500,000 円	300,000 円	175,000 円	125,000 円
授業料 (年額)		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	第 1 学年 (年額)	500,000 円	—	125,000 円	150,000 円
	第2学年以降 (年額)	500,000 円	—	195,000 円	150,000 円
施設整備費 (年額)		1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	第 1 学年 (年額)	—	—	—	—
	第2学年以降 (年額)	1,000,000 円	800,000 円	—	—

3. 転入学(歯学部に限る。)に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、前項と同額とする。

4. 編入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他の学費は、次のとおりとする。

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料 (年額)		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費 (年額)		500,000 円	—	195,000 円	150,000 円
施設整備費 (年額)		1,500,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	編入学時	3,000,000 円	800,000 円	—	—
	次年度以降 (年額)	1,000,000 円	800,000 円	—	—

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

5. 留年した者についての授業料、その他学費は、次のとおりとする。

(1) 第1学年において留年した者

留年年度における第1学年の授業料、実験実習費及び施設整備費とする。

(2) 第2学年以降において留年した者

留年年度における留年学年の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費とする。

ただし、最終学年で留年した者で、前期末に卒業する者については、授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費のいずれも半額とする。

備考 第1項から第5項における入学検定料、入学金、授業料、その他学費については、次年度以降変更することがある。

岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程

第1条 本規程は、岩手医科大学学則第2条第3項に定める在学年限について、歯学部における取扱いを定めるものである。

第2条 歯学部の学生の在学年限は、同一学年につき2年とする。ただし、次の学生は、所定の期限までに在学年限延長願（別紙様式1）を歯学部長に提出した上で、歯学部教授会の議を経て学長が決定した場合に限り、1年間当該学年の在学年限の延長が認められることがある。なお、通算して修業年限の2倍を超える場合は在学年限の延長は認めない。

- （1） 第4学年において在学年数が2年目の者で、当該年度における所定の試験で不合格となった者。または、医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する臨床実習前全国統一試験（CBT、OSCE）を受験し不合格となった者。
- （2） 第6学年において在学年数が2年目の者で、当該年度における所定の試験で不合格となった者。
- （3） 前各号における在学年数には、休学した期間は含めない。

第3条 この規程の改廃は、歯学部教授会及び教学運営会議の議を経て学長が決定する。

第4条 この規程に関する事務は、歯学部教務課が行う。

附 則

この規程は、令和8年4月1日から施行する。

在学年限延長願

岩手医科大学学長 殿
岩手医科大学歯学部長 殿

年 月 日

歯学部 _____ 年 _____ 番

学 生 氏 名（自署） _____ 印

保証人氏名（自署） _____ 印

このたび、当該学年における在学年数が2年目であること、並びに所定の試験に不合格となったことから、「岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程」第2条に定める在学年限の延長をお願いいたしたく、保証人連署の上、願書を提出いたします。

※大学使用欄

年 月 日受付

学 長	歯学部長	歯学部 教務委員長	歯学部 学生部長	事務局長	学務部長	歯学部教務課 総括課長	歯学部教務課 係長	担当者

岩手医科大学における各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程

(趣旨)

第1条 大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第2条に則り、学則第1条第2項に基づき、本学の教育研究方針を明確にし、学部等における教育の質を保証するとともにその基準を内外に示すため、以下に各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命（以下「各学部等の目的と使命」という）を定めるものとする。

(各学部等の目的と使命)

第2条 医学・歯学・薬学・看護学の四学部をもつ医療総合大学としての特色を活かし、各学部間の緊密な連携のもとに人類の健康・福祉の向上に貢献することを目指す。各学部等の目的と使命を以下のとおり定める。

(1) 医学部

教育・診療・研究において、主導的役割を担う豊かな人間性を備えた人材を養成する。このために、社会、患者、保健や医療に関わる機関の期待に応え、地域や世界的な医療、社会の保健、健康増進、医学教育並びに医学研究の専門的能力を高める人材を育成する。また、人としての教養を高め、医師としての十分な知識と技能を修得させ、発展を続ける医学に対応する生涯学習のための自己啓発能力を涵養する。

(2) 歯学部

豊かな教養と人間性を涵養し、全人的医療を実践し、歯科医学、歯科医療ならびに口腔保健の進歩発展に寄与することのできる人材を養成する。

(3) 薬学部

基礎薬学から医療・臨床薬学の教育研究を通し、豊かな人間性と広い視野から問題を発見し解決する能力を備え、薬学の進歩と地域医療の発展に貢献する人材を養成する。

(4) 看護学部

人々の尊厳と権利を尊重し、最新の高度医療に対応する実践能力を持ち、自律的に責務を遂行できる看護専門職として、看護学の発展に寄与し、地域社会に貢献する人材を養成する。

(5) 全学教育推進機構教養教育センター

地域医療と国際社会に貢献する基盤として、学則に謳う人としての教養を高め、豊かな人間性を涵養する。そのため、人文科学も含めた広い意味での科学を修得し、医学、歯学、薬学、看護学、またそれらの複合領域等において、自己研鑽を継続できる人材を養成する。

(改廃)

第3条 この規程の改廃は、教学運営会議の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 24 年 9 月 26 日 から施行し、改正後の規定は、平成 22 年 6 月 15 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 27 年 12 月 1 日から施行する。(薬学部における目的の変更)

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。(看護学部の目的の追加、規程改廃の決定機関変更)

附 則

この規程は、令和 2 年 2 月 12 日から施行する。(教養教育センターの目的の追加)

附 則

この規程は、令和 8 年 2 月 1 日から施行する。(医学部および教養教育センターの目的と使命の追記)

学生心得

本学の目的は、「医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成する」にあります（学則第 1 章第 1 条）。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、良識ある公民として自らの責任で行動してください。

1. 本学学生としての心構え

- (1) 医師、歯科医師、薬剤師、看護職を志す者としての自覚を常に持って行動してください。
- (2) 学生としてふさわしい言動、礼儀作法及び服装等について十分注意を払ってください。
- (3) 学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとるよう努めてください。
- (4) 講義、実習等に出席し、学修に対して意欲を持ち知識・技能・態度の修得に努めてください。

○アンプロフェッショナルな行動の例示

本学は医学教育、歯学教育、薬学教育および看護学教育を通じて、誠の人間を育成することを建学の精神としています（学則第 1 章第 1 条）。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、医療人を志す学生としての自覚を持った行動を求めます。

それに反する行為、行動の例を以下に示します。

(1) 不適切な態度・行動の繰り返し

- ・ 活動に参加しない、臨床現場での学習に参加しない
- ・ 事務手続き、教員からの連絡を無視する
- ・ 時間管理ができない
- ・ 講義、実習等を特段の理由がないにもかかわらず欠席する
- ・ 患者や同僚などへの無礼
- ・ 他者からの建設的なフィードバックから学ぶことができない
- ・ 学修環境や臨床現場を混乱させる
- ・ 教員へ挑戦的行動をとる
- ・ 教員からの指摘を受け入れない

(2) 不正行為

- ・ 定期試験等での携帯電話・スマートフォン等の不正利用やカンニング行為
- ・ 講義、実習での出席届の不正
- ・ 他者が行った活動を自分が行ったと偽ること
- ・ 自分が受けた試験の内容を他の学生に伝える
- ・ 評価表での指導者のサインの捏造や、試験、ポートフォリオへの不正行為
- ・ レポート等における剽窃、盗用、および生成AI等の不適切な利用

(3) 職務上の役割以外の不正行為または詐欺

- ・ 研究でのデータ捏造
- ・ 金銭的詐欺
- ・ 経歴詐欺、書類偽造
- ・ 資格詐称
- ・ ポートフォリオなどの書類の偽造、改ざん
- ・ 不正行為や健康問題の大学への未申告
- ・ 健康問題（例えば、インフルエンザやコロナの罹患）の故意隠蔽

(4) 医療人を目指す者としての不適切な行動

- ・ ソーシャルメディア等の悪用（教育病院での臨床現場を批判するなど）
- ・ 守秘義務の不履行
- ・ ケアや治療について、指導者に相談せずに患者に間違ったことを伝える
- ・ 患者からの同意を得ずに医療行為を行う
- ・ 性的、人種的およびその他のハラスメント
- ・ 不適切な診察や一線を越えた行動
- ・ 不当な差別

(5) 攻撃的な暴力や脅し

- ・ 暴行、身体的暴力
- ・ いじめ（ソーシャルメディア等によるものを含む）
- ・ ハラスメント
- ・ ストーカー行為

(6) 薬物またはアルコールの誤用や濫用

- ・ 飲酒運転
- ・ 処方薬の乱用
- ・ 飲酒により臨床業務、職場環境や教育環境を乱す
- ・ 薬物の不適切使用
- ・ 不適切な過度の飲酒

(7) その他の不適切行動または犯罪行為

- ・ 違法薬物の所持、取り扱い、提供
- ・ 窃盗
- ・ 無賃乗車
- ・ 金融詐欺
- ・ 児童ポルノ
- ・ 児童虐待またはその他の虐待
- ・ 犯罪の仲介・斡旋

また、学生生活を送る上で、以下のことを厳守してください。

2. 伝達方法

大学からの通知や連絡は掲示板への掲示や学修支援システム（WebClass、moodle 等）を通じて行いますので、未確認による不利益を被ることがないように必ず確認してください。利用する学修支援システムは、所属学部の指示に従ってください。また、メールアドレスを変更した場合は学修支援システムに登録されているアドレスも必ず変更してください。

父母等から大学へ電話による学生の呼出しを依頼される場合がありますが、緊急かつ必要と認められる場合を除き、原則として掲示板、学修支援システムによって通知する以外はできませんので、ご了承ください。

3. 学生証について

学生証は本学学生であることを証明するものですので、常時携帯してください。また、学内で諸手続きをする場合は、学生証の呈示が必要ですので、破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

学生証は卒業・退学・除籍等の場合は直ちに所属学部の教務課に返納してください。

4. ネームプレートの着用について

ネームプレートは学内では必ず着用してください。破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

5. ロッカーについて

全学生に対してロッカーを貸与します。貴重品を置く場合は必ず施錠して下さい。ロッカーの室内は共用の場所ですので私物を放置しないでください。また、ロッカーの鍵を破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課で再購入（実費負担）の手続きをしてください。

6. 授業料等の納付について

入学年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年 4 月 25 日までに納入してください。なお、授業料は 2 回に分割することができ、分納する場合の 2 回目の納入期限日は 9 月 25 日です。授業料等を所定の期日までに納入しない場合は、学則により出席停止の上、除籍となる場合があります。

7. 自動車通学について

矢巾キャンパスへの自動車通学は、「自動車通学許可申請書」を学事課（矢巾）に提出し、大学で定める自動車安全講習会を受講した後、許可証が発行された場合にのみ許可されます。なお、許可まで 1 ヶ月程度時間がかかります。

また、内丸キャンパスへの自動車通学は原則として認めていません。やむを得ず通学を希望する場合は、学事課（矢巾）に相談してください。学生駐車場以外に駐車した場合、自動車通学の許可を取り消します。

登録料	2,000 円 (年間)
有効期限	申請年度内に限り有効 ※年度毎に更新申請が必要
通学許可基準	大学と居住地との距離が半径 1.3 km以上離れていること
申請に必要なもの	① 自動車通学許可申請書 ②登録料 ③免許証
登録証の発行	申請後、自動車安全講習会(初年度のみ)を受講し、許可された場合のみ発行

8. 自転車・バイクの登録について

自転車・バイクで通学する場合は必ず登録してください。1 回の登録で在学期間中は有効です。

登録料	バイク 1,000 円 自転車 500 円
有効期限	在籍中有効
申請に必要なもの	② 登録申請書 ②登録料 ③免許証 (バイクのみ)
登録証の発行	申請後、即日ステッカーを発行

ステッカーは後輪カバーの下部に貼付し、指定駐輪区域内に整然と駐輪し、歩道・道路にはみ出した場合は別の場所に移動すること。

※車両買い替え時、再申請が必要です。

9. 自動車・バイク・自転車の使用について

自動車・バイク・自転車を使用する場合は、交通法規等に違反しないことはもちろん、生命を尊ぶべき医学生、歯学生、薬学生及び看護学生として常に安全運転に徹してください。交通事故または道路交通法違反を起こした場合、大学として処分するのみならず、医師法・歯科医師法・薬剤師法・保健師助産師看護師法により各免許の交付を受けられない場合があります。万一、交通事故及び交通違反を起こしてしまった場合には、その軽重にかかわらず、直ちに報告してください。

【学生の交通事故又は道路交通法違反に対する処分の内容の一例】

交通事故・道路交通法違反の内容		酒酔い・酒気帯び運転	無免許運転	酒酔い・酒気帯び・無免許運転でない場合
死亡事故又は重大な傷害事故	運転者	無期停学	無期停学	6 ヶ月以内の停学
	同乗者	6 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
傷害事故	運転者	無期停学	6 ヶ月以内の停学	戒告又は注意
	同乗者	3 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
上記以外の交通事故・道路交通法違反	運転者	無期停学	1 ヶ月以内の停学	注意
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分
死亡事故又は重大な傷害事故を起した場合で、極めて悪質な行為があった場合	運転者	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分

10. トラブル防止

若者が狙われる悪徳商法等のトラブルが急増しています。手口も年々巧妙になっています。

トラブルに巻き込まれないよう日頃から十分注意してください。トラブルに巻き込まれた場合は1人で悩まずクラス担任・チューター・大学窓口や公共の相談機関にまず相談してください。

内容	対応	日頃の注意点
【ワンクリック詐欺】 パソコンのWEBサイトや、携帯電話のメールを利用した架空請求	払わない 連絡しない	①知らないアドレスからのメールは見ない ②怪しいページは見に行かない ③利用規約は必ずチェックする
【悪質商法】 マルチ商法、デート商法など「うまい話」で引き込み、巧妙な手口や脅迫めいた行為で商品売り込む	クーリング・オフ 制度を利用する	①街頭で声をかけられても相手にしない ②契約（署名や押印）は慎重に ③入会等は即断せず家族や知人に相談する

11. 注意事項

(1) 飲酒

20歳未満の飲酒は法律により禁止されています。また、新入生歓迎コンパ等でいき飲みという行為から急性アルコール中毒になる事故が発生しています。悪質な場合は大学として処分するだけでなく、同席している成人（先輩）と保護者が監督責任を問われ社会的制裁を受けることもあります。さらに、飲み会における過度な飲食代の負担も発生していますので、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として節度ある飲酒を心掛けてください。

(2) 拾得物

大学構内で本学学生の所有物とみられる物があった場合は、総務課・所属学部の教務課・学事課・内丸キャンパス事務室のいずれかへ届けられます。また、遺失物を拾得した場合は、速やかに前述のいずれかに届けてください。

(3) 盗難防止及び郵便物

貴重品や現金及び自転車等の盗難防止のため、次のことに注意してください。

- 1) 多額の現金は持ち歩かず、貴重品は自分の身から離さないようにしてください。更衣室等での盗難には十分注意してください。
- 2) ロッカー周辺の私物の盗難が多発しています。ロッカーに貴重品を置く時は必ず施錠してください。また、各自整理整頓を心掛けてください。
- 3) 自転車、自動車、バイクから離れる時は必ず施錠してください。
- 4) 学内（駐車場・駐輪場等を含む）で盗難にあった時、または不審者を見かけた時は直ちに所属学部の教務課に連絡してください。学外の場合は、最寄りの交番等に届出てください。
- 5) 学生個人宛の郵便物は、自宅等に直接郵送してもらってください。やむを得ず大学を經由し、郵便物を送付してもらう場合は、必ず所属学部の教務課に申し出て指示を受けてください。

（４）校舎内、講義室等の美化

校舎内・講義室等へ雑誌類やゴミ等を散乱・放置したままにしないでください。特に講義室は、講義時間外に研究発表等で学内外者へ貸出することがあるので、個人所有物は各自ロッカー内において管理してください。放置している個人所有物は撤去の上、廃棄処分します。

（５）喫煙

20 歳未満の喫煙は法律により禁止されています。周囲から勧められても決して吸ってはいけません。なお、大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。医療系大学の学生である自覚を強く持ちマナーを守ってください。

なお、禁煙をお考えの方は健康管理センターまでご相談ください。

（６）薬物

近年、芸能人・スポーツ選手などの麻薬や大麻・覚せい剤などの薬物乱用が増え、若い人たち、特に大学生の間での薬物汚染が拡大しています。薬物使用は、言うまでもなく重大な犯罪です。脳機能障害を来すなど身体や生命に悪影響を及ぼすだけでなく、殺人などの犯罪を引き起こすこともあります。勧められても絶対に断る強い意志と勇気を持ち、すぐに専門家に相談してください。

1 2. 受講マナー

他大学のみならず本学においても講義を受ける学生のマナー、いわゆる受講マナーの低下がみられます。受講マナーを欠くということは、講義を担当する先生方への礼を失することです。

「誠の人間を育成する」という建学の精神を十分認識し、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として良識ある行動を取ってください。なお、マナー違反となる行為はアンプロフェッショナルな行為として、処分の対象となる場合があります。

【マナー違反】

- （１）私語 （２）居眠り （３）途中入退室 （４）携帯電話・スマートフォンの私的利用 （５）食事や飲酒 （６）受講中の化粧
- （７）服装の乱れ

1 3. 日常のマナー

窓口やキャンパス内であまりに幼稚な言葉を平気で使う学生がいます。また、医療系大学の学生とは思えないような配慮のない行動をしている学生がいます。医療人を目指す以前に、大学生はすでに大人であるという自覚をしてください。

言葉遣いや日頃の態度で学生の知性が疑われることのないよう切に願います。

【マナー違反】

（１）ごみの放置

学内外に寄らず自分が飲み食いしたものを平気でその場に放置する学生がいます。掃除する方を考えましょう。

（２）タバコのポイ捨て

大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。また、学内外を問わず、タバコの吸殻のポイ捨て、歩きタバコはしないでください。

(3) 言葉遣い

言葉遣いはその人の品性そのものです。岩手医大の学生である自覚を持ち、礼節ある言動を心掛けてください。

(4) 駐輪

指定の駐輪場スペースからはみ出したり、次の人のことを考えない停め方はやめましょう。

岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程

第1条 この規程は、岩手医科大学において、学生が授業又は試験を欠席した場合の取扱いに関して定める。

第2条 欠席の取扱いは、授業又は試験を担当する責任者等が判断する。

第3条 学生は、授業又は試験を欠席しようとするとき、又は欠席したときは、速やかに欠席届を提出しなければならない。

第4条 次に掲げるいずれかの欠席に該当する場合は、当該欠席について取扱いを考慮することがある。

- (1) 近親者の死亡の場合であって、1親等にあつては連続1週間、2親等にあつては連続3日、3親等にあつては1日の欠席（いずれの期間にも休日・祝日を含む。）
- (2) 学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号）第18条に定める感染症による入院又は加療の場合における同規則第19条に定める期間の欠席
- (3) 授業中の事故による入院又は加療のための欠席
- (4) 交通機関の不通又は遅延による通学困難の場合における発生から復旧までの期間の欠席
- (5) 大学の行事又は学部長が認める公的行事への参加の場合における移動を含む必要期間の欠席
- (6) 学部長が認める就職試験の受験の場合における当該日数の欠席
- (7) その他学部長が特に認める欠席

第5条 前条に定める欠席を願い出ようとする学生は、欠席届に次の表の左欄の区分に応じ、それぞれ当該欄に定める書類を添付のうえ、期限内に提出しなければならない。

欠席事由に対応する前条の号	添付書類	提出期限
(1)	会葬礼状等の説明書類	当該期間最終日から2週間以内
(2)	医師の診断書	登校後1週間以内
(3)		
(4)	交通機関が発行する遅延証明書	欠席日から1週間以内
(5)	事由を証明する書類	原則として事前に提出。やむを得ない場合は欠席日から1週間以内
(6)		
(7)	学部長が指定する書類	学部長が指定する期間内

第6条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、学部ごとに別に定める。

第7条 この規程の改廃は、教学運営会議の議決による。

第8条 この規程に関する事務は、各教務課が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

平成20年8月18日一部改正

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年11月11日から施行する（組織名の変更等）。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する（関係法令の名称変更）。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する（事務局組織の再編に伴う名称変更）。

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱に関し、必要な事項を下記の通り定める。

- 1 風水害等による事故の発生を防止するため、次の各号のいずれかに該当する場合は、休講または定期試験の実施を延期とする。
 - (1) 午前 6 時から授業または定期試験開始時刻までの間において、岩手県内陸部に暴風または大雪及び暴風雪の警報（以下「暴風警報等」という。）が発令されている場合または発令された場合。ただし、午前 10 時までに暴風警報等が解除され、公共交通機関が運行した場合、午後からの授業及び定期試験は実施する。
 - (2) 登校後、岩手県内陸部に暴風警報等が発令され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。
 - (3) 岩手県内陸部に暴風警報等が発令されると予め想定され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。
 - (4) 暴風警報等解除後においても被害が甚大な場合または、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。
- 2 前項により休講となる場合の学生・教職員等への周知については、次の各号により行う。
 - (1) 前項第 1 号の場合の学生への周知は、緊急連絡用メールにより行う。
 - (2) 前項第 2 号及び第 3 号の場合の学生への周知は、学内掲示、館内放送、緊急連絡用メールにより行う。
 - (3) 前項各号による場合の教職員等への周知は、各教務課が緊急連絡網により行う。
 - (4) 学内外からの照会には各教務課があたる。
- 3 地震等の不測事態による休講等の取扱については、各部局長の判断による。
- 4 教職員の緊急連絡招集等については別に定める。
- 5 本取扱要領の改廃については、各教授会等の審議を得るものとし、事務は全学教育企画課が担当する。

【注】(i) 警報は、「盛岡地方気象台が発表する警報」による。

(ii) 警報の発令・解除及び公共交通機関の運行の確認は、テレビ・ラジオ等の報道または各公共交通機関への照会による。

(iii) 学外の実習棟の場合は、各実習先または実習担当教員の判断による。

附 則

この要領は令和 2 年 1 月 30 日より施行する。

この施行に伴い、「矢巾キャンパスにおける風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱」を廃止する。

昭和	42	年	10	月	1	日	制定
昭和	45	年	12	月	28	日	改正
昭和	48	年	5	月	16	日	改正
昭和	54	年	6	月	6	日	改正
昭和	55	年	6	月	10	日	改正
平成	4	年	2	月	20	日	改正
平成	8	年	5	月	15	日	改正
平成	9	年	3	月	17	日	改正
平成	9	年	8	月	6	日	改正
平成	10	年	3	月	4	日	改正
平成	11	年	3	月	24	日	改正
平成	13	年	2	月	21	日	改正
平成	15	年	1	月	24	日	改正
平成	16	年	3	月	3	日	改正
平成	18	年	3	月	15	日	改正
平成	18	年	11	月	15	日	改正
平成	21	年	3	月	18	日	改正
平成	26	年	3	月	13	日	改正
平成	30	年	3	月	7	日	改正
令和	5	年	2	月	16	日	改正
令和	7	年	3	月	5	日	改正
令和	8	年	3	月	4	日	改正

岩手医科大学歯学部試験規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、学則第8条第2項の規定に基づき、歯学部の試験に関し定めるものである。

(試験科目等)

第2条 試験科目及び試験の実施については、教授会の議を経てこれを定める。

(試験の種類)

第3条 試験は、次のとおりとする。

- (1) 本試験 履修した授業科目について行う試験をいう。
- (2) 再試験 本試験において不合格となった科目について改めて行う試験をいう。
- (3) 追試験 病気又は止むを得ない理由により試験を受けられなかった時、その理由の消滅後に願い出により当該試験科目について行う試験をいう。
- (4) 科目認定試験 第2学年、第3学年で不合格となった授業科目について進級後の学年で行う試験をいう。

(試験方法)

第4条 試験は、筆答、口答、レポート提出、製作品提出、実地試問、その他の中から、担当教員が適当と認めた方法により実施する。

(試験日程)

第5条 本試験は、前期及び後期の授業終了時に行うものとする。

- 2 本試験及び再試験の日程及び時間割等は、その実施の2週間までに発表する。
- 3 追試験は、学業成績判定までに行うものとする。
- 4 科目認定試験は、当該科目の責任者・コーディネーターが指定した時期に行う。

(受験資格)

第6条 各授業科目の所定履修時間の原則3分の2以上出席しなければ、本試験を受験することができない。
ただし、その取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

(再・追試験受験手続)

第7条 再試験及び追試験の該当者は、所定の手続きをとらなければならない。

2 追試験該当者は、追試験願及び試験欠席届に理由書（病気の場合は診断書、その他は明確な理由書）を添えて提出し、当該科目責任者及び学部長の承認を得なければならない。

3 再試験料は1科目3,000円、追試験料は1科目1,000円とし、その都度前納しなければならない。

(評点)

第8条 各学年で履修する科目の評点は、次のとおりとする。

(1) 第1学年で履修する科目の評点は、科目毎に100点満点とし、60点以上を合格とする。

(2) 第2学年～第5学年で履修する科目の評点は、科目毎に100点満点とし、65点以上を合格とする。

(3) 第6学年で履修する科目の評点に関し必要な事項は、別に定める。

(4) 再試験、追試験及び科目認定試験の取り扱いに関し必要な事項は、別に定める。

(進級)

第9条 各学年で履修した全科目の試験に合格した者は、教授会の議を経て進級とする。

2 前項以外の者で、別に定める要件を満たした者は、教授会の議を経て進級とする。

3 進級不可と判定された者は留年とし、当該学年において行われるすべての授業科目に出席し、改めてそれらの試験を受けなければならない。

(卒業)

第10条 所定の試験に合格した者に対し、教授会の議を経て学長が卒業の認定をする。

2 卒業不可と判定された者は留年とし、第6学年において行われるすべての授業科目に出席し、改めてそれらの試験を受けなければならない。

(成績評価の開示)

第11条 個人の成績評価については、各学年の最終評価を開示するものとする。

(成績評価の異議申し立て)

第12条 成績評価に関する疑義が生じ、教員の説明では解決が得られなかった場合は、成績評価に関する異議申し立てをすることができる。異議申し立てを行う場合には、別に定める「成績評価に対する異議申し立てに関する内規」の手続きにより「成績評価に対する異議申立書」（所定の様式による）を、歯学部教務課に提出するものとする。

(罰則)

第13条 試験に関して不正行為があった場合は、学則第41条により懲戒する。

(規程の改廃)

第14条 この規程の改廃は、教授会の議を経て歯学部長が行う。

(雑則)

第15条 この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は、平成 8 年 5 月 15 日から施行する。
- 3 この規程は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。
- 4 この規程は、平成 9 年 8 月 6 日から施行する。
- 5 この規程は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。
- 6 この規程は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。
- 7 この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
- 8 この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
- 9 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 10 この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 11 この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 12 この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 13 この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 14 この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。（学則第 18 条第 1 項との整合性を図る修正）
- 15 この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）
- 16 この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）
- 17 この規程は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）

2026 年度岩手医科大学歯学部 試験規程の取扱内規

1. この内規は、岩手医科大学歯学部試験規程第 15 条の規定に基づき、同規程第 6 条及び第 8 条の取扱いに関して定めるものである。
2. 第 6 条（受験資格）に係る取扱いは、次のとおりとする。
 - (1) 別に受験資格を規定された科目及び試験については、それぞれ規定された要件を満たさなければならない。
 - (2) 半期 10 回未満の科目で、出席が所定の割合未満の科目がある場合でも、当該学期における全科目の出席状況を勘案し、受験を認めることがある。
 - (3) 第 1 学年において次のいずれかに該当する者は、再試験を受けることができない。
 - ①履修科目の 3 分の 1 を超えて 60 点未満の評価を得た者
 - ②総平均点が 60 点未満の者（小数点以下切り捨て）
 - (4) 第 2 学年から第 4 学年においては、各授業科目の所定履修時間の 5 分の 4 以上出席しなければならない。
 - (5) 第 2 学年において履修科目の総平均点が 65 点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。
 - (6) 第 3 学年において履修科目の総平均点（歯科総合演習（3 年）を除く）が 65 点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。
 - (7) 歯科総合演習（3 年）については、追試験を実施しない。
 - (8) 第 4 学年において履修科目の総平均点（歯科総合演習（4 年）を除く）が 65 点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。
 - (9) 歯科総合演習（4 年）については、追試験を実施しない。
 - (10) 第 5 学年前期総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
 - ①前期の講義（解説講義を含む）に 5 分の 4 以上出席していること。
 - ②前期の週間復習試験及び月間復習試験をそれぞれ 5 分の 4 以上受験していること。
 - ③期間内に指定された演習及び試験を全て受講していること。
 - (11) 第 5 学年後期総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
 - ①後期の講義（解説講義を含む）に 5 分の 4 以上出席していること。
 - ②後期の週間復習試験及び月間復習試験をそれぞれ 5 分の 4 以上受験していること。
 - ③期間内に指定された演習及び試験を全て受講していること。
 - (12) 第 5 学年総合講義（Ⅰ）については、追試験を実施しない。
 - (13) 第 6 学年第 1 回総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
 - ①前期の講義（基盤形成講義Ⅱ、総合試験解説講義）に 5 分の 4 以上出席していること。
 - ②前期の復習試験を 5 分の 4 以上受験していること。
 - ③選抜講義①に選出されている者は、その講義に 5 分の 4 以上出席していること。
 - ④選抜講義①の受講対象者は、前年度の成績及び実力確認試験の成績を用いて、得点率で下位概ね 3 分の 1 の学生とする。
 - ⑤期限内に指定された演習及び試験を全て受講していること。
 - ⑥原則として期間内に実施する大学主催の模擬試験全てに出席していること。
 - (14) 第 6 学年第 2 回総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
 - ①後期の講義（臨床特化講義、必修特化講義、総合試験解説講義）に 5 分の 4 以上出席していること。
 - ②後期の復習試験を 5 分の 4 以上受験していること。
 - ③選抜講義②及び知識統合講義に選出されている者は、それぞれの講義に 5 分の 4 以上出席していること。
 - ④選抜講義②の受講対象者は、大学主催の模擬試験、到達度評価試験、第 1 回総合試験の成績を用いて、得点率で下位概ね 3 分の 1 の学生とする（追加する場合がある）。
 - ⑤期限内に指定された演習及び試験を全て受講していること。
 - ⑥原則として期間内に実施する大学主催の模擬試験全てに出席していること。
 - (15) 第 6 学年卒業判定保留解除試験（再試験）における受験資格の要件は次のとおりとする。
 - ① 2. (13)、(14) に定める要件を全て満たしていること。
 - ②判定基準点（必修問題 75%以上、一般問題 65%以上、臨床実地問題 65%以上、総合得点 70%以上）がいずれも合格基準に到達していない場合は、受験することができない。
 - ③総合得点が 63%未満の者は、受験することができない。
 - (16) 第 6 学年総合講義（Ⅱ）については、追試験を実施しない。
3. 第 8 条（評点）に係る取扱いは、次のとおりとする。
 - (1) 追試験の点数は、その得点より 1 割を減じたものとする。
 - (2) 再試験の点数は、その最高得点が本試験の合格点を超えないものとする。
 - (3) 科目認定試験の点数は、その最高得点が本試験の合格点を超えないものとする。
 - (4) 歯科総合演習（3 年）は、前期試験を 30%、3 年次総合試験（後期試験）を 70%として評価する。
 - (5) 歯科総合演習（4 年）は、前期試験を 30%、4 年次総合試験（後期試験）を 70%として評価する。

- (6) 第5学年総合講義（Ⅰ）は、実力確認試験及び復習試験（週間と月間）を10%、前期総合試験を40%、後期総合試験を50%として評価する。
- (7) 第6学年総合講義（Ⅱ）は、実力確認試験及び到達度評価試験を5%、第1回総合試験を40%、第2回総合試験を55%として評価する。
- (8) 第6学年総合講義（Ⅱ）の判定基準点、判定基準及び評点は、次のとおりとする。
- 判定基準点：必修問題75%以上、一般問題65%以上、臨床実地問題65%以上、総合得点70%以上（小数点以下切り捨て）。
- 判定基準：必修問題、一般問題、臨床実地問題、総合得点いずれも基準点を満たしていること。
- 評点：100点満点とし、総合得点を評点に用いる。
- (9) 第6学年で履修する4学部合同セミナーの評点は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

付 則

この内規は、2026年3月27日から施行する。

2026 年度岩手医科大学歯学部 進級・卒業に関する申し合わせ事項

1. この申し合わせ事項は、岩手医科大学歯学部試験規程第 15 条の規定に基づき、同規程第 9 条及び第 10 条の取扱いに関して定めるものである。
2. 第 9 条（進級）に係る取扱いは、次のとおりとする。
 - (1) 第 1 学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。
 - (2) 第 2 学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。ただし、以下の要件を全て満たしている場合に限り、教授会の議を経て進級できる。
 - a. 履修科目の平均点が 65 点以上
 - b. 再試験を受験している
 - c. 55 点未満の科目がない
 - d. 55 点以上 65 点未満の科目が 1 ないし 2 科目（合計 8 単位以内）である
 - (3) 第 3 学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。ただし、以下の要件を全て満たしている場合に限り、教授会の議を経て進級できる。
 - a. 歯科総合演習（3 年）に合格している
 - b. 履修科目の平均点が 65 点以上
 - c. 再試験を受験している
 - d. 55 点未満の科目がない
 - e. 55 点以上 65 点未満の科目が 1 ないし 2 科目（合計 8 単位以内）である
 - (4) 第 4 学年における修了要件は、履修した全科目の試験及び歯学生共用試験（CBT・OSCE）に合格していることとする。
 - (5) 第 5 学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していること及び臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）を修了していることとする。
 - (6) 臨床実習の修了要件は、次のとおりとする。
 - ①全科目のリクアイアメントを 100%以上所定の期日までに達成していること。
 - ②臨床実習の全日程において、5 分の 4 以上出席していること。
 - ③臨床実習後臨床能力試験（一斉技能試験及び臨床実地試験）に合格していること。
 - ④学外連携プログラムに係る実習（介護体験実習、地域医療体験実習）を修了していること。
 - ⑤岩手医科大学附属病院総合安全教育プログラム研修を 2 回以上受講していること。
 - (7) 第 2 学年及び第 3 学年の修了要件を満たさずに進級した者は、進級後の学年で不合格となった授業科目の科目認定試験を受け、合格する必要がある。
 - (8) カリキュラムの変更等により留年時に再履修できない授業科目が発生した場合は、不合格となった授業科目に限り、科目認定試験を受け、合格する必要がある。
 - (9) 科目認定試験に不合格となった者は留年とし、改めて不合格となった科目認定試験を受けなければならない。
3. 第 10 条（卒業）に係る取扱いは、次のとおりとする。
 - (1) 第 6 学年における卒業要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。

付 則

この申し合わせ事項は、2026 年 3 月 27 日から施行する。

岩手医科大学歯学部 成績評価に対する異議申し立てに関する内規

制定 令和8年3月4日

(趣 旨)

第1条 この内規は、岩手医科大学歯学部の学生（以下「学生」という。）が、履修した授業科目に係る成績評価に対して疑義が生じ、科目責任者からの説明をもってしても疑義の解消に至らなかった場合に行う異議申し立てに関して、必要な事項を定める。

(成績評価方法等の明示)

第2条 責任者・コーディネーター（以下「科目責任者」という。）は、成績評価に関連する事項を教育要項等に明示し、学生に説明しなければならない。

(成績評価結果の説明)

第3条 科目責任者は、学生に対して成績評価結果の基となる試験結果等の説明に努めるものとする。

(成績評価に関する質問・疑問等の受付)

第4条 科目責任者は、成績開示後に一定期間を設けて学生からの成績評価に関する質問・疑問等を受け付けるとともに、これに真摯に対応するものとする。

(異議申し立て手続き)

第5条 学生は、次に掲げる事項に該当する場合、成績評価に対する異議申し立てをすることができるものとする。

- (1) 成績の誤記入等、明らかに科目責任者等の誤りであると思われる場合。
- (2) 教育要項等により学生に明示している成績評価方法・基準・配点割合等から明らかに逸脱していると思われる場合。

- 2 学生は、異議申し立てを行う場合、成績開示後5日以内に成績評価に対する異議申立書（別記様式1）を、歯学部教務課に提出するものとする。ただし、同一の成績評価に対する異議申し立ては1回限りとする。

(異議申し立ての審査)

第6条 歯学部長は、異議申し立てを受けた場合、歯学部教務委員会へ回答書（別記様式2）の作成を指示するものとする。

- 2 歯学部教務委員会は、異議申し立てを受理する場合、歯学部教務委員長を長とする成績評価に対する異議申し立て審査委員会（以下「成績異議申立審査委員会」という。）を設置する。
- 3 成績異議申立審査委員会は、成績評価に対する異議申立書に基づき、審査を行う。
- 4 成績異議申立審査委員会は、審査に際し、当該学生及び科目責任者等への聴取調査を行うことができる。また、必要に応じて、科目責任者等に対して成績判定に用いた資料の提出を求めることができる。

(審査結果の取り扱い)

第7条 成績異議申立審査委員会は、審査結果を歯学部教務委員会に報告する。

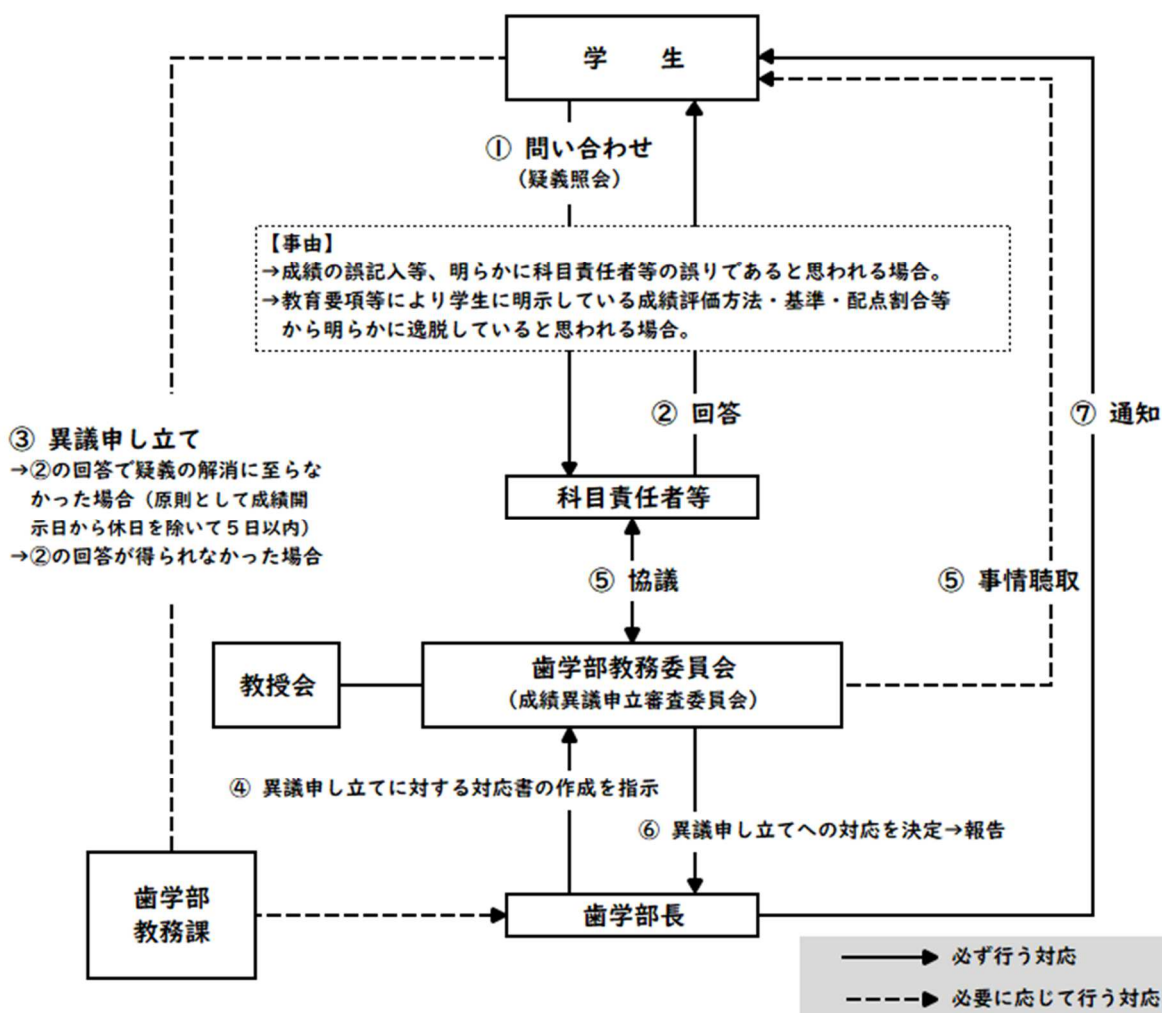
- 2 歯学部教務委員会は、異議申し立てへの対応を決定し、歯学部長に報告する。
- 3 歯学部長は、審査結果を当該学生へ回答書（別記様式2）にて通知するものとする。

(内規の改廃)

第8条 この内規の改廃は、歯学部教授会の議を経て歯学部長が行う。

(雑 則)

第9条 この内規に定めるもののほか、この内規の実施に関し必要な事項は、別に定める。



(様式1)

令和 年 月 日

成績評価に対する異議申立書

歯学部長 様

歯 学 部 年 番
学籍番号
氏 名 印

以下の理由のとおり、当該授業科目の成績評価に対して異議を申し立てます。

授業科目名		開示された 成績評価	点
科目責任者名			
異議を申し立てる 具体的理由			

提出先：歯学部教務課

(様式2)

令和 年 月 日

成績評価に対する異議申立への回答書

歯 学 部 年 番

学籍番号

氏 名

歯学部長

令和 年 月 日付、提出のありました成績評価に対する異議申し立てについて、歯学部教務委員会の決定に基づき、以下のとおり回答いたします。

授業科目名	
科目責任者名	
異議申立への対応	1. 成績評価の変更を行います。 【変更後の成績評価： 点】 2. 成績評価の変更を行いません。
具体的理由	

岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程

令和6年4月1日制定

(目的)

第1条 この規程は、「障害者基本法(昭和45年法律第84号)」及び「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成25年法律第65号)」、その他関係法令、並びに岩手医科大学学生支援方針に基づき、岩手医科大学(以下「本学」という。)における障害のある学生等への合理的配慮に関し必要な事項等を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 本規程において、次の用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 障害のある学生等 障害者基本法(昭和45年法律第84号)第2条第1

号に規定する障害者、即ち、身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害(難病に起因する障害を含む。以下「障害」と総称する。)により継続的に修学上相当な制限を受ける状態にある学生等。

(2) 合理的配慮 障害のある学生等が、他の者との平等を基礎として修学上の不利益を被ることがないように必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において障害のある学生等本人が必要とするものであり、教育の目的・内容・評価の本質を変えないもの、かつ、均衡を失したまたは過重な負担を課さないもの。

(教職員の責務)

第3条 本学教職員は、障害のある学生等が修学上の不利益を被ることがないように、合理的配慮の提供に努めなければならない。

(支援体制)

第4条 本学における合理的配慮が必要な学生等に関するアセスメントとマネジメントは、学生支援室が担当する。

2 障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、学生支援室を通じ、第5条及び第6条の手続きを経ることとする。

3 学生支援室は、次の各号に掲げる教職員及び所属により構成するものとする。

(1) 学生部長

(2) 学生副部長

(3) 学事課

(4) その他学生部長が必要と認めた者

(面談)

第5条 障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、窓口で相談後、面談を実施することとする。

2 面談は、次の各号に掲げる教職員および所属のうち、学生部長が必要と認めた人員に

より構成するものとする。

- (1) 学生部長
- (2) 学生副部長
- (3) 教務委員長
- (4) クラス担任
- (5) 当該学部教務課
- (6) 健康管理センター
- (7) 学事課
- (8) その他学生部長が必要と認めた者

3 前項構成員は、相互に連携し合理的配慮に関係する業務にあたるものとする。

(申請)

第6条 障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、面談の実施後、様式1の申請書及び根拠資料等を学生支援室へ提出することとする。

2 新規申請は、合理的配慮が必要な事案が発生する都度、行うものとする。

3 更新申請は、年度ごとに行うものとする。

(合理的配慮の検討)

第7条 学生支援室は、学生等からの合理的配慮の申請意思について十分尊重するため、合理的配慮の提供について検討を行う。

2 前項の検討を行ったうえで、教育の目的・内容・評価の本質を変える、均衡を失する、または以下の各号を考慮し過重な負担にあたると判断した場合は、申請者にその理由を説明し、理解を得るよう努めるものとする。

(1) 本学および実習施設等の教育協力施設における教育研究その他の活動への影響の程度(その目的、内容、機能等)

(2) 実現可能性の程度(物理的及び技術的制約、または人的および体制上の制約)

(3) 費用及び負担の程度

(4) 本学および実習施設等の教育協力施設の規模、財政および財務状況

(合理的配慮の提供)

第8条 本規程に定める合理的配慮の提供の可否は、当該学部教授会または教養教育センター委員会にて決定する。

2 合理的配慮の提供の期間は、当該学部教授会または教養教育センター委員会が特別の事情があると認める場合を除き当該年度までとし、更新申請があった場合はその提供の可否を前項に基づき決定する。

(情報保護)

第9条 合理的配慮を提供するために必要な場合は、守秘義務を遵守のうえで関係者が個人情報と共有することができるものとする。

(事務)

第 10 条 本規程にて定める合理的配慮に関する事務は、学事課が行う。

(改廃)

第 11 条 この規程の改廃は、学生部長会議の議を経て学長が行う。

附則

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

学生支援室 御中

修学上の合理的配慮申請書

下記のとおり、_____年度における修学上の合理的配慮の提供を希望いたします。

申請日	_____年 ____月 ____日		
(ふりがな) 氏名※自筆	(_____) ※自筆 _____	入学年度	_____年度
		学籍番号	_____
学部学年等	_____学部 _____年 出席番号 _____番		
連絡先・現住所	携帯電話： _____ E-mail： _____ 現住所： _____		
緊急連絡先 (保護者等)	氏名： _____ 住所： _____ 電話番号： _____ 本人との関係： _____		
障がい等の名称	_____		
	※障害者手帳の写しまたは診断書等の根拠資料を添付のこと		
障がいの種類	障がいの種類(該当箇所にチェックのこと) ☐ 身体障がい ☐ 知的障がい ☐ 精神障がい ☐ その他心身の機能の障がい		
根拠書類	障害者手帳 ☐ 有(_____ 手帳 _____ 種 _____ 級) ☐ 無	診断書 ☐ 有 ☐ 無	その他 ☐ 有 (内容： _____)
申し出理由 及び 希望する配慮内容	配慮を申し出る理由(支障をきたす具体的な身体等の状況など) 希望する合理的配慮(科目等が限定される場合、科目名も明記のこと)		
備 考	☐ 規程第9条 関係者間における個人情報の共有に同意します。		

歯学部歯学科カリキュラムマップ 2026

6
年
次

5
年
次

4
年
次

3
年
次

2
年
次

1
年
次

歯科医師国家試験（知識・思考領域）

歯科医師臨床研修

卒業判定

総合講義（Ⅱ）（講義）
基礎・社会・臨床歯科学の総合的修得

診療参加型臨床実習後客観的能力試験

診療参加型臨床実習／臨床実習（Ⅰ）（Ⅱ）

学
外
実
習

地域医療体験実習、
介護体験実習、
高次臨床実習

学
内
実
習

総合歯科学、予防歯科学、歯内治療学、保存修復学、
歯周病学、有床義歯補綴学、冠橋義歯補綴学、
口腔インプラント学、摂食嚥下・口腔リハビリテー
ション学、口腔外科学、歯科矯正学、小児歯科学、
歯科放射線学、歯科麻酔学、障害者歯科学、
内科学、臨床薬学、ケースプレゼンテーション

総合講義（Ⅰ）
（講義）
歯科学全般の振り返り

OSCE（態度・技能領域）

共用試験

CBT（知識・思考領域）

コミュニケーション学（講義+実習）
態度・技能の習熟

歯科総合演習（4年）（講義+演習）
知識思考の習熟

臨床歯科学系科目（講義+実習+演習）

全部床義歯補綴学（Ⅱ）、部分床義歯補綴学、歯科麻酔学、医科学（4年）、口腔外科学、口
腔インプラント学、歯科矯正学、小児歯科学、障害者歯科学、高齢者歯科学

法歯科医学・
災害歯科医学
（講義+実習）

専門英語

チーム医療
リテラシー（IPE）
（講義+演習）

臨床歯科学系科目
（講義+実習+演習）

保存修復学、補綴学総論、歯周病学、歯内
療法学、全部床義歯補綴学（Ⅰ）、冠橋義
歯学、予防歯科学、医科学（3年）、歯科放
射線学

社会歯科学系科目
（講義+実習+演習）

予防歯科学、社会と歯学、
医療リベラルアーツ

歯科総合演習（3年）
（講義+演習）

基礎歯科学系科目
（講義+実習+演習）

微生物学・免疫学Ⅱ、歯
科理工学Ⅱ、薬理学Ⅱ、
口腔病理学、臨床薬理学、
基礎科学演習

解剖学Ⅱ、組織学・発生
学、生理学Ⅱ、生化学Ⅱ、
微生物学・免疫学Ⅰ、歯
科理工学Ⅰ、薬理学Ⅰ、
病理学総論

歯科医学概論、解剖学Ⅰ、
組織学基礎、生理学Ⅰ、
生化学Ⅰ

専門英語

医学統計学
（講義+演習）

臨床歯科学入門
（講義+演習）

多職種連
携のための
アカデ
ミックリ
テラシー
（IPE）
（講義+
演習）

歯科医学
概論
（講義）

専門への橋渡し教育（講義+実習）

物理学、アドバンスト化学、アドバンスト数学、専門課
程への化学、アドバンスト生物、スタンダード生物、自
然・文化人類学、専門課程への生物学、データサイエ
ンス、情報リテラシー、解析学入門、健康運動科学、医療
とスポーツ、医療倫理学、医療と物語、医療と法律、医
療とコミュニケーション、心理学、パーソナリティ心理
学、医療面接の基礎、医療における社会・行動科学、科
学英語、医療と福祉、実習（物理・化学・生物）

高校からの橋渡し科目（講義）

ベーシック物理・化学・生物・数学、エッセンシャル生
物、スタンダード生物

一般教養科目
（講義+実習）

哲学の世界、道徳のしくみ、
文学の世界、人間関係論、
法学

ESL, ERW,
実践英語

国が定めるエンドポイント（全国共通試験）

態度・技能領域

知識・思考領域（臨床歯科医学）

知識・思考領域（基礎歯科医学・社会歯科医学）

プロフェッショナリズム、リテラシー獲得のための総合領域

知識・思考領域（教養科目・橋渡し教育）アンダーラインは選択必修

海外英語演習 1～6 年次の 3 月・地域医療課題解決演習（自由科目）

Study abroad program

GPA (Grade Point Average) 制度について

- 定 義：アメリカの大学で一般的な成績評価方法で、学生の履修科目の成績評価を単位数に応じて重み付けした平均値で表したものである。
- 目 的：学生の学習意欲を高めることおよび学生自身が学修の状況及び成果を示す指標として自主的、意欲的に学修することを促すことを目的とする。また、教員は個々の学生の学修成果を全体的に把握し、教育課程の到達度を評価するとともに、各学年において GPA1.0 未満のものは成績不振者として学習指導対象とすること、および GPA0.5 未満のものは進路再考の指導対象にすることを目的とする。併せて、GPA1.0 未満のものは、全学部共通の自由科目の履修単位上限を 2 単位とする (CAP 制度参照)。
- 評価および GP

医学部 1～6 学年、歯学部 1 学年 薬学部 1～6 学年、看護学部 1～4 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～60 点
D	0	59 点以下

歯学部 2～6 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～65 点
D	0	64 点以下

※歯学部における第 6 学年総合講義Ⅱ及び 4 学部合同セミナーの評価については別に定める。

- 対 象：各年度による
- 単位算出方法：
$$\frac{1 \text{ コマ } 2 \text{ 時間 (1 時間 30 分授業+事前学修時間 30 分)} \times \text{回数}}{\text{講義・演習 15 時間または実習 30 時間}}$$

(例)
- GPA 計算方法：
$$\frac{(\text{評価「A」単位数} \times 3 \text{ 点}) + (\text{評価「B」単位数} \times 2 \text{ 点}) + (\text{評価「C」単位数} \times 1 \text{ 点})}{\text{総単位数 (不合格科目を含める)}}$$
- GPA 判定機関：各学部教務委員会の議を経て教授会にて判定する。
- 対象外科目：自由科目他 (各学部で設定)

CAP 制度の導入について

- 目 的：学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修することができるよう、学生が 1 年間に履修する単位数 (時間数) の上限を定めることを目的とする。
- 対 象：全学部・全学年
- 制度内容について【歯学部】
 本学歯学部には、モデル・コア・カリキュラムに基づき、必要な内容を必修科目・選択必修科目として設定している。1 年間に履修できる単位数 (時間数) は、学則別表により各学年に配当する必修科目・選択必修科目の単位数 (時間数) に以下の単位数を加えたものを上限として定めている。

学年	自由科目単位数
1～6 学年	3.0 単位

大学における単位の考え方と授業外学修について

日本の大学教育は単位制度を基本としており、1 単位あたり 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準であると大学設置基準に定められています。

第二十一条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

2 前項の単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、第二十五条第一項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね十五時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位として単位数を計算するものとする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって一単位とすることができる。

つまり、1 単位の科目を履修するためには、講義室等で受講する授業と自宅等で学修する授業外学修を合わせて 45 時間の学修が必要になるため、授業時間外の予習・復習にあたる事前・事後学修が必要になります。

例えば以下の例を考えてみます。

例) 講義・実習 14 コマで 1 単位の科目の場合

講義・実習 14 コマ × 1 コマ 2 時間 (90 分を 2 時間として計算) = 28 時間

45 時間 - 28 時間 = 17 時間

計 17 時間分 (1 コマあたり 72 分以上) の授業外学修が必要

この場合、講義室等で受講する 14 コマの授業以外に、1 コマ当たり 72 分以上の学修が必要となります。

シラバスには、科目または授業毎に必要な事前・事後学修の内容と時間が記載されていますので、その内容に従って自己学修を行うことが求められます。なお、事前学修は各授業の前に、事後学修は授業後または定期試験の準備期間や長期休暇を活用することができます。

医学部、歯学部における臨床実習等の一部の科目では、単位時間 (90 分=2 単位時間) ではなく実時間 (実際の授業時間) に基づいて単位計算がされますが、1 単位 45 時間の考え方に基づいた事前事後学修は必要です。

岩手医科大学生命倫理規範

本学は、「誠の人間の育成」という建学の精神に基づき、専門の学理に対して誠実な理想を持ち、医療及び生命科学の研究、教育を通じて社会の進歩、福祉に貢献してきた。

関連諸科学が日々急速に進展するなか、本学が今後とも社会の要請に応えるために、すべての職員には、誠の精神に由来する高い倫理観をもって行動することが求められている。

本学は、すべての職員が常に自覚し、遵守すべき指針として、ここに生命倫理規範を制定し、本規範に基づき医療・研究を推進するとともに、生命倫理に関する教育と啓発活動に力を注ぐことを宣言する。

1. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、人間の尊厳を第一の原則とする。
個人の有する基本的人権に敬意を払い、個人の自律を尊重するため、インフォームド・コンセントの原則を遵守し、意思決定能力が十分でない人々の権利擁護にも務める。また個人のプライバシーの権利を尊重し、個人情報保護のために最善を尽くす。
2. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、無危害原則と善行原則を遵守する。医療においては個人に危害を加えることがあってはならず、個人に最善の利益を与えるよう努める。研究においては、個人、社会及び人類にもたらされる将来にわたる利益を最大化し、危害を最小化することを目指す。その際、個人の受ける不利益、未来世代への影響にも十分に配慮する。さらに、人類に多大な利益を与えると予想される研究であっても、個人の持つ人間の尊厳及び個人の福利を何よりも優先する。また実験動物の福祉にも十分に配慮する。
3. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、正義原則を旨とする。医療においては、個人を平等に扱い、医療資源の配分は公平に行う。研究においてもたらされる利益は社会的に公平に配分し、不適切な格差が生じないようにする。また極めて有用な研究であっても、社会的差別の要因となる可能性があるため、社会的に弱い立場にある人々を対象として実施する場合には、その人権・利益について最大限に配慮する。
4. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、多面的な要請に応えるために、学内諸分野及び学外諸機関・施設との共同作業を積極的に推進する。共同作業に伴う倫理的配慮や得られた科学的成果についての情報は適切に公表し、社会に対する説明責任を果たす。
5. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、世界医師会のヘルシンキ宣言、リスボン宣言をはじめとする各種宣言・倫理綱領の基本理念を尊重する。また省庁、関連学会によって作成された最新のガイドラインに準拠し、科学的及び倫理的観点から見て適切に課題を遂行する。これら宣言・倫理綱領・ガイドラインに示された生命倫理の精神に従い、将来の医療をになう人材の育成に努める。

(平成 26 年 3 月 11 日制定)

本学の教育と研究において、人体および人体標本(遺体およびその一部である標本、さらに手術による摘出標本を含みます)を用いることは、人体の構造と機能、疾病の病理・病態を深く理解するために不可欠です。もとよりご遺体には尊厳があり、その使用にあたっては、死体解剖保存法によって、「死因解明」、「医学教育」、「医学研究」という公共の利益となる明確な目的をもつこと、および、遺体の取扱に当たっては礼意を失わないように注意しなければならないことが規定されています(死体解剖保存法第一条および第二十条)。また、標本提供者の個人情報の漏出があってはなりません。教育現場においては、学生は、以下の点を遵守するよう、留意して下さい。

- 人体標本を、教員の許可なく所蔵場所から移動するのを禁じます。
- 講義室・実習室で供覧する人体標本を、教員の許可なく撮影してはいけません。
- 実物だけでなく視聴覚装置で供覧される標本写真等についても、撮影ならびにインターネットに掲載してはいけません。
- 許可を受けて撮影したとしても、その画像を、インターネット(含、Social Network Service)に転載することは一切禁じます。
- ヒト以外の動物や動物標本を用いる場合も、人体標本と混同されることを避けるという観点に加え、生命体への畏敬の念を育む意味でも撮影してはいけません。
- 個人が特定できる情報(姓名、病名、受診年月日、死亡・採取年月日等)を、教室・実習室外へ持出してはいけません。
- 学修者が、学修のために正常組織および病理組織顕微鏡標本(ミクロ標本)のデジタル情報を取得・保存(例、写真撮影、デジタル画像ファイルのダウンロード、バーチャルスライドの画像情報保管)することは認められますが、インターネットへの転載は禁じます。

教育成果物の利用に関して

学生の皆さんの在学中の教育成果物(スケッチ、レポート、ポートフォリオ等)を、後進育成のために授業中に使用する教育資料として使用させていただく場合があります。また、e-learning システムへの掲載、教育成果報告書、学会発表、論文発表で使用し、機関リポジトリに掲載する場合がありますが、掲載する場合には個人の特定ができないように匿名化するなどの配慮をしますので、個々の事例に関して当該教員から要請があった場合はご協力下さい。同意されない場合でも、不利益になることはありません。

学生健康診断規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人岩手医科大学が運営する大学院、大学及び専門学校（以下「大学等」という）に在籍する学生（大学院、大学及び専門学校に在籍する者をいう。以下同じ。）に関する健康診断及び事後措置等について定めるものとする。

(健康診断の実施)

第2条 大学等は、学校保健安全法(昭和33年法律第56号)に基づき毎年1回、健康診断を実施しなければならない。

2 健康診断は健康管理センターが実施する。

(健康診断の種類)

第3条 健康診断は定期健康診断及び臨時健康診断とする。

2 定期健康診断は、毎学年定期に行うものとする。

3 臨時健康診断は、健康管理センター長が必要と認めたときに行うものとする。

(受診の義務)

第4条 学生は健康診断を受けなければならない。

2 学生は、健康診断を受けなかったときは、健康管理センター長の定める期間内に、当該健康診断と同等の実施項目を含む健康診断書を健康管理センターに提出しなければならない。

3 前項の規定による健康診断書を提出できないときは、健康管理センター長に申し出て指示を受けなければならない。

(健康診断の総合評価及び通知)

第5条 健康管理センター長は、学校医に依頼し健康診断の結果を別表により判定し、学部長等に報告するとともに、学生に通知するものとする。

(事後措置)

第6条 学部長等は、健康診断の結果、疾病のため生活規制または治療を要する者があるときは、健康管理センター長と協議の上、当該学生の健康回復に必要な指導を行わなければならない。

2 学校医は、必要に応じて相談指導を実施し、学校医の指示のもと保健師が保健指導を実施する。

3 健康診断の結果、疾病のある者は、前項の指導に従わなければならない。

(復学時の健康診断)

第7条 疾病のため休学中の者が復学しようとするときは、学部長等を経て、健康管理センター長に申し出て、健康診断を受けなければならない。

(証明書の発行)

第8条 第3条の健康診断を受けた者が、健康診断証明書を必要とするときは、これを発行することがある。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、健康管理センター運営委員会の議を経て、理事長が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

令和8年度 学生健康診断等実施要領

1. 学生健康診断

*M：医学部、D：歯学部、P：薬学部、N：看護学部、DH：医療専門学校歯科衛生学科

健 診 日 時		対象学生	個人票配付時間・場所	健診会場	健診項目
4月20日(月)	9：30～11：30	3M	9:20	<矢巾キャンパス 1階> ■北側入口(胸部検診車) ・胸部X線撮影 ■キャンパスモール <u>正面入口付近</u> ・視力検査 ■キャンパスモール <u>ヤマザキショップ向かい側</u> ・血圧測定 ■東研究棟 SGL ・身長 ・体重 ・内科診察 ・歯科健診 ■西講義実習棟 <u>キャンパスモール側トイレ</u> ・尿検査 ■西研究棟 ラウンジ ・血液検査	■必須項目 ・身長 ・体重 ・血圧 ・内科診察 ・視力検査 ・胸部X線撮影 ■学年別追加項目 【1年】 ・血液検査 ・尿検査 ・歯科健診 【4年】 ・血液検査 ・尿検査 ■B型肝炎接種前検査 (血液検査) ・3M ・4D ・4P ・1N ・1DH ・3N編入生
		4D	10:50		
	13：30～15：30	4P	13:20		
		4N	13:50		
		6M	14:20		
		3DH	14:50		
4月21日(火)	9：30～11：30	1M	9:20		
		1D	10:50		
	13：30～16：00	1P	13:20		
		6P	13:50		
		1N 3N編入生	14:30		
		1DH	15:20		
4月22日(水)	9：30～12：00	4M	9:20		
		2N	10:50		
	13：30～16：00	2M	13:20		
		2D	14:50		
		2P	15:10		
		2DH	15:30		
4月23日(木)	9：30～12：00	5M	9:20		
		3D	10:50		
		3P	11:20		
	13：30～15：30	5D	13:20		
		6D	13:40		
		5P	14:10		
		3N	14:40		

※ 変更の場合もありますので、掲示板で確認してください。

2. 心理テスト・メンタルヘルスチェックについて

対象学年	日 時	会 場	内 容
1N	4月20日(月)5限 16:20～17:50	各教室	東大式エゴグラム 学生精神的健康調査
1D	4月22日(水)4限 14:40～16:10		
1P	4月22日(水)5限 16:20～17:50		
1M	4月24日(金)1限 8:50～10:20		
2～6年(M・D・P) 2～4年(N)	4月20(月)、21日(火)、22日(水)、23日(木)、 健康診断時に実施	健康診断会場	メンタルヘルスチェック

3. 健康講話

対 象	日 時	会 場	内 容
1M・1D・1P・1N	5月13日(水)5限 16:20～17:50	大堀記念講堂	受動喫煙講習会 (学生部と共催)
	6月5日(金) 2限 10:30～12:00	大堀記念講堂	メンタルヘルス講習会

4. ワクチン接種日程について

(1) B型肝炎ワクチン 対象：3M・4D・4P・1N・1DH・3N編入生

区 分	日 時		対象学生	会 場
接種前 採血検査	4月20日(月)	9:30～11:30	3M、4D	矢巾キャンパス 西研究棟1階 ラウンジ
		13:30～15:30	4P	
	4月21日(火)	13:30～16:00	1N・1DH・3N編入生	
ワクチン接種 1回目	5月21日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	5月22日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 2回目	6月18日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	6月19日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 3回目	11月5日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	11月6日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
接種後採血	12月3日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	12月4日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
追加接種 (該当者のみ)	1月7日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	
追加接種後採血 (該当者のみ)	2月4日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	

(2) インフルエンザワクチン 対象：全員（接種料金は自己負担）

キャンパス	日 時		対象学生	会 場
内 丸	10月13日(火)	15:30	6D	内 丸 創立60周年記念館 8階 研修室
		14:30	1DH	
	10月14日(水)	15:00	2DH	
		15:30	3DH	
矢 巾	10月19日(月)	13:30	1N	矢巾キャンパス 西講義実習棟2階 西2-C実習室
		15:00	4D	
		15:30	4P	
		16:10	3M	
	10月20日(火)	13:30	1P	
		14:00	5D	
		15:00	1M	
		16:10	2N	
	10月21日(水)	13:30	2M	
		14:30	6P	
		15:00	3P・3D	
		16:10	1D	
	10月22日(木)	13:30	4M	
		15:00	6M	
		16:10	4N	
	10月23日(金)	13:30	5P	
		14:00	2D	
		14:30	5M	
		15:00	2P	
		16:10	3N	

※日時・場所の変更もありますので、掲示板で確認してください。

歯学部教員・オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

内線番号は矢巾キャンパス、及び外線を経由して発信する際の番号です。内丸キャンパスから発信する際は、#のある番号は#を抜き、#のない番号は最初に#を付けて発信してください。

1. 時 間 あらかじめ特定の時間帯を示す。
2. 面談方式 オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
学 長	小笠原 邦昭	水	10 : 00～12 : 00	学長室 事前に学長室（内線 5001）に連絡しアポイントを取ること
解剖学講座 機能形態学分野	藤原 尚樹	月～金	16 : 30～17 : 30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） naokif@iwate-med.ac.jp
	吉岡 望	月～金	16 : 30～17 : 30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） yoshinoz@iwate-med.ac.jp
解剖学講座 発生生物・再生医学分野	原田 英光	月～金	16 : 30～17 : 30	解剖学講座 発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または hideha@iwate-med.ac.jp
	大津 圭史	月～金	16 : 30～17 : 30	解剖学講座 発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または kotsu@iwate-med.ac.jp
	池崎 晶二郎	月～金	16 : 30～17 : 30	解剖学講座 発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または sikezaki@iwate-med.ac.jp
生理学講座 病態生理学分野	黒瀬 雅之	月・木	16 : 30～17 : 30	病態生理学分野 211 室 内線 5692 kurose@iwate-med.ac.jp
	加藤 哲也	火・水	16 : 30～17 : 30	病態生理学分野 213 室 内線 5690 tkkatou@iwate-med.ac.jp
生化学講座 細胞情報科学分野	石崎 明	月	16 : 30～17 : 30	生化学講座細胞情報科学分野教授室 内線 5740 aishisa@iwate-med.ac.jp
	帖佐 直幸	水	16 : 30～17 : 30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 nchosa@iwate-med.ac.jp
	横田 聖司	水	16 : 30～17 : 30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 syokota@iwate-med.ac.jp
微生物学講座 分子微生物学分野	石河 太知	月～金	16 : 00～17 : 00	微生物学講座分子微生物学分野教授室 内線 5800 tishikaw@iwate-med.ac.jp
	三浦 利貴	月～金	12:00～13:00 16:00～17:00	微生物学講座分子微生物学分野 スタッフルーム 1 303 内線 5801 tosmiura@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
薬理学講座 病態制御学分野	中村 正帆	月	16 : 00～16 : 30	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363 内線 5811 tadahonk@iwate-med.ac.jp
	田村 晴希	月	12 : 00～13 : 00 16 : 00～17 : 00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363 内線 5811 htamura@iwate-med.ac.jp
	山田 ありさ	月	16 : 00～17 : 00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363 内線 5811 yamaari@iwate-med.ac.jp
病理学講座 病態解析学分野	入江 太朗	木	16 : 00～18 : 00	病理学講座病態解析学分野 教授室 内線 5900 tarou@iwate-med.ac.jp
	佐藤 泰生	木	16 : 00～17 : 30	病理学講座病態解析学分野 461 室 staisei@iwate-med.ac.jp
法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野	熊谷 章子	木	18 : 00～19 : 00	法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 スタッフルーム 内線 5684 kumagaia@iwate-med.ac.jp
医療工学講座	武本 真治	木	16 : 30～17 : 30	医療工学講座教授室西 317 (内線 5760) takemoto@iwate-med.ac.jp
	佐々木 かおり	月・木	16 : 30～17 : 30	医療工学講座スタッフルーム西 316 (内線 5763) sskkaori@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 う蝕治療学分野	野田 守	木	18 : 00～19 : 00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 nodam@iwate-med.ac.jp
	浅野 明子	月	18 : 00～19 : 00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 akiasano@iwate-med.ac.jp
	千田 弥栄子	火	18 : 00～19 : 00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaekon@iwate-med.ac.jp
	東 兼司	水	18 : 00～19 : 00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 kenjih@iwate-med.ac.jp
	相上 雄亮	水	18 : 00～19 : 00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaigami@iwate-med.ac.jp
	大塚 泰寛	水	18 : 00～19 : 00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 oyasuhir@iwate-med.ac.jp
	清水 彩恵子	水	18 : 00～19 : 00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 tobishi@iwate-med.ac.jp
	鈴木 大平	水	18 : 00～19 : 00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 staihei@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 歯周療法学分野	佐々木 大輔	月	17 : 00～18 : 00	歯周療法学分野医局 (372 号室) daisukes@iwate-med.ac.jp
	村井 治	火・木	17 : 00～18 : 00	歯周療法学分野医局 (372 号室) osamurai@iwate-med.ac.jp
	鈴木 啓太	水	17 : 00～18 : 00	歯周療法学分野医局 (372 号室) esuzuki@iwate-med.ac.jp
	相原 恵子	火	17 : 00～18 : 00	歯周療法学分野医局 (372 号室) kaihara@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野	小林 琢也	金	17:00～18:00	教授室（441号室） 内線 #4531 kobataku@iwate-med.ac.jp
	佐藤 宏明	木	17:30～18:30	義歯外来、医局、研究室 内線 4441 satohiro@iwate-med.ac.jp
	米澤 悠	木	17:00～18:00	医局、研究室 内線 4406 yyone@iwate-med.ac.jp
	米澤 紗織	木	17:00～18:00	医局、研究室 内線 71576 saki@iwate-med.ac.jp
	原 総一郎	火	17:00～18:00	医局、研究室（406号室） 内線 4406 sohara@iwate-med.ac.jp
	島田 崇史	木	17:00～18:00	医局、研究室（406号室） 内線 #71575 shimtak@iwate-med.ac.jp
	伊藤 凌	木	17:00～18:00	医局、研究室（404号室） 内線 71563 itoryo@iwate-med.ac.jp
歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野	今 一裕	火	17:00～18:00	医局、研究室 453号室 kazukon@iwate-med.ac.jp
	深澤 翔太	水	17:30～18:30	医局、研究室 447号室 sfu@iwate-med.ac.jp
	横田 潤	火	17:00～18:00	医局、研究室 445号室 jyokota@iwate-med.ac.jp
	福德 暁宏	水	17:00～18:00	医局、研究室 447号室 内線 #4418 afukuto@iwate-med.ac.jp
	齊藤 裕美子	月	16:00～17:00	医局、研究室 433号室 内線 4439 ysaito@iwate-med.ac.jp
	佐々木 溪斗	水	17:00～18:00	医局、研究室 407号室 内線 4418 sasakikeito0329@gmail.com
	八戸 勇樹	水	17:00～18:00	医局、研究室 407号室 内線 4418 yk.8nohe@gmail.com
	星 美貴	水	17:30～18:30	医局、研究室 445号室 内線 #4440 hoshmiki@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	山田 浩之	月	18 : 00～19 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野 教授室 内線 6311 yamadah@iwate-med.ac.jp
	川井 忠	木	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 6311 kawait@iwate-med.ac.jp
	大橋 祐生	月・火・ 木・金	18 : 00～20 : 00	矢巾附属病院 耳鼻咽喉科頭頸部外科医局 内線 6302 yohashi@iwate-med.ac.jp
	古城 慎太郎	金	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 6311 kshint@iwate-med.ac.jp
	平野 大輔	月・木・金	16 : 00～17 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71535 thirano@iwate-med.ac.jp
	高橋 美香子	水	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71590 tmikako@iwate-med.ac.jp
	野宮 孝之	月・水	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71116 tnomiya@iwate-med.ac.jp
	秋本 祐基	火	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71527 akimoto@iwate-med.ac.jp
	川又 慎介	月・火・ 木・金	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71529 kawashi@iwate-med.ac.jp
	矢菅 絵里加	月・火	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71530 erikay@iwate-med.ac.jp
口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野	佐藤 健一	火	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 satoken@iwate-med.ac.jp
	筑田 真未	月	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 mchikuda@iwate-med.ac.jp
	佐藤 州	金	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 satoshu@iwate-med.ac.jp
	坂野上 和奏	水	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 sakanoue@iwate-med.ac.jp
	柳町 晴香	木	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 yanaharu@iwate-med.ac.jp
	前澤 五月	木	17 : 00～18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 satsukim@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野	泉澤 充	火・木・土	12 : 00～13 : 00	歯科放射線学分野・特任教授室(134号室) 内線 #4513 mizumisa@iwate-med.ac.jp
	高橋 徳明	火・木	17 : 00～18 : 00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 71574 tnoriaki@iwate-med.ac.jp
	佐藤 仁	木	17 : 00～18 : 00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 satohito@iwate-med.ac.jp
	星野 正行	水・金	17 : 00～18 : 00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 mhoshino@iwate-med.ac.jp
	星 勲	水	17 : 00～18 : 00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 isaohosh@iwate-med.ac.jp
	金森 尚城	月・火・水	12 : 00～13 : 00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 kanataka@iwate-med.ac.jp
	菅野 江美	火・木・金	12 : 00～13 : 00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 emkanno@iwate-med.ac.jp
口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	佐藤 和朗	木	17 : 00～18 : 00	歯科矯正学分野・教授室(456号室) 内線:4533 kazsatoh@iwate-med.ac.jp
	桑島 幸紀	木	17 : 00～19 : 00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 ykuwaji@iwate-med.ac.jp
	飯塚 康之	月	17 : 00～19 : 00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 yiizuka@iwate-med.ac.jp
	菊池 恵美子	木	12 : 00～13 : 00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 eaomatsu@iwate-med.ac.jp
	浅沼 莞奈	木	12 : 00～13 : 00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 asanumak@iwate-med.ac.jp
	深澤 慶子	木	12 : 00～13 : 00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 keikof@iwate-med.ac.jp
	上田 茜	木	12 : 00～13 : 00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 uakane@iwate-med.ac.jp
	吉田 弘法	月	17 : 00～18 : 00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 hironori@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	熊谷 美保	月～木	18 : 00～19 : 00	小児歯科学・障害者歯科学分野 5 階医局 (PHS 71557) mkumagai@iwate-med.ac.jp
	齊藤 桂子	月～金	18 : 00～19 : 00	小児歯科学・障害者歯科学分野 5 階医局 (PHS 71587) ksaitho@iwate-med.ac.jp
	磯部 可奈子	月・水・ 木・金	16 : 00～17 : 00	小児歯科学・障害者歯科学分野 5 階医局 (PHS 71485) kisobe@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 関連医学分野	千葉 俊美	月～金	16 : 00～17 : 00	口腔医学講座 関連医学分野 教授室 440 号室 内線 #4435 toschiba@iwate-med.ac.jp
	王 挺	月～金	16 : 00～17 : 00	口腔医学講座 関連医学分野 研究室 444 号室 内線 #4228 tingwang@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 予防歯科学分野	佐藤 俊郎	火・水・木	17 : 00～18 : 00	予防歯科学分野 519 号室 (内 #4516) toshiros@iwate-med.ac.jp
	衣斐 美歩	月～金	16 : 00～17 : 00	予防歯科学分野 519 号室 (内 #4516) mibi@iwate-med.ac.jp
	大石 泰子	火・木・金	16 : 00～17 : 00	予防歯科学分野 519 号室 (内 #4516) toishi@iwate-med.ac.jp
	佐藤 華子	月・金	17 : 00～18 : 00	予防歯科学分野 517 号室 (内 #4518) satohana@iwate-med.ac.jp
	杉山 由紀子	月・水・木	17 : 00～18 : 00	予防歯科学分野 517 号室 (内 #4518) yukikosu@iwate-med.ac.jp
非常勤教員	授業後に教室で質問を受け付ける。後日、質問がある場合は科目責任者を通じて連絡すること。			

教養教育センター オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けたりするために開かれた時間です。有効に利用してください。希望者は以下一覧表を確認のうえ、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

担当教員		担当教員	曜日	時間帯	備 考
人間科学科	哲学分野	林 研	月・金	16:30～17:30	266人間科学科 教授・准教授室
		三浦 康宏	水	16:30～17:30	264-1文学分野 研究室
	法学分野	廣瀬 清英	火～木	12:00～13:00	223法学分野 研究室
	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂	水・金	12:00～13:00	262人間科学科 教授・准教授室
		香川 由美	月・水・金	16:30～17:30	267心理学・行動科学分野 研究室
	体育学分野	佐々木 亮平	月・水・金	12:00～13:00	103体育学分野 研究室
情報科学科	数学分野	江尻 正一	月～金	16:30～17:30	257情報科学科 教授・准教授室
		長谷川 大	月～金	16:30～17:30	225数学分野 研究室
	医学統計 情報学分野	高橋 史朗 教養教育センター長 教養教育センター学生部長	月・木	16:30～17:30	258情報科学科 教授・准教授室
		小野 保	月・水	16:30～17:30	222医学統計情報学分野 研究室
物理学科		奥村 健一	月～金	16:30～17:30	253物理学科 教授・准教授室
		小松 真	月～金	17:00～18:00	254物理学科 研究室2 komatsum@iwate-med.ac.jp
		小田 泰行	月～金	16:30～17:30	254物理学科 研究室2
化学科		中島 理 教務専門委員長	月	12:00～13:00	256化学科 教授・准教授室
		東尾 浩典	月～金	16:30～17:30	255化学科 研究室
		吉田 潤	月・水	16:30～17:30	255化学科 研究室
生物学科		三枝 聖	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科 研究室
		菅 孔太朗	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科 研究室
		内藤 雪枝	月・水・金	12:00～13:00	261生物学科 研究室
外国語学科	英語分野	柳谷 千枝子	月・木・金	16:30～17:30	265外国語学科 教授・准教授室
		松田 竜宙	火・木	16:30～17:30	224英語分野 研究室2
		Jonathan Levine-Ogura	月～金	16:30～17:30	221英語分野 研究室4
		Robert Ken Asano	月・水・金	16:30～17:30	226英語分野 研究室1
教養教育センター		非常勤教員		授業終了時	各講義室

医学部・オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原 邦昭	水	10:00～12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡し アポイントを取ること
副学長	仲 哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医学教育学講座 医学教育学分野	高田 亮	月・火・水・金	16:00～18:00	医学教育学講座	内線：5102 内線：71339
	相澤 純	月	月：12:00～13:00		内線：71392
医学教育学講座 地域医療学分野	伊藤 智範	月・金	12:00～13:00	医学教育学講座 循環器内科医局	内線：5102 内線：6415
医学教育学講座 教育支援システム開発分野	前沢 千早	月・水	10:00～12:00、13:00～16:00	教育支援システム開発分野（358）	内線：5661
	安平 進士	火・木	17:00～18:00	教育支援システム開発分野（462）	
	柴崎 晶彦	月・火	16:00～17:00		
解剖学講座 人体発生学分野	木村 英二	火	12:00～13:00	人体発生学分野 スタッフルーム	内線：5831
	中野 真人	月～金	17:00～18:00		
	足立 礼孝	月～金	16:00～18:00		
	勝本 恵一	月～金	16:00～18:00		
解剖学講座 細胞生物学分野	齋野 朝幸	火～金	12:00～13:00、16:00～19:00	解剖学講座研究室（405）	内線：5871
	成田 啓之	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
	アブ'タリ サイド' シャリフ	月～金	12:00～13:00、16:00～19:00		
	阿久津 仁美	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
	平川 正人	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
生理学講座 統合生理学分野	中隣 克己	月～金	16:30～19:00	統合生理学分野 スタッフルーム	内線：5733
	木村 眞吾	月～金	16:30～19:00		
	鈴木 喜郎	月～金	16:30～18:45		
	望月 圭	月～金	18:00～20:30		
	駒切 洋	月・水・金	16:30～19:00		
	鈴木 享	月～金	16:30～19:00		
生化学講座 分子医化学分野	金子 桐子	月・火・水・木	16:00～18:00	分子医化学分野 スタッフルーム	内線：5751
	鈴木 亘	月・火・木	16:00～18:00		
	高橋 隼一郎	月・火・水・木	16:00～18:00		
微生物学講座 感染症学・免疫学分野	村木 靖	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座 教授室（308）	内線：5792
	海部 知則	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座 スタッフルーム（307）	
	小田切 崇	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座 スタッフルーム（306）	
	石川 静麻	月・火・水・木・金	12:00～13:00		
薬理学講座 情報伝達医学分野	平 英一	火・水	16:30～17:30	薬理学講座 スタッフルーム（365）	内線：5821
	ハサン アリフ ウル	月・火・水・木・金	16:00～17:00		
	小原 真美	月・水・金	16:00～17:00		
病理学講座 機能病態学分野	片岡 竜貴	火・水	12:00～13:00	病理学講座 教授室（455）	内線：5920
	中村 啓哉	木・金	12:00～13:00	研究室	
	伊藤 謙	水・木	12:00～13:00		
	松崎 駿	月・水	12:00～13:00		
法科学講座 法医学分野	高宮 正隆	火	12:00～12:20	医局	内線：5682
	森川 剛	火	12:00～12:20		
衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三	月～金	16:15～18:00	講座 研究室	内線：5775
	赤坂 憲	月～金	16:15～18:00		
	田鎖 愛理	月～金	16:15～18:00		
	事崎 由佳	月～金	16:15～18:00		
	下田 陽樹	月～金	16:15～18:00		
	高梨 信之	月・火・水・金	16:15～18:00		

内科学講座 消化器内科分野	松本 主之	水	17:00～18:00	医局	内線：6222、6223
	黒田 英克	水	17:30～18:30		
	宮坂 昭生	水	17:30～18:30		
	梁井 俊一	水	17:00～18:00		
	柿坂 啓介	火・木	16:00～18:00		
	鳥谷 洋右	水	17:00～18:00		
	永塚 真	水	17:00～18:00		
	佐々木 裕	水	17:00～18:00		
	遠藤 啓	水	16:30～17:00		
	吉田 雄一	水	16:00～16:30		
	阿部 珠美	水	18:00～18:30		
	鈴木 彰子	水	12:30～13:30		
	星 綾乃	水	17:00～18:00		
	大友 康司	水	17:00～18:00		
	佐々木 登希夫	水	16:30～17:00		
	今成 慧祐	水	16:30～17:30		
	本多 俊介	水	16:30～17:30		
	藤原 裕大	水	16:30～17:00		
内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	石垣 泰	火	15:00～16:00	医局	内線：6271
	高橋 義彦	金	16:00～17:00		
	瀬川 利恵	木	12:00～13:00		
	武部 典子	月	16:00～17:00		
	長谷川 豊	金	9:30～10:30		
	小田 知靖	火	12:00～13:00		
	富樫 弘文	水	16:00～17:00		
	千田 愛	水	12:00～13:00		
	千葉 拓	月	9:00～10:00		
	川島 智美	水	12:00～13:00		
	吉田 絵里子	水	15:00～16:00		
内科学講座 腎・高血圧内科分野	旭 浩一	火	12:15～13:15	教授室	内線：6416
	吉川 和寛	火	12:15～13:15	医局	
	河嶋 英里	火	12:15～13:15		
	野田 晴也	火	12:15～13:15		
	岡本 好生	火	12:15～13:15		
内科学講座 循環器内科分野	森野 慎浩	月～金	12:00～13:30	循環器内科医局	内線：6413
	石田 大	月～金	12:00～13:30		
	大和田 真玄	月～金	12:00～13:30		
	房崎 哲也	月～金	12:00～13:30		
	肥田 頼彦	月～金	12:00～13:30		
	二宮 亮	月～金	12:00～13:30		
	芳沢 礼佑	月～金	12:00～13:30		
	芳沢 美知子	月～金	12:00～13:30		
	佐々木 航	月～金	12:00～13:30		
	二宮 開	月～金	12:00～13:30		
	澤 陽平	月～金	12:00～13:30		
	浅野 峻見	月～金	12:00～13:30		
	登坂 憲吾	月～金	12:00～13:30		
	佐々木 健太	月～金	12:00～13:30		
内科学講座 呼吸器内科分野	川田 一郎	火・木・金	14:30～17:00	医局	内線：6251
	長島 広相	月・水・金	16:30～17:00		
	秋山 真親	火	16:30～17:00		
	内海 裕	月・水・金	16:30～17:00		
	堀井 洋祐	火・水・木	16:30～17:00		
	片桐 紘	月・木・金	16:30～17:00		

内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	藤本 稔	木（第4除く）	9:00～12:00	医局	内線：6471
	村田 興則	木	9:00～17:00		
	鈴木 悠地	木	9:00～17:00		
	駒ヶ嶺 正嗣	金	9:00～12:30		
	大河原 知治	水	9:00～12:00		
	舟嶋 英志	金	9:00～17:00		
	昆 康弘	水（第1.3）	14:00～17:00		
内科学講座 血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹	火	16:30～17:00	教授室	内線：6401
	小宅 達郎	火・木	17:00～18:00	医局・西6階血液病棟	
	古和田 周吾	月・火・木	17:00～18:00		
	岡野 良昭	火・水	17:00～18:00		
	佐藤 剛	火・水	17:00～18:00		
	西谷 真来	月・火・水	12:00～15:00		
	前田 峻大	火・水	17:00～18:00		
内科学講座 脳神経内科・老年科分野	前田 哲也	木	16:00～17:00	脳神経内科・老年科 医局	内線：6431,6432
	板橋 亮	水	16:00～17:00		
	工藤 雅子	月・火	16:00～17:00		
	石塚 直樹	金	16:00～17:00		
	赤坂 博	水	16:00～17:00		
	鈴木 真紗子	木	16:00～17:00		
	岩岡 和博	水	16:00～17:00		
	高橋 真	水	16:00～17:00		
	高橋 健太	水	16:00～17:00		
	津田 圭介	水	16:00～17:00		
	大井 清貴	水	16:00～17:00		
	田口 啓太	水	16:00～17:00		
	寺内 貴廣	水	16:00～17:00		
外科学講座	佐々木 章	火	15:00～17:00	外科学講座 教授室	内線：6220
	新田 浩幸	火	14:00～17:00	外科学講座 教授室	
	鈴木 信	火	14:00～17:00	外科学講座 医局	
	梅邑 晃	火	14:00～17:00		
	井原 欣幸	火	14:00～17:00		
	藤野 順子	火	10:00～11:00		
	馬場 誠朗	水	14:00～17:00		
	石田 和茂	火	14:00～17:00		
	八重樫 瑞典	木	9:00～11:00		
	武田 大樹	火	14:00～17:00		
	二階 春香	水	14:00～17:00		
	安藤 太郎	火	14:00～17:00		
	佐々木 教之	火	14:00～17:00		
	天野 総	火	14:00～17:00		
	瀬川 武紀	火	14:00～17:00		
	天野 怜	火	14:00～17:00		
	川島 到真	火	14:00～17:00		
	熊谷 秀基	水	14:00～17:00		
	棚橋 洋太	火	14:00～17:00		
	菊地 晃司	火	14:00～17:00		
	脳神経外科学講座	赤松 洋祐	月～金		
別府 高明		火	17:00～18:00		
石垣 大哉		月～金	17:00～18:00		
佐藤 雄一		月・水・木	17:00～18:00		
佐浦 宏明		月～金	17:00～18:00		
吉田 純		月～金	17:00～18:00		
大志田 創太郎		月～金	17:00～18:00		
筒井 章太		月～金	12:00～13:00		
柳原 普		月～金	17:00～18:00		

心臓血管外科学講座	金	水・金	17:00～18:00	西5階心臓血管外科 医局	内線：6411
	小泉 淳一	水・木	17:00～18:00		
	枝木 大治	月～金	17:00～18:00		
	齋藤 大樹	月～金	17:00～18:00		
	塩屋 雅人	月～金	17:00～18:00		
	田林 東	月～金	17:00～18:00		
	正木 直樹	月～金	17:00～18:00		
呼吸器外科学講座	齊藤 元	月～金	8:30～17:00	呼吸器外科学講座 医局	内線：6505
	出口 博之	月～金	8:30～17:00		
	友安 信	月～金	8:30～17:00		
	重枝 弥	月～金	8:30～17:00		
	兼古 由香	月～金	8:30～17:00		
	岩井 英碩	月～金	8:30～17:00		
整形外科科学講座	田島 吾郎	水	9:00～12:00	整形外科科学講座 医局	内線：6562
	佐藤 光太郎	木	10:00～11:00		
	丸山 盛貴	木	17:00～18:00		
	大竹 伸平	木	16:00～17:00		
	三又 義訓	月	14:00～17:00		
	及川 伸也	金	9:00～10:00		
	及川 龍之介	火	16:00～17:00		
	鈴木 忠	金	9:00～10:00		
	村上 賢也	火	15:00～17:00		
	山部 大輔	水	17:00～18:00		
	楊 寛隆	金	17:00～18:00		
	千葉 佑介	金	9:00～10:00		
	和田 俊太郎	金	16:00～17:00		
	松浦 真典	水	8:30～9:30		
	高橋 裕孝	水	8:30～9:30		
	月村 悦子	水	8:30～9:30		
形成外科学講座	櫻庭 実	水・金	17:00～18:00	医局	内線：6571
	本多 孝之	水・金	16:00～17:00		
	小野寺 文	水・金	16:00～17:00		
	三橋 伸行	木・金	16:00～17:00		
	阿部 桃子	月～金	15:00～16:30		
	山崎 友和	月・水	16:00～17:00		
産婦人科学講座	馬場 長	火	16:00～17:00	産婦人科学講座 医局	内線：3750
	小山 理恵	金	16:00～17:00		
	庄子 忠宏	金	16:00～17:00		
	利部 正裕	金	16:00～17:00		
	岩動 ちず子	金	16:00～16:30		
	永沢 崇幸	金	16:00～17:00		
	尾上 洋樹	火	16:00～17:00		
	羽場 巖	金	16:00～17:00		
	川村 花恵	金	16:00～17:00		
	佐々木 佳夏子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤 翔	講義終了後に受け付ける			
	高取 恵里子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤 千絵	講義終了後に受け付ける			
	海道 善隆	金	16:00～17:00		
	村上 一行	講義終了後に受け付ける			
	鈴木 南奈子	講義終了後に受け付ける			
	黒川 絵里加	講義終了後に受け付ける			
	武蔵 実久	講義終了後に受け付ける			
	岡田 有加	講義終了後に受け付ける			
	高木 駿	講義終了後に受け付ける			

小児科学講座	赤坂 真奈美	月・木	17:00～18:00	医局	内線：3701
	石川 健	火	12:00～13:00		
	齋木 宏文	木	12:00～17:00		
	外館 玄一朗	火・木	13:00～17:00		
	鳥谷 由貴子	火・水・木・金	15:00～17:00		
	中野 智	火	12:00～13:00		
	松本 敦	月・水	17:00～18:00		
	三浦 翔子	水・金	14:00～16:00		
	水間 加奈子	月・火・金	12:00～13:00		
	草野 修司	月・火・金	12:00～13:00		
	朝倉 賀子	月・火・木・金	14:00～18:00		
	八敏 瑛子	火・木	11:00～12:00		
	谷藤 幸子	月・火	12:00～14:00		
	浅見 麻耶	月・火	9:00～17:00		
	佐藤 啓	水・木	12:00～14:00		
	小野寺 千夏	金	12:00～14:00		
	田金 星都	月～木	16:00～17:00		
	滝沢 友里恵	木・金	12:00～14:00		
	千田 悠太郎	火・水	16:00～17:00		
	吉田 太郎	月・木・金	14:00～16:00		
	阿部 志津香	月～金	11:00～17:00		
	齋藤 寛治	月・金	16:00～17:00		
	鈴木 幸之介	月・水・木	9:00～17:00		
	高橋 学	火・木	14:00～16:00		
	千葉 智子	月・火・木・金	9:00～11:00		
	豊島 浩志	月・水・木	14:00～17:00		
耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓	月	17:00～19:00	医局	内線：6302
	片桐 克則	木・金	17:00～19:00		
	及川 伸一	火	10：00～17：00		
	亀井 昌代	火・木	17:00～		
	阿部 俊彦	火・木・金	17:00～		
	桂 彩	火・水	17:00～		
	土田 宏大	月	18:00～18：30		
眼科学講座	黒坂 大次郎	月	17:00～18:00	眼科学講座 医局	内線：6582
	橋爪 公平	月	16:00～17:00		
	新田 順福	月	17:30～18:30		
	及川 誠	月	17:30～18:30		
	清野 太郎	月	17:30～18:30		
	橋浦 哲哉	月	14:00～16:00		
	伊藤 愉一胤	月	17:00～18:00		
	今泉 利康	月	17:00～18:30		
	大島 広之	月	17:00～18:00		
	福田 一央	月	17:00～18:00		
皮膚科学講座	天野 博雄	水	17:00～18:00	皮膚科学講座 医局	内線：6543
	角田 加奈子	月	10:00～12:00		
	渡部 大輔	木	17:00～18:00		
	三浦 慎平	火	17:00～18:00		
	渡辺 彩乃	水	16:00～17:00		
	井上 剛	水	17:00～18:00		

泌尿器科学講座	小原 航	水	9:00～10:00	泌尿器科学講座 医局	内線：6551
	阿部 貴弥	月	9:00～10:00		
	杉村 淳	水	18:00～19:00	内丸MC控室	
	兼平 貴	火	18:00～19:00	泌尿器科学講座 医局	
	加藤 廉平	月	18:00～19:00		
	前川 滋克	火	18:00～19:00		
	五十嵐 大樹	火	18:00～19:00		
	塩見 叡	火	18:00～19:00		
	井藤 綾人	火	18:00～19:00		
	阿部 正和	火	18:00～19:00		
	田村 大地	海外留学中	海外留学中		
	久野 瑞貴	火	18:00～19:00		
神経精神科学講座	大塚 耕太郎	火	16:30～18:00	矢巾附属病院10階 神経精神科学講座 医局	内線：2011
	八木 淳子	金	12:00～13:00		
	三條 克巳	水	17:00～18:00		
	福本 健太郎	火	16:00～17:00		
	山家 健仁	火	16:00～17:00		
	内出 希	金	10:00～12:00		
	三田 俊成	水	16:00～17:00		
	吉岡 靖史	月	16:00～17:00		
	本多 笑奈	木	9:00～10:00		
放射線医学講座	田中 良一	月・金	16:00～16:30	放射線科 医局	内線：6322
	加藤 健一	月・水・木・金	16:00～16:30		
	鈴木 智大	火・木	16:00～17:00	放射線科 読影室	内線：2121
	田村 明生	火～金	16:00～17:00	放射線科 医局	内線：6322
	鈴木 美知子	月・木・金	9:00～10:00	放射線科 読影室	内線：2121
	折居 誠	月・金	16:00～17:00		
	小原 牧子	水	12:00～13:00		
	川島 和哉	月・金	15:00～17:00		
	曾根 美都	月・金	15:00～17:00		
	向井田 瑛佑	水・木	16:00～17:00		
	藤原 純平	月・金	15:00～17:00		
麻酔学講座	熊谷 基	月～金	16:30～	麻酔科管理室	内線：2465
	大畑 光彦	月～金	16:30～		
	脇本 将寛	月～金	16:30～		
	水間 謙三	月～金	16:30～		
	久慈 昭慶	月～金	16:30～		
	中野 雄介	月～金	16:30～		
	田村 雄一郎	月～金	16:30～		
	畠山 知規	月～金	16:30～		
	宮田 美智子	月～金	16:30～		
	小川 祥平	月～金	16:30～		
	高橋 裕也	月～金	16:30～		
	栗原 寛人	月～金	16:30～		
	新居 正季子	月～金	16:30～		
臨床検査医学・感染症学講座	仲村 究	火	14:00～17:00	臨床検査医学・感染症学講座 教授室	内線：6331
	藤原 亨	木	12:00～13:00	臨床検査医学・感染症学講座 医局	
	小野寺 直人	木	9:00～10:00		
	熊谷 亜希子	月	12:30～13:30		
	七崎 之利	月	13:00～14:00		
	高橋 敬太	木	11:00～12:00		
	日比谷 健司	火	9:00～12:00		

救急・災害医学講座	眞瀬 智彦	火・木	14:00～17:00	災害センター 研究室	内線：5565
	高橋 学	月～金	12:00～13:00	救急センター 医局	内線：2682、2683
	藤田 友嗣	月～金	12:00～13:00		
	菅 重典	月～木	12:00～13:00		
	佐藤 寿穂	月～金	12:00～13:00		
	吉直 大佑	月～金	12:00～13:00		
	森野 豪太	月～金	12:00～13:00		
	野々口 マリア	月～金	12:00～13:00		
	横藤 壽	月～金	12:00～13:00		
	富永 綾	火・水	14:00～17:00	災害センター 研究室	内線：5565
	藤原 弘之	火・木	14:00～17:00	災害センター 研究室	内線：5565
	金子 拓	火・木	14:00～17:00		
	寺山 茉莉	月～金	12:00～13:00		
	星 眞太郎	月～金	12:00～13:00	救急センター 医局	内線：2682、2683
総合診療医学講座	下沖 収	月	17:00～18:00	医局	内線：#6304
	大間々 真一	月	17:00～18:00		
	高橋 智弘	木	17:00～18:00		
	米田 真也	月・火・水	16:00～17:00		
	山田 哲也	月・火	17:00～18:00		
岩手県高度救命救急センター	藤野 靖久	月～金	12:00～13:00	救急センター 医局	内線：2683
	小鹿 雅博	月～金	12:00～13:00		
	千田 光平	月～金	12:00～13:00		
	三崎 俊斉	月～金	12:00～13:00		
	丹田 実	月～金	12:00～13:00		
	石井 修平	月～金	12:00～13:00		
	佐々木 秀策	月～金	12:00～13:00		
	八鍬 一貴	月～金	12:00～13:00		
	藤本 健太郎	月～金	12:00～13:00		
	石田 馨	月～金	12:00～13:00		
	藤澤 良介	月～金	12:00～13:00		
	佐藤 貴紀	月～金	12:00～13:00		
病理診断学講座	柳川 直樹	月～金	17:00～	医局	内線：2393
	刑部 光正	月～金	17:00～		
	杉本 亮	月～金	17:00～		
	伊藤 一洋	月～金	17:00～		
臨床腫瘍学講座	板持 広明	月	15:00～17:00	医局	内線：2083
	岩谷 岳	水・木	17:00～19:00		
	遠藤 史隆	金	15:00～17:00		
医療安全学講座	肥田 圭介	木	12:00～14:00	医療安全管理部	内線：6112
睡眠医療学科	西島 嗣生	火・水	17:00～19:00	睡眠医療学科 医局	内線：#3358 emailでの連絡可
	細川 敬輔	月・火・木	17:00～19:00		
	細川 里絵	水	9:00～12:00		
臨床遺伝学科	鈴森 伸宏	金	16:00～17:00	臨床遺伝学科 医局	内線：#3258
	山本 佳世乃	金	16:00～17:00		
	吉田 明子	水	16:00～17:00		
	小林 有美子	金	16:00～17:00		
	勝部 暢介	月	16:00～17:00		
緩和医療学科	木村 祐輔	月～水	17:00～18:00	緩和医療学科 医局	内線：3364
	鴻巣 正史	月・火・金	17:00～18:00		
	中村 聖華	月・火	17:00～18:00		
放射線腫瘍学科	有賀 久哲	火	17:00～18:30	医局	内線：6322
	菊池 光洋	月	17:00～18:00		
	及川 博文	火	17:00～18:00		
	家子 義明	月	17:00～18:00		
	瀬川 昂史	月	12:00～13:00		
リハビリテーション医学講座	西村 行秀	月・火	月：14:00～17:00 火：10:00～12:00	教授室	内線：3733
	西山 一成	火・金	火：9:00～12:00 金：10:00～12:00	リハビリテーション科医室	内線：3731
災害・地域精神医学講座	赤平 美津子	火	17:00～18:00	神経精神科学講座 医局	内線：2371

いわて東北メディカル・メガバンク 機構臨床研究・疫学研究部門	永井 雅人	随時	随時	医局	内線：5464
いわて東北メディカル・メガバン ク機構生体情報解析部門	須藤 洋一	月～金	12:30～13:30	医局	内線：5472
	山崎 弥生	月～金	10:00～12:00		
	楠 詩織	月～金	10:00～12:00		
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

医歯薬総合研究所 オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原 邦昭	水	10:00～12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡し アポイントを取ること
副学長	仲 哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医歯薬総合研究所長	仲 哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医歯薬総合研究所創薬・医療機器 開発部門	西塚 哲	火・木	火：16:00～17:00木：12:00～13:00	教授室	内線：5685
	世良田 聡	月・木	13:00～17:00	107室	内線：5635
	鈴木 悠地	木	9:00～17:00	医局	内線：6471
	阿保 亜紀子	水・木・金	10:00～17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5686
	真柳 平	月～金	16:00～17:00	神経科学研究部門	内線：5711
	開 勇人	火・木・金	10:00～17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5687
医歯薬総合研究所基盤の研究部門	寺崎 一典	随時	随時	医局	内線：3331
	山下 典生	月・水	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	上野 育子	月・火・水	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	佐々木 敏秋	随時	随時	医局	内線：3331
	若井 淳	水	12:00～13:00	動物研究センター	内線：5390
	松田 豪	火・木・金	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	森 太志	水・木・金	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けるために開かれた時間です。

有効に利用してください。

希望者は、分野ごとに記載されている下記一覧表を確認の上、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

所属		氏名	曜日	時間帯	備 考
薬科学講座	創薬有機化学分野	河野 富一	月・水・金	12:00~13:00	場所：創薬有機化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		辻原 哲也	火・木・金	17:00~18:00	場所：創薬有機化学分野スタッフルーム2 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		稲垣 祥	火・水・木	17:00~18:00	場所：創薬有機化学分野スタッフルーム1 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	天然物化学分野	田浦 太志	月～金	12:00~13:00 16:00~18:00	場所：天然物化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		浅野 孝	月～金	16:00~18:00	場所：天然物化学分野スタッフルーム
	構造生物薬学分野	野中 孝昌	金	16:20~17:00	場所：Moodleの構造生物薬学分野コース Zoomによるオンライン面談。予約不要。
		阪本 泰光	月～金	16:30~17:30	場所：構造生物薬学分野スタッフルーム 質問の際には、教科書、ノートおよび筆記用具を持参してください。 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
	分析化学分野	藤本 康之	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00	場所：分析化学分野スタッフルーム(東研究棟4階 454) 左記以外でも在室時は対応可。
	生物薬学講座	機能生化学分野	關谷 瑞樹	月～金	12:00~13:00 16:30~19:00
生体防御学分野		大橋 綾子	月～金	12:05~12:55	場 所：生体防御学分野にて（東研究棟3階 352-353） 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		錦織 健児	月～金	16:10~18:00	質問の際は、教材や筆記用具を持参すること。
病態薬理学講座	分子細胞薬理学分野	奈良場 博昭	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00	場所：分子細胞薬理学分野教授室 左記以外でも在室時は可
		藤原 俊朗	月・火・木 水・金	16:10~18:00 18:00~19:00	場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム（西研究棟356）等 左記以外でも在室時は可
		高橋 巖	月～金	12:00~13:00 16:10~17:00	場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	臨床医化学分野	野口 拓也	月～金	16:00~19:00	場所：臨床医化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	医療薬科学講座	創剤学分野	杉山 育美	月～金	16:10~17:30
薬物代謝動態学分野		幅野 渉	月～金	16:00~18:00	場所：薬物代謝動態学分野（東研究棟4階 459～461） 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
		寺島 潤	月～金	9:00~17:00	場所：薬物代謝動態学分野（東研究棟4階 459～461） 在室時は随時対応
衛生化学分野		杉山 晶規	月～金	17:00~19:00	場所：衛生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		米澤 穂波	月～金	17:00~19:00	場所：衛生化学分野スタッフルーム 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
臨床薬学講座	臨床薬剤学分野	工藤 賢三	月～金	17:00~19:00	場所：臨床薬剤学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		朝賀 純一	月～金	17:00~19:00	場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム315 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		高橋 宏彰	月～金	16:30~18:00	場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム317 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	情報薬科学分野	西谷 直之	月～金	16:30~18:00	場所：情報薬科学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
		佐京 智子	月～金	16:30~18:00	場所：情報薬科学分野スタッフルーム
		氏家 悠貴	火～金	13:00~17:00	左記の時間帯以外でも在室時は相談可
	地域医療薬学分野	松浦 誠	月～金	16:10~18:00	場所：地域医療薬学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬学教育学分野	白石 博久	月～金	12:10~12:50	場所：薬学教育学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可

※非常勤教員は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には科目責任者を通じて連絡すること。

看護学部 オフィスアワー 一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般について質問、相談、あるいは指導等を受けるために設けられている時間です。学生に対して広く開かれた時間ですので、有効に活用して下さい。質問や相談等を希望する学生は、曜日・時間帯を確認し、各教員の研究室にて面談を受けて下さい。

看護学部

所属		担当教員	曜日	時間帯	備 考
マルチメディア教育研究棟 4階） 共通基盤看護学講座	基礎	野里 同	火・水・木	16：30～17：30	研究室19 内線5403 nozato@iwate-med.ac.jp
		柏木 ゆきえ	水	16：00～17：00	研究室8 内線5401 事前アポイントがあれば随時可 kasiwagi@iwate-med.ac.jp
		小林 由美子	火・水・木	16：00～17：00	研究室15 内線5402 事前アポイントがあれば随時可 yumikoba@iwate-med.ac.jp
		松田 悠史	火・水・木	16：00～17：00	研究室9 内線5406 メールでの事前連絡があれば随時可 matsuy@iwate-med.ac.jp
	成人	佐藤 奈美枝	月	16：00～17：00	研究室6 内線5419 事前連絡があれば随時可 namies@iwate-med.ac.jp
		伊藤 奈央	火・木	16：00～17：00	研究室20 内線5358 事前アポイントがあれば随時可 naoito@iwate-med.ac.jp
		小坂 未来	火・金	15：30～16：30	研究室13 内線5404 事前連絡があれば調整可 mkosaka@iwate-med.ac.jp
		三上 邦子	月・金	16：30～17：30	研究室13 内線5303 mikamik@iwate-med.ac.jp
		畑中 るり子	木	16：00～17：00	研究室9 内線5425 hatanrur@iwate-med.ac.jp
マルチメディア教育研究棟 4階） 地域包括ケア講座	地域	岩渕 光子	木	12：00～13：00	研究室5 内線5416 事前連絡があれば随時可 iwabuchi@iwate-med.ac.jp
		藤澤 純子	月・金	12：00～13：00	研究室9 内線5359 事前連絡があれば随時可 fujisawa@iwate-med.ac.jp
		赤井 純子	火・木	12：00～13：00	研究室9 内線5426 メールでの事前連絡があれば随時可 jakai@iwate-med.ac.jp
		五日市 瑠美子	水・木	12：00～13：00	研究室9 内線5202 事前連絡があれば随時可 rumikoi@iwate-med.ac.jp
	老年	舘向 真紀	火・水・木	16：00～17：00	研究室15 内線5407 事前アポイントがあれば随時可 makiy@iwate-med.ac.jp
		菊池 佑弥	火・水・木	16：00～17：00	研究室9 内線5405 事前アポイントがあれば随時可 yuyakkc@iwate-med.ac.jp
	精神	遠藤 太	木	16：30～18：00	研究室3 内線5417 事前アポイントがあれば随時可 futoshie@iwate-med.ac.jp
		熊地 美枝	水・木	16：00～17：00	研究室4 内線5201 事前連絡があれば随時可 kumachi@iwate-med.ac.jp
		高崎 邦子	火・木	16：30～17：30	研究室16 内線5418 事前連絡があれば調整可 takasaki@iwate-med.ac.jp
マルチメディア教育研究棟 4階） 成育看護学講座	小児	高橋 亮	水	16：30～17：00	研究室17 内線5203 事前連絡があれば調整可 tryo@iwate-med.ac.jp
		伊東 佐由美	月～金	16：00～17：00	研究室14 内線5409 事前連絡があれば随時可 sayumii@iwate-med.ac.jp
	母性	蛸崎 奈津子	月	15：00～17：00	研究室7 内線5353 事前連絡があれば随時可 kakizaki@iwate-med.ac.jp
		遊田 由希子	水・木	12：00～14：00	研究室11 内線5355 事前連絡があれば随時可 yuuda@iwate-med.ac.jp
		西里 真澄	月・水	15：00～17：00	研究室10 内線5354 事前連絡があれば随時可 nishima@iwate-med.ac.jp
		高橋 淳美	火・木・金	16：00～17：00	研究室14 内線5427 事前連絡があれば随時可 atsumi@iwate-med.ac.jp
看護専門基礎講座 （東研究棟 2階）		遠藤 龍人	水・木	14：00～16：00	研究室2 内線5420 メールでの事前アポイントメントが望ましい ryuendo@iwate-med.ac.jp
		塚本 恭正	月～金	15：00～17：00	研究室3 内線5421 tsukamot@iwate-med.ac.jp
		一ノ渡 学	水・木	15：00～17：00	研究室4 内線5422 事前アポイントがあれば随時可 gakuichi@iwate-med.ac.jp
看護学部		非常勤教員	授業終了後、教室にて質問等を受け付けます。 後日質問等がある場合は、科目責任者を通じて連絡して下さい。		